

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第96集

天神前遺跡

2001

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

序

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置しています。この豊田市域では旧石器時代から遺跡が連綿として継続し、矢作川の恵みに育まれて人々は生活を続けてきました。今日の工業都市としての繁栄は、こうした歴史的な蓄積の上に成り立っていたものと思われま

今回、発掘調査を行いました天神前遺跡でも、古墳時代中期から江戸時代までの長期にわたる遺構や遺物が確認され、矢作川によって形成された沖積低地にも古くから人々が生活を続けてきたことが分かってきました。取り立てて特徴的な遺構や遺物が発見されたわけではありませんが、1400年間にわたる遺構や遺物の発見は豊田市南部地域の豊かな歴史を明らかにしていく貴重な資料となることでしょう。

本書で掲載された調査成果が様々な形で活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめ、関係者および関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。次第です。

平成13年8月

財団法人愛知県教育サービスセンター
理事長 久留宮泰啓

例言

1、本書は、愛知県豊田市鴛鴦町字天神前に所在する天神前遺跡（遺跡番号63-474）の発掘調査報告書である。

2、発掘調査は、愛知県土木部（現建設部）が進めている国道248号線改良工事に伴う事前調査として、愛知県土木部（現建設部）から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センター（当時）が実施した。

3、調査期間は平成10年4月から平成11年3月までで、調査面積は8000㎡である。便宜上98A区、98B区、98C区の3調査区に分割して行った。

4、発掘調査は福岡晃彦（課長補佐兼主査：現愛知県立横須賀高等学校教諭）・伊藤秀紀（現愛知県立大府養護学校教諭）・花井伸（現三好町立三好中学校教諭）・春日井毅（現一宮市立宮西小学校教諭）・後藤英史（現愛知県立名古屋西高等学校教諭）・酒井俊彦・鈴木正貴・蔭山誠一の各調査研究員が担当した。各調査区の面積や担当者は本文第1章に記載した通りである。

5、発掘調査に引き続き、平成12年度に報告書作成のための整理作業を、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。遺構および出土遺物の整理は鈴木正貴が、自然科学的な分析は鬼頭剛（調査研究員）が各々担当した。

6、出土遺物の整理と報告書作成に関わる作業において以下の方々の協力を得た。

小嶋そのみ・土倉崇子（以上調査研究補助員）・秋田道子・阿辺山孔子・伊藤恵・小川裕子・奥本真由美・河合涼子・妹尾美佐穂・浜島奈保美・真崎千恵子（以上整理補助員）

7、遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は深川進氏の手を煩わせた。

8、本書の執筆と編集は鈴木正貴が行ったが、一部第4章第1節を鬼頭剛、小野映介、尾崎和美が分担執筆した。

9、本書で使用した遺構の略記号は次の通りである。遺構番号は報告書作成に当たり改めて通番を付け直した。調査当時の旧遺構番号との対照は付表を参照されたい。

SA……柵列跡、SB……建物跡、SD……溝、SE……井戸、

SK……土坑、ST……水田、SX……その他

10、今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第Ⅶ系に基づくものであり、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。

11、本書で使用した土壌色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

12、発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係各機関・各位にご協力、ご指導を得た。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊田市教育委員会、鴛鴦公民館、井川祥子、岡本直久、加藤安信、金子健一、下村信博、城ヶ谷和広、長谷川章、長谷川義雄、藤澤良祐、松井孝宗、森泰通（順不同、敬称略）

目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の経緯	
第2節 歴史的・地理的環境	
第3節 調査日誌抄	
第2章 遺構	7
第1節 基本層序	
第2節 下面の遺構（古墳時代中期）	
第3節 上面の遺構（古墳時代後期～江戸時代）	
第3章 遺物	21
第1節 出土遺物の概要と分析方法	
第2節 下面の出土遺物	
第3節 上面の出土遺物	
第4章 自然科学的分析	41
第1節 矢作川沖積低地、天神前遺跡地域の層序と古環境	
第5章 考察とまとめ	48
第1節 古墳時代中期の土器について	
第2節 遺物出土分布からみた天神前遺跡の動向	
第3節 まとめ	
付表	55
遺構図版	81
写真図版	97
遺跡抄録	113

挿図目次

- 第1図 遺跡位置図(1)
- 第2図 遺跡位置図(2)
- 第3図 調査区位置図
- 第4図 周辺の遺跡分布図
- 第5図 調査区周辺の明治17年当時の地割
- 第6図 98A区北西壁土層断面図
- 第7図 SB1001平面・土層堆積図
- 第8図 水田状遺構土層断面図
- 第9図 SD1007土層断面・遺物出土状態図
- 第10図 自然流路、溝、土坑遺構図
- 第11図 井戸遺物出土状態・土層断面図
- 第12図 溝土層断面図(1)
- 第13図 溝土層断面図(2)
- 第14図 掘立柱建物平面図
- 第15図 土坑土層断面図
- 第16図 方形土坑群平面図
- 第17図 下面の出土遺物実測図(1)
- 第18図 下面の出土遺物実測図(2)
- 第19図 下面の出土遺物実測図(3)
- 第20図 下面の出土遺物実測図(4)
- 第21図 下面の出土遺物実測図(5)
- 第22図 下面の出土遺物実測図(6)
- 第23図 上面の出土遺物実測図(1)
- 第24図 上面の出土遺物実測図(2)
- 第25図 上面の出土遺物実測図(3)
- 第26図 上面の出土遺物実測図(4)
- 第27図 上面の出土遺物実測図(5)
- 第28図 上面の出土遺物実測図(6)
- 第29図 上面の出土遺物実測図(7)
- 第30図 上面の出土遺物実測図(8)
- 第31図 上面の出土遺物実測図(9)
- 第32図 石製品実測図
- 第33図 金属製品実測図
- 第34図 木製品実測図
- 第35図 矢作川沖積低地周辺地域の地質図
- 第36図 天神前遺跡東西層序断面の堆積ユニット区分と14C年代値の層準
- 第37図 98B区水田平面の植物珪酸体含量
- 第38図 98B区水田平面の珪藻化石群集組成
- 第39図 古墳時代中期の土器変遷図
- 第40図 遺構変遷図(1)
- 第41図 遺構変遷図(2)
- 第42図 遺物出土分布図(1)
- 第43図 遺物出土分布図(2)

挿表目次

- 第1表 天神前遺跡に関わる発掘調査の一覧表
- 第2表 天神前遺跡各調査区一覧表
- 第3表 遺物出土量一覧表
- 第4表 98B区水田平面の花粉分析結果

付表目次

- 1 遺構一覧表
- 2 遺物一覧表

図版目次

- 図版1 上面遺構全体図
- 図版2 上面遺構図(1)
- 図版3 上面遺構図(2)
- 図版4 上面遺構図(3)
- 図版5 上面遺構図(4)
- 図版6 上面遺構図(5)
- 図版7 上面遺構図(6)
- 図版8 上面遺構拡大図(1)
- 図版9 上面遺構拡大図(2)
- 図版10 下面遺構全体図
- 図版11 下面遺構図(1)
- 図版12 下面遺構図(2)
- 図版13 下面遺構図(3)
- 図版14 下面遺構図(4)
- 図版15 下面遺構図(5)
- 図版16 下面遺構図(6)
- 写真図版1 遺構写真(1) 上面遺構
- 写真図版2 遺構写真(2) 上面遺構
- 写真図版3 遺構写真(3) 上面遺構
- 写真図版4 遺構写真(4) 上面遺構
- 写真図版5 遺構写真(5) 上面遺構
- 写真図版6 遺構写真(6) 上面・下面遺構
- 写真図版7 遺構写真(7) 下面遺構
- 写真図版8 遺構写真(8) 下面遺構
- 写真図版9 遺物写真(1) 古墳時代中期
- 写真図版10 遺物写真(2) 古墳時代中期
- 写真図版11 遺物写真(3) 古墳時代中期
- 写真図版12 遺物写真(4) 古墳～平安時代
- 写真図版13 遺物写真(5) 中世前半
- 写真図版14 遺物写真(6) 中世前半
- 写真図版15 遺物写真(7) 中世前半
- 写真図版16 遺物写真(8) 中世～近世

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯

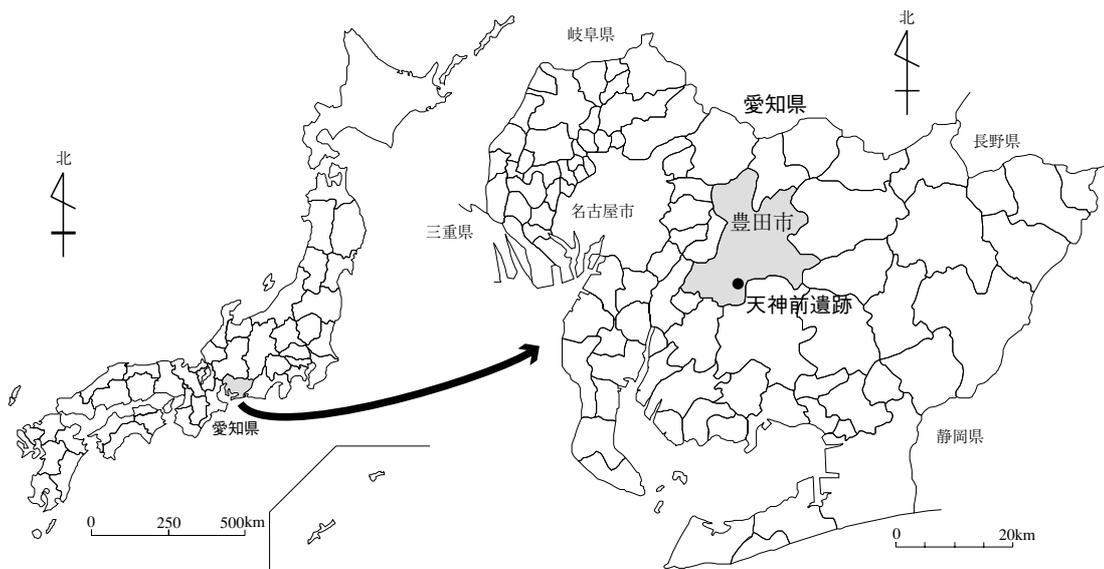
愛知県豊田市鴛鴨(おしかも)町字天神前地内では、第二東海自動車道の豊田東インターチェンジ建設に関連して、国道248号改良(延伸)工事が行われることとなった。この建設予定地内には、1994年作成の遺跡分布図(愛知県教育委員会1994)では遺跡の所在は記載されていなかった。しかし、1997年度から大規模な発掘調査が行われ古墳時代から近世までの濃密な遺構と遺物が確認された郷上遺跡に隣接する地点に相当し、なおかつ遺物の散布が認められるため、国道248号改良工事予定地内にも遺跡の存在が確実となった。

そこでまず、平成9年度に国道248号と市道との区間の建設予定地内において遺跡範囲確認調査を実施した。調査は、郷上遺跡に北接することから仮称「郷上北遺跡」の名称で、平成9年5月に100㎡を行った。この結果、おおむね2つの生活面を確認することができた。上層では土坑や溝に混じって山茶碗類などが出土し鎌倉・室町時代を中心とした集落遺跡が展開すると考えられた。下層では古墳時代の土師器などが出土し、古墳時代中期を中心とした遺跡が推測された。これらの調査成果から郷上遺跡との

関連性が高いとはいうものの、戦国から江戸時代の遺構や遺物が希薄なことなど遺跡の状態が郷上遺跡と異なると考えられたため、遺跡所在の小字名をとって「天神前遺跡」と命名することとなった。

この範囲確認調査の結果、工事予定地内の8000㎡が遺跡範囲に該当することが判明し、本調査を実施することとなった。本調査は平成10年度に、98A区、98B区、98C区の3調査区に分割して行った。各調査区の面積や担当者は第2表の通りである。この発掘調査の結果、古墳時代中期から江戸時代までの遺構約1000基と破片数で約27000点の遺物が出土した。

なお、調査区北東部に所在する市道よりも北東部分でも第二東海自動車道の建設予定地となっており、この天神前遺跡が広がっていることが予想されたため、平成10年度にこの部分の遺跡範囲確認調査を実施した。調査は平成11年3月に150㎡を行った。この結果、いずれのトレンチにおいても顕著な遺構・遺物を確認することができなかった。このため、市道を越えた部分にまで天神前遺跡は展開しないことが明らかとなった。



第1図 遺跡位置図(1)

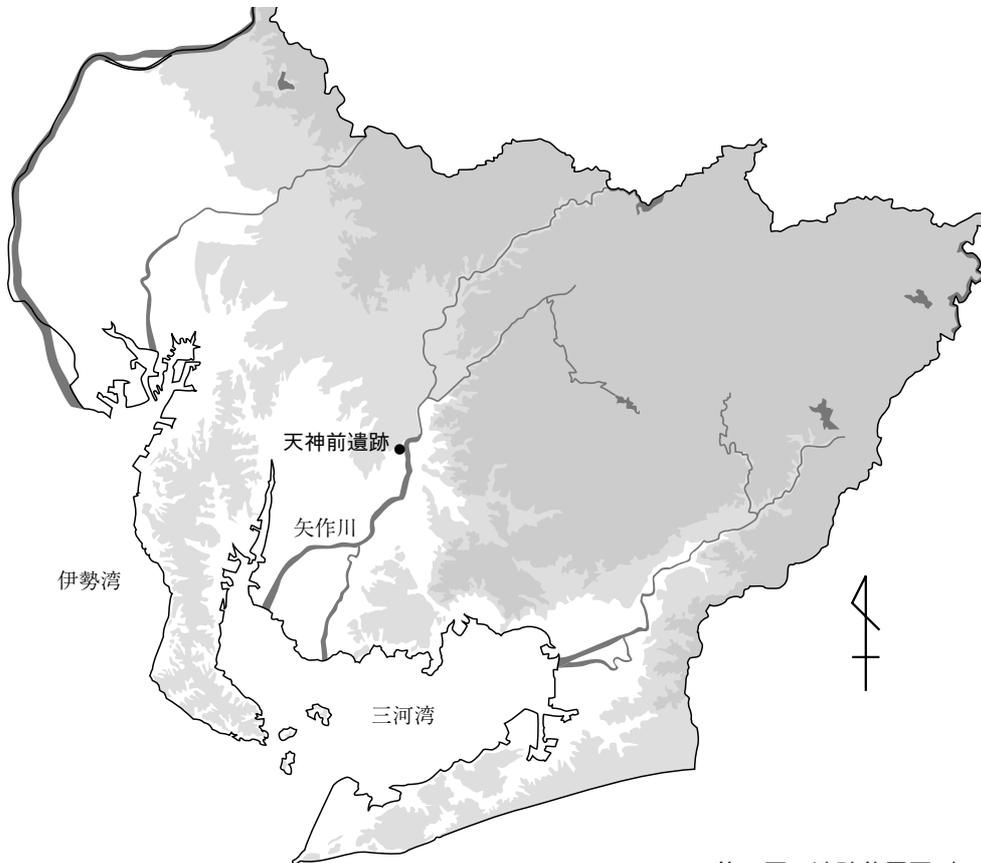
天神前遺跡

第1表 天神前遺跡に関わる発掘調査の一覧表

平成9年度範囲確認調査			
調査期間	平成9年5月12日～6月28日	調査主体	(財)愛知県埋蔵文化財センター
調査面積	100m ²	調査担当者	赤塚次郎・鈴木正貴
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター		
発掘届出文書	郷上北遺跡)平成9年5月19日付9教文第61—18号		
文献	赤塚次郎1998「郷上北遺跡範囲確認調査」『年報平成9年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター 赤塚次郎1999「天神前遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報14 平成9年度』104頁		
平成10年度本調査			
調査期間	平成10年4月～平成11年3月	調査主体	(財)愛知県埋蔵文化財センター
調査面積	8000m ²	調査担当者	福岡晃彦・伊藤秀紀・花井伸・春日井毅・後藤英史・酒井俊彦・鈴木正貴・蔭山誠一
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター		
発掘届出文書	平成10年5月8日付10教文第61—14号		
文献	後藤英史・鈴木正貴1999「天神前遺跡」『年報平成10年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴2000「天神前遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報15 平成10年度』84頁		
平成10年度範囲確認調査			
調査期間	平成11年3月	調査主体	(財)愛知県埋蔵文化財センター
調査面積	150m ²	調査担当者	福岡晃彦・伊藤秀紀・酒井俊彦
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター		
発掘届出文書	平成11年3月25日付11教文第61—2号		

第2表 天神前遺跡各調査区一覧表

調査区	面積	調査期間	調査担当者
98A区	2500m ²	1998年10月～1999年3月	福岡晃彦・花井伸・春日井毅・後藤英史・伊藤秀紀・蔭山誠一
98B区	3000m ²	1998年4月～1998年10月	福岡晃彦・後藤英史・鈴木正貴
98C区	2500m ²	1998年10月～1999年3月	福岡晃彦・伊藤秀紀・酒井俊彦



第2図 遺跡位置図(2)

第2節 歴史的・地理的環境

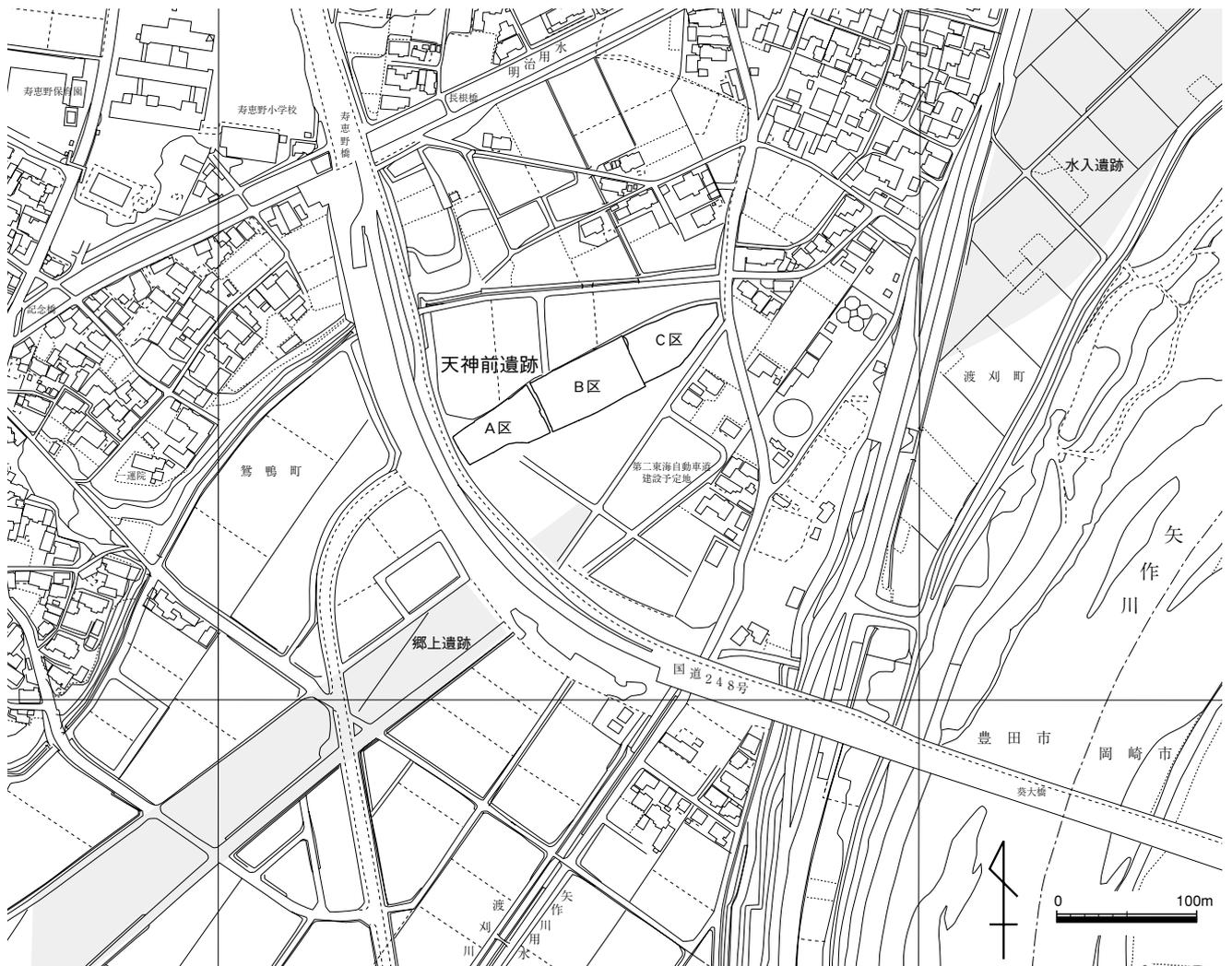
天神前遺跡は、愛知県豊田市鴛鴨町字天神前に所在し、矢作川中流域の右岸に広がる沖積低地に立地する。この場所は、東には矢作川、北及び西には碧海台地が近接するために非常に幅が狭い沖積地となっている。北緯約35度1分25秒、東経約137度24分30秒の位置で、現地形の標高は約23mである。

愛知県の中央部に相当する西三河地域を南北に流れる矢作川は、長野県浪合村と平谷村の境にある大川入山上から愛知県西尾市までの総延長が約117km、流域面積は183000haの一級河川である。この矢作川を河口から約32kmほど遡った地点に豊田市鴛鴨町は所在する。矢作川右岸には豊田市から西尾市にかけて洪積台地である碧海台地が広がっており、この台地端部に多くの遺跡が確認されている。天神前遺跡はこの碧海台地端部の崖面を背後に控えた位置に所

在する。台地と沖積低地の比高差は約10mである。

現在の豊田市鴛鴨町の集落は碧海台地上に約1000世帯が集まっており、天神前遺跡や郷上遺跡が所在する沖積地では水田や畑地が広がっている。今回の調査地点は調査前は水田として稲作が行われてきた場所である。調査地点の南西には、岐阜市と蒲郡市を結ぶ国道248号が走り、豊田市の産業の発展に大きく寄与している。

天神前遺跡が所在する鴛鴨町は、現在は豊田市に属しているが、古くは三河国碧海郡鴛鴨村であった。碧海郡とはいえ加茂郡と額田郡の郡境に近く、江戸時代においては領地が転変した経緯を持つ。江戸時代の当初岡崎藩領であった鴛鴨村は、宝暦12(1762)年に天領、明和6(1769)年に一部が岡崎藩領、天明2(1782)年に上総大多喜藩領、文政5(1822)年に一部が駿河沼



第3図 調査区位置図（平成7年に豊田市が作成した豊田市基本図を改変した）

天神前遺跡

津藩領、明治2（1869）年に菊間藩領となっている。また、鴛鴨村は寛文3（1663）年には東西に分かれている。

鴛鴨町の台地の上には、豊田市水源町から矢作川の水を安城市方面へ送水する明治用水が流れている。集落内には若宮八幡宮、真宗大谷派安福寺、浄土宗遍照寺、一運院などがある。今回の調査区の北端部に近い碧海台地端部にはかつて「天神社」が所在した。この天神社の建立の経緯などは詳らかではないが、少なくとも宝暦14（1764）年3月の年号が記された『參州碧海郡上野西鴛鴨村繪図』（鴛鴨公民館所蔵）にはこの「天神宮」の記載が認められる。この天神社は明治41（1908）年に若宮八幡宮に合祀され、現在は故地に石碑が建つのみである。遺跡名の由来となっている小字「天神前」は、台地上の天神社の前の低地という由来で付いたものと推察される。ちなみに宝暦14（1764）年の繪図では、今回調査した天神前遺跡に相当する場所は田または畑であった。

天神前遺跡の周辺には多くの遺跡が存在する。碧海台地上には古墳時代中期を中心とする神明遺跡をはじめとする多くの遺跡が存在する。神明遺跡周辺は早くから発掘調査が行わ

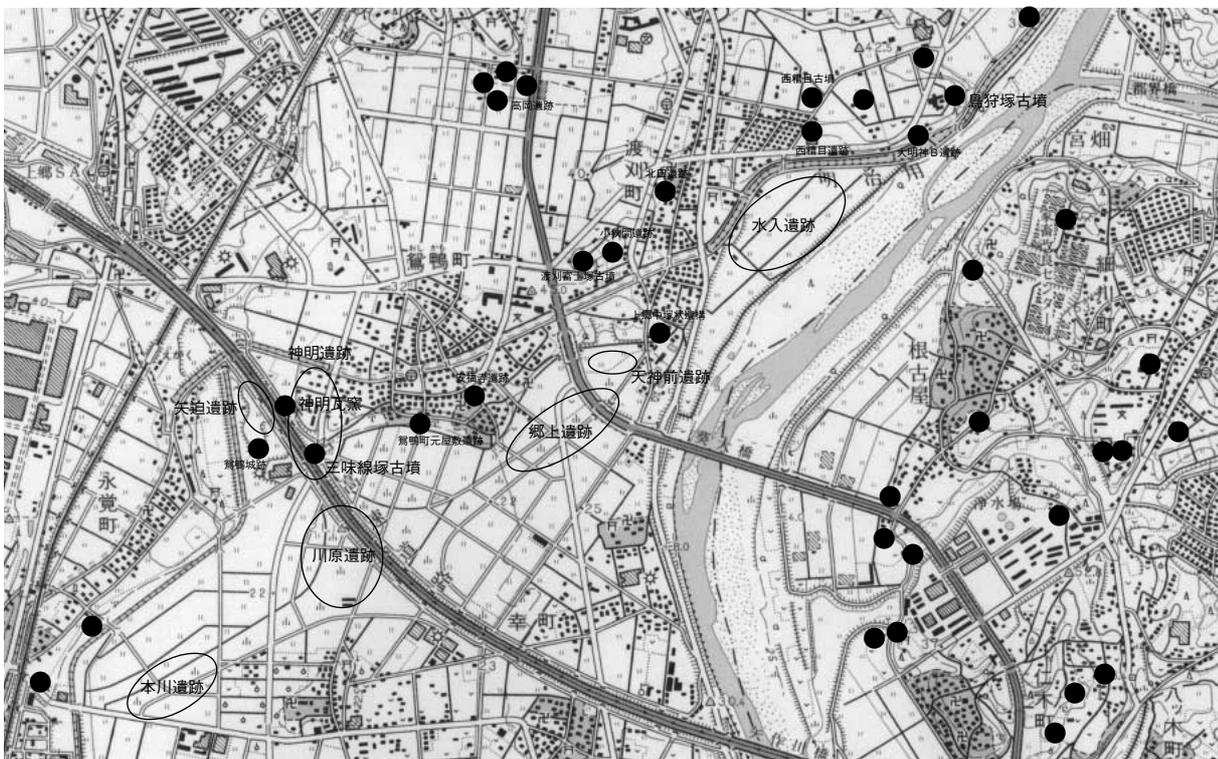
れ、豊田市南部域の古墳時代から古代にかけての様相がかなり明らかになっている。一方、碧海台地下に広がる沖積地では遺跡の存在は知られていたものの、その実態は近年までよく分かっていなかった。しかし、最近の第二東名自動車道に関連する当センターの発掘調査により、沖積地に弥生時代以降の各時期の集落遺跡が存在することが明らかとなってきた。天神前遺跡の南に広がる沖積地には古墳時代から江戸時代にかけて連続して継続する郷上遺跡が近接する。郷上遺跡は現在の鴛鴨集落が移転する以前の近世東鴛鴨村に相当すると考えられ、約30区画の屋敷地が確認された。さらにその南には弥生時代から古墳時代前期を中心とした川原遺跡、古墳時代中期を中心とした本川遺跡などが展開し、当該エリアにも沖積地に人々が連続して生活してきたことが明らかとなってきた。

参考文献

豊田市 1976『豊田市史一卷（自然・原始・古代・中世）』

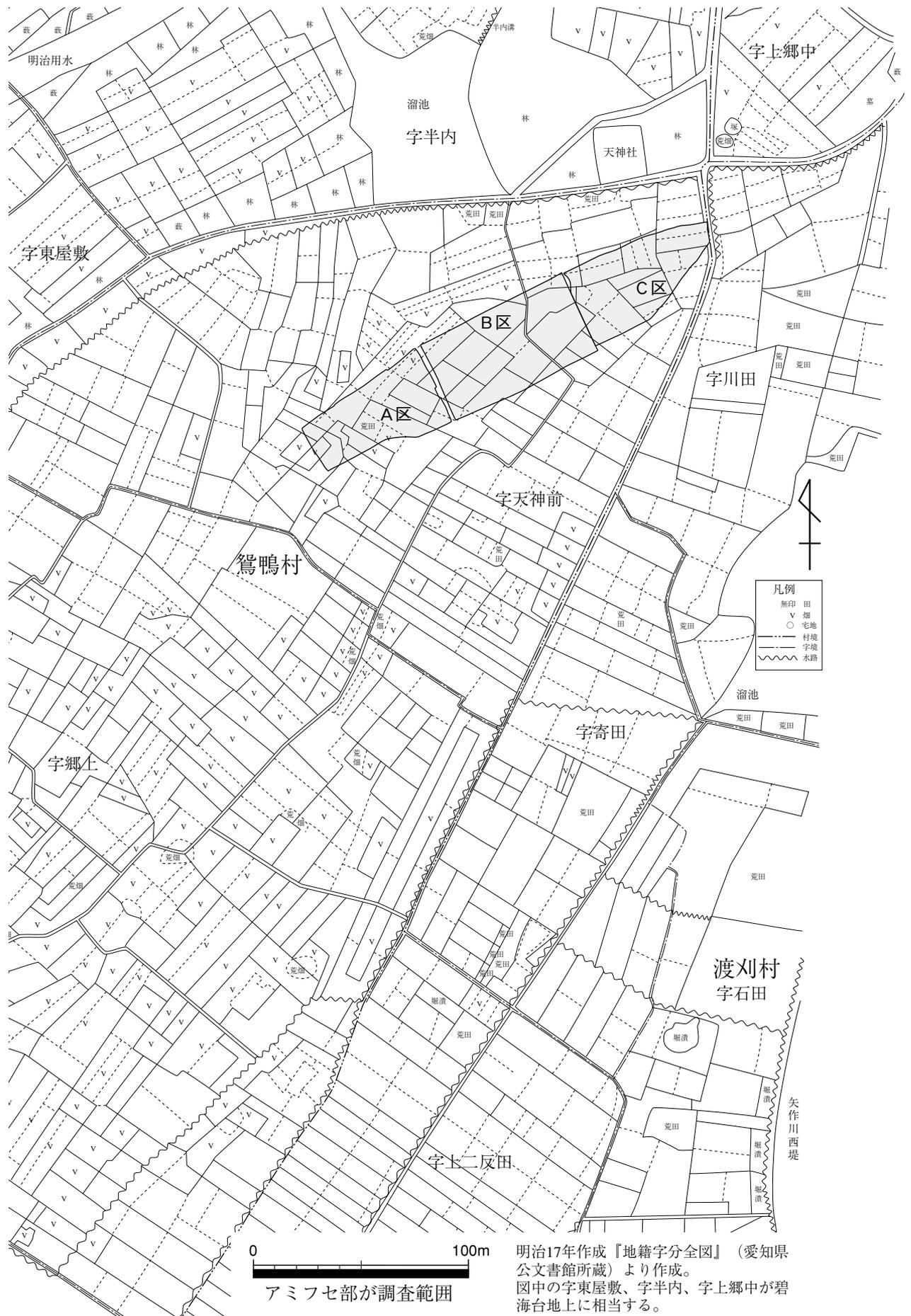
豊田市 1981『豊田市史二巻（近世）』

豊田市教育委員会 2001『豊田市の城下町展 - 中世～江戸期の豊田 -』



第4図 周辺の遺跡分布図（平成9年11月国土地理院作成 1/25000 地図「豊田南部」を一部改変した。）

調査の概要



第5図 調査区周辺の明治17年当時の地割

第3節 調査日誌抄

4月2日 B区発掘調査を始める。

4月3日 B区の表土を重機にて除去する。水田耕作土と暗灰色シルトを除去すると灰色シルトをベースとする遺構面を確認することができた。表土中の遺物は安全な位置から視認したもののみを採取した。

4月20日 B区表土はぎ終了。北トレンチ（北東端辺部）と東トレンチ（南東端辺部）を掘削し、土層堆積や遺構の状況などを確認した。

4月21日 遺構面を削り清掃して、遺構検出を北東端部から開始する。黒色土を埋土とする溝状遺構などが確認された。

4月23日 株式会社バスコにより基準杭を4本設定、国土座標値と標高を獲得する。

4月27日 基準杭から5mグリッドを設定し、グリッド杭を設置する。これ以降の遺物の取り上げは、基本的に5mグリッドごとに行うこととした。

4月28日 グリッド杭を基準にして遺構略測図(1/100)を作成し始める。

5月1日 遺構検出及び略測図作成を一通り終了する。北トレンチと東トレンチをさらに深く掘削し、下面の遺構の有無を確認した。この結果、下層の砂質シルトから古墳時代の遺物が確認され、2面調査が必要であることが確定的となった。

5月6日 遺構掘削を北東端部から開始する。必要に応じて遺構断面図作成、断面写真撮影、遺物ポイント取り上げ、遺物出土状態図作成などの記録を行ったが、大部分の遺構については埋土の記録のみに止まっている。

5月12日 B区SD06は幅広い溝ではなく小規模な溝の集合体であることが判明した。

5月13日 B区SX01とSX02の堆積状況を確認するためサブトレンチを掘削。下層にB区SD22を確認した。

5月22日 西部の広範囲に広がる落ち込みのB区SX06の掘削を開始する。

6月4日 B区SX06の底面から黒色土を埋土とする溝などの遺構を確認する。

6月17日 東端部の落ち込みB区SX09の掘削を始める。

6月30日 B区SX06西部の灰色粘土層を遺物が僅少であるために重機にて掘削。

7月7日 粗砂を埋土とする遺構(B区SX12やSK95等)は洪水により侵食され礫や粗砂が堆積したものと判断した(鬼頭教示)。

7月13日 南西部にサブトレンチを掘削し、落ち込みB区SX13を確認。土層の無遺物層を重機にて掘削。

7月27日 遺構掘削をほぼ終える。写真撮影に向けて遺構清掃を順次行う。

7月31日 株式会社バスコによりヘリコプターによるB区第1面遺構の航測図化用空中撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。

8月3日 個別の遺構撮影と補足遺構実測を行いながら、トレンチの深掘りを行う。第1面遺構面の30～60cm下の炭混じり黒色土層から松戸戸式期併行期の土器片が出土する。この黒色土層は南にいくに従い、落ち込むことが確認された。

8月4日 第2面調査に向けて間層を重機により掘削する。

8月5日 間層掘削後の部分にサブトレンチT501を掘削し断面観察を行う。畦状の土盛を確認、水田跡が残存している可能性が考えられた。

8月11日 井戸B区SK171の上層遺物取り上げ後、掘削。板材や角材が出土するが出土状態が不規則である。井戸B区SK171埋土の昆虫などの分析用サンプルを採取。

8月17日 間層掘削が終わった部分から遺構検出を行う。溝については遺構掘削も行う(SD501～505)。

8月21日 重機による間層掘削を完了する。

8月24日 黒灰色シルトのうち、砂が混入する部分と粘り気がある均質な部分とに分けられ前者が水田作土、後者が畦畔と思われた。

8月25日 プラントオパール分析等の試料の採取を4区画で行った。

9月8日 第2面の遺構検出をほぼ終了し、遺構略測図を作成する。

9月18日 株式会社バスコによりヘリコプターによるB区第2面遺構の航測図化用空中撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。水田跡の断ち割り調査を行う。

9月25日 鑿穴住居B区SB501と井戸B区SK171の下層の断ち割り調査を行う。井戸B区SK171最下部から曲物筒の井戸構造物を確認した。

10月2日 A区の表土を重機にて除去する。B区と同様、灰色シルト上面を遺構面とした。表土中の遺物は安全な位置から視認したもののみを採取した。

10月8日 B区の埋め戻し作業を重機にて開始する。

10月12日 A区に株式会社バスコにより基準杭を4本設定、国土座標値と標高を獲得する。基準杭から5mグリッドを設定し、遺物の取り上げはこのグリッドごとに行うこととした。調査区の周囲にトレンチの掘削を開始する。C区の表土を重機にて除去する。C区北東部の黄褐色砂礫土は近年の盛土であることを確認、これを除去した。

10月13日 埋め戻し作業用の重機で、B区北西面壁際を深堀し、北西壁セクション図を作成、写真撮影も行う。

10月14日 B区の調査終了。A区遺構検出を開始する。部分的に包含層が残存しており、これの除去も平行して行う。

10月28日 A区遺構略測図の作成を行う。C区表土はぎ終了する。C区南半部は土取りの攪乱が激しく第1遺構面はあまり良好に残存していない。

10月29日 A区第1面遺構検出がほぼ終了する。同時に遺構掘削に着手する。C区に株式会社バスコにより基準杭を4本設定、国土座標値と標高を獲得する。基準杭から5mグリッドを設定し、遺物の取り上げはこのグリッドごとに行うこととした。

11月2日 C区の周囲にトレンチの掘削を開始する。南西部はさらに20cm下げる必要があることが判明した。

11月4日 A区SK158から「牛養」墨書須恵器杯身が出土する。

11月5日 C区第1面遺構検出を開始する。湿地部分と攪乱部分には遺構が希薄であることが確認された。

11月6日 株式会社バスコによりヘリコプターによるA区第1面遺構の航測図化用空中撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。その後補足調査を行う。

11月10日 C区第1面の遺構掘削を開始する。

11月12日 A区第2面調査に向けて間層を重機により掘削する。

11月17日 C区第1面の遺構掘削をほぼ完了する。

11月24日 A区間層掘削が終了する。

11月25日 A区の壁際にトレンチ掘削を始める。

11月26日 株式会社バスコによりヘリコプターによるC区第1面遺構の航測図化用空中撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。

11月30日 C区第1面の補足調査を行う。

11月31日 A区水田面までの包含層の掘り下げを行う。

12月2日 A区第1面遺構の掘り残り部分の掘削も同時に行う。

12月8日 A区包含層の掘り下げを終了し、第2面の遺構検出を行う。B区から継続する溝や大畦畔を検出できたものの、これ以外の畦畔を確認することができなかった。

12月10日 C区中央に東西方向のトレンチを掘削、第2面の遺構の状況の確認をする。南西部に旧河道があることなどが確認された。

12月11日 A区北東部の大畦畔の検出及び掘り下げを行い、写真撮影を行う。

12月14日 C区第2面調査に向けて間層を重機により掘削する。一見、水田遺構などを確認できない状態である。

12月15日 A区を横断する南北方向のトレンチを8本掘削する。黒褐色土面は自然地形と判断される。

12月18日 A区のB区から続く溝を掘削する。

12月22日 C区間層掘削が終了する。南東端トレンチ、中央部に南北方向のトレンチを掘削する。

1月7日 C区第2面の基準杭を設置する。

1月8日 A区第1面遺構の掘り残り部分の掘削がほぼ完了する。A区には井戸が全く存在しないことが確定された。第2面の遺構掘削もほぼ完了する。手掘りによる1/50の遺構図の作成に着手する。C区第2面遺構検出を開始する。旧河道が検出されるものの、水田作土と思われる暗灰色砂を残した状態の黒褐色土上面で、水田畦畔を検出することができなかった。

1月19日 A区大畦畔の写真撮影、セクション実測などを行う。このちしばらくA区の調査は中断する。

1月21日 C区では遺構検出が困難であるため、水田作土と思われる暗灰色砂を掘削して、水田畦畔を検出することとした。

1月28日 C区での暗灰色砂の掘削をほぼ終了し遺構検出をしたが、水田畦畔は検出できなかった。溝や旧河道などの遺構が確認された。第2面の遺構掘削を開始する。

2月2日 C区第2面の遺構掘削をほぼ完了する。北側旧河道の掘削は湧水が激しく途中で断念せざるを得なかった。

2月5日 A区第2面遺構の高所作業車による写真撮影を行う。

2月8日 C区第2面の遺構清掃を開始する。

2月10日 株式会社バスコによりヘリコプターによるC区第2面遺構の航測図化用空中撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。

2月15日 A区北西面壁際を深堀し、北西壁セクション図を作成、写真撮影を開始する。C区第2面の補足調査を行う。

2月19日 A区重機による埋め戻しを開始する。土壌サンプリングのため深掘りを行う。

2月22日 A区埋め戻し作業終了。調査終了する。

2月23日 C区の黒褐色土層内に板材が5枚程度南北方向に据えられて出土する。図化作業を行う。

2月25日 C区の壁際のセクション図の作成に着手する。

3月3日 C区中央トレンチと北旧河道のセクション図作成を終了。この後埋め戻し作業に入る。

3月21日 鶯鷲公民館での遺跡調査報告会にて概要報告を行う。

3月29日 天神前遺跡の発掘調査現地作業を全て終了する。

第2章 遺構

第1節 基本層序

天神前遺跡は沖積低地にあり調査前は水田となっていた。部分的に造成された盛土とその下に堆積する最近までの水田耕作土を除去すると、基本的に最初の遺構面が確認される。調査地の大部分は少なくとも地表面下3mまでは砂またはシルトが互層となって堆積していたが、碧海台地に近いC区北東部では洪積台地を構成する礫層が部分的に確認された。

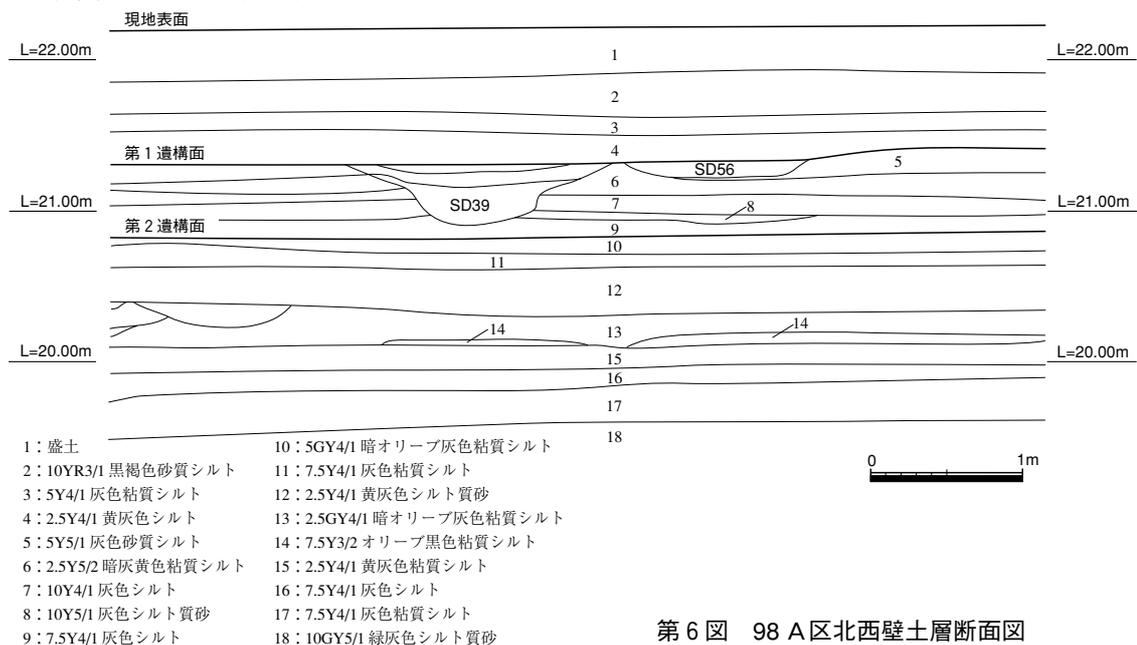
ここでは、まず98A区の北西壁土層堆積(第6図)を検討する。

第1層は水田耕作後に造成された盛土、第2層は近年まで耕作された水田耕作土(黒褐色砂質シルト)であり、ここまでは確実に表土に属する。第3、4層は水田床土(灰色粘質シルト)と考えられるが、この上面では遺構検出が困難であった。従って第5層灰色砂質シルトの上面を第1遺構面(上面)として調査した(標高約21.4m)。この第1遺構面では古墳時代後期から江戸時代までの遺構が検出され、遺構面は後世の洪水などにより少なからず侵食されたものと推察される。第6層以下は順に、暗灰黄色粘質シルト、灰色シルト、灰色シルト、暗オリーブ灰色粘質シルトというようにシルトなどが互層

に堆積している。このうち、第10層上面が第2遺構面(下面)に相当すると思われるが、この部分は第2遺構面では緩やかに傾斜する自然流路内に相当し注意を要する。

第7図下は98B区南東壁土層堆積断面図の一部である。水田耕作土を除去した標高は21.6m前後であり、この高さが基本的には第1遺構面となる。これ以下は上位から、灰オリーブ色砂質シルト、灰オリーブ色シルト、暗オリーブ色粘質シルト、オリーブ褐色砂質シルト、暗灰黄色シルト質砂、暗灰黄色シルト、暗灰黄色細粒砂、黒褐色粘質シルト、オリーブ黒色シルトの順で堆積する。上位から8層目の黒褐色粘質シルト層上面から堅穴状遺構SB1001が掘り込まれており、この面が第2遺構面(下面)となる(標高約20.9m)。第2遺構面はB区中央部で最も高く標高約21.0mになり、南東方向と北西方向に緩やかに傾斜して下がっていく。結果、北東-南西方向に馬の背状に伸びる微高地が展開することとなる。

なお、調査地の土層堆積については第4章で堆積学的な検討を行っているので参照されたい。

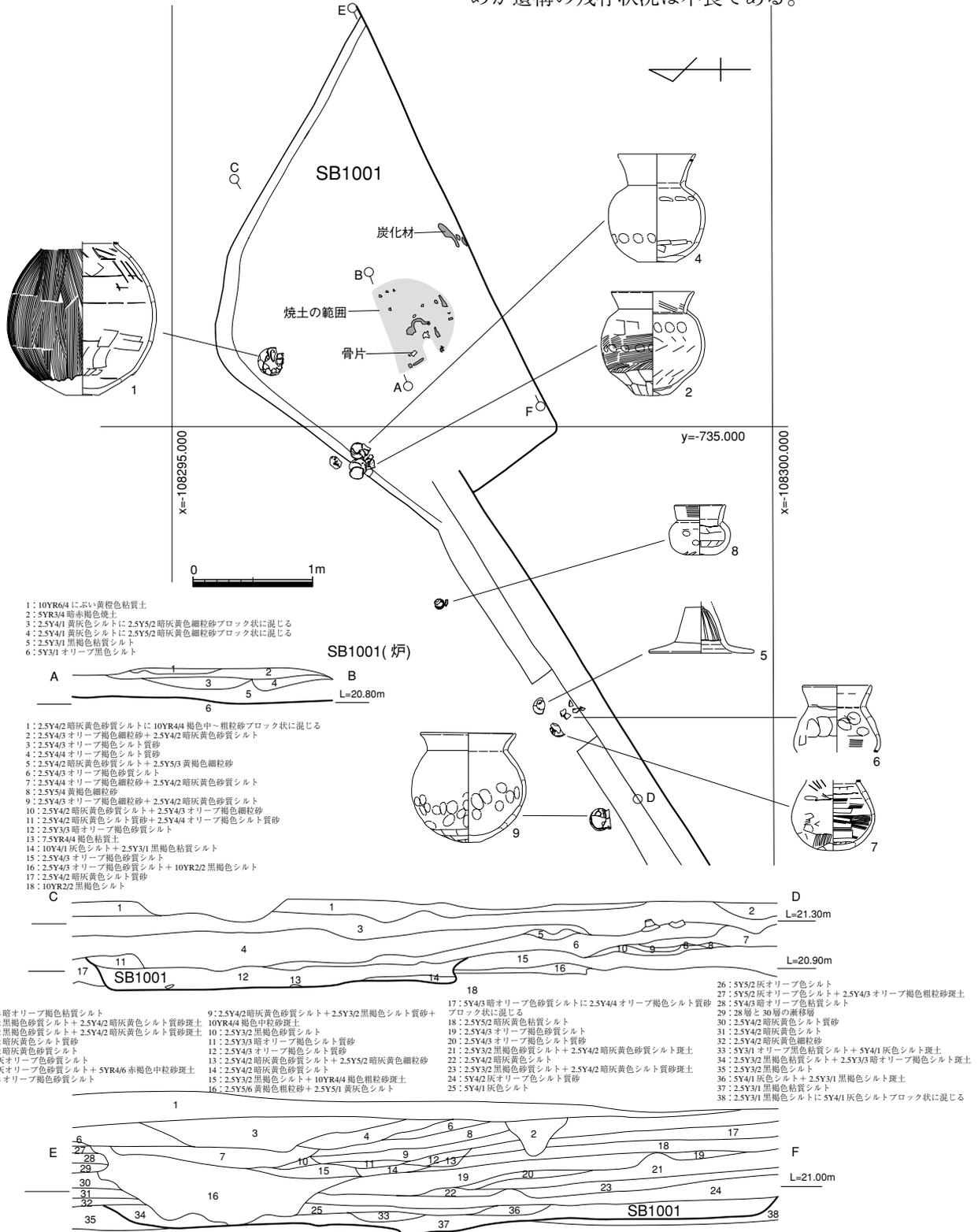


第6図 98A区北西壁土層断面図

第2節 下面の遺構（古墳時代中期）

今回の発掘調査で、下面（黒褐色粘質シルト層上面）にて確認された遺構には、竪穴状遺構1基、水田状遺構18区画、溝25条、土坑78基、

自然流路2条などが存在する。竪穴状遺構と水田状遺構はB区で比較的に良好な状態で確認されたが、A区とC区では微高地が安定しないためか遺構の残存状況は不良である。



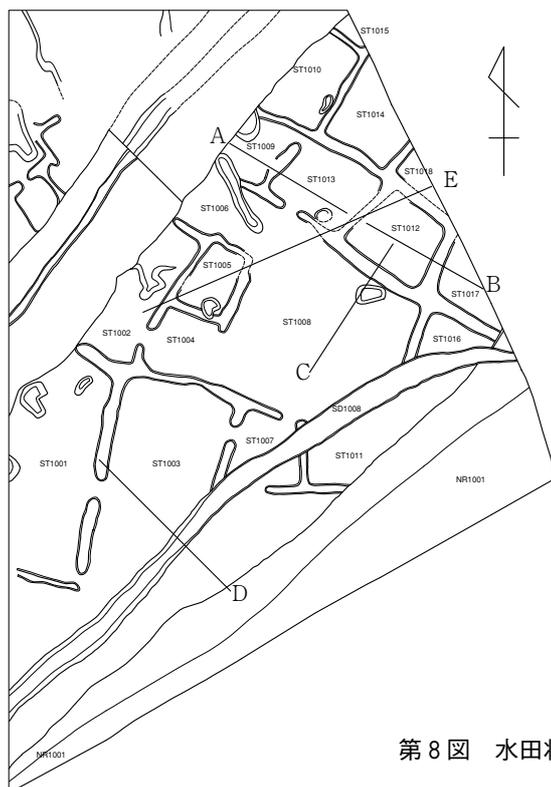
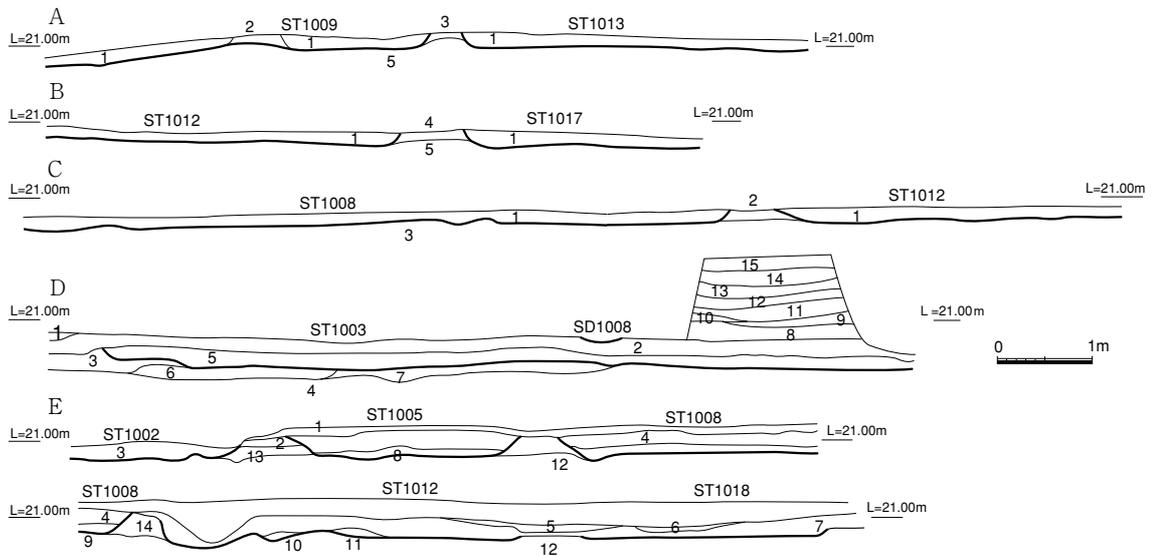
(1) 竪穴状遺構 (第7図)

竪穴状遺構は98B区で1基確認された。

S B 1001は98B区南端中央部で検出された竪穴状遺構である。南半部は調査区外に広がるため正確な規模を知ることはできないが、3.0m以上×3.2m以上の隅丸方形の平面プランを持つと思われる。検出部分のほぼ中央の位置に焼土の堆積が認められ、これが地床炉であったと考えられる。焼土中には獣骨と思われる焼骨が散乱した状態で含まれていた。床面で柱穴や周

溝、カマドなどの付属施設が全く確認できなかったため、竪穴住居とは断定できずここでは竪穴状遺構とした。西端部で直口壺2個が上下に重複したまま横倒しになった状態で出土した。上位に位置する壺(2)は底部が穿孔されており、2つの直口壺は下甕と甑の組み合わせで使用され廃絶されたものと想定される。また西端隅部で口縁部が欠損した甕が出土している。これらの遺物の年代から、S B 1001は5世紀前半に位置付けられよう。

なお、S B 1001付近では古墳時代の土器が若



A・B断面図土層説明

- 1: 5Y3/1 オリーブ黒色シルト+7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト斑土
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト若干混じる
- 3: 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト若干混じる
- 4: 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト若干混じる
- 5: 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト

C断面図土層説明

- 1: 5Y3/1 オリーブ黒色シルト+7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト斑土
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト若干混じる
- 3: 2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂

D断面図土層説明

- 1: 5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒色シルト
- 3: 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルトに7.5Y4/1 灰色細粒砂ブロック状に混じる
- 4: 5Y2/2 オリーブ黒色シルト
- 5: 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト+7.5Y4/1 灰色細粒砂斑土
- 6: 7.5Y2/2 オリーブ黒色シルト
- 7: 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに5Y4/1 灰色細粒砂混じる
- 8: 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 9: 2.5Y6/3 黄灰色細粒砂に5Y4/1 灰色シルト混じる
- 10: 2.5Y4/2 暗黄灰色砂質シルト
- 11: 2.5Y5/2 暗黄灰色砂質シルト
- 12: 5Y5/5 灰オリーブ色砂質シルト
- 13: 5Y5/5 灰オリーブ色シルト質砂
- 14: 5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト
- 15: 10YR4/4 褐色粘質シルト

E断面図土層説明

- 1: 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト
- 2: 5Y5/1 灰色砂質シルト
- 3: 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルトに7.5Y4/1 灰色砂質シルトブロック状に混じる
- 4: 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルトに7.5Y4/1 灰色砂質シルト細かなブロック状に混じる
- 5: 7.5Y4/1 灰色砂質シルト+2.5Y4/1 黄灰色シルト斑土
- 6: 7.5Y4/1 灰色砂質シルト+2.5Y4/1 黄灰色シルト斑土
- 7: 5Y4/1 灰色シルト質砂+5Y3/1 オリーブ黒色シルト斑土
- 8: 5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト
- 9: 5Y3/1 オリーブ黒色シルト+7.5Y4/1 灰色砂質シルト斑土
- 10: 2.5Y3/1 黒褐色シルト+7.5Y4/1 灰色砂質シルト斑土
- 11: 2.5Y3/1 黒褐色シルト+7.5Y4/1 灰色砂質シルト斑土
- 12: 7.5Y5/1 灰色中粒砂に5Y3/1 オリーブ黒色シルトブロック状に混じる
- 13: 5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト+7.5Y4/1 灰色シルト質砂斑土
- 14: 5Y3/1 オリーブ黒色シルト+7.5Y4/1 灰色砂質シルト斑土

第8図 水田状遺構土層断面図

干出土しており、出土層位が明瞭に把握された資料も存在する。高杯(5)と小型壺(6・7)はS B 1001が埋没した後に堆積したオリーブ褐色砂質シルトの上位から出土した。甕(9)はS B 1001が掘り込むオリーブ褐色砂質シルト中から出土している。これらの土器はS B 1001とそれほど時期的に差が認められないことから、土器が出土した経緯に若干の問題が残るものの、S B 1001が機能した前後の比較的短期間に洪水による堆積が頻繁に起こっていたことが想像される。

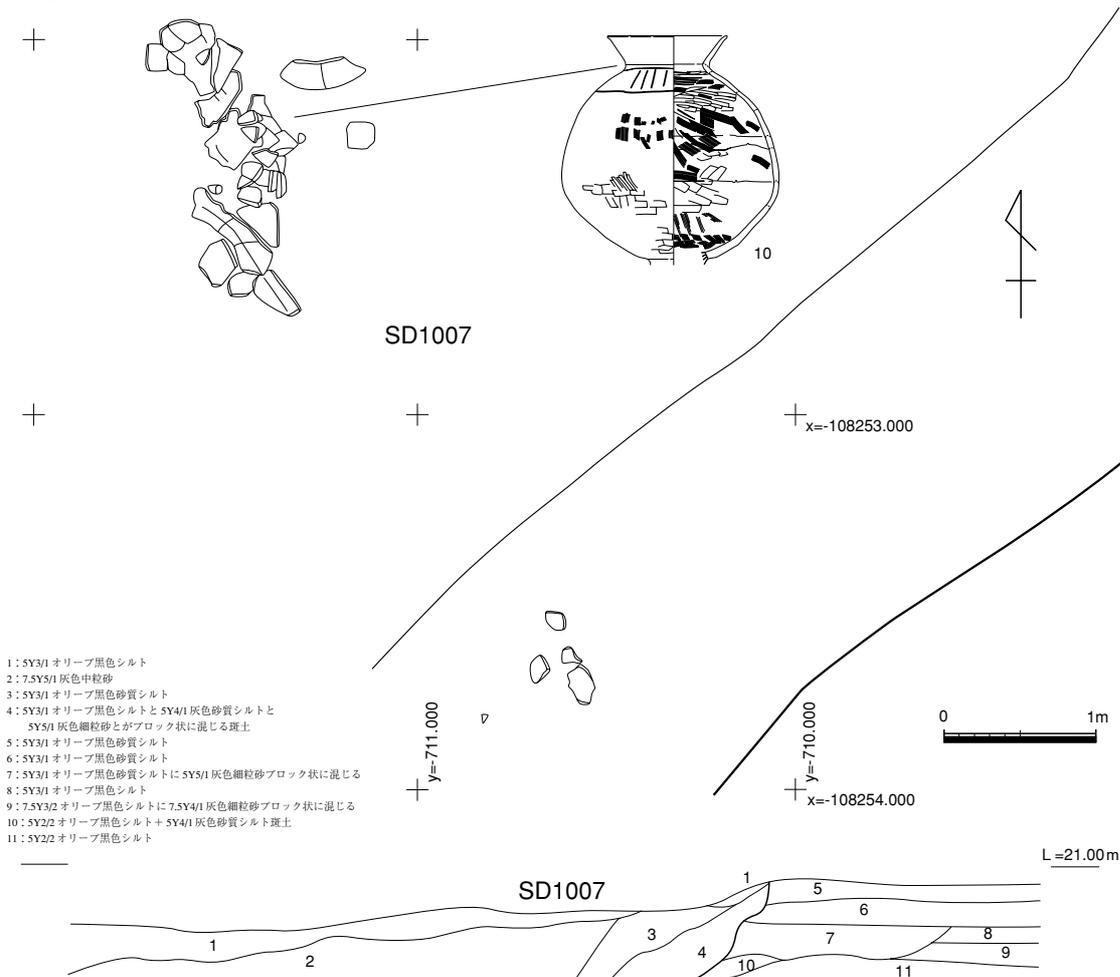
(2) 水田状遺構(第6図)

水田状遺構は98 B区北東半部で18区画確認された。黒褐色粘質シルト層上面(標高約20.9m前後)で検出された畦畔状の遺構を指している。周辺の利水に関連する遺構が明瞭でないこと、プラントオパールが十分に検出できなかったこと(第4章を参照)などから、これらを水田遺構と確定するには疑問が残るが、ここでは

便宜上水田状遺構として記述を進める。

水田状遺構の上位には、黄灰色砂質シルトが標高21.1m前後の高さでB区東半部で堆積しており、これが水田被覆土に該当する。この土層を除去すると全体として水田検出面が現われる。S T 1005付近のセクション(第8図)で見ると、水田作土相当部分の堆積はオリーブ黒色砂質シルトで上位に灰色砂質シルトがブロック状に混入する。上位の水田被覆土との境面に微妙な起伏が存在した可能性が考えられる。このS T 1005作土相当の堆積は層厚は約20cmを測る。畦畔の高まりはオリーブ黒色砂質シルトと灰色砂質シルトの斑土で構成される。S T 1005の下層土はオリーブ黒色シルトであるが、耕作による攪拌(巻あげ痕)は認められなかった。

水田状遺構が検出された部分は北東が高く南西に向けてやや傾斜して低くなる地形となっている。東部ではこの傾斜にほぼ並行する形で水田畦畔が確認され、西にいくにつれて若干方位



第9図 S D 1007 土層断面・遺物出土状態図

を変える。畦畔は部分的に途切れるが、その部位については特に規格性は認められない。区画の規模は最大でS T 1008の約9.0m×約9.8m、最小でS T 1005の約2.4m×約3.6m、平均すると一区画面積はおよそ20㎡である。S T 1008など大型区画の場合、畦畔が残存していなかった場合も想定されることから、基本的には15～25㎡位の規模の区画が並んでいたと考えられる。この水田状遺構は、南ではN R 1001、北ではS D 1007によって切られており、本来存在した広がりを持定することはできない。しかし、水田下層土の堆積が南と北の両側に向かって傾斜していることから、水田状遺構は広くても幅が25m程度の微高地に展開していたと考えられる。S D 1007に切られることと下層土(トレンチ)から柳ヶ坪型壺(114)が出土することなどから、水田状遺構は5世紀前半代に位置付

けられよう。

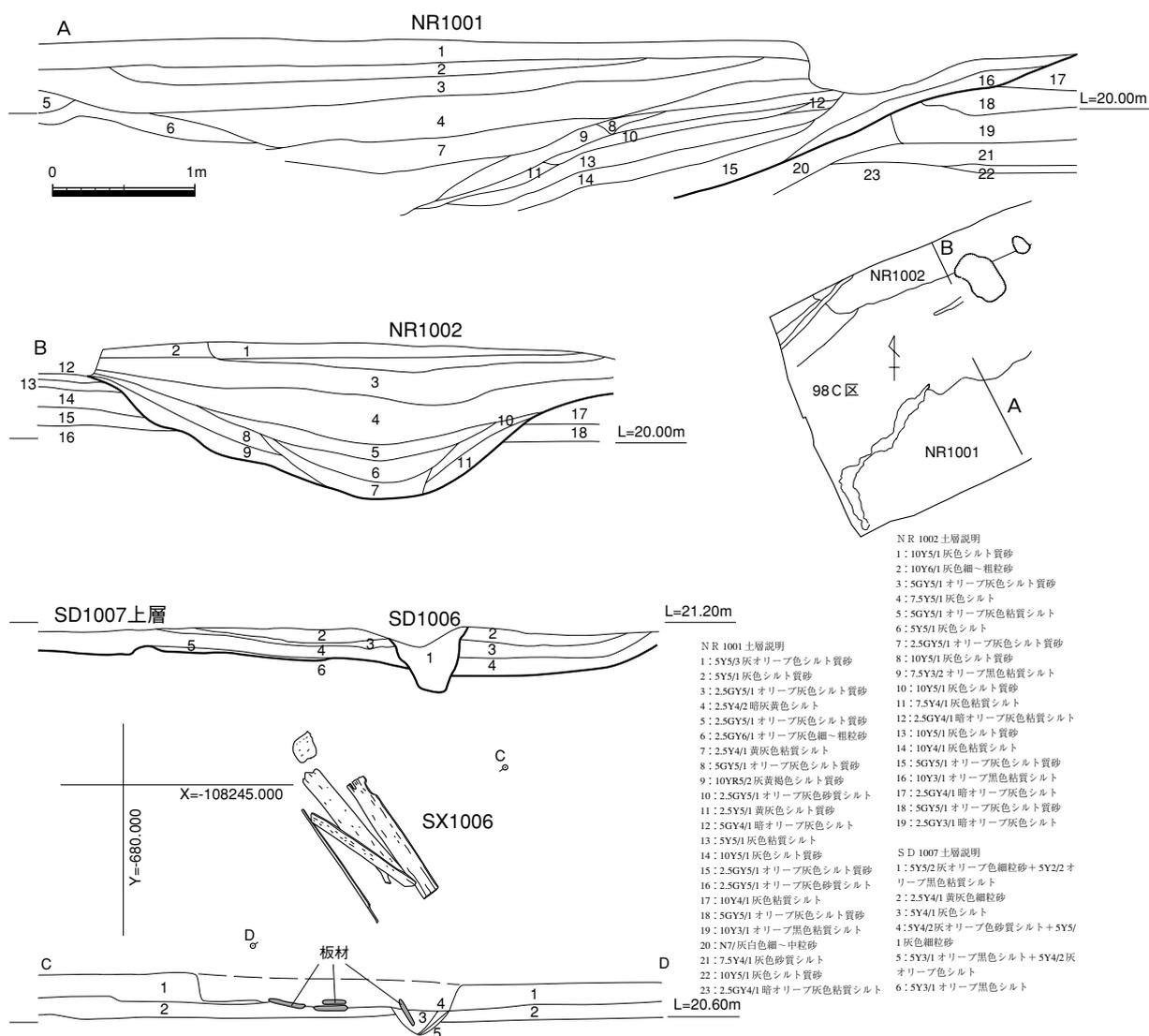
なお、98 B区北西端部と98 A区北端部でも畦畔状のやや大きな高まりも確認された。調査当時は大畦畔として調査を進めたが、付近では他の遺構が確認されなかったため水田に関わるものと推定するには至らなかった。

(3) 溝 (第9・10図)

下面の溝は全部で25条確認されたが、ここでは特徴的なもののみを取り上げる。

S D 1001は98 A区を縦断する形で検出された幅が狭い溝である。後述するS D 1006につらなるものと思われる。出土遺物からみて5世紀前半の溝であろう。

S D 1006は98 B区から98 C区にかけて伸びる幅が狭い溝である。溝の壁が直立ぎみで長期間開いていた遺構とは考えにくい。出土遺物から5世紀前半代に位置付けられるが、S D 1007



第10図 自然流路・溝・土坑遺構図

が埋没した後に掘削されていることからS D 1007よりは新しい。

S D 1007は98 B区から98 C区にかけて伸びる幅が5～6mの大規模な溝である。あるいは自然流路かもしれない。S D 1007の上層で土師器甕(10)が出土した。水田状遺構を切っている。

S D 1008は98 B区から98 C区にかけて伸びる幅が1m強を測る溝である。遺構検出面よりも高い層位から掘り込まれており、結果的には溝底のみを検出したものである。やや荒い灰色砂質シルトが堆積していた。出土遺物に内彎する杯部を持つ高杯(16～18)や須恵器小片などが出土することから、5世紀後半の時期が想定される。

S D 1017は98 C区で確認された幅が約1mの溝である。自然流路N R 1002が埋没した後に掘削され、中から6世紀代の須恵器が出土した。(4) 土坑(第10図)

土坑は全部で78基確認されたが、性格を特定し得る遺構はほとんど存在しない。特徴的なものとして、98 B区の水田状遺構群の中に畦畔に隣接して存在する土坑がある。皿状に浅く掘込

まれたもので出土遺物は全く存在しない。また、98 C区では自然流路N R 1001上面と98 C区北東部に土坑が集中する部分が認められる。これらの多くはおそらく下面(黒褐色粘質シルト層上面)に対応する遺構ではなく上面から掘り込まれたものと思われ、いくつかの土坑から山茶碗の小破片が確認されている。同様に98 C区で確認された下面の溝のいくつかは上面遺構と考えてもよいだろう。

S X 1006は98 C区中央部で検出された板材が集中して出土した遺構である。土坑の掘り方を確認することはできなかったが、おそらく浅い土坑が存在したものと想定される。材は少し乱れた状態で5枚並べられて出土した。この板材は棺材の可能性などが考えられるが性格を特定することはできない。

(5) 自然流路(第10図)

調査区中央にある微高地の両側に地形に沿う形で自然流路2条(N R 1001・1002)が流れている。両者は特に掘り込み面を持って下がるのではなく、微高地の堆積に連動して流路内の堆積も進んでいる状況である。長期間にわたって流路として機能していたものと推定される。

第3節 上面の遺構(古墳時代後期～江戸時代)

今回の発掘調査で、上面(灰褐色シルト層上面)にて確認された遺構には、井戸2基、溝136条、土坑633基、自然流路1条、礎石建物(柵)1棟などが存在する。土坑の多くは掘立柱建物の柱穴と考えられるものであり、本来的には掘立柱建物がかかなり発見されている状態といえる。ただし、柱列がきちんと並ばないケースが多いため、確実な掘立柱建物を抽出することは難しい。ここでは復元可能な一部の掘立柱建物についてのみ建物として報告するが、実際にはもっと多くの建物が存在したと考えられる。

また、古墳時代後期～江戸時代の長期間にわたる遺構が同一遺構面で確認され、多くの遺構は小破片の遺物のみが埋土から出土するために、出土遺物が正確に遺構の時期を反映しているか否か疑問が残る。こうした事情から、本来はある程度時期的なまとまりごとに報告したいところであるが、これをあえて行わなかった。ここでは遺構の種類毎に記述を進め、最後に遺

構変遷について若干の考察を加えることで報告としたい。

(1) 井戸(第11図)

井戸は98 B区で1基、98 C区で1基確認された。

S E 01は98 B区南部で検出された井戸で、水溜部分に曲物筒が設置されたものである。掘り方の平面形は長軸が約3.6mの楕円形に近い形状で、水溜部分は掘り方のほぼ中央に所在する。掘り方の断面形は標高約20.6mの地点で段を設け、さらに深く標高約19.5mまで掘り込まれている。井戸の木製構造物は水溜と考えられる最下部のみが遺存していたに過ぎない。水溜部はタガを巻いた曲物筒が2段とタガを巻かない曲物筒が2段の合わせて4段が上下に重ねられて設置されていた。水溜部の直径は約50cmを測る。曲物筒の上位は掘り方と異なる大きな掘り込みが断面で確認され、比較的短期間に埋め立てられたと思われる。上位の土層中からは

数片の板材等が出土しており、この板材は上位に存在したと考えられる井戸構造物の残片の可能性はある。このことから井戸を廃棄する際に材が抜き取られたものと考えられる。埋め立てられた土層中からは比較的多量の陶器や土器が出土しており、これらの所属年代から井戸の廃棄時期は12世紀後半と推定される。

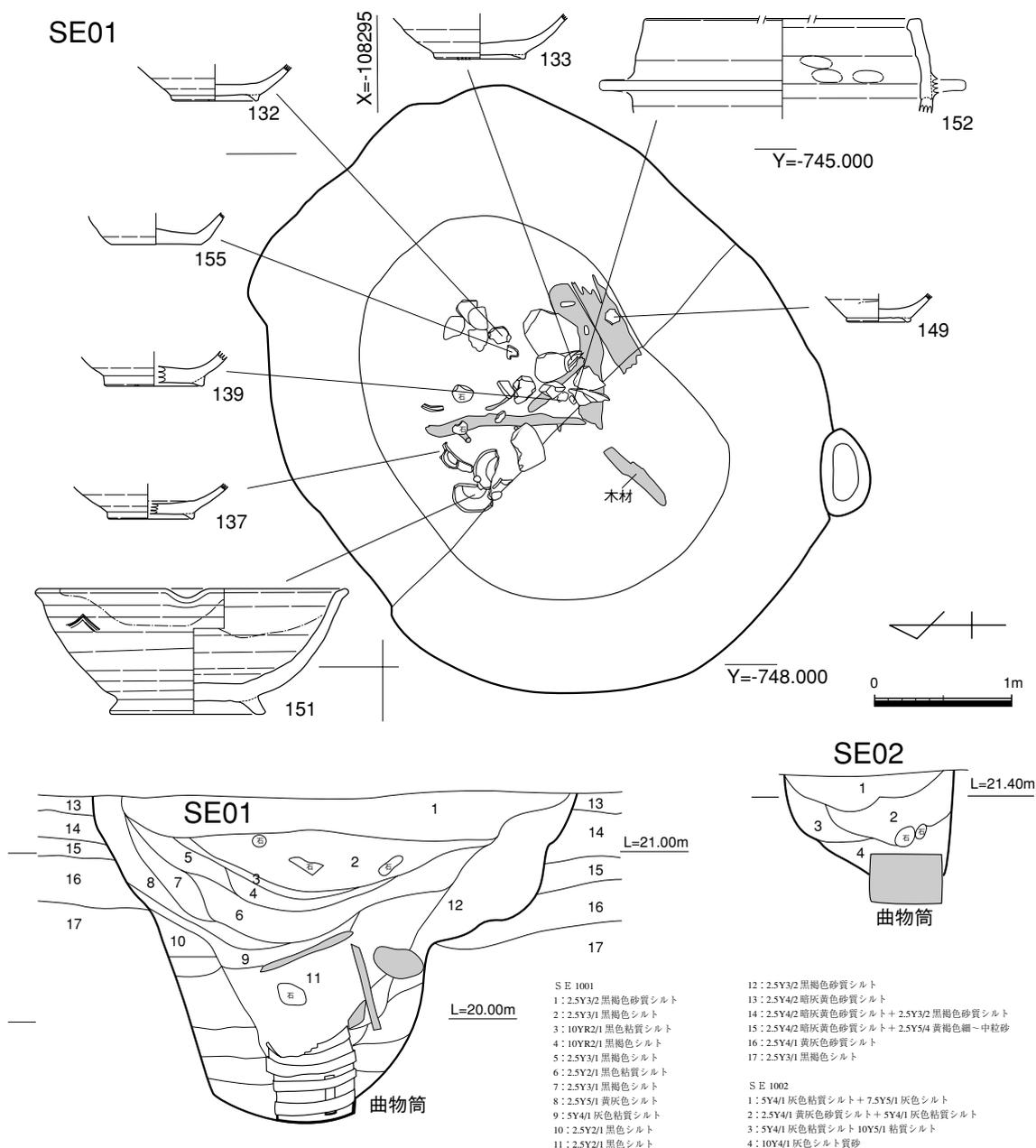
SE 02は98C区北部で確認された井戸で、SE 01と同様に水溜部分の曲物筒のみが残存したものである。上位は後世に削り取られたと思われ、掘り方の平面形は直径が約1.0mの円形であった。水溜の曲物筒はタガを上下に2本

巻いたものが1段のみ残存しており、掘り方の南側に片寄った位置で検出された。井戸の底は約20.5mまでしか掘り込まれておらず、水溜部の直径は約40cmを測る。遺物はわずかに出土しているが、これらは13世紀前葉に位置付けられるものである。

この他にSK 450やSK 558などの深く掘り込まれた土坑がいくつか存在するが、井戸と確定するには至らなかった。

(2) 溝 (第12・13図)

第1遺構面で確認された溝は全部で136条である。この中で特徴的な溝について抜粋して報



第11図 井戸遺物出土状態・土層断面図

告する。

S D 19とS D 28は98 A区で平行して走る溝である。幅は最大でも約1.0mであり深さも浅い。S D 19とS D 28の溝心心間距離は約4.8m(3間半)を測る。S D 19はS D 34とS D 35に切られて検出されたため、古代に属する可能性がある。

S D 34とS D 35は98 A区北端部で確認された直角に屈曲する溝である。両者はほぼ平行して走り、溝心心間距離は約3mを測る。S D 35から黒笹90号窯式期(168)や大原2号窯式期(169)の灰釉陶器碗などが出土したことから、両者は10世紀前半に位置付けられよう。

S D 38とS D 39は98 A区東部で検出された平行する2本の溝である。北東側は未調査部分があって確定的ではないが、おそらく各々S D 55とS D 57に繋がっていくものと推察される。尾張型山茶碗第6型式が出土したことから13世紀前半の遺構と考えられる。

S D 55とS D 57は98 B区から98 C区にかけて調査区をやや斜めに縦断する溝である。両者とも幅約1.5m、深さ約1.0mの規模を持ち、その溝心心間距離は平均して約3.6m(2間)を測る。途中で98 B区中央部ではほぼ平行する形で溝S D 81がS D 55を切る形で重複しているが、あるいはこれは部分的な掘り直しをこの状態で確認したのかもしれない。溝断面図を見ると少なくとも2~3回の掘り直しが行われた状況を読み取ることができる。溝埋土からは古墳時代から近世までの多様な時期の遺物を含み、時期を限定しえない。その中で安定して認められる最新資料は古瀬戸後期に属する資料である。

S D 62とS D 64は98 B区を南北に走る溝である。S D 64は直線的な形ではないが、おそらく関連して存在したものと想定される。S D 64は切り合い関係からS D 55やS D 57よりも新しく、このため近世に属する可能性が高い。

S D 67は「コ」字形に屈曲する幅が60cm前後の溝である。溝で囲まれた約16m×12.5m以上の方形の空間が区画として分離され、おそらくその内側は屋敷地として機能していたと思われる。深さも50cm以下の部分が多く溝の規模は小さい。溝内からは瀬戸美濃窯産陶器の内耳鍋などが出土することから、古瀬戸後期に属する溝と思われる。

S D 84もS D 67と同様に「コ」字形に屈曲する幅が1.0m以上の溝である。溝で囲まれた約18m×14.5m以上の方形の区画はおそらく屋敷地として機能していたと思われる。溝の深さは30cm前後である。溝内からは土師器の内耳鍋などが出土することから戦国時代に属する溝と考えられる。

S D 71、S D 72、S D 77、S D 78、S D 79は灰色粘質シルトの包含層(S X 06)を除去すると検出された溝群である。S D 57に直交する方向に伸び、S D 57よりも南には全く伸びていないため、S D 57と共存してしたと思われる。S D 87やS D 88と対応して約18m×15m以上の方形区画を作った可能性も考えられる。S D 71からは尾張型山茶碗が出土しており、これらは13世紀代に収まる資料である。

S D 83は98 B区北部に所在する溝で、S D 87、S D 88、S D 57に切られる遺構である。S D 91とは「T」字状に交わり連続していた。S D 91から古墳時代後期と考えられる甕の口縁部が出土している。

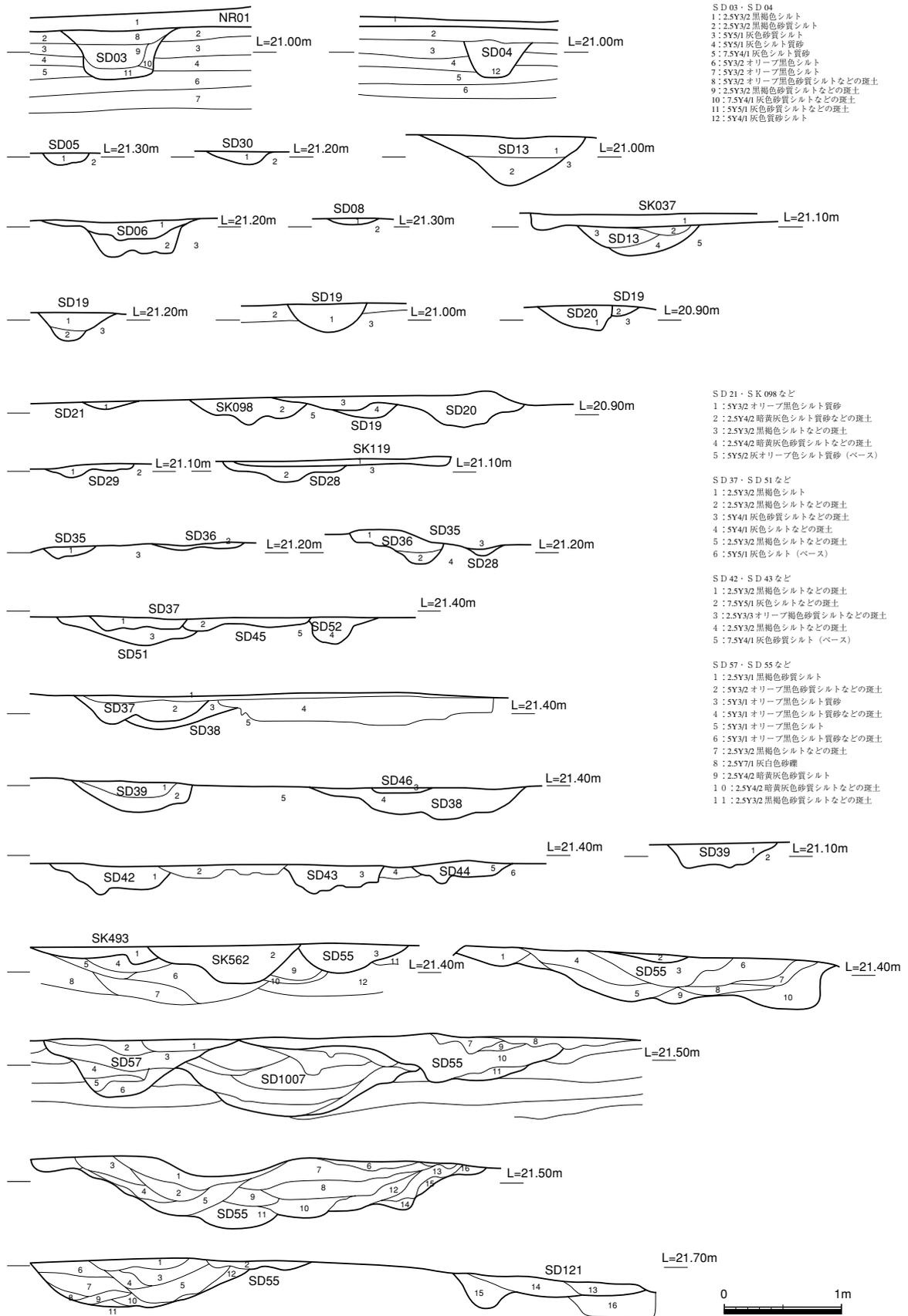
S D 87とS D 88はS D 57を切る形で検出された平行に走る溝である。出土遺物から13世紀代の遺構と考えられる。

S D 89とS D 96は緩やかに曲がりながら平行して走る溝で、S D 89は98 B区から98 C区にかけて存在し、S D 96は98 B区で東端部が存在するものである。S D 89は最大幅が2.0mを超え深さも50cmを超える比較的大規模な溝である。土層断面を観察すると一回以上の掘り直しが認められる。出土遺物は古墳時代中期から江戸時代まで連綿として続く様相を呈しており、最新資料は土師器焙烙(216)である。なお、98 C区ではS D 89に平行する溝S D 129が存在しており、これはS D 96の延長部と推察される。

S D 98は2回直角に屈曲した溝である。南部でS D 99と重複しており何度か掘り直されて継続したと思われる。S D 99の東側には連続すると思われるS D 103とS D 104が存在する。これらの溝群はS D 84と平行しており、関連すると思われる。S D 84とS D 104の溝心心間距離は約4.5mを測る。

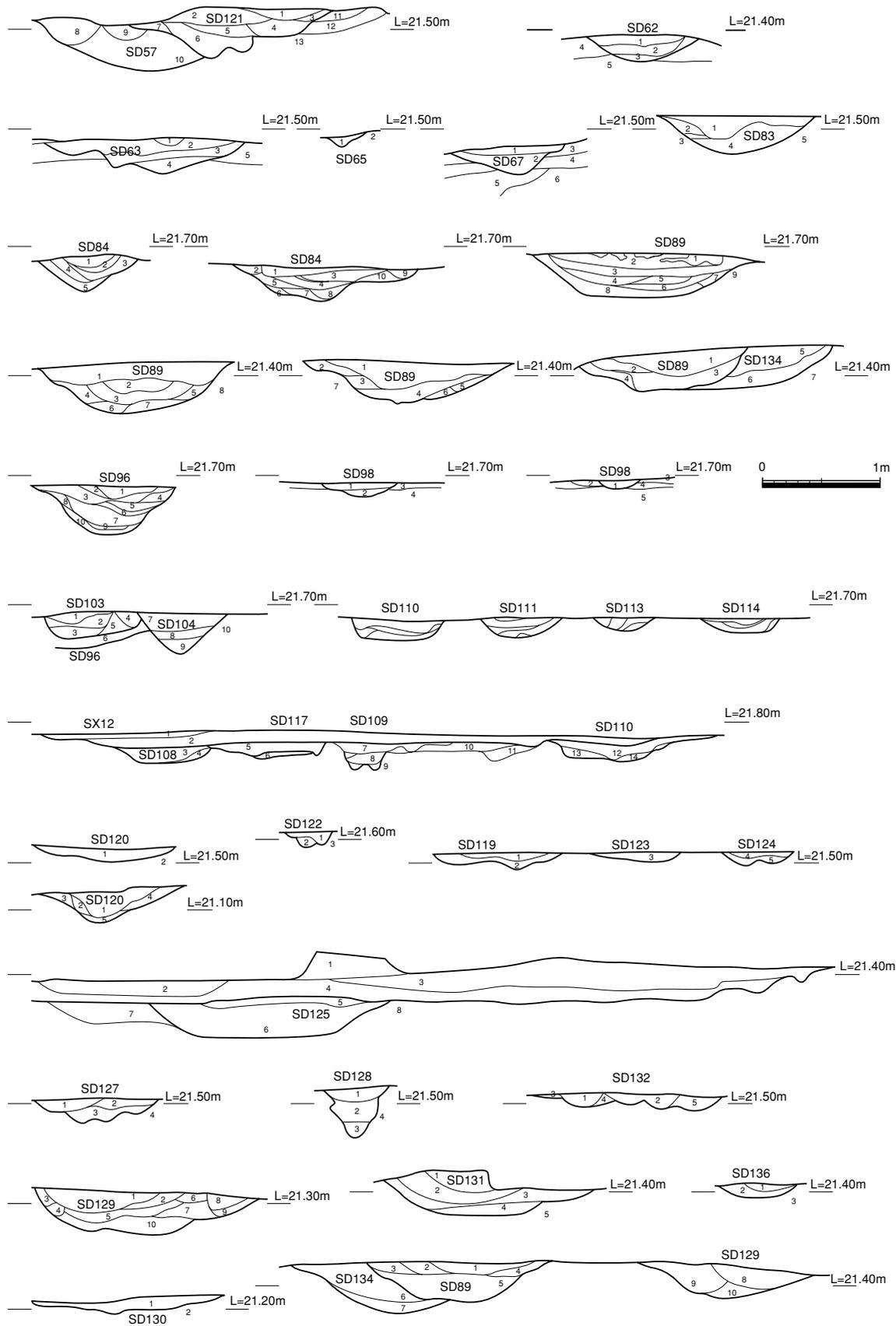
S D 108~S D 114は灰色粘質シルトの包含層(S X 12)を除去すると検出された溝群であ

遺構



第 12 図 溝土層断面図 (1)

天神前遺跡



第13図 溝土層断面図(2)

る。この溝群の北側にも S D 118～124 が存在し、一連のものと考えられる。溝の幅と溝と溝との間隔がほぼ同じで溝の深さも非常に浅いため、畝状遺構として理解したほうがよいかも知れない。S D 55 や S D 89 を切る形で存在しており、中世から近世にかけての時期が想定される。

S D 120 は 98 C 区南西部に所在する溝で S D 55 と直交する方位を持つ。幅は約 1.0m を測り S K 608 等の方形土坑群に切られる。出土遺物から見て戦国時代に属する遺構である。

S D 134 は 98 C 区北端部で確認された溝で S D 89 切られて重複する。出土遺物は 7 世紀代の遺物が大半を占めている。S D 89 は S D 134 の掘り直しの可能性があり、従って S D 89 の初現は 7 世紀代に求めることができるかもしれない。

(3) 掘立柱建物 (第 14 図)

掘立柱建物は今回ある程度推測できたもので 17 棟存在する。しかし、柱穴と考えられる土坑は約 600 基あり、実際にはもっと多くの掘立柱建物が存在したと思われる。掘立柱建物の時期は、床面の出土遺物を特定できない上に柱穴内出土遺物だけで特定することは難しいと思われるため、不明なものが多い。

S B 01 は 98 A 区で検出された規模は約 4.2m × 約 3.0m 以上を測る桁行 2 間 × 梁行 1 間以上の掘立柱建物である。南半部が調査区外にあるため柵列である可能性も残される。

S B 02 は 98 A 区で確認された規模は約 4.3m × 約 3.0m を測る桁行 3 間 × 梁行 2 間の掘立柱建物である。建物内には墨書須恵器杯身が出土した S K 83 が所在する。

S B 03 と S B 04 は 98 B 区西端部で検出された掘立柱建物で主軸方位は S D 62 とほぼ平行する。S B 03 の規模は約 4.1m × 約 2.4m を測り、桁行 3 間 × 梁行 1 間である。S B 04 の規模は約 4.0m × 約 2.4m を測り、現状では桁行 1 間 × 梁行 1 間である。

S B 05～S B 10 は S D 67 に囲まれた空間に所在する掘立柱建物群である。

S B 05 は南半が調査区外に伸びる。桁行 3 間? × 梁行 3 間以上? の庇付建物で、規模は 6.6m × 4.8m 以上を測る。北辺の柱穴列は重複

して多数確認されており、数回の建て直しが行われた可能性が考えられる。大小が認められることから、小さい柱穴は東柱の可能性もある。

S B 06 は南半が調査区外に伸びる。桁行 3 間以上 × 梁行 2 間以上で、規模は 4.3m 以上 × 2.0m 以上を測る。

S B 07 も南半が調査区外に伸びる。桁行 3 間 × 梁行 3 間以上で、規模は 5.0m × 2.6m 以上を測る。北辺の柱穴列は平面形で大小が認められることから、小柱穴は東柱の可能性もある。

S B 08 は規模が約 3.0m × 約 2.8m を測り、桁行 1 間 × 梁行 1 間の小型の掘立柱建物である。

S B 09 は桁行 3 間? × 梁行 3 間で、規模は 3.6m × 5.1m を測る。S K 345 と S K 349 は棟持柱の可能性もある。東半部の柱穴の並びは良好でない。

S B 10 は規模が約 2.7m × 約 2.0m を測り、桁行 1 間 × 梁行 1 間の小型の掘立柱建物である。

S B 11 は 98 B 区北部にある掘立柱建物で、規模は約 2.8m × 約 2.8m を測る。主軸方位は S D 87 と平行する。

S B 12 は 98 B 区南部で検出された掘立柱建物であるが、現状では規模を確定し得ない。

S B 13 は 98 B 区南部で確認された掘立柱建物で、規模は約 4.7m × 約 3.9m を測る。現状では桁行 2 間 × 梁行 3 間で、主軸方位は付近の溝とはあまり平行していない。

S B 14 は 98 B 区北部にある小型の掘立柱建物で、規模は約 2.6m × 約 1.2m を測る。桁行 1 間 × 梁行 1 間。

S B 15 と S B 16 は S D 84 に囲まれた空間に所在する掘立柱建物群である。S B 15 は規模が約 7.2m × 約 4.2m を測り、桁行 4 間 × 梁行 2 間と推測される。小さい柱穴は東柱の可能性もある。S B 16 は規模が約 3.2m × 約 1.0m を測る小型建物である。

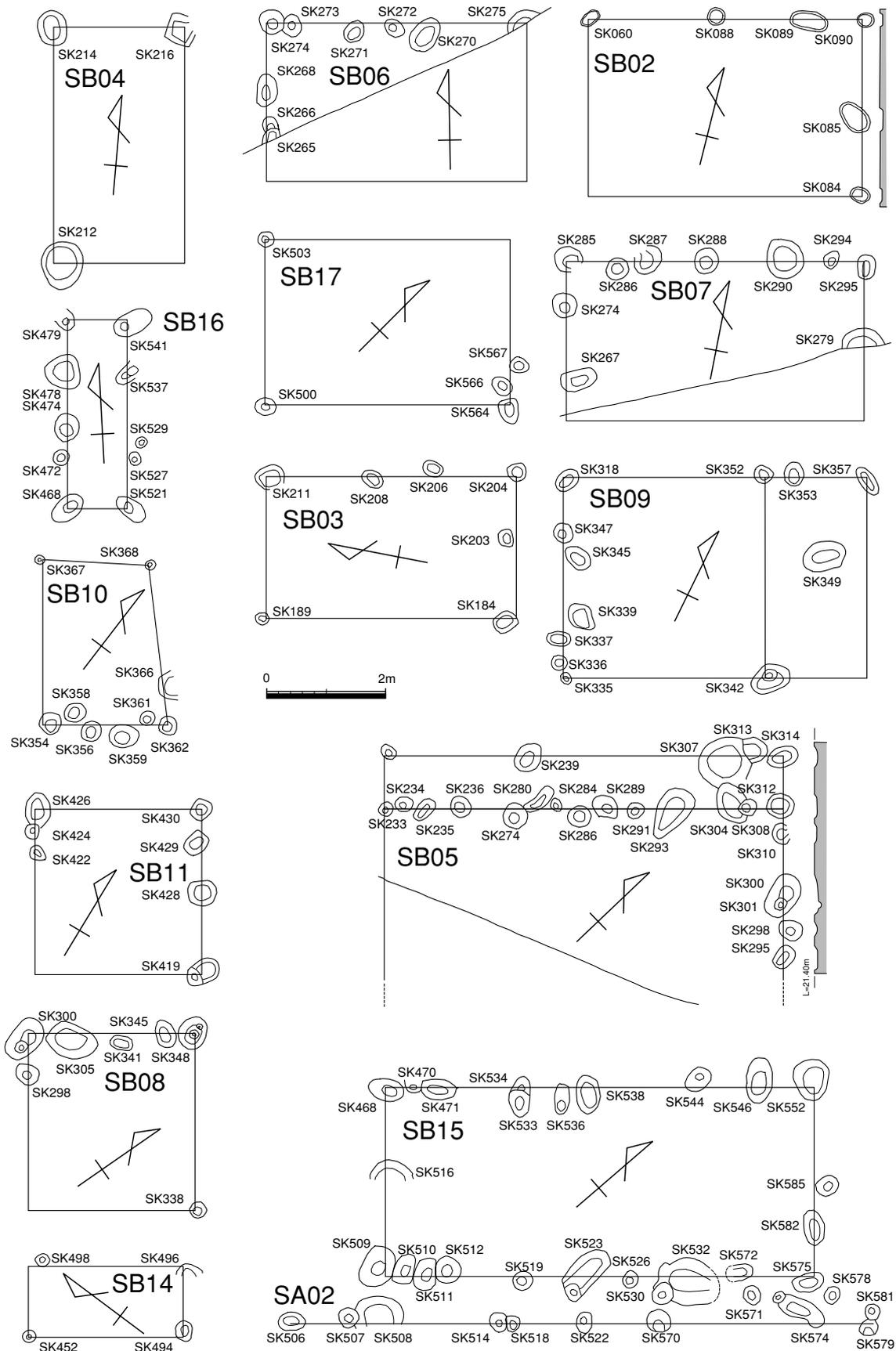
S B 17 は 98 B 区北部にあり、規模は約 4.1m × 約 2.8m を測る。桁行 1 間 × 梁行 1 間。

掘立柱柵列も 3 列が確認された。特に S A 02 は S B 15 に隣接して平行するもので相互に関連していると思われる。

(4) 礎石建物 (柵列)

S A 04 は、98 B 区の東部で確認された礎石柵列である。礎石の根石部分とみられる石また

天神前遺跡



第 14 図 掘立柱建物平面図

は集石が合計5基並んで検出されたことから柵列とした。時期は中世以前の遺構を被覆する灰色シルト層の堆積の上位で検出されたことから近世以降の遺構と思われる。

(5) 土坑 (第15図)

ここでは上記に属さない土坑(遺構)の中で特徴的なものを抜粋して報告する。

S K 56はS B 02内に相当する地点で検出された土坑である。15世紀代か。

S K 83はS B 02内に相当する地点で検出された土坑であり、S K 56に切られる。土坑としては浅く形状が余りはっきりしなかったが、埋土から墨書須恵器杯身が出土した。8世紀に位置付けられる。

S K 128は98 A区中央部で確認された平面形が方形の土坑である。中から青磁碗などの遺物出土した。

S K 439は柱根が残存した柱穴である。上部は腐食して残存しない。

S K 450は平面形が不定形となる大形土坑である。中央部がやや深く掘り込まれているがその性格は不明である。15世紀後半の遺物出土したことからこの時期に属する遺構であろう。

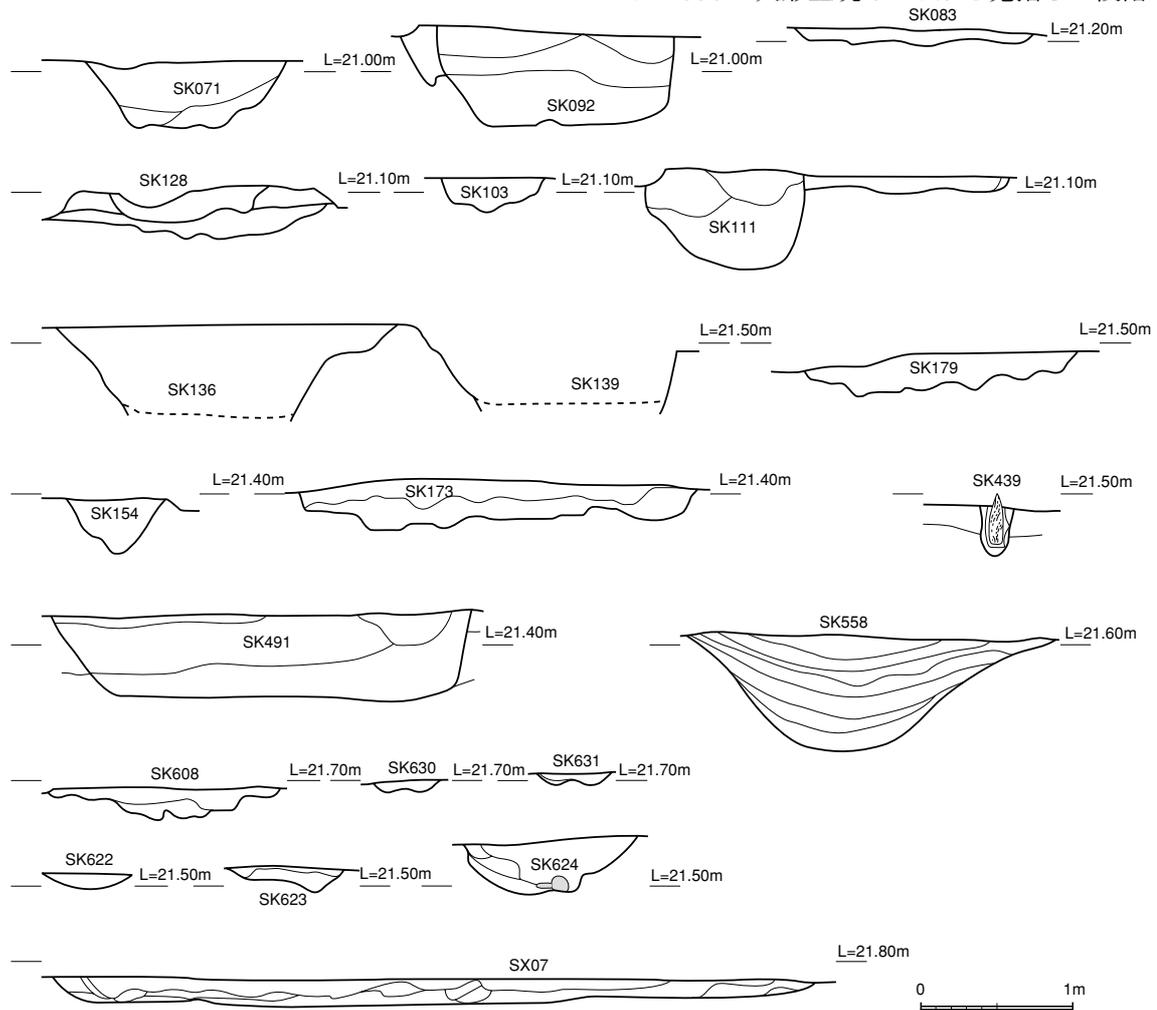
S K 486は98 B区のほぼ中央部に所在するいびつな円形の平面形を持つ土坑である。近世陶器が出土した。

S K 491は98 B区中央部にある方形土坑である。S D 55やS D 81を切る形で検出され、掘り方は比較的急な傾斜で掘り込まれている。埋土はブロック状になって堆積していた。出土遺物には戦国時代のものまで含まれていた。

S K 558は大形の円形土坑である。土層堆積はレンズ状に順にシルトや細砂が互層となっている状態が観察された。

S K 559は平面形が不定形で掘り方も曖昧な土坑である。山茶碗などの遺物が投棄されており、窪みに廃棄物処理した廃棄土坑と考えられる。

S K 590は大形土坑S K 589を完掘した段階



第15図 土坑土層断面図

で検出されたピット状の遺構である。須恵器碗と常滑窯産陶器鍋と古瀬戸灰釉皿がまとめて出土した。

SK 624 は 98 C 区北部中央で確認された土坑である。SD 129 を切る形で検出され深さは約 50cm を測る。土坑の最下部に根石が 2 個配置されていた。常滑窯産陶器壺と羽釜、湖西渥美型山茶碗が出土しており、12 世紀代に位置付けられる。

(6) 方形土坑群 (第 16 図)

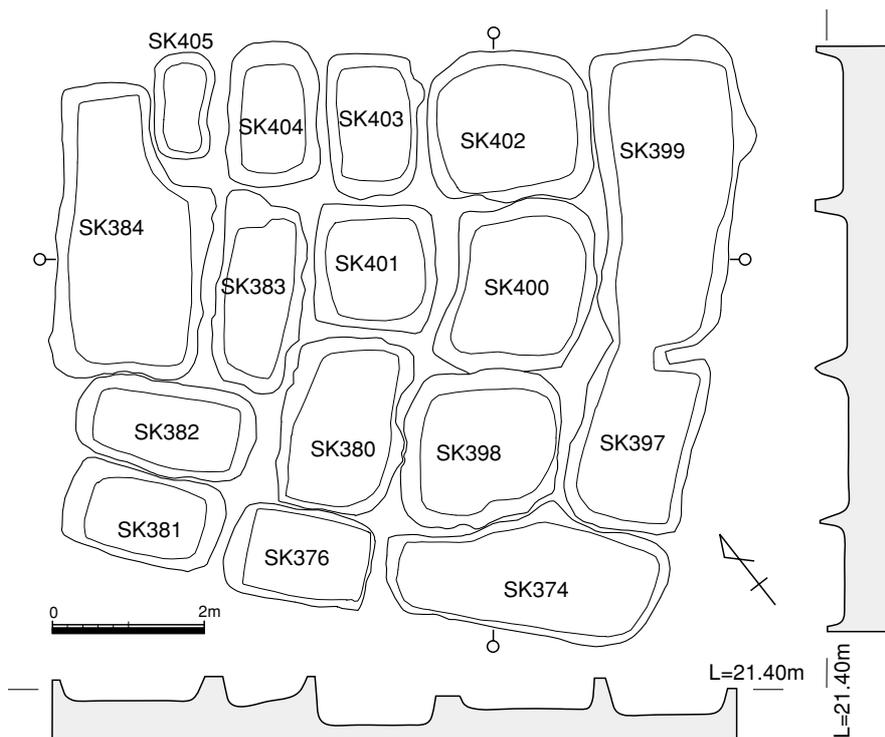
各調査区で「方形土坑群」と呼ぶべき遺構群が確認された。これは掘り方が直立する箱形で平面形が長方形の土坑群が、ほとんど隙間なく規則正しく配置された遺構群である。埋土は非常に粗い砂で円礫を伴う事例も多い。ここでは良好な状態で検出された 98 B 区の事例をもとに報告する。

98 B 区方形土坑群 は 98 B 区南西部に所在する遺構で、SK 374、SK 376、SK 380、SK 381、SK 382、SK 383、SK 384、SK 397、SK 398、SK 399、SK 400、SK 401、SK 402、SK 403、SK 404、SK 405 で構成される。各土坑の深さは約 50cm で、土坑の平面形は最小で約 1.3m × 約 0.8m、最大で約 4.0m × 約 2.1m を測る長方形である。土坑と土坑の間の壁は非常に薄く 0.1m ~ 0.7m の厚さで壁の内側が

若干抉られた状態のものもあった。埋土は非常に粗い砂で円礫を伴い、おそらく土坑は開口した状態で洪水を受けた際に砂が堆積したものと想定される。土坑の中から出土した遺物は少ないが、著しく磨耗した陶片が多く、近世後半に属する資料が認められることからそれ以降に掘削埋没したものと考えられる。隣接する郷上遺跡、水入遺跡、川原遺跡など豊田市南部の沖積低地に所在するほとんどの遺跡に存在するもので、ある一定の間隔 (およそ 100m 前後) で点在していたのではないかと推察される。時期的にみて集落に伴うものとは考えにくく、農業などの生産に関わる遺構群の可能性が考えられるが、これらの方形土坑群の性格付けは現在のところ全く判明していない。

(7) 落ち込み (SX)

第 1 遺構面は全く平坦ではなく、微細に見ればそれ程深くはないが大きな起伏が認められる。こうした落ち込みには粘質シルト等が堆積しており、遺物も小破片を中心に相当量出土する。また、落ち込みの床面からは中世以前の遺構が検出されることが多い。こうした状況から見て、おそらく中世末期から近世にかけて第 1 遺構面が削られながら粘質シルト等が堆積していったのではないかと推測される。このような落ち込みを SX と表記した。



第 16 図 方形土坑群平面図・断面図

第3章 遺物

第1節 出土遺物の概要と分析方法

今回の調査で出土した遺物は全部で、27リットル入りコンテナで30箱、接合前破片数で26718点を数える。その種類は多種多様で、古墳時代中期（5世紀）から江戸時代後期（19世紀初頭）までの約1400年間に及ぶ時期の遺物が、時期的にはおおよそ間断ない状態で出土している。しかしながら、遺構からまとまって出土した良好な資料群については、限られた時期の限定された遺構で確認されるのみであり、大半の遺物は廃棄された後の様々な土地改変などにより破壊されたり移動したりしていると予測される。このような遺物の出土状態からみて、今回は1)比較的に良好な残存状態を持つ遺構出土資料の図化、2)1で取り上げられなかった種類の遺物の中で比較的に良好な残存状態を持つ包含層出土遺物の図化、3)大分類による遺物の出土量の計測とその出土分布図の作成を行うこと、で遺物の報告としたい。

そこで問題となる点は出土量の計測に関しての分類の方法である。今回は天神前遺跡における各時期の動態を遺物から大きく把握することを目的としているため、非常に大雑把な分類に

止めることとしたい。具体的にはまず以下のように大区分し、必要に応じて細分することとした。

1 古墳時代から古代の土師器（この中を大きく壺甕類と高杯類と不明に分けた）

2 古墳時代から古代の須恵器（この中を大きく碗杯類と壺甕瓶類と不明に分けた）

3 古代の灰釉陶器（この中を大きく碗皿類と壺甕瓶類と不明に分けた）

4 中世以降の土師器（この中を皿類と鍋類と不明に分けた）

5 山茶碗（中世無釉陶器）類（この中を大きく碗、皿、鉢、壺甕瓶類、その他、不明に分けた）

6 瀬戸美濃窯産施釉陶器（この中を大きく窖窯製品（古瀬戸）、大窯製品、登窯製品に分けた）

7 その他

計測の方法は、接合前の破片数をグリッドごとに数える方法を採用した。グリッドが不明な資料については不明として一括することとした。この結果については第5章にも記載した。

接合前破片数 (点)	98A区	98B区	98C区	合計	98A	98B	98C	合計
土師器 (古墳時代～古代)	1910	1512	1046	4468 (内高杯類	170	40	24	234)
須恵器 (古墳時代～古代)	251	250	251	752 (内 杯類	155	113	117	385)
灰釉陶器 (古代)	151	76	91	318 (内碗皿類	110	56	34	200)
土師器 (中世以降)	2777	2726	82	5585 (内 皿類	2045	1721	61	3827)
山茶碗類 (中世)	5118	4392	398	9908 (内山茶碗	2867	2541	240	5648)
				(内小皿類	476	374	38	888)
				(内常滑産	186	251	19	456)
施釉陶磁器類 (中世以降)	386	382	37	805 (内古瀬戸	269	260	11	540)
				(内 大窯	27	4	2	33)
				(内中国産	31	21	0	52)
その他・不明	2781	2008	93	4882 (内 瓦	10	21	3	34)
合計	13374	11346	1998	26718				

第3表 遺物出土量一覧表

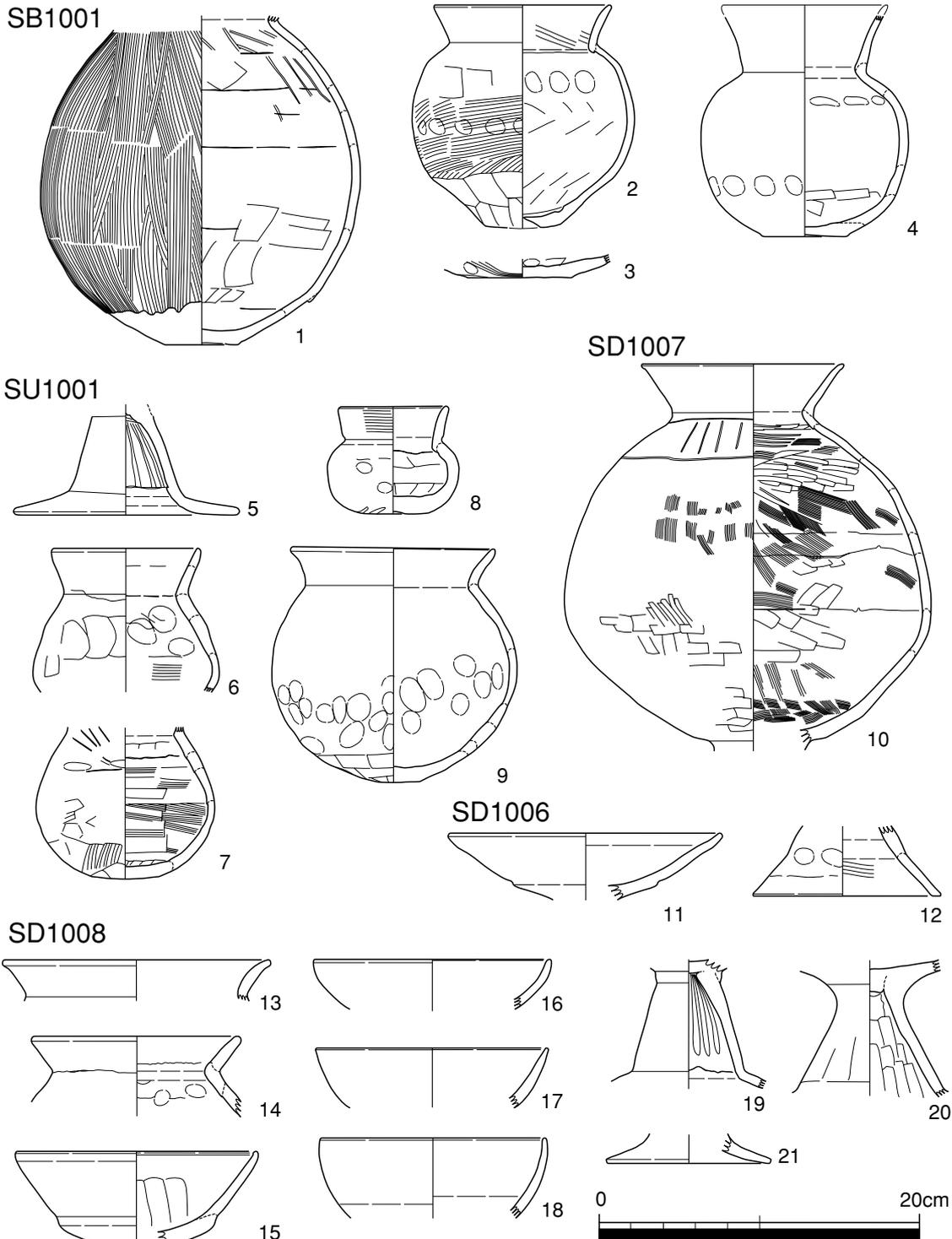
第2節 下面の出土遺物

下面の出土遺物は大半が古墳時代中期に属するもので、一部C区で古墳時代後期から古代にかけての遺物が含まれている。大半の遺物は土師器であり、器種としては甕、小型壺、高杯、杯、鉢などがある。この時期の土師器甕と壺は形状からの区分は容易ではなく、ここでは原則

として煮炊に使用されたものを甕と考えて報告する。

まず、遺構から出土した一括遺物の紹介を行い、その後に包含層などから出土した資料を調査区ごとに整理して報告する。

S B 1001 出土遺物 (第17図1~4) -- S B



第17図 下面の出土遺物実測図(1)

1001からは土師器甕と土師器小型甕が出土した。1は土師器甕で口縁部が欠損する。外面はハケ調整が、内面はナデまたは板状工具によるケズリが施されている。底部はかなり被熱され表面が剥離している。2と4は形状は直口壺と呼ぶべき形状であるが、外面に煤が付着していることから甕として報告する。2は底部に焼成後に穿たれた孔が存在する。外面に向けて広く割れている状態から内側から圧力をかけて穿孔されたものと考えられる。4は底径がやや大きい平底の小型甕で口縁部がやや長く伸びる。

S B 1001 付近の出土遺物 (第17図5～9) - S B 1001の付近から出土した遺物には土師器小型壺、高杯などがある。5は屈折脚高杯の脚部である。脚内面は横方向にヘラケズリが施される。6と7は小型壺で両者とも下膨れ状の形状である。

S D 1007 出土遺物 (第17図10) --10は大型の土師器甕である。口縁部は逆ハ字状に開きそ

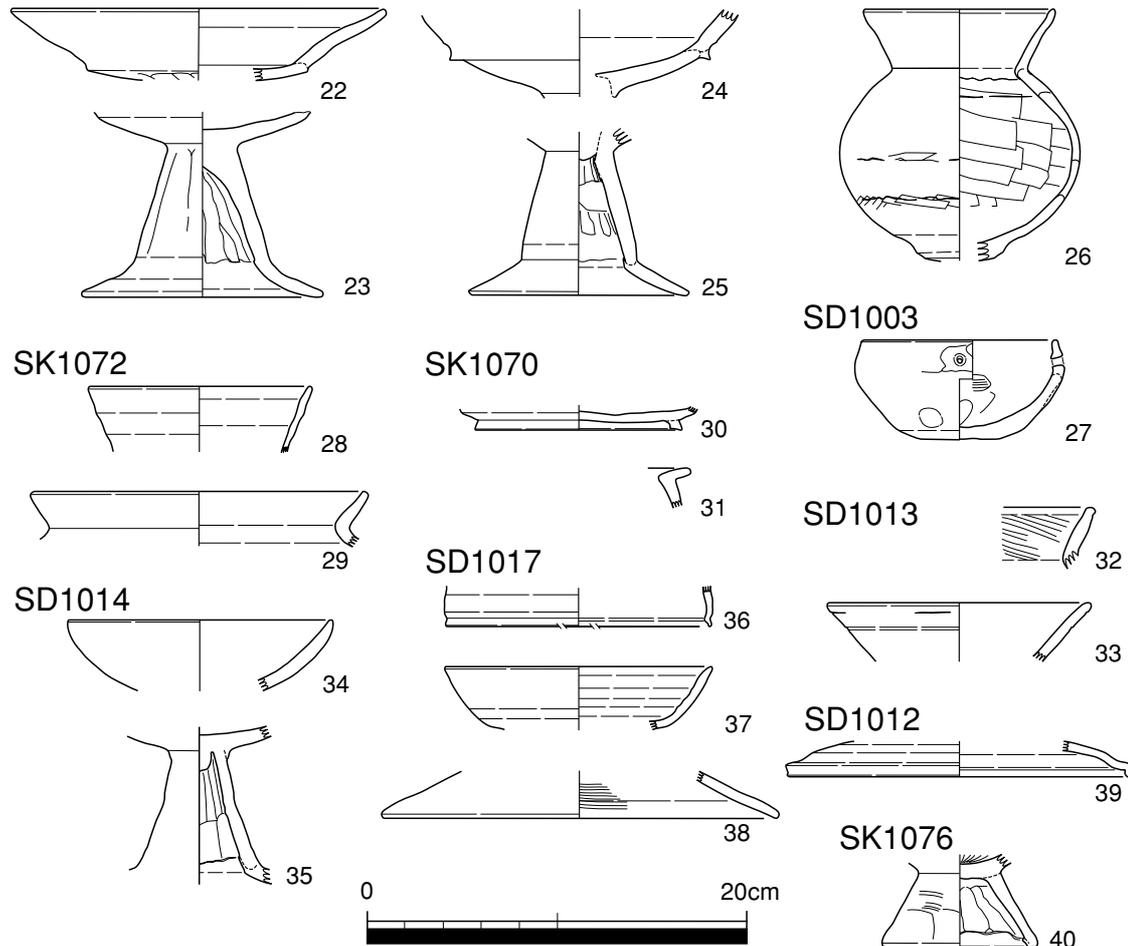
のまま伸びる。口縁部から体部上半は表面が平滑(ミガキ調整か?)で肩部には刻線が描かれている。胴部中央部に煤が付着する。

S D 1006 出土遺物 (第17図11～12) --11は有稜高杯の杯部で外面屈折部に疑似的な浅い沈線が施される。12は台付甕の脚部で底端部に面が存在する。

S D 1008 出土遺物 (第17図13～21) -- S D 1008からは土師器甕と土師器高杯が出土した。甕は口縁部が外反するもの(13)と直線的に開くもの(14)がある。高杯は杯部が屈曲する有稜高杯(15)と杯部が彎曲して碗形となるもの(16、17、18)がある。後者のタイプは他の遺構ではあまり見られないもので、遺構の切り合い関係からみて有稜高杯よりも後出するものと考えられる。脚部は屈折脚のもの(19、21)である。

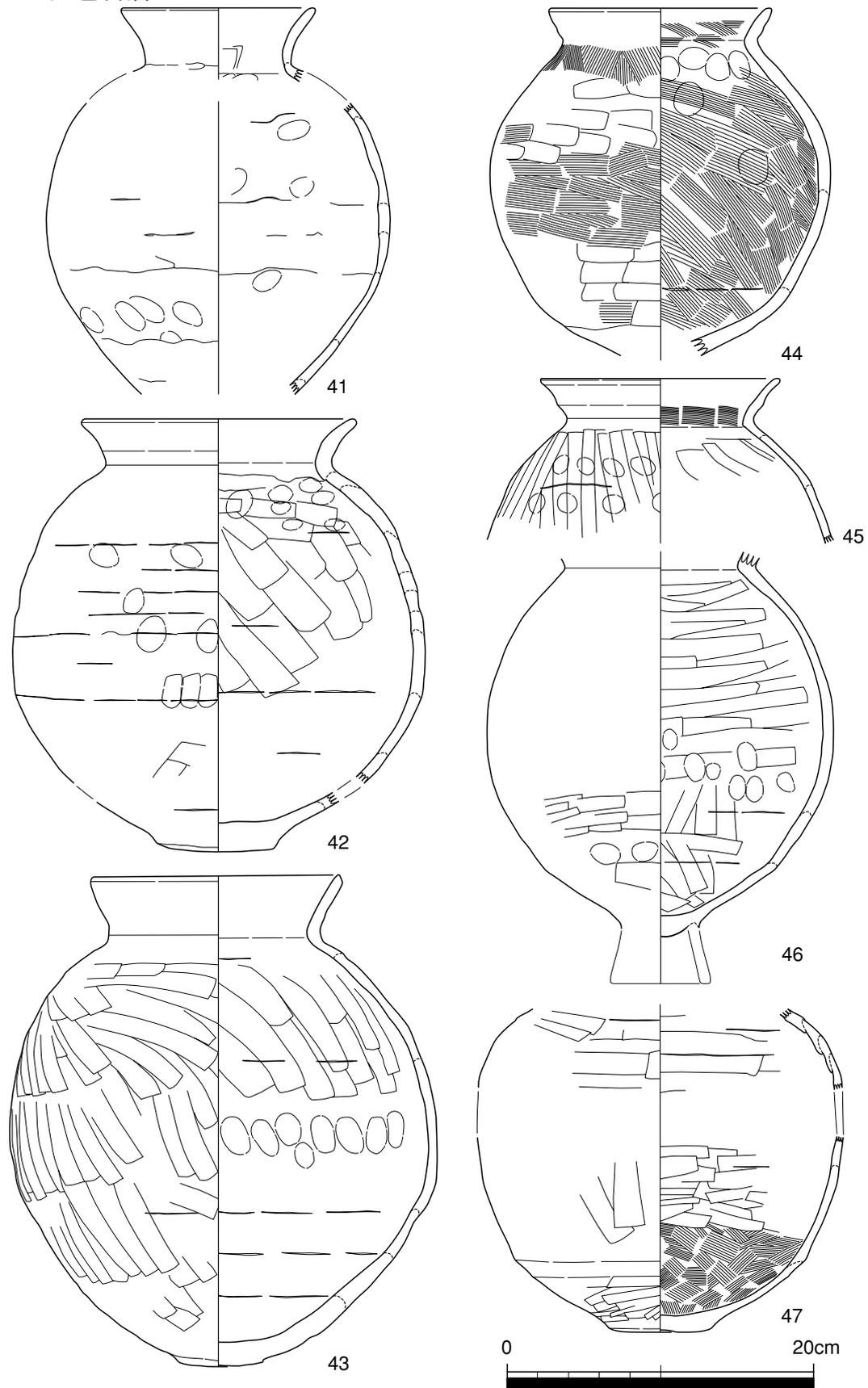
S D 1001 出土遺物 (第18図22～26) -- S D 1001出土遺物には土師器高杯と土師器小型

SD1001



第18図 下面の出土遺物実測図(2)

98A区包含層



第19図 下面の出土遺物実測図(3)

壺がある。22は杯部がやや浅い有稜高杯、24は稜部に貼り付け突帯を巡らせた有稜高杯である。26は小型の甕で下半部が被熱され赤色化している。

S D 1003 出土遺物 (第 18 図 27) -- 土師器杯が 1 点存在する。口縁部は彎曲しながら内傾し、穿孔が施されている。

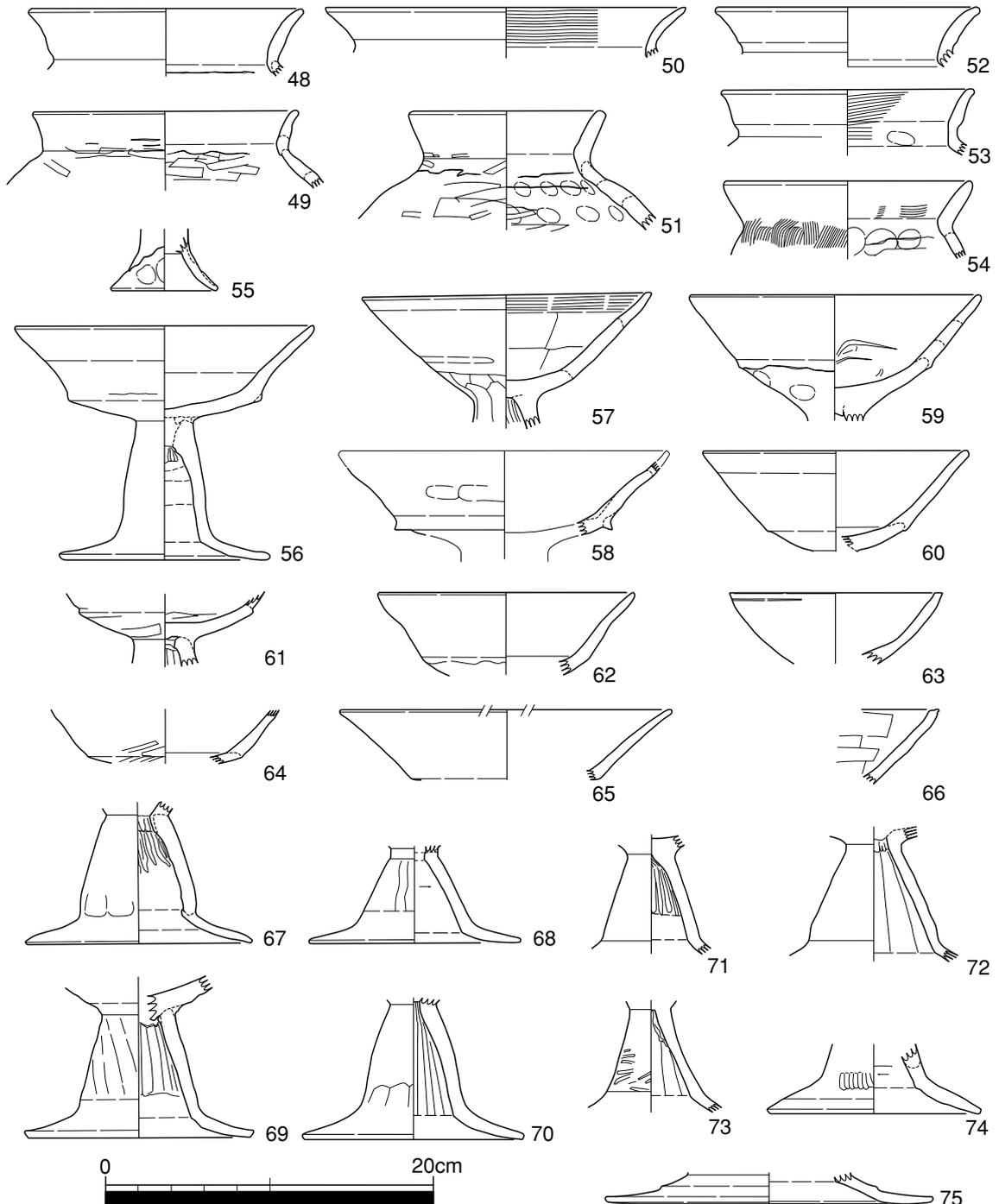
S K 1072 出土遺物 (第 18 図 28・29) -- 須恵器杯身 (28) と土師器甕 (29) が出土した。土

師器甕は口縁部が短く逆ハ字状に開き口縁端部がやや摘み上げられている。古墳時代後期に属するか。

S D 1014 出土遺物 (第 18 図 34・35) -- 土師器高杯が出土している。34 は椀形の杯部である。

S D 1017 出土遺物 (第 18 図 36～38) -- 須恵器杯身、杯蓋、土師器高杯等が出土した。それぞれの所属時期が異なるため良好な一括資料

98A区包含層



第 20 図 下面の出土遺物実測図 (4)

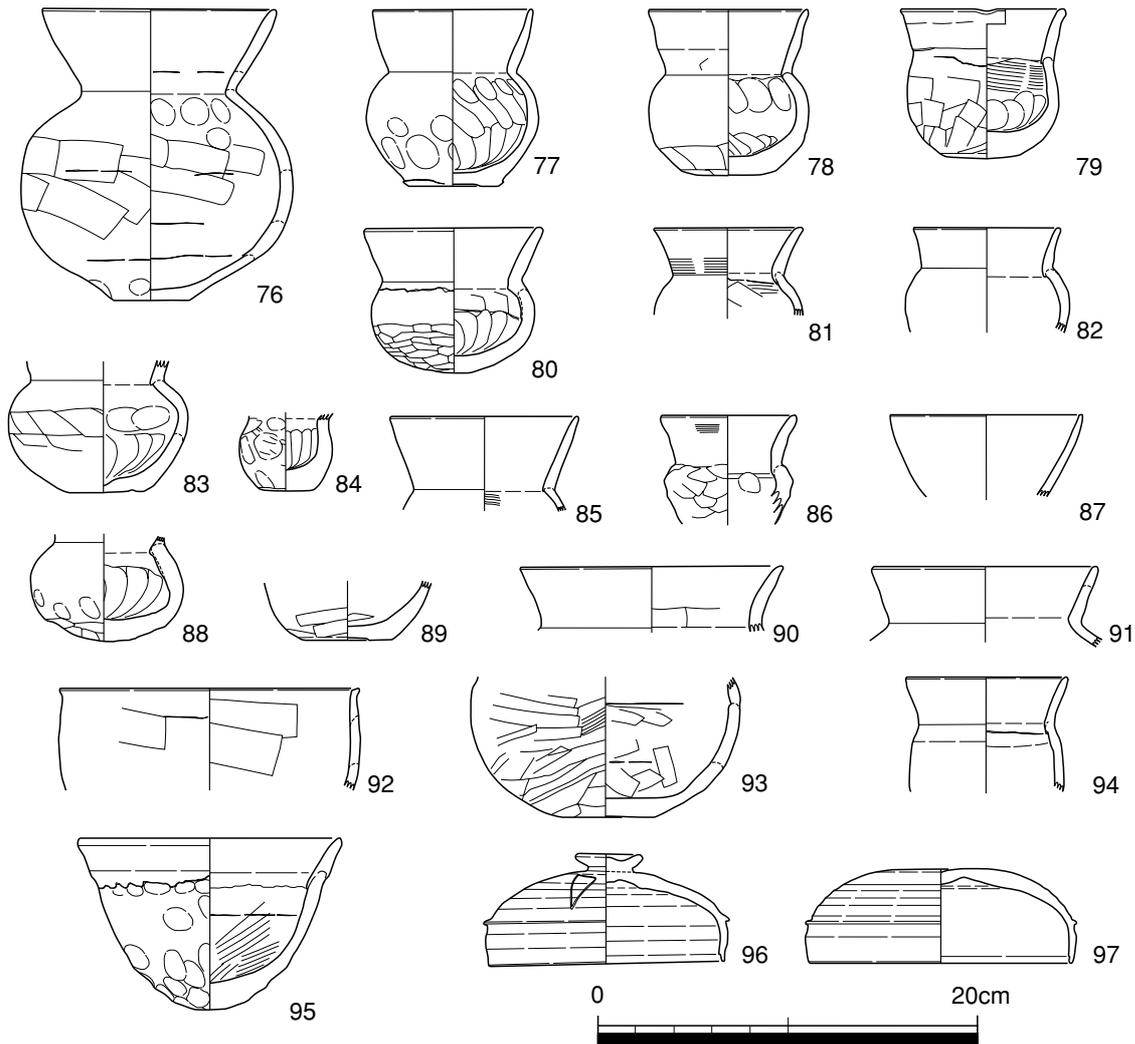
とは言えない。

98 A区包含層出土遺物（第19～21図41～97）--98 A区の遺構以外から出土した下面の遺物は多くはS D 1001よりも南から出土したものである。土師器甕、高杯、小型壺、鉢、須恵器杯蓋などの器種が存在する。土師器甕は全てく字形口縁甕に属するもので、平底甕と台付甕（46・55）がある。宇田型甕は全く存在しない。体部の内面調整はハケ調整のもの（44・47）も存在するが、多くは指オサエの後にケズリ調整を施すものである。体部外面も同様の傾向が認められる。45は口縁部に稜を持つものである。土師器高杯はほとんどが屈折脚有稜高杯である。杯部は、稜部に貼り付け突帯を持つもの（56・58）や口縁部がやや内彎して端部に面を持つもの（63・66）があるが、多くは屈曲した後外反するものである。脚部は内面にケズリ調整が顕著に残存するが、外面は丁寧に縦方向

98A区包含層

に板ナデまたはミガキ調整されたためか調整痕が不明であるものが多い。75は脚裾部分に稜を持つものである。小型壺は平底のものや丸底のものがある。口縁部はほぼ直線的に開く直口壺が多いが、やや内彎するもの（77・87）も認められる。被熱痕が認められるもの（85・87）や外面に煤が付着したもの（76・80・82・89）もある。土師器鉢は口縁部が直立するもの（92）と体部から口縁部にかけて開くもの（95）がある。95は口縁部が外折する丸底鉢である。須恵器杯蓋はH-11号窯式期のもの（96）とH-61号窯式期のもの（97）があり、前者は焼成前に外面に三角形紋が施されている。

98 B区包含層出土遺物（第22図98～116）--98 B区の遺構以外から出土した下面の遺物はほぼ調査区全体から出土したが、S D 1007周辺から出土したものが多い。土師器甕、高杯、小型壺、柳ヶ坪型壺、須恵器杯蓋などの器種が存



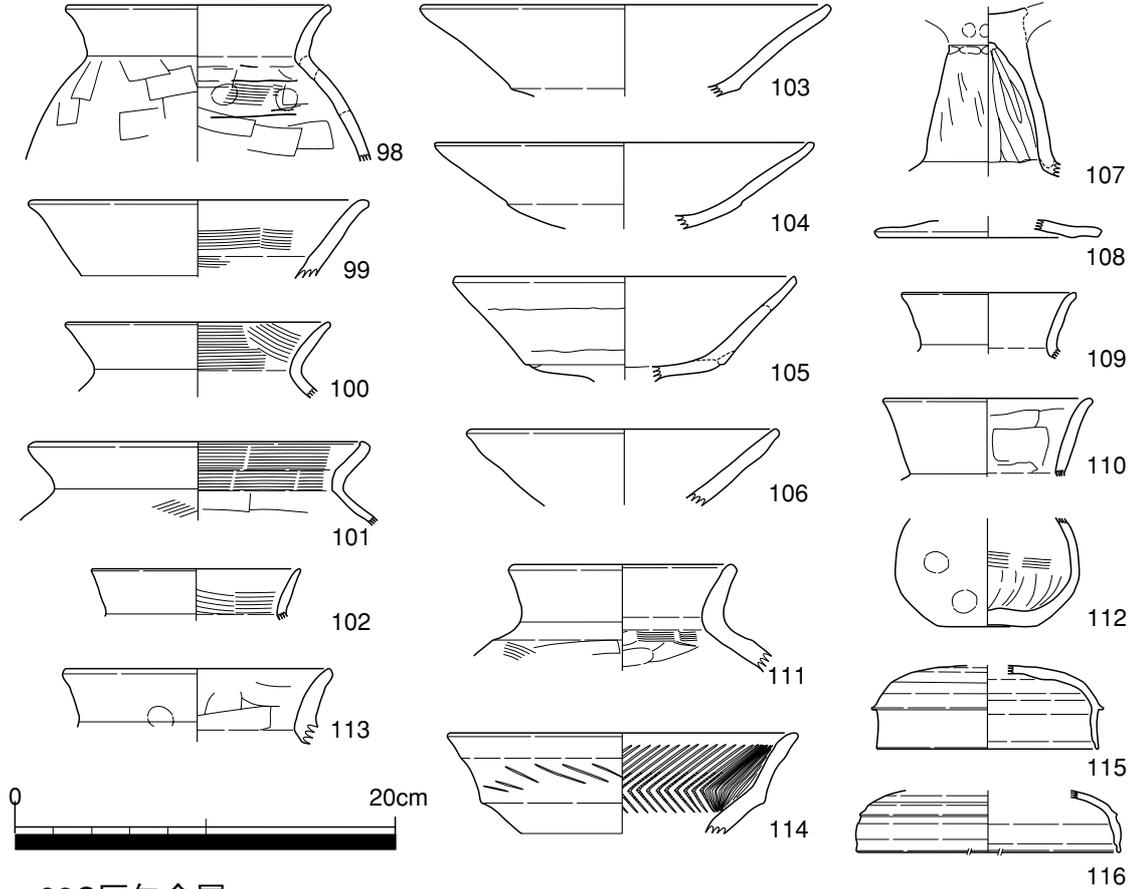
第21図 下面の出土遺物実測図（5）

在する。土師器甕は全てく字形口縁甕に属する。土師器高杯は有稜高杯のみであり、杯口縁端部がまっすぐ伸びるもの(103)とやや上方に摘み上げるもの(104・105)がある。高杯脚は屈折脚となる。114は口縁部が直立ぎみに開

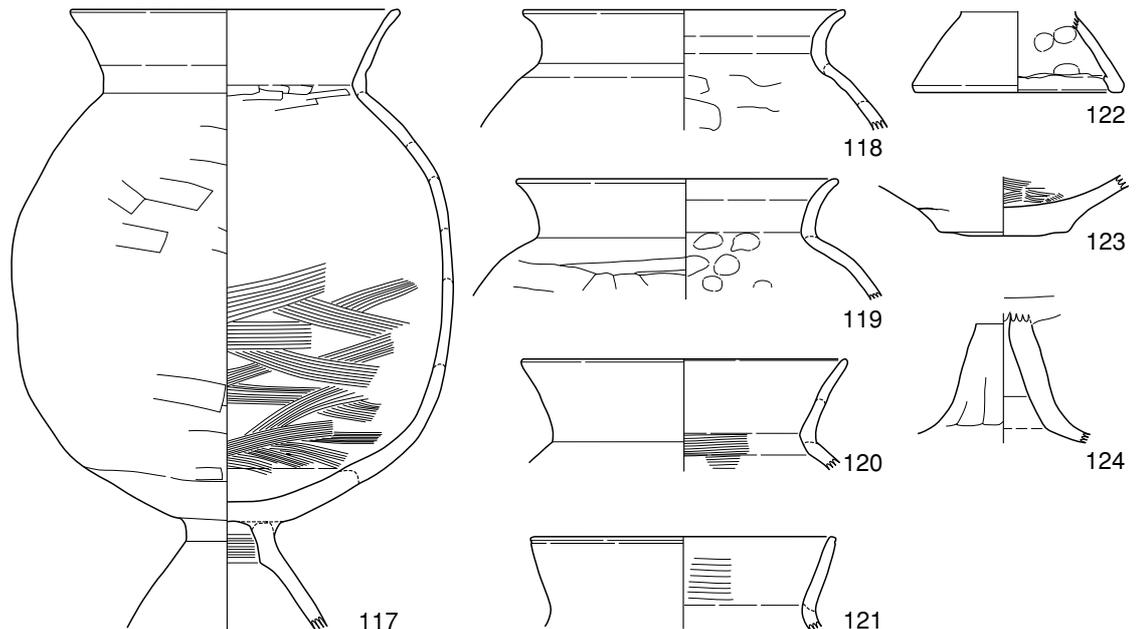
く柳ヶ坪型壺で、内面に工具による羽状刺突文が、外面にはわずかに斜位の刺突文が施されている。須恵器杯蓋はH-11号窯式期のもの(115)とH-61号窯式期のもの(116)がある。

98 C区包含層出土遺物(第22図117~124) -

98B区包含層



98C区包含層



第22図 下面の出土遺物実測図(6)

-98 C区の遺構以外から出土した下面の遺物は他の調査区に比べそれほど多くは存在しない。土師器甕、高杯などが存在する程度である。土師器甕は全てく字形口縁甕に属し、平底甕と台付甕がある。117は口縁部が長く立ち上がる台付甕で脚の端部が欠損するものの脚の高さが高いと推定されるものである。内面体部下半はハ

ケ調整が施されている。122は台付甕の脚部である。底端部の粘土を内側に折り曲げてナデ調整を加えている。この調整手法は宇田型台付甕の脚部と類似しており、その影響が認められる土器である。土師器高杯(124)は屈折脚高杯である。

第3節 上面の出土遺物

上面の出土遺物は古墳時代後期から江戸時代までという幅広い時期に属するものである。ここでは遺構から出土した一括遺物の紹介を行い、その後に包含層などから出土した資料を調査区ごとに整理して報告する。

S E 01 出土遺物 (第23図125～157) -- S E 01からは尾張型山茶碗、尾張型小碗、尾張型鉢、常滑窯産陶器鍋、土師器皿と土師器甕が出土した。遺物は中層から上層にかけて出土したものばかりである。尾張型山茶碗は藤澤良祐編年(藤澤1994)の第3型式から第5型式に属する資料である。143はあるいは東濃型に属するかもしれない。大半の山茶碗は内面(見込み部)がよく磨滅されており極めて平滑な状態となっている。尾張型小碗(皿)は高台が残存するもの(149・150)で第3型式に属するものである。151は片口を有する尾張型鉢で口縁部にハケ塗の薄い灰釉が施されていた。152は鏝部が欠損する常滑窯産陶器羽釜、153と157は常滑窯産陶器鍋であり、胎土はやや大きな礫を噛み込むような粗いものである。153は口縁部が受け口状に、157は口縁部がく字状に折れ曲がるタイプである。土師器鍋はいわゆる南伊勢系鍋に属する形状で、北村分類(北村1996)のA2類に属する。土師器皿は底部に回転糸切痕が残存するク口調整のもので、155は胎土が黒色を呈して厚手のもの、156は黄灰色の胎土で口縁が外反するものである。以上の所見から、おおよそ12世紀後葉の一括資料と認めることができよう。

S E 02 出土遺物 (第23図158・159) -- S E 02からは第6型式に属する尾張型山茶碗と須恵器と思われる小型壺が出土した。

S D 35 出土遺物 (第24図168～170) -- S D 35から灰釉陶器碗と尾張型山茶碗が出土した。

168はK-90号窯式期の碗で三日月高台となっている。169は大原2号窯式期に属する深碗、170は第4型式に属する尾張型山茶碗の口縁部である。170を混入資料と考えると10世紀前半の資料とみなすことができる。

S D 55 出土遺物 (第24図178～183) -- S D 55から須恵器と尾張型山茶碗類などが出土した。98 B区では山茶碗類が、98 C区で須恵器が多く出土する傾向が認められる。須恵器は7世紀後半から8世紀代のもの、山茶碗類は第5型式から第6型式にかけてのものが認められる。

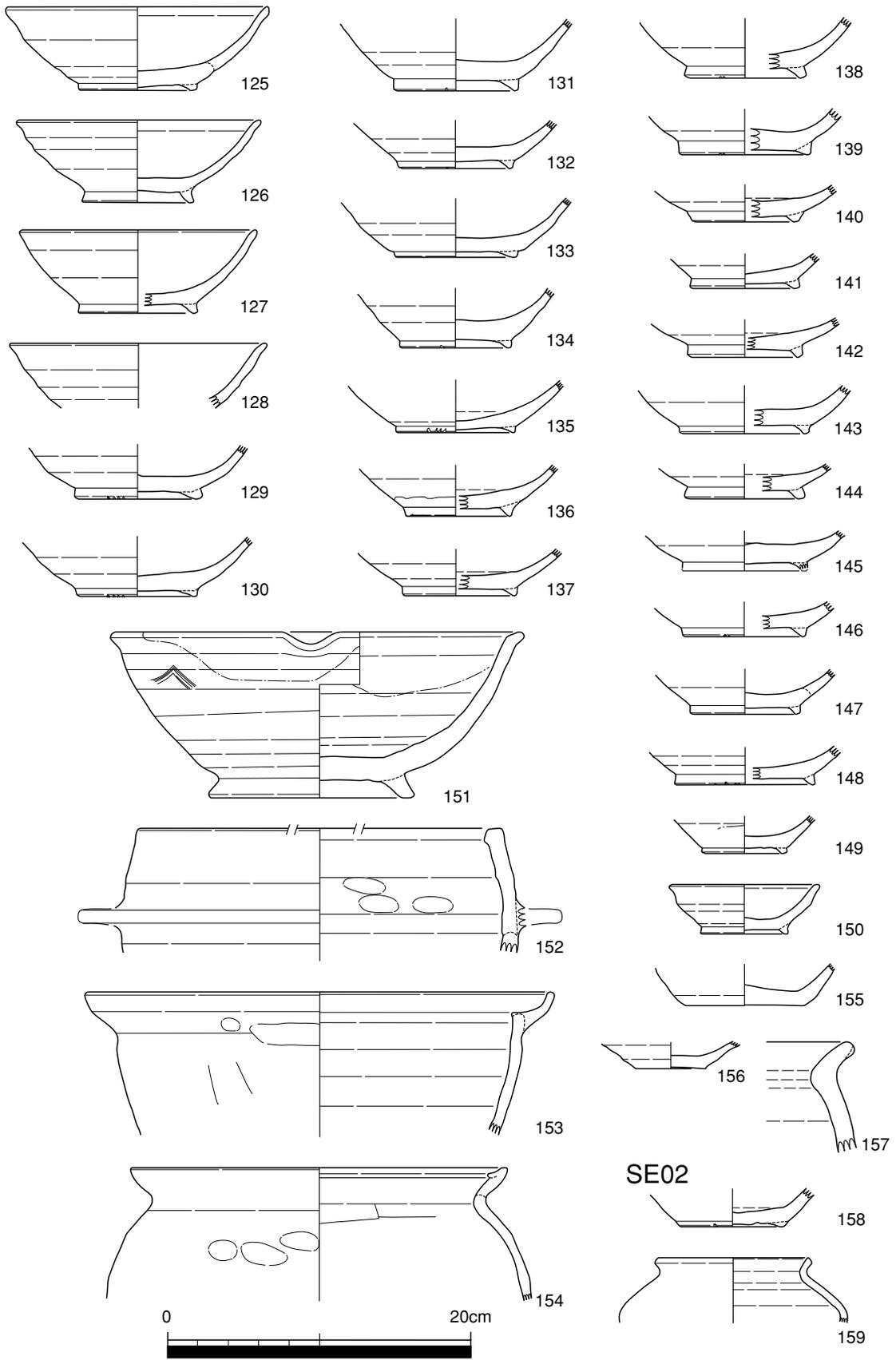
S D 57 出土遺物 (第24図184～188) -- S D 57からは多様な時期の遺物が出土した。186は土師器台付甕の下半部である。外面にハケ調整がよく残存する。184と185は古代末から中世にかけての瓦類である。184の平瓦は凸面に格子状叩きと離れ砂の付着が認められ、凹面には布目痕と板状工具圧痕が残存する。188は瀬戸美濃窯産陶器鍋で古瀬戸後期に属するものである。

S D 71 出土遺物 (第24図191～193) -- S D 71からは尾張型山茶碗と土師器南伊勢系鍋が出土した。山茶碗は第6型式に、鍋は北村分類A2類に各々属する。

S D 81 出土遺物 (第24図195～199) -- S D 81からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器内耳鍋などが出土した。陶器は古瀬戸後Ⅲ期に属する灰釉平碗(195)や古瀬戸中期に属する灰釉卸皿(196)がある。196は卸目の部分にも灰釉がかかっている。199は東三河や遠江で多く出土するく字内耳鍋の口縁部でおそらく15世紀後半に位置付けられる資料である。

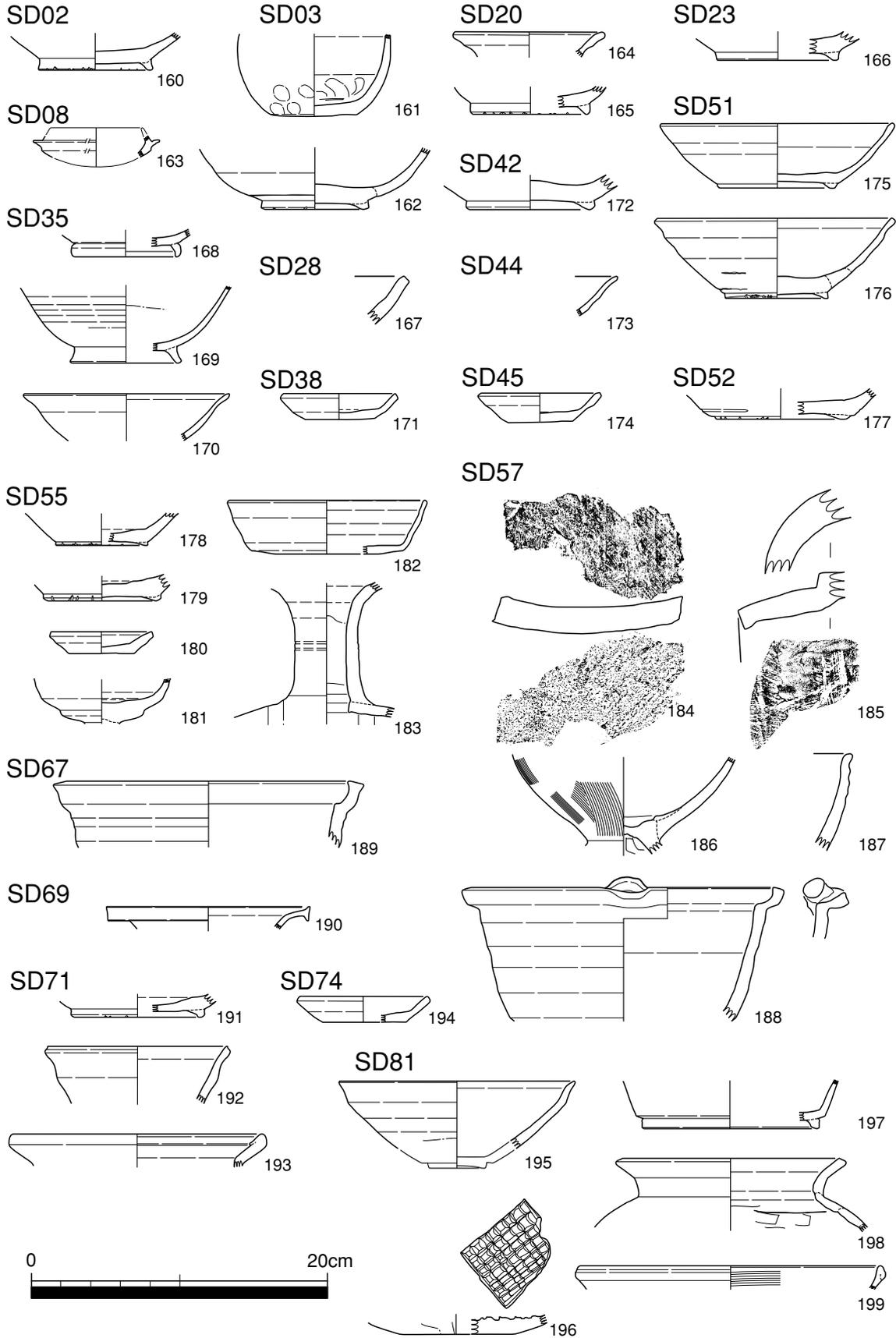
S D 84 出土遺物 (第25図200～204) -- S D 84から出土した遺物には土師器内耳鍋と瓦などがある。瓦(204)は古代末から中世前半に

SE01



第 23 図 上面の出土遺物実測図 (1)

天神前遺跡

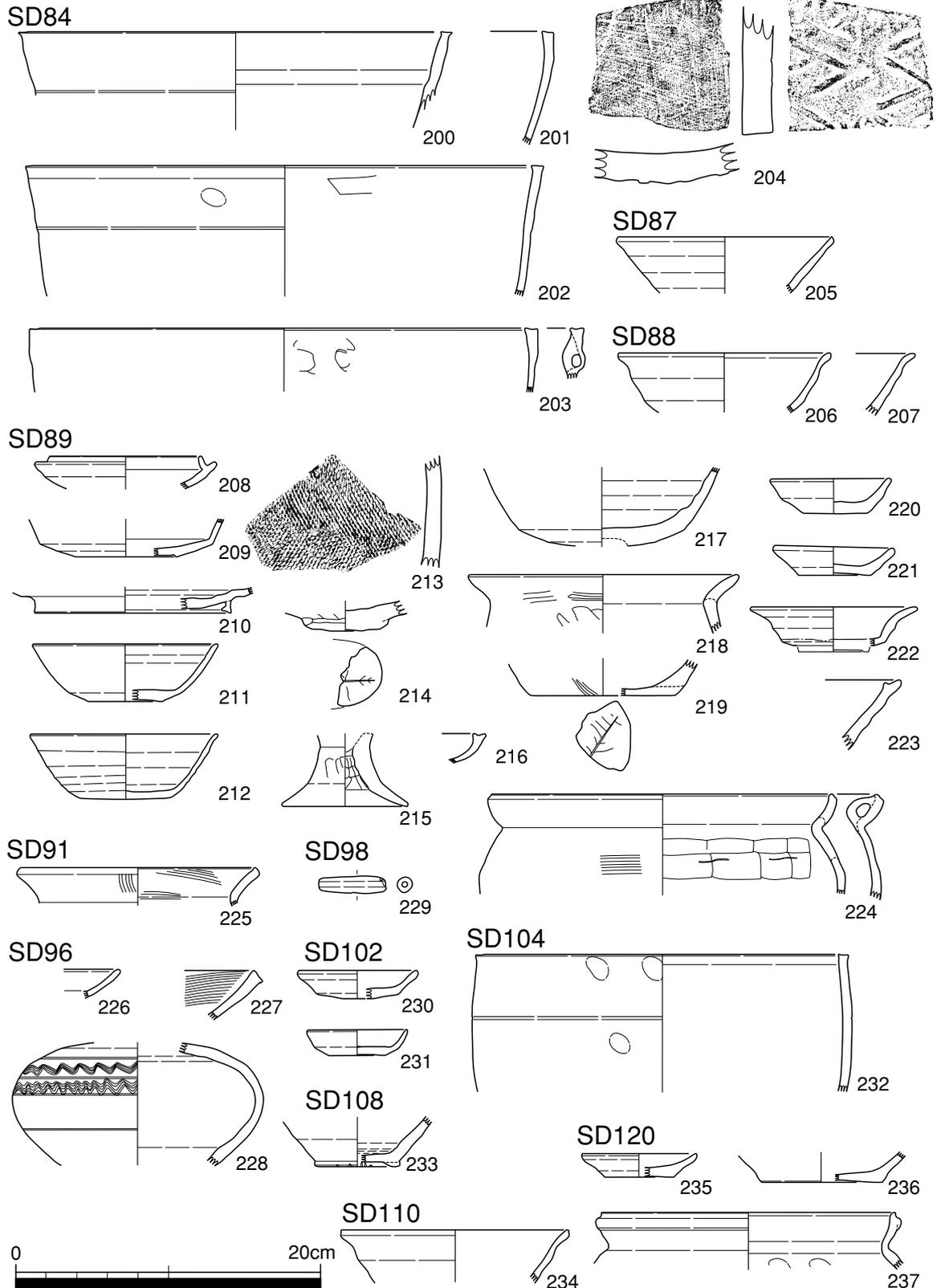


第24図 上面の出土遺物実測図(2)

属するもので他の遺物とは時期が合わないと考えられる。土師器内耳鍋は内彎形内耳鍋 (200) と半球形内耳鍋 (201~203) がある。後者は体部から口縁部にかけて直線的に直立し外面に浅い沈線を持つ西三河D1類 (鈴木1996) で15世

紀後葉に位置付けられる資料である。

S D 89出土遺物 (第25図208~224) -- S D 89からは多様な時期の遺物が出土する。比較的規模が大きく何度も掘り直されたため、下層の



第25図 上面の出土遺物実測図 (3)

遺物が多量に混入したものと理解される。古墳時代中期の土師器には甕(218・219)などがあり、214と219は底部に木葉痕が残存する。古墳時代後期から奈良時代にかけては須恵器の杯類(208～212)が多く出土した。208はH-50号窯式期に属する他はO-10号窯式期に属するものである。213は須恵器の壺類で外面に縄蓆文が施される韓式系須恵器である。5～6世紀に属すると思われる。中世では尾張型小皿や古瀬戸に属する瀬戸美濃窯産陶器、土師器くの字形内耳鍋等が存在する。近世に属する資料には土師器焙烙(216)があり、これが最新資料となっている。おそらく18世紀代のものと考えられる。

S D 91 出土遺物(第25図225) -- S D 91からは古墳時代後期と思われる土師器甕が出土した。

S D 96 出土遺物(第25図226～228) -- S D 96からは体部が逆ハ字状に開く土師器焙烙(227)が出土しており、焙烙としては古手のものと思われる。

S D 120 出土遺物(第25図235～237) -- S D 120から出土した土師器皿(236)には内面にタールが付着していた。

S D 129 出土遺物(第26図238～240) -- S D 129から出土した遺物にはK-90号窯式期に

属する灰釉陶器碗(239)が完形で存在する。

S D 132 出土遺物(第26図241・242) -- 241は常滑窯産陶器鶯口壺か。

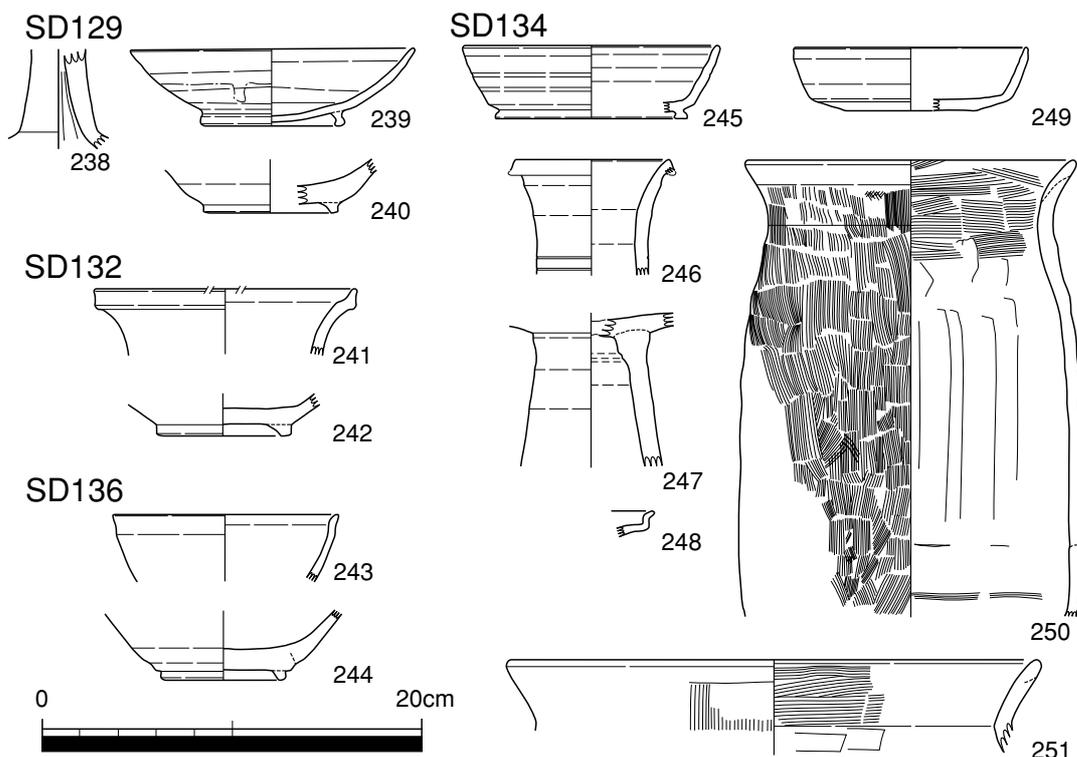
S D 134 出土遺物(第26図245～251) -- S D 134からは須恵器杯身、須恵器長頸瓶、須恵器高盤、土師器甕などが出土した。須恵器杯身(245・249)はO-10号窯式期、須恵器長頸瓶(246)はNN-32号窯式期、須恵器高盤(247)と盤(248)はO-10号窯式期に属し、8世紀後半に位置付けられる。250は外面にハケ調整が、内面下半にヘラケズリ調整が施された土師器長胴甕である。251も同様の製品と考えられ、8世紀代のものと位置付けてよいだろう。

S K 83 出土遺物(第27図253) -- 253は須恵器杯身で底部に「牛養」と墨書されている。NN-32号窯式期に属する資料である。

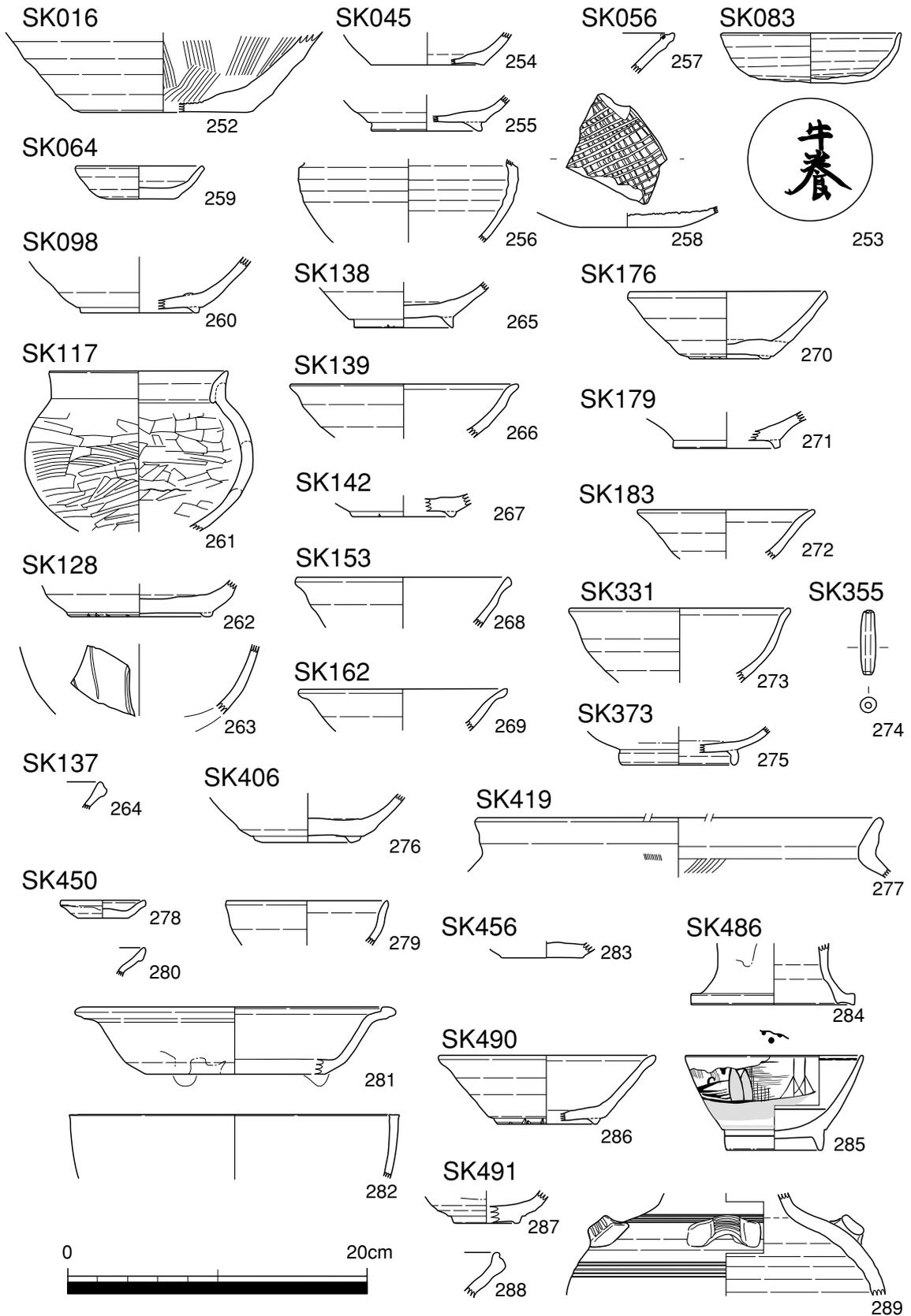
S K 176 出土遺物(第27図270) -- 270はほぼ完形で出土した尾張型山茶碗で第7型式に属する資料である。

S K 128 出土遺物(第27図262・263) -- 263は中国竜泉窯産青磁片切彫蓮弁碗でB2類に属する

S K 486 出土遺物(第27図284・285) -- 284は瀬戸美濃窯産陶器瓶子Ⅲ類の脚部で古瀬戸後ⅢかⅣ期に属する。285は瀬戸美濃窯産陶器広東茶碗で連房式登窯第10小期に属する。



第26図 上面の出土遺物実測図(4)



第 27 図 上面の出土遺物実測図 (5)

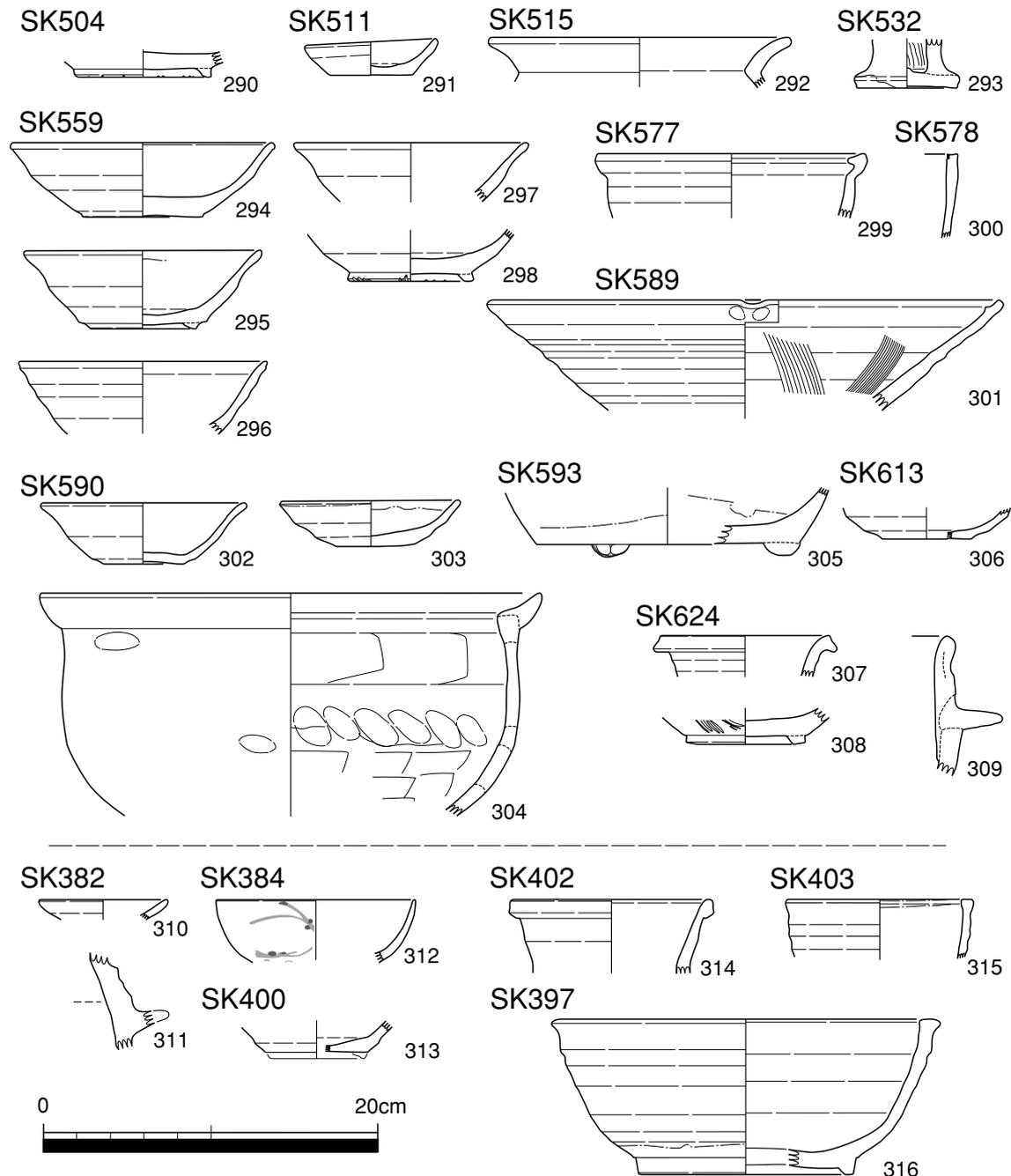
S K 559 出土遺物 (第 28 図 294 ~ 298) -- 尾張型山茶碗がまとまって出土しており、第 5 型式から第 6 型式に属する資料である。

S K 590 出土遺物 (第 28 図 302 ~ 304) -- I G 78 号窯式期に属する須恵器碗 A (302) と常滑窯産陶器鍋 (304) と古瀬戸後 IV 期に属する瀬戸美濃窯産灰釉縁釉皿 (303) がある。

S K 624 出土遺物 (第 28 図 307 ~ 309) -- 308 は湖西渥美型山茶碗の底部で第 5 型式に属する。体部外面に砥石として転用されたと思われる溝が数条設けられ、よく摩滅していた。

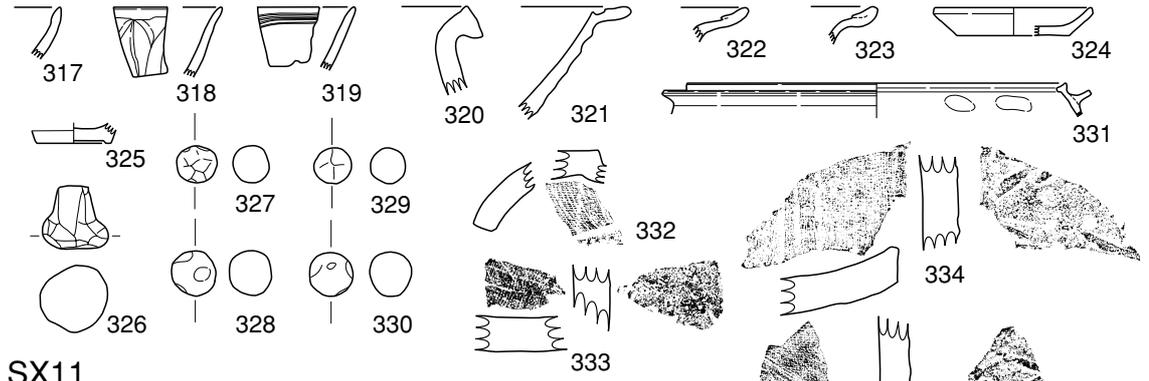
98 B 区方形土坑群出土遺物 (第 28 図 310 ~ 316) -- 312 は肥前窯産磁器の丸碗で 18 世紀後半に位置付けられる。波佐見窯のものか。315 は瀬戸美濃窯産陶器香炉で連房式登窯第 5 か 6 小期に、316 は瀬戸美濃窯産陶器こね鉢で連房式登窯第 8 小期にそれぞれ位置付けられる。

98 B 区落ち込み出土遺物 (第 28 図 317 ~ 372) -- 浅い窪地に堆積した包含層中から出土した遺物をここでは一括して取り扱う。後述する上面包含層遺物と性格付けは基本的に変わらない資料群である。318 と 319 は中国竜泉窯産青磁碗、

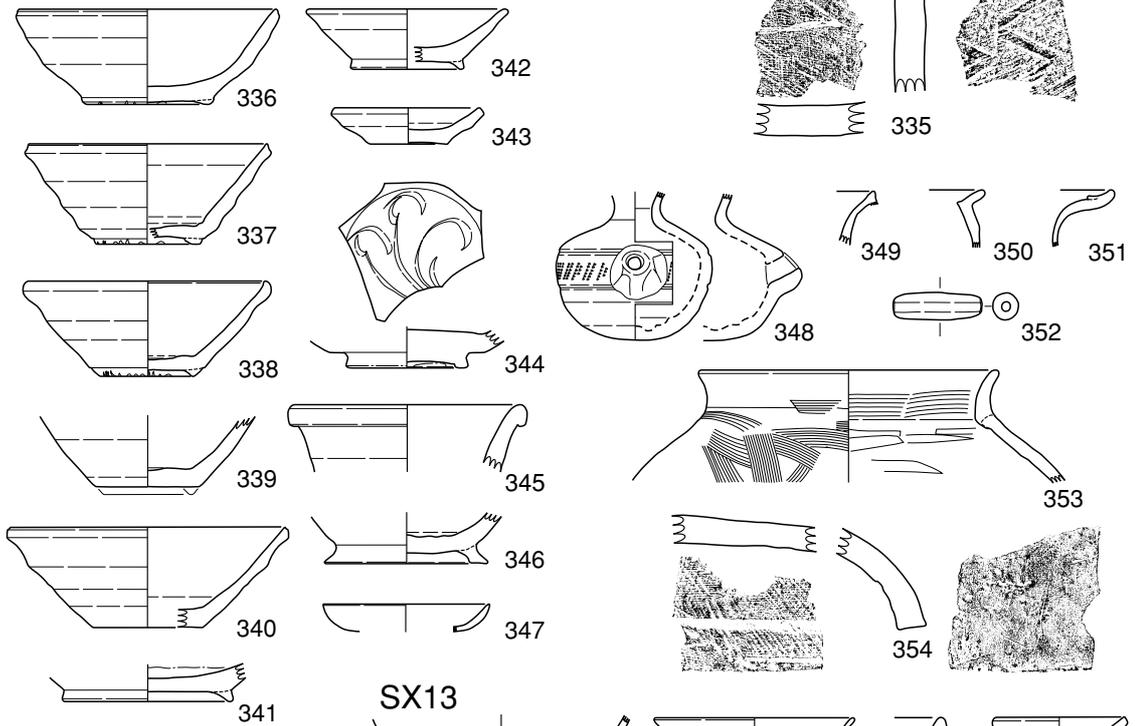


第 28 図 上面の出土遺物実測図 (6)

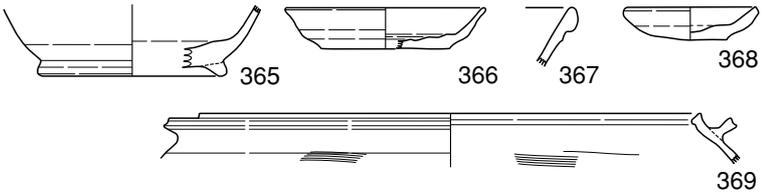
SX06



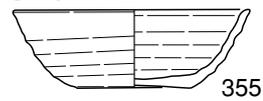
SX11



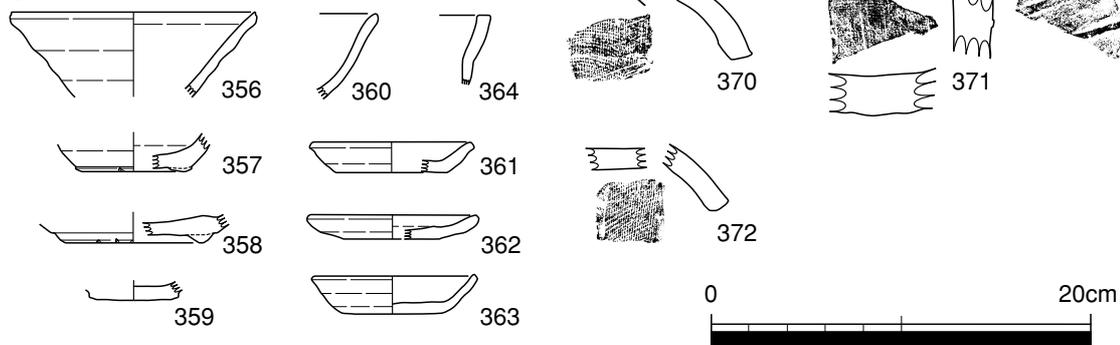
SX13



SX07



SX12

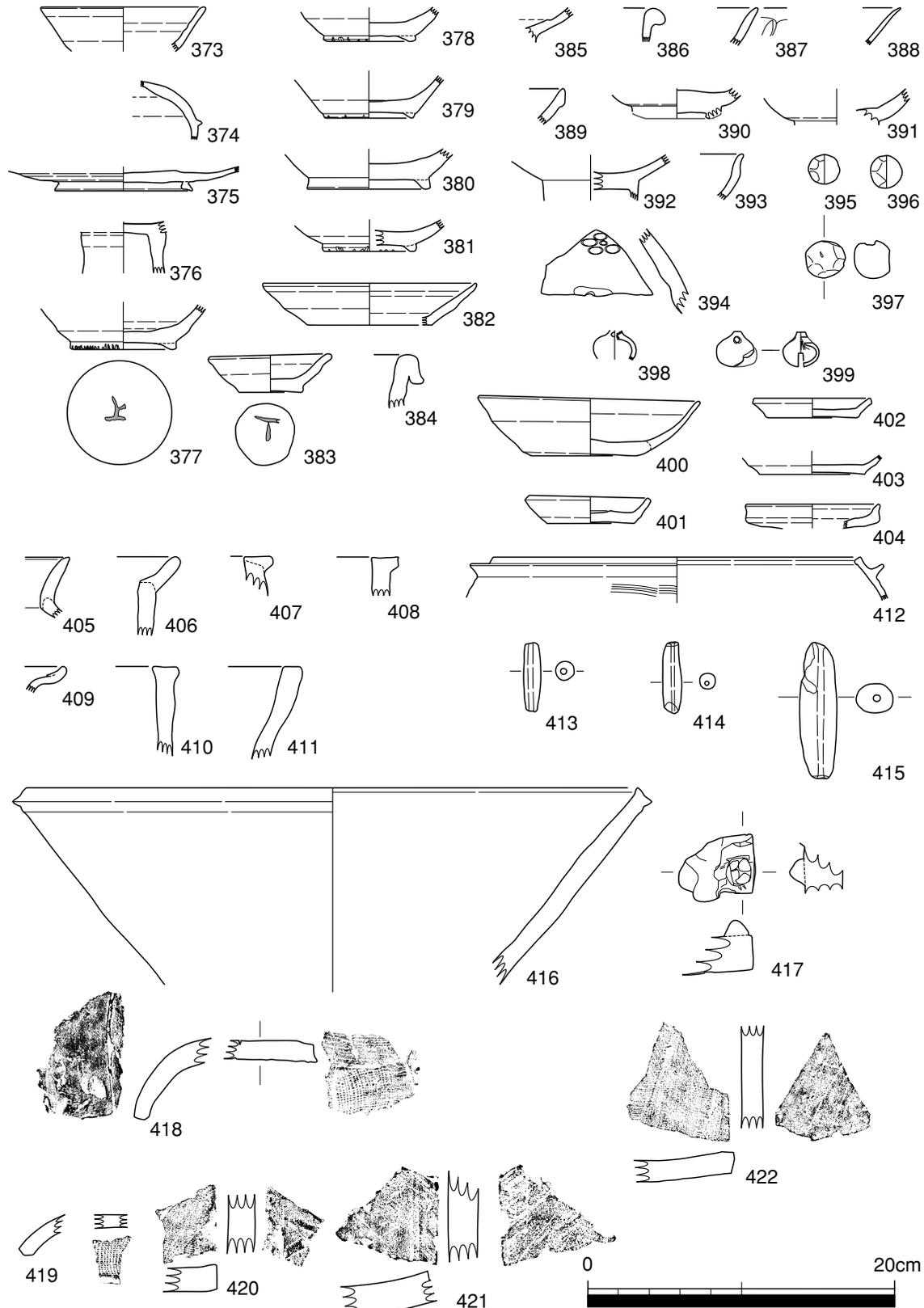


第29図 上面の出土遺物実測図(7)

322 と 323 は土師器南伊勢系鍋で北村分類の A 4 類に属する。331 は土師器鍔付鍋（羽釜）で北村分類の A 4 類に属するが、口縁部に施され

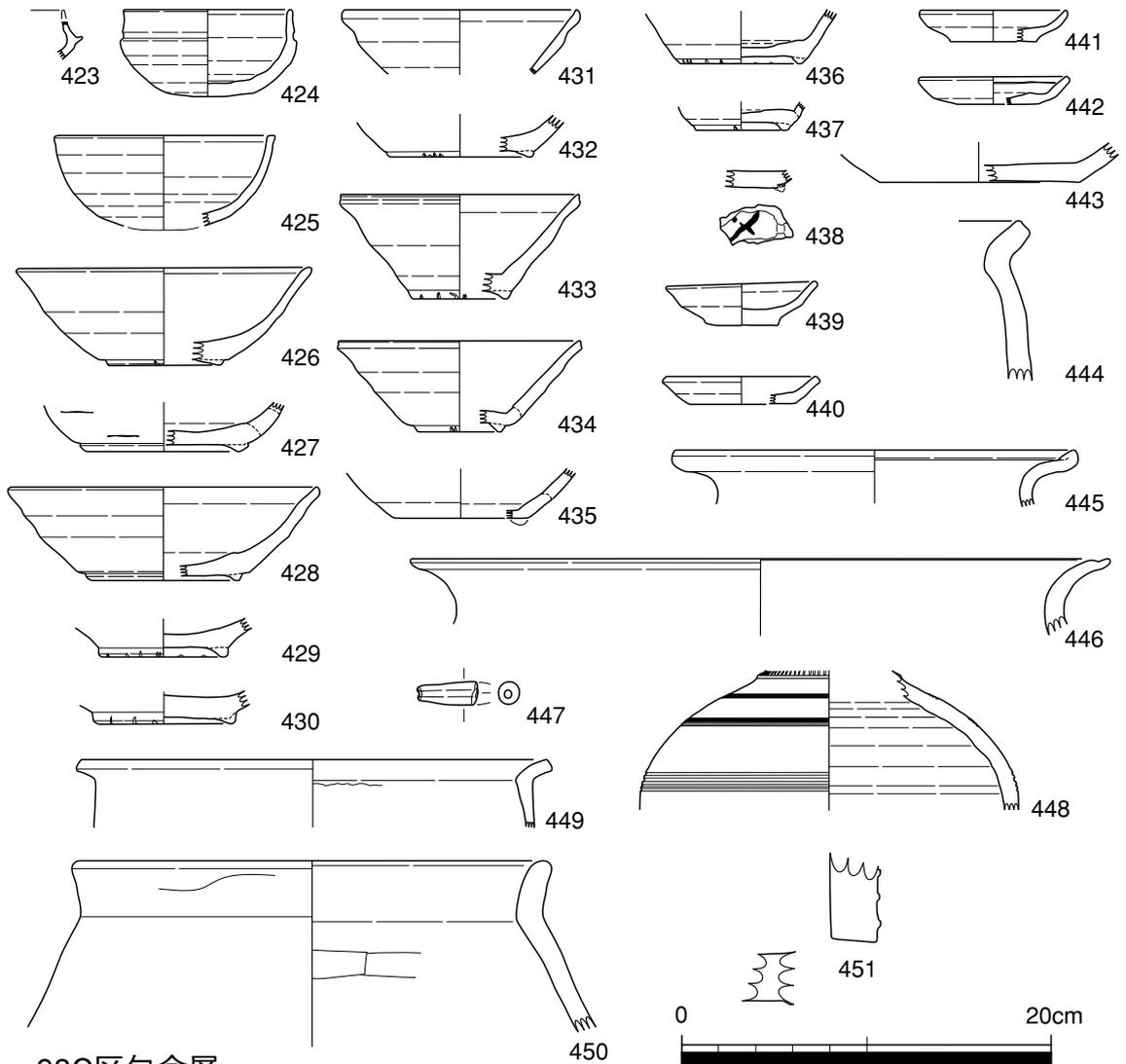
る穿孔はこの部分では認められない。326 は性格不明の土師器脚部である。332～335、354 および 370～372 は古代末から中世前期の瓦であ

98A区包含層

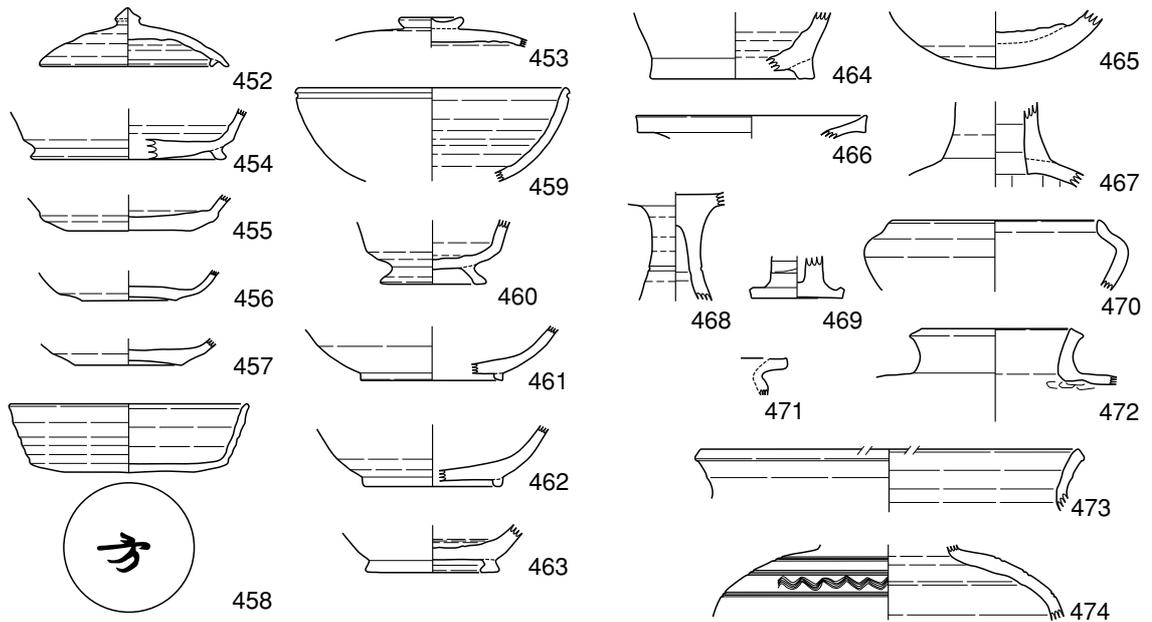


第30図 上面の出土遺物実測図（8）

98B区包含層



98C区包含層



第31図 上面の出土遺物実測図(9)

る。尾張型山茶碗は第3型式から第8型式までの資料が揃っており336～339は第7型式、340は第8型式に属するものである。

98 A区上面包含層出土遺物（第30図373～422）--382は尾張型山茶碗の第9型式に属するもので藤岡窯の製品の可能性が高い。377と383には底部に墨書が施され、前者は「上」、後者はT字状に記されている。398と399は土鈴、413～415は土錘である。405～408は古代に属する土師器甕である。406はやや受け口状のくの字状口縁となっており永井分類のB類（永井1996）に近い。407と408は口縁端部が直角に外折し上部に端面がしっかりと残るものである。

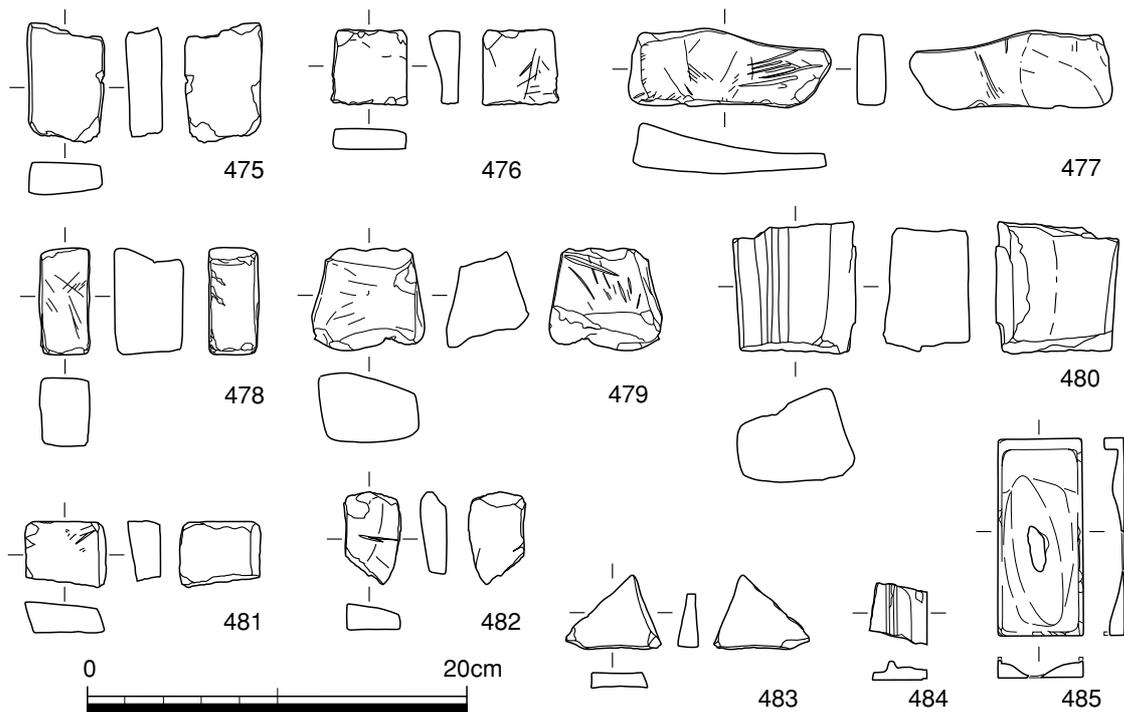
98 B区上面包含層出土遺物（第31図423～451）--438は底部に墨書が残存するが判読できない。446は渥美窯産陶器甕の口縁部で12世紀後半に位置付けられる。

98 C区上面包含層出土遺物（第31図452～475）--全体に中世よりも古代に属する遺物が多い。452は湖西窯産の須恵器杯蓋である。時期はH-50号窯式期併行と考えられる。458はO-10号窯式期に属する須恵器杯身で底部に墨書で「方」と記されている。470は尾張型中世無釉陶器の製品で形状は短頸壺となるものである。第4か5型式に属する資料である。

石製品（第32図475～485）--石製品には砥石と硯が存在する。砥石は全部で9点出土しており、全体の形状が扁平な直方体で下面（上面）を砥ぎ面とするもの（475～477・481）と、全体の形状が方柱状で各側面を研ぎ面とするもの（479・480）、そして平面形が不定多角形となるもの（482・483）にわけることができる。側面などに鋸による切断痕が残存するものが多い。480が結晶片岩系の石材の他は凝灰岩系の石材である。485は比較的小振りの石硯で、中央が磨り減って孔が開いている。484は全形を推定し得ない小破片であるが、石硯の一部と推測される。これらの製品の時期は特定できないが出土地点から見て中世以降と思われる。

金属製品（第33図486～498）--金属製品には銅製品と鉄製品があり、銅製品には銭貨（486～493）、小柄の柄部（494）、煙管の吸口部（496）などがある。銭貨には渡来銭と国内銭があるが、渡来銭は98 B区の落ち込みSX06などから多く出土した。国内銭は全て寛永通寶でいわゆる新寛永に属する。496は波状の沈線が巡らされている。鉄製品には刀子の破片（497・498）である。

金属関連遺物--金属関連遺物には、98 B区の落ち込みから出土した炉壁が1点と流動滓が1点存在する。この他に金属関連遺物と思われる



第32図 石製品実測図

資料がないことから、これらが金属製品生産に関わるものではない可能性が高い。

木製品（第34図499～504）--木製品には櫛と井戸水溜側の曲物筒がある。499は半分以上が欠損する横櫛で表面に漆膜が残存していた。花紋状の施紋が認められる。井戸の水溜に使用された曲物筒は各井戸で出土した。S E 02出土曲物筒は上下にタガを巻いたもので、各タガの中央付近で数カ所穿孔されていた。内面には約1.5cm間隔でケビキ（傷）が施されている。S E 01出土曲物筒は現状で4点存在したと判断したが、いずれも欠損しており相互に接合される可能性も残されている。タガを巻いたものが2点、タガの存在を確認できないものが2点ある。両者とも内面には約1.5cm間隔で垂直にケビキが施されているが、504は垂直方向のケビキに加えて斜方向にもケビキが認められる。

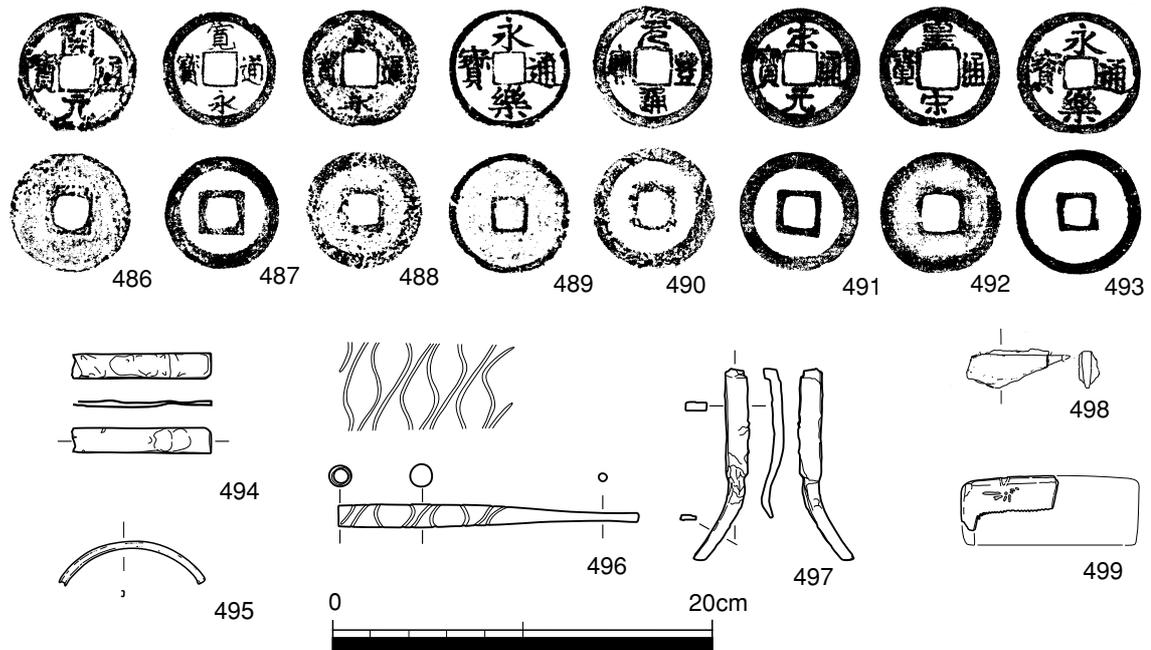
文献

藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要3』三重県埋蔵文化財センター

北村和宏1996「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『年報平成7年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター

鈴木正貴1996「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム

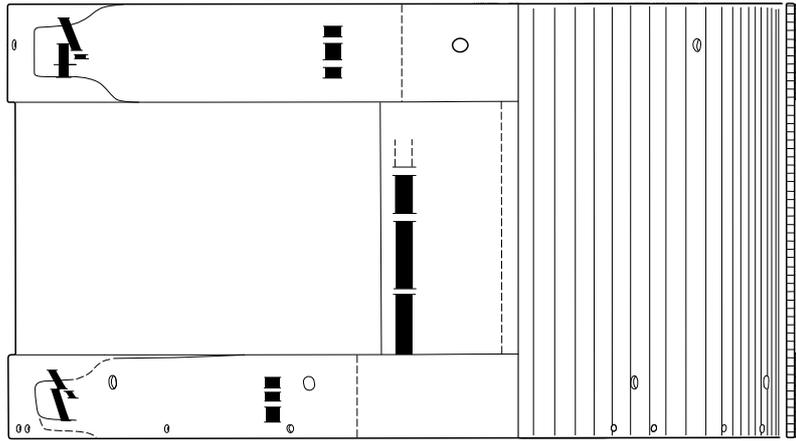
永井宏幸1996「清郷型鍋再考」『年報平成7年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター



第33図 金属製品実測図

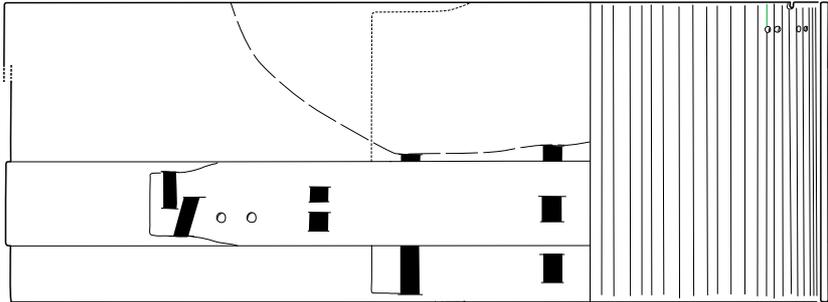
天神前遺跡

SE02

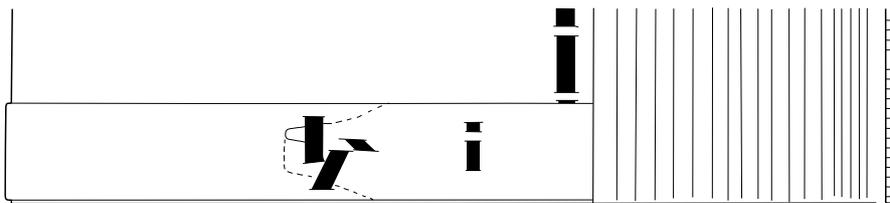


500

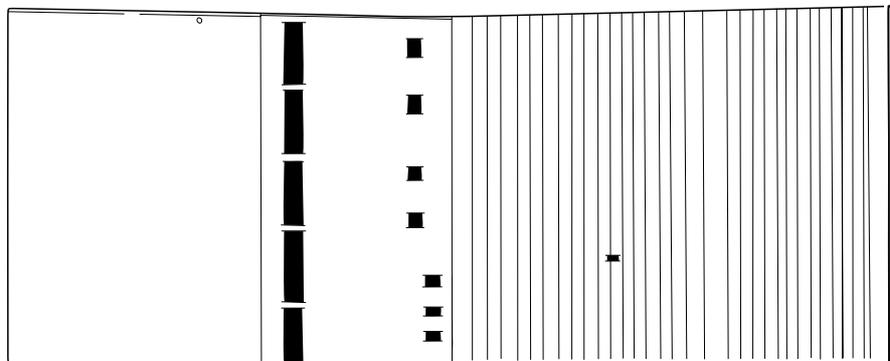
SE01



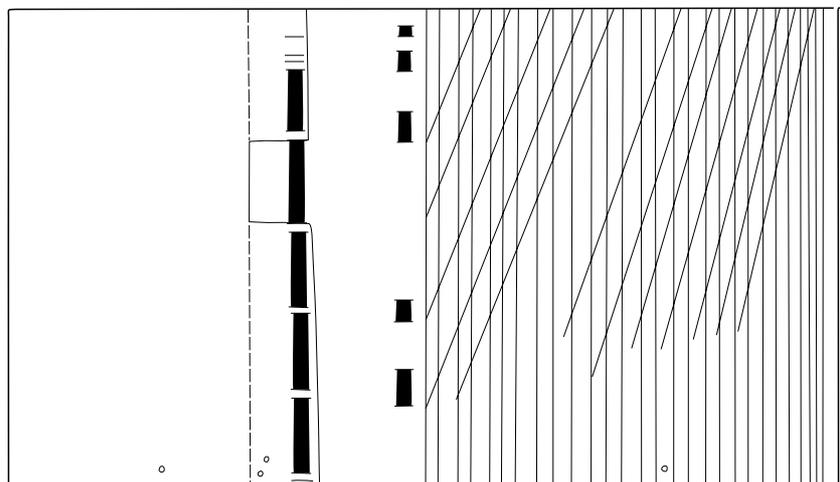
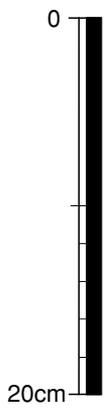
501



502



503



504

第34図 木製品実測図

第4章 自然科学的分析

第1節 矢作川沖積低地、天神前遺跡地域の層序と古環境

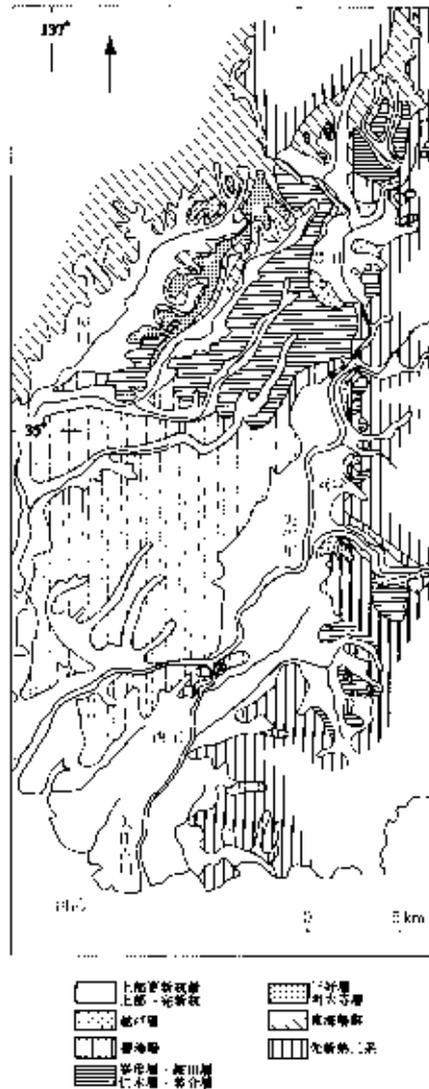
(1) はじめに

矢作川沖積低地の地下浅部に伏在する上部更新統最上部～完新統の地層は、主に矢作川下流域において層序が確立された。それらは下位より基底砂礫層・下部泥層・下部砂層・上部泥層・上部砂層・頂部泥層・頂部砂(礫)層に区分されている(松沢ほか, 1965; 森山・小沢, 1972; 森山・浅井, 1980)。しかし、矢作川沖積低地の地下層序に関しては、低地の成立過程をも含めた地理学的・堆積学的手法に基づく検討はあまり行なわれてこなかった。今回、矢作川沖積低地の考古遺跡である天神前遺跡において、深掘トレンチ調査および微化石分析・放射性炭素年代測定を行ない、矢作川沖積低地完新統最上部層の層序・堆積シーケンスと古地理環境について考察を試みた。また、98B区において水田跡が確認されており、その検証のために植物珪酸体分析を、古環境解析のために花粉・珪藻分析を行なった。

(2) 矢作川沖積低地の地理・地質概説

矢作川沖積低地は愛知県の中央部に位置する。西側を更新統碧海層に、東側を領家帯に囲まれる(第35図)。沖積低地は南北に細長く、明瞭な扇状地を欠く反面、顕著な自然堤防が発達する。とくに豊田市水源町付近の狭さく部からその南方の西尾市にかけての地域には、小礫を含む粗粒砂からなる比較的規模の大きな自然堤防や破堤堆積物が発達する。

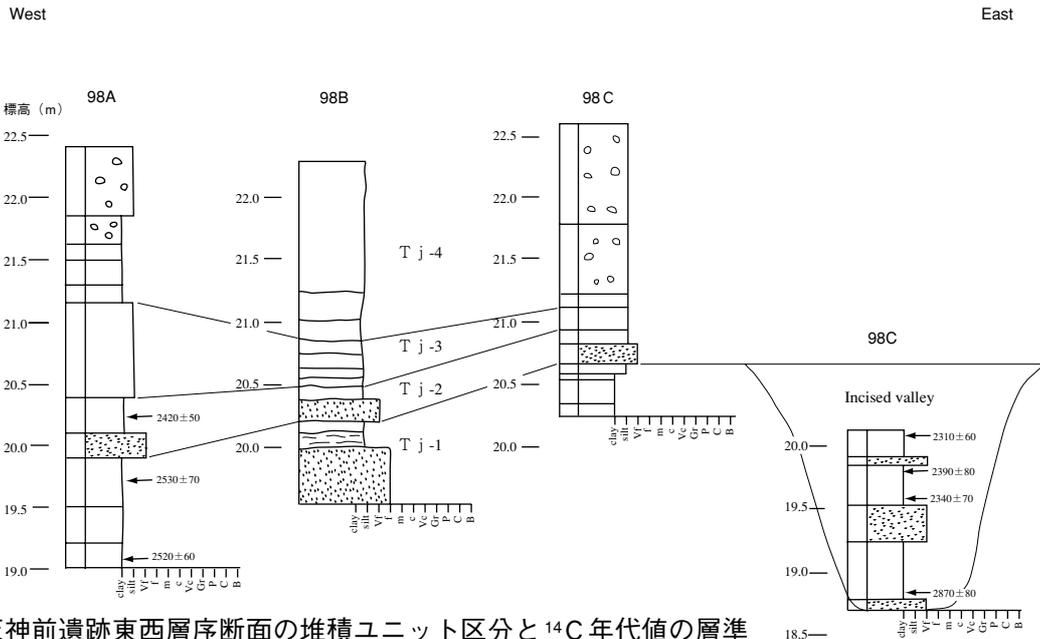
地下層序について、基底礫層は層厚0～15m、おもに砂礫からなる層で、豊田盆地から海岸部にいたる矢作川埋没谷を埋めている。下部泥層・下部砂礫層はそれぞれ層厚0～15mで粗粒砂～シルトからなり、海岸部ほど厚く堆積する。中部泥層は層厚0～15mで貝殻の破片を多く含む砂混じりのシルト～粘土層からなる。本層は縄文海進時に形成された海成層で、その分布範囲は東海道新幹線付近にまで及んでいる。上部砂層は層厚0～15mで粗粒砂～シルト混じ



第35図 矢作川沖積低地周辺地域の地質図
牧野内(1998)を基に作成、●は天神前遺跡の位置を示す。

りの砂層からなり、三角州の前置層として堆積したものと考えられる。頂部泥層は層厚0～5mで後背湿地部分に堆積しており、頂部砂(礫)層は層厚2～10mの現河床および旧流路の砂(礫)層である。

天神前遺跡



第36図 天神前遺跡東西層序断面の堆積ユニット区分と¹⁴C年代値の層準
¹⁴C年代試料は有機物を含む粘土試料を用いた。

(3) 試料および研究方法

深掘トレンチ調査を各調査区で行ない東西層序断面図を作成した。また、考古学的に水田跡と推定されている98B区において、その検証と古環境情報を抽出するため、水田平面の4地点(4筆)から採取した試料について花粉・珪藻・植物珪酸体の各微化石分析を行なった。粘土層の堆積年代を求めるため98A区の層序断面において下位層より暗褐色粘土層(標高19.1m)、植物茎の混じる暗褐色粘土層(標高19.7m)、暗褐色粘土層の(標高20.3m)の3試料、98C区で確認された埋積谷を埋める堆積物を、下位層より黒灰色砂混じり粘土層(標高18.8m)、黒灰色砂混じり粘土層の下部(標高19.6m)と上部(標高19.8m)、黒褐色砂混じり粘土層(標高20.2m)の4試料の放射性炭素年代測定を行なった。なお、98A区の標高20.2~20.4mの暗褐色粘土層および他の調査区の相当層が古墳時代初頭の水田層にあたる。微化石分析および放射性炭素年代測定はパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。各分析方法を以下に記す。

1. 放射性炭素年代測定

分析はパリノ・サーヴェイ株式会社を通じて学習院大学放射性炭素年代測定室が行なった。なお、放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用した。年代値は同位体効果による測定誤差を補正した値である。

2. 珪藻分析

乾燥重量1~10gの試料をツールビーカーにとり、過酸化水素水(35%)を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散を行なった。岩片除去の後、水洗を4~5回繰り返しながら同時に比重選別を行なった。分離した試料を希釈し、マウントメディア(和光純薬製)にて封入した。検鏡は600倍または1000倍の光学顕微鏡を使用し、各試料とも200個体を同定した。同定にはK. Krammer and Lange-Bertalot(1986・1988・1991a・1991b)、K. Krammer(1992)に従い、堆積環境の解析にあたって小杉(1988)、安藤(1990)、伊藤・堀内(1991)、Asai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とした。

3. 花粉分析

試料を湿重で約10g秤量し、水酸化カリウム処理、篩別(250μm)、重液分離(臭化亜鉛、比重2.2)、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理の順に物理・化学的な処理により花粉・孢子化石を分離・濃集した。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類(taxa)について同定・計数を行なった。

4. 植物珪酸体分析

各試料の植物珪酸体含量を調べるために、秤量時に乾燥重量を測定する。これを過酸化水素

水・塩酸処理、超音波処理（70W, 250KHz, 1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5）の順に物理・化学処理し、植物珪酸体を分離・濃集する。濃集した部分を沈殿管で3.0mlに定容し、よく攪拌して一定量（20 μ ml）を採取し、プリユウラックスで封入してプレパラートを作製した。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数した。

（4）分析結果

1. 深掘トレンチの層序と層相

発掘調査区全体の最も西側に位置する98A区から東側の98C区で、それぞれ深掘トレンチ調査を行ない層序断面を作成した。天神前遺跡地点では、その層相により下位からTj-1～Tj-4の4つのユニットに区分される（第36図）。

Tj-1：Tj-1は標高18.7～20.5mで見られる粘土層を主体とする堆積物である。特に98A区・98C区において顕著である。98B区でのみ標高20.0mを境として上位でシルト層、下位で層厚約50cmの細粒砂が堆積する。粘土層は灰色～暗褐色を呈する塊状・均質な粘土から構成され、まれにヨシの茎部を主体とする植物遺体を含む。本ユニットからは考古遺物は確認されない。また、98C区では全体に南方向へ数度の傾斜角をもったシルト層と極細粒砂層との互層が見られ、その互層を削剥して粘土層を主体とする埋積谷が確認される。粘土は灰色～暗褐色を呈する塊状・均質な粘土からなり、間に層厚10～20cm程の極細粒砂層を挟む。

Tj-2：Tj-2は標高19.9～20.9mで見られる。Tj-2の基底は明瞭な侵食面をもつ層厚約20cmの極細粒砂層から構成される。砂層中にはフォアセット葉理が確認され、北西-南東ないし西-東の古流向を示す。砂層の上位は極細粒砂を混じえるシルト層からなる。本シルト層の上部で古墳時代初頭と推定される水田跡が確認される。

Tj-3：Tj-3は標高20.4～21.2mで見られる灰色～暗褐色を呈する砂質シルト層からなる。明瞭な堆積構造は確認できなかった。本層からは考古遺物が確認される。

Tj-4：Tj-4は標高20.9～22.6mで見られる塊状・均質なシルト層や、基質にシルト質粘土層を混じえる細～中礫サイズの礫層からなる。固結度が高いことが特徴である。本層からは考古遺物が確認される。

2. ^{14}C 年代測定と出土考古遺物の結果

Tj-1：98A区の粘土層および98C区の埋積谷中の粘土層の7試料の ^{14}C 年代測定を行なった。98A区では標高19.1mで2520 yrs BP、標高19.7mで2530 yrs BP、標高20.3mで2420 yrs BPの年代値がそれぞれ得られた。98C区では標高18.8mで2870 yrs BP、標高19.6mで2340 yrs BP、標高19.8mで2390 yrs BP、標高20.1mで2310 yrs BPであった。よってTj-1は縄文時代晩期の堆積物と判断される。

Tj-2：Tj-2からは古墳時代初頭の年代を示す考古遺物が出土しており、古墳時代初頭もしくはそれより若干古い時代の堆積物と判断される。Tj-3：Tj-3からは古代後半～中世に至る考古遺物が確認されており、その間に堆積したものと判断される。

Tj-4：Tj-4では現代の遺物が確認されるとともに、地表面は発掘調査前まで水田として使われていた。よって、近・現代の堆積物である。

3. 花粉分析

98B区の水田跡と推定される堆積物の上部から試料を採取した。その花粉分析結果を第4表に示す。花粉・シダ類胞子の保存状態は極めて悪く、表面に風化の痕跡がみられるものがほとんどである。シダ類胞子がほとんどであり、花粉化石は針葉樹花粉を中心にわずかに認められる程度である。

4. 植物珪酸体分析

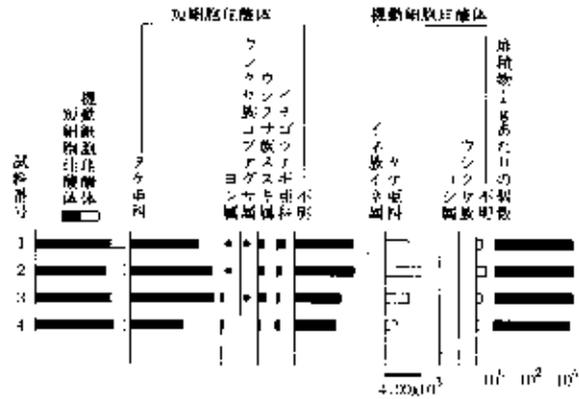
98B区の水田跡堆積物より試料を採取した。結果を第37図に示す。水田平面試料の全ての植物珪酸体含量は約2万個/gであり、概して短細胞珪酸体の含量が多い。イネ属は試料番号1で機動細胞珪酸体がわずかに含まれるにすぎず、他の試料からは全く認められない。いずれの試料もタケ亜科の含量が著しく多く、ヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科などが認められる。

5. 珪藻分析

98B区の水田跡堆積物から試料を採取した。結果を第38図に示す。珪藻化石は、いずれの試

種 類	試料番号	1	2	3	4
木本花粉					
モミ属		-	2	4	2
マツ属		-	2	4	1
コウヤマキ属		-	-	1	1
シマシマ属 アヤダ属		-	-	1	-
ブナ属		-	-	1	-
コナラ属 コナラ亜属		-	-	2	-
コナラ属 アカガシ亜属		-	-	1	-
ニレ属 ケヤク属		-	1	-	-
草本花粉					
イネ科		-	1	-	1
ユリ科		-	1	-	-
ゴモリ属		-	-	2	-
キク科形		-	-	1	1
ノダ類群		14	113	197	143
合 計		14	127	214	146

第4表 98 B区水田平面の花粉分析結果



第37図 98 B区水田平面の植物珪酸体含量

料でも100個体以上産出したものの、統計的に有為な200個体以上を産出するものはなかった。産出分類群数は18属58種で、完形殻の出現率は20～30%である。珪藻化石群集の特徴はいずれの試料でも類似している。群集組成は、全体的に貧塩不定性種が約90%、真・好アルカリ性種が約60%、流水不定性種が40～50%を占める。また、真・好流水性種が25～40%、乾燥に耐性のある陸生珪藻が30～35%と比較的多く産出する。その他は、様々な生態性の種が低率で産出する。大きく優占する種はなく、比較的多く産出する種として陸生珪藻の中でも特に乾燥に耐性のある陸生珪藻A群（伊藤・堀内, 1991）・好汚濁性種の *Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻A群・好汚濁性種の *Navicula mutica*、真流水性種・上流性河川指標種（安藤, 1990）の *Gomphonema sumatrense* などが10%前後の割合で産出する程度である。

(5) 考察

1. 堆積環境と堆積システム

今回得られた天神前遺跡地点での層序断面および分析データに基づき堆積システムの解釈を試みる。なお、層序断面には出土する考古遺物から相対年代軸を刻むことができる。なお、時間軸の境界は、考古遺跡の遺構検出面として捉えることのできる同時面である。

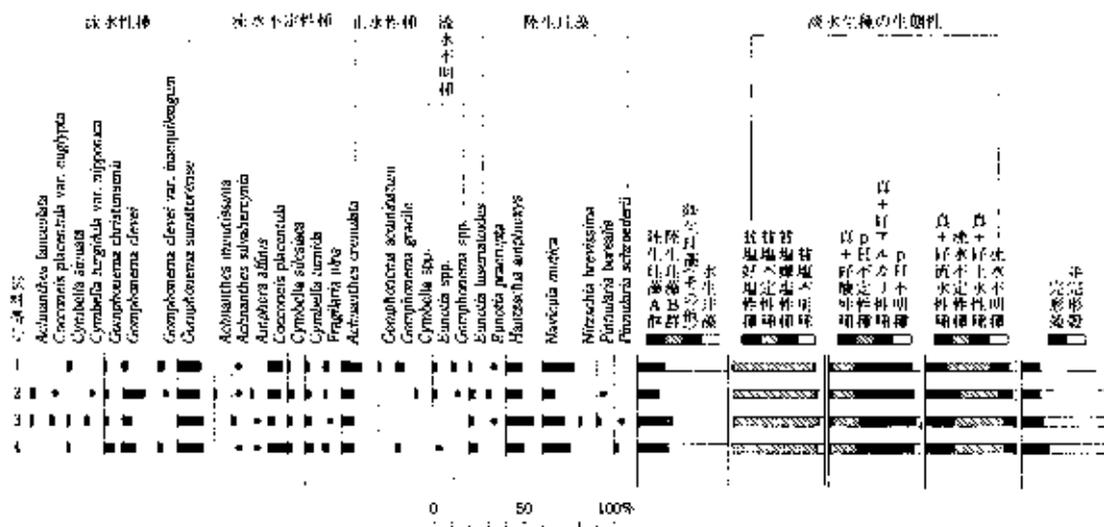
天神前遺跡地点は今回Tj-1～Tj-4に区分された。このうちTj-1が縄文時代晩期、Tj-2が古墳時代初頭ないしは若干古い堆積物、Tj-3が古代後半～中世、Tj-4が近・現代と判断される。

Tj-1は¹⁴C年代測定から2870～2310 yrs BPの年代値を示す粘土層である。98C区ではシルト

と極細粒砂との互層を明瞭に削剥して埋積谷内に粘土層が堆積していた。98C区で見られた互層全体が一方向に数度の傾斜をもって傾斜する構造は、Miall(1985)の河川堆積物構造要素のLAにあたる。本構造が下位で見られることから、天神前遺跡地点では河川環境の卓越した環境であったことがわかる。また、互層を削剥する埋積谷基底の粘土層が2870±80 yrs BPを示すことから、その頃に堆積システムが変化したものと判断される。

矢作川沖積低地では、縄文時代晩期頃の年代値を示す粘土やシルトなどの細粒碎屑物が分布するという報告がある（森ほか, 1990；森・前田, 1993；川瀬, 1998）。森ほか(1990)は、天神前遺跡より約20km南の愛知県西尾市の岡島遺跡地点においてボーリングコア資料の層序記載と珪藻分析を行なっている。そこでは標高約1.0～2.0mに砂を混じえる腐植質シルト層の堆積が確認されており、2840±80 yrs BP頃に海生珪藻種群から淡水生種群が卓越する環境へと変化したことがわかっている。また、矢作川沖積低地だけではなく濃尾平野においても同様な傾向が報告されている。鬼頭(2000)は濃尾平野中央部、愛知県稲沢市の一色青海遺跡において層序解析と珪藻分析を行なった。一色青海遺跡地点では標高-0.6mを境として上部デルタ平原から河川卓越環境へと堆積システムが変化し、それは2870±70 yrs BPであった。

岡島遺跡および一色青海遺跡ともに、縄文時代晩期を示す細粒堆積物の堆積環境はデルタロープの海側への前進に伴い、その頂部に出現したデルタ平原堆積物と判断される。デルタ平



第38図 98B区水田平面の珪藻化石群集組成

原上の堆積物が上部デルタ平原から河川卓越環境へと変化する年代が2870 yrs BP頃を示すことがわかる。天神前遺跡の調査地点は矢作川沖積低地の陸側にあたり、粘土層の堆積年代が2870 yrs BPを示したことから、海側のみならず陸側においても細粒碎屑物を堆積させる環境であったことがわかる。

以上のような縄文時代晩期頃に見られる細粒碎屑物の成因について、川瀬(1998)は静穏な気候を反映したものとした。一方で、デルタ堆積物頂部に有機物に富む堆積物が見られることが、Horne et al.(1978)、Elliott(1975)、Woodrow and Sevon(1985)により地質時代の例が報告されている。その成因については、気候のほか海水準変動、テクトニックな影響などの要素が複雑に関係するものと思われる。Tj-1の成因については、今後どの要素の影響が大きかったのかを明らかにするためにも、矢作川沖積低地を広範囲に調査する必要がある。

Tj-2基底にはフォアセット葉理の見られる極細粒砂層が見られた。フォアセット葉理は突発的に生じる洪水流により生じたものと思われる。砂層の上位に見られるシルト層もフォアセット葉理を形成したような洪水流により堆積したものと判断される。洪水流の到達するような自然堤防縁辺部分と推定でき、そのような縁辺部に古墳時代初頭の水田が構築されたものと思われる。

Tj-3およびTj-4では堆積構造が全く確認されず、詳細な堆積環境の判断は難しい。しかし、

シルト層から構成される堆積物の卓越と、考古遺物の多産によりTj-2以降に堆積物の累積が進んだ自然堤防堆積物と推定される。Tj-2～Tj-4までは基本的に自然堤防堆積物である。

2. 水田跡の検証と古環境

98B区では考古学的に水田跡と推定される遺構が確認された。水田を構成する堆積物の花粉・珪藻・植物珪酸体の各微化石を行なったが、微化石の保存状態は概して悪く、統計的に有意な200個体を計数することはできなかった。以下は定性的な組成からの議論であることをお断りしておく。

花粉化石の保存状態は極めて悪かった。花粉化石は好氣的環境下において風化されやすい。田畑の土壌は耕作により好氣的状況になりやすいことから、花粉化石が分解してしまった可能性がある。

珪藻分析では優占する種群は見られなかったものの、陸生珪藻が30～35%と比較的多く産出した。中でも特に乾燥に耐性のある陸生珪藻A群(伊藤・堀内, 1991)・好汚濁性種の *Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻A群・好汚濁性種の *Navicula mutica* が確認され、好氣的な環境にあったことを指示する。

植物珪酸体を用いた水田の検証に関しては、全機動細胞珪酸体中のイネ属の比率を基にする例や(近藤, 1988)、1gあたりの個数を基にする例(杉山, 1989; 古環境研究所, 1994; 1996など)などいくつかの手法がある。現水田の調査による水田土壌中の植物珪酸体の調査によれ

ば、機動細胞珪酸体中のイネ属の割合は9%であるが、稲藁を堆肥として与えている水田では16%に上がるという結果が得られている(近藤, 1988)。また、1g中のイネ属機動細胞珪酸体の量が5000個を越えると、その土壌で水田が行われていたとする考えもある(杉山, 1989; 古環境研究所, 1994など)。しかし、今回の結果をみると、イネ属珪酸体はほとんど検出されていない。なお、静岡平野では、水田遺構から検出されるイネ属機動細胞珪酸体の量が1gあたり3000個以下と少ない層位も存在する(古環境研究所, 1996)。今回の場合は耕作の期間が短い、栽培規模が小さい、耕土へ還元される稲藁が少ない、洪水による作土の流失などの影響によって、イネ属機動細胞珪酸体が耕土中に蓄積しなかったことが考えられる。一方、タケ亜科の産出は多いが、タケ亜科の植物珪酸体は生産量が多く、風化にも強いいため沖積低地などでは多産することが多い。従って、タケ亜科は他に検出されるヨシ属やウシクサ族などとともに周辺に生育していた可能性はあるが、植物珪酸体組成でみられるほど多く生育してはいなかったと思われる。(鬼頭 剛・小野映介・尾崎和美)

謝辞

本論をまとめるにあたり、パリノ・サーヴェイ株式会社の辻本祐也氏には花粉および植物珪酸体化石の分析結果について貴重な意見をいただいた。図面の作成では愛知県埋蔵文化財センター調査研究補助員の岩本佳子氏、同整理補助員の服部恵子氏・宇佐美美幸氏・後藤恵里氏にお世話になった。以上の方々 に記して厚くお礼申し上げます。

文献

Asai K. and Watanabe T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa, *Diatom*, 10, 35-47.

安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用, *東北地理*, 42, 73-88.

Elliot, T., 1975, The sedimentary history of a delta lobe from a Yoredale (Carboniferous) cyclothem : Yorkshire Geological Society, *Proceedings*, 40, 505-536.

Horne J. C., Ferm, J. C., Caruccio, F. T. and Baganz, B. P., 1978, Depositional models in coal exploration and

marine planning in Appalachian region : American Association of Petroleum Geologists, *Bulletin*, 62, 2379-2411.

伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, *珪藻学会誌*, 6, 23-45.

川瀬久美子, 1998, 矢作川下流低地における完新世後半の地形環境の変遷, *地理評*, 71A-6, 411-435.

鬼頭 剛・森 勇一・堀木真美子・尾崎和美, 2000, 弥生時代中期の乾燥環境を示す生物相 : 濃尾平野一色青海遺跡を例として, *日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集*, 日本文化財科学会, 82-83.

古環境研究所, 1994, 塚田遺跡付近のプラント・オパール分析, 「塚田遺跡—長野県北佐久郡御代田町塚田遺跡発掘調査報告書—」, 長野県御代田町教育委員会, 356-358.

古環境研究所, 1996, 静岡県、岳美遺跡におけるプラント・オパール分析, 「静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第75集岳美遺跡(遺物編)平成4・5年度静岡バイパス(岳美地区)埋蔵文化財発掘調査報告書」, 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所, 57-67.

近藤錬三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, *第四紀研究*, 25, 31-64.

近藤錬三, 1988, 十二遺跡土壌の植物珪酸体分析, 「十二遺跡—長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書」, 御代田町教育委員会, 377-383.

小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用, *第四紀研究*, 27, 1-20.

Krammer K., 1992, PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa, *BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26*, BERLIN · STUTTGART, 1-353.

Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1986, Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae, Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 876p.

Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1988, Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae, Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 536p.

Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1991a, Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae, Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 230p.

Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1991b, Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und

- Gomphonema, Band 2/4 von : Die Sueswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 248p.
- 牧野内 猛, 1988, 岡崎平野地域, 日本の地質 5「中部地方Ⅱ」, 共立出版, 169-171.
- 松沢 勲・嘉藤良次郎・北崎梅香・進藤義武, 1965, 衣浦地区の地質構造および地盤地質, 都市地盤調査報告書, 9, 建設省計画局・愛知県, 16-31.
- Miall, A. D., 1985, Architectural element analysis : a new method of facies analysis applied to fluvial deposits, *Earth. Sci. Rev.*, 22, 261-308.
- 森 勇一・永草康次・伊藤隆彦, 1990, 4章 自然科学分析, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集「岡島遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 36-50.
- 森 勇一・前田弘子, 1993, 珪藻および昆虫化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第43集「岡島遺跡Ⅱ・不馬入遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 87-132.
- 森山昭雄・小沢 恵, 1972, 矢作川流域の沖積平野の地形と沖積層について, *第四紀研究*, 11, 193-207.
- 森山昭雄・浅井道広, 1980, 矢作川河床堆積物と供給岩石の造岩鉱物との粒度組成関係, *地理学評論*, 53, 557-573.
- 杉山真二, 1989, プラント・オパール, 練馬区弁天池低湿地遺跡の調査, 練馬区教育委員会・練馬区遺跡調査会, 133-143.
- Woodrow, D. L. and Sevon, W. D., eds., 1985, *The Catskill Delta : Geological Society of America, Special Paper 201*, 246p.

第5章 考察とまとめ

第1節 古墳時代中期の土器について

天神前遺跡下面からは比較的まとまった状態で古墳時代中期に属する土器群が出土した。良好な遺構一括出土資料には恵まれたとはいいがたいが、いくつかの段階区分を設定することが可能であったことから、これらの土器群の年代的問題について若干の検討を加えよう。

出土した土器群は大半は土師器でほんのわずかに須恵器が混じる程度である。土師器の組成は、く字形口縁台付甕、く字形口縁（無台）甕、屈折脚有稜高杯、（屈折脚）椀形高杯、柳ヶ坪型壺、小型壺、鉢などがある。こうした屈折脚の高杯を伴う時期については、これまでに「上条・荒新切式」（大参1968）、「青山式」（久永・斎藤1969）、「神明式」（川崎1988・加納1991）や尾張においては「松河戸様式」（赤塚1994）などが設定されてきた。最近では豊田市神明遺跡出土資料を中心に分析を加えた森泰通（森1996・森2001）や川崎みどり（川崎1996）などの考察があり、神明遺跡に地理的に近い天神前遺跡の土器様相を語る上で大いに参考になるものである。

森は、まず森1996論文で、土師器における古い傾向と新しい傾向を整理し、これらの組み合わせと須恵器の出土状況や遺構などから5段階に区分した。具体的には、高杯杯部が浅い方が古いこと、高杯杯部の口縁部が斜めに立ち上がる方が古く上方に立ち上がる方が新しいこと、高杯杯部の口縁部の内彎志向がない方が古いことなどを指摘している。次いで、森2001論文では、4期10段階区分の神明編年案を提示した。この編年ではⅢ期が須恵器が出現する段階に設定されており、次に述べる川崎編年の5世紀前半古相などを4世紀代に当てている。

一方、川崎は、高杯を基軸に据えて5世紀代の土器編年を考察している（川崎1996）。そこでは、5世紀前半では屈折脚の高杯が出現し、他に甕、小形壺を中心に少量の壺を伴い、元屋敷式に由来する器種はほとんど見られないと言う。5世紀後半（神明式）では浅い半球形の杯

類が出現し、台付甕、平底甕、鍋形・甑形土器や直口壺などがあるという。5世紀前半は高杯の形状から古相と新相に分けている。

さて、こうした成果を踏まえて天神前遺跡の土器を段階区分して検討を進めたい。

土師器高杯は、杯稜部に粘土貼付突帯を持たないもの（高杯A）と持つもの（高杯B）に分けられる。高杯Aは、杯底の屈折が弱く結果として椀状になる高杯A1（川崎B1類）、杯底に稜を持ち口縁がわずかに外反する高杯A2（川崎A1類）、杯底に稜を持ち杯部が浅く開く高杯A3（川崎A2類）、口縁部が内彎する高杯A4（川崎B2類）に分けられる。98A区包含層出土資料の多くは高杯A1と高杯A2で、SD1001出土資料は高杯A3で、SD1008出土資料は高杯A4で各々占められている。高杯Bについても、SD1008出土資料では杯口縁部が内彎しており、高杯Aと同様の傾向を読み取ることができる。以上の高杯の形態変化と遺構の切り合い関係からみて、天神前遺跡の古墳時代中期の土器は次の3段階に区分することが可能である。

1段階は高杯A1・2が主体となる時期で、98A区包含層出土資料やSB1001出土資料などがあげられる。川崎編年の5世紀前半代古相、森編年のI—2期に相当する。元屋敷式に由来するとされる柳ヶ坪型壺（114）は、口縁部が比較的直立し刺突文もやや省略化された比較的新しい様相を持っており、この1段階に位置付けてもよいと思われる。

2段階は高杯A3が主体となる時期で、SD1001・SD1006出土資料などがあげられる。川崎編年の5世紀前半代新相、森編年のⅡ期に相当する。

3段階は高杯A4が主体となる時期で、SD1003・SD1008出土資料などがあげられる。川崎編年の神明式、森編年のⅢ期に相当する。98C区から宇田型甕の影響を受けたと考えられる台付甕の脚（122）が出土しており、これはこ

の段階に位置付けられる可能性が高い。

以上の結果、天神前遺跡の古墳時代中期の土器は3段階に分けられる。SD1006やSD1008は水田状遺構を切ることから、天神前遺跡で確認された水田状遺構や竪穴状遺構の所属時期は1段階(5世紀前半古相前後)に位置付けられ、少なくとも3段階(神明式:5世紀後半)には廃絶されたと考えられよう。

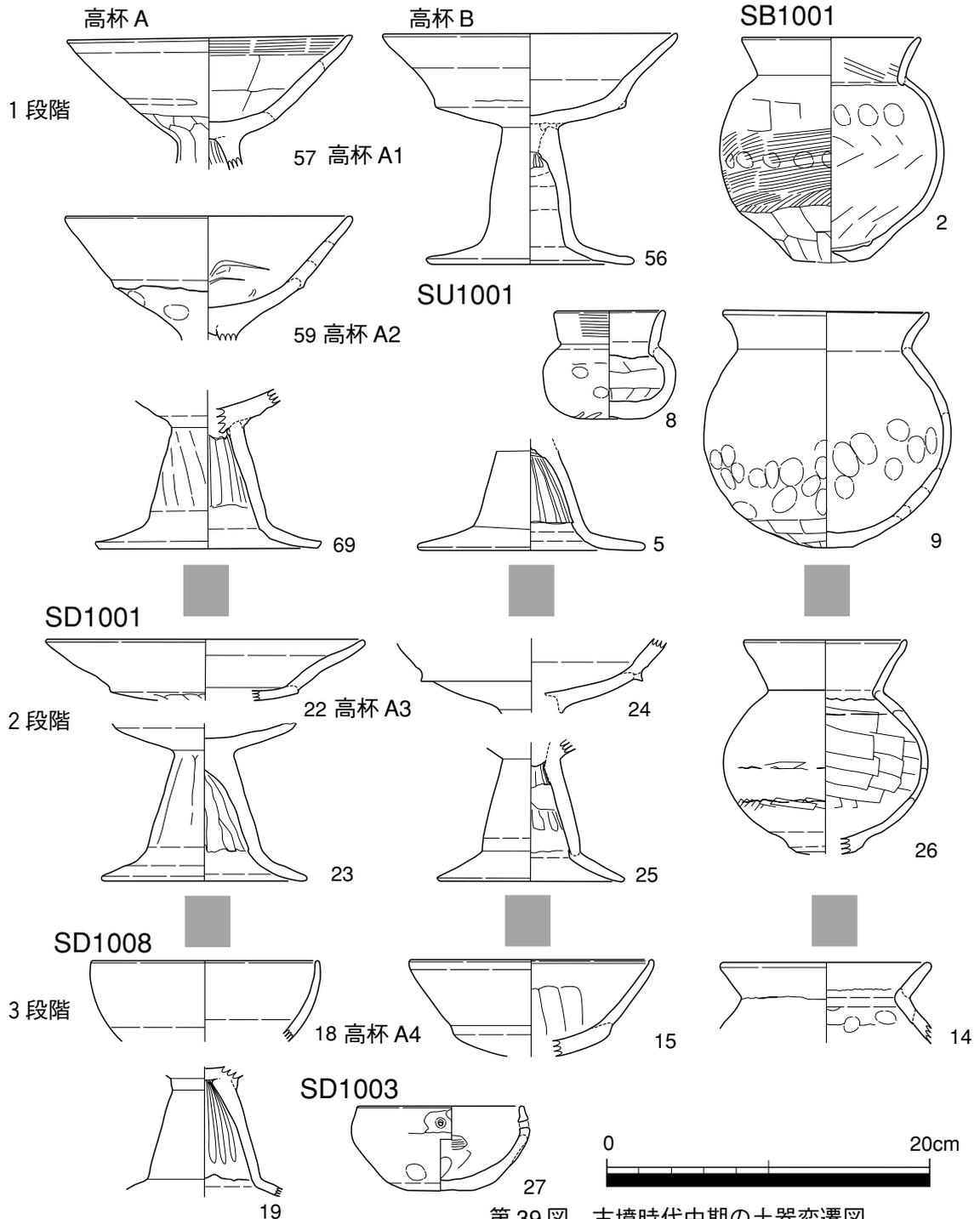
赤塚次郎 1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

大参義一 1968「弥生式土器から土師器へ-東海地方西部の場合-」『名古屋大学文学部研究論集 史学16』

加納俊介 1991「東海」『古墳時代の研究6』雄山閣出版

川崎みどり 1988「元屋敷式と神明式の間」『古代第86号』早稲田大学考古学会

川崎みどり 1996「神明遺跡再報告」『神明遺跡』豊



第39図 古墳時代中期の土器変遷図

天神前遺跡

田市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集

久永春男・斎藤嘉彦1969「高橋遺跡出土の弥生式土器と土師器の編年」『高橋遺跡発掘調査報告書』豊田市教育委員会

森泰通1996「古墳時代中期の土器」『神明遺跡』豊

田市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集

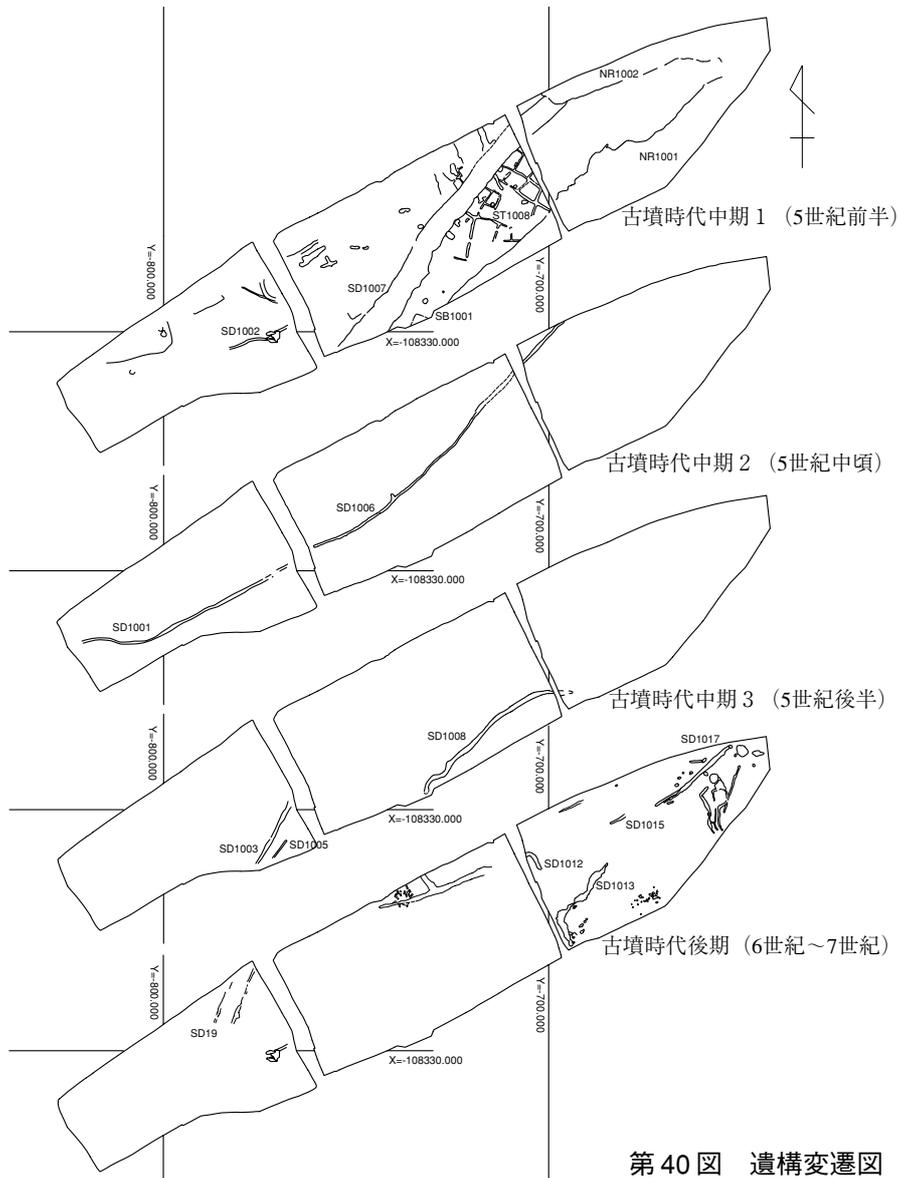
森泰通2001「古墳時代中・後期土器の編年試案」『神明遺跡Ⅱ』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

第2節 遺物出土分布からみた天神前遺跡の動向

天神前遺跡の各遺構から出土した遺物(特に最新遺物の時期)をもとに遺構の変遷をまとめたのが第40図と第41図である。また、遺物をグリッドごとに出土点数を数え、遺物の種類別で分布図を作成したのが第42図～第43図である。これらをもとに天神前遺跡の動向をまとめておく。

1) 古墳時代中期(5世紀)--この時期は遺

構の切り合い関係や土器の段階区分から3段階に区分される。初めに水田状遺構とそれに関連すると思われる自然流路や溝、**竪穴状遺構**などが展開した。水田状遺構は早い段階で機能しなくなったと思われ、次の段階では溝のみが確認されている状態であり、6世紀代に至ってもこうした遺構が希薄な状況は変わらないようである。この段階の遺物は98A区南半から98B区

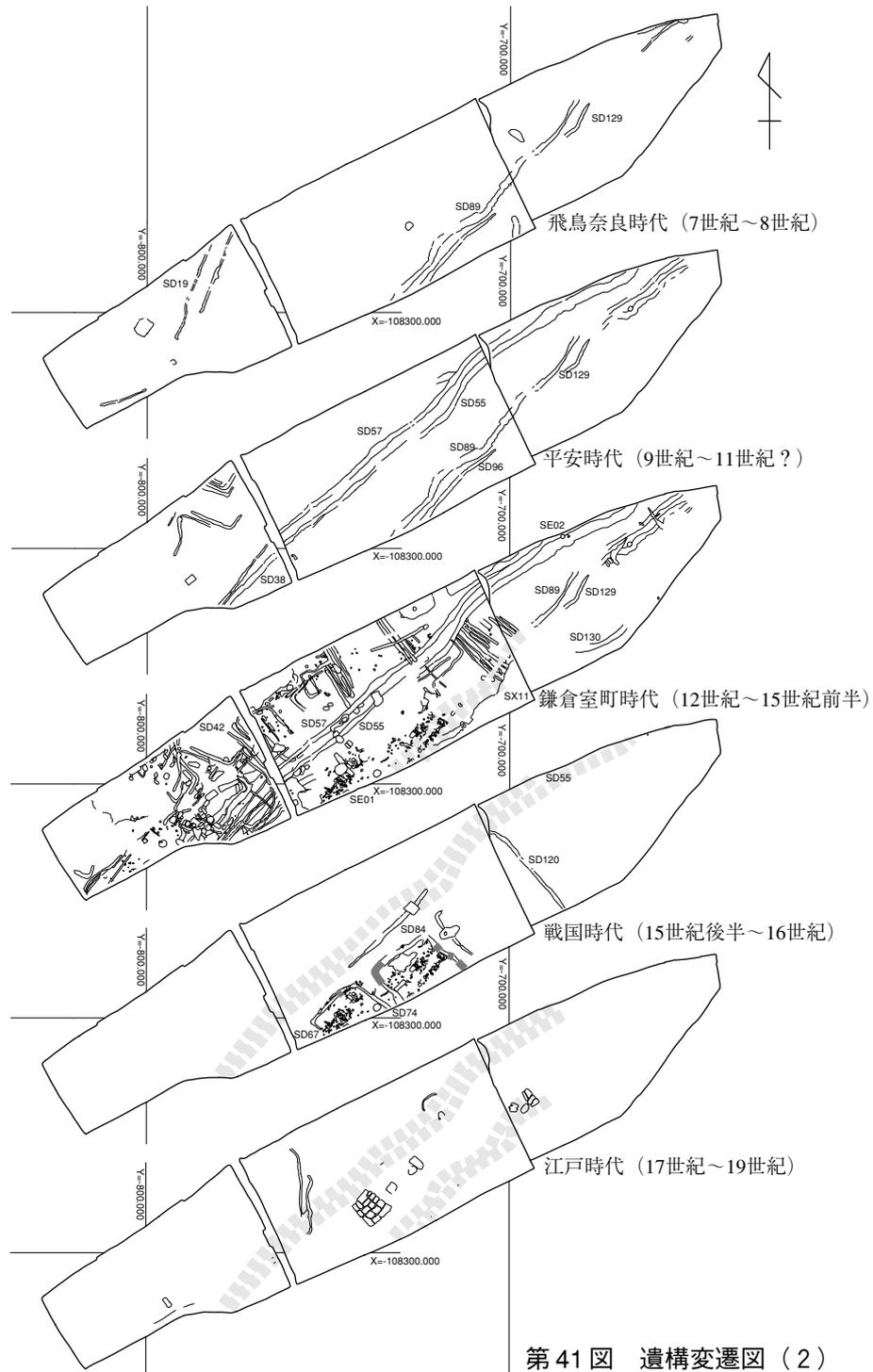


第40図 遺構変遷図(1)

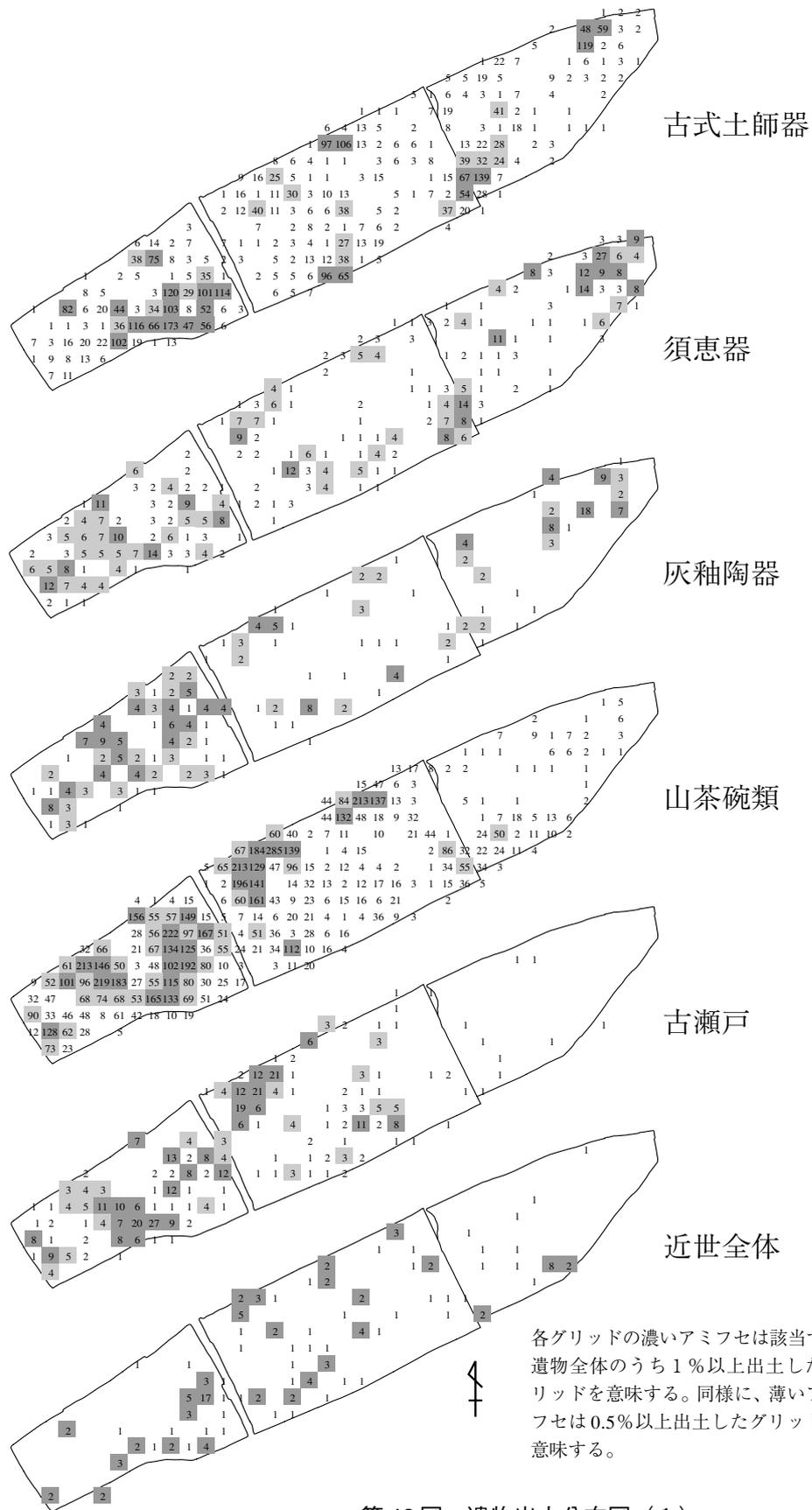
全体にかけて分布する。特にS D 1007周辺での土器の出土量が多い。水田状遺構の周辺では土器の出土は基本的に認められないことから、S B 1001の南部かあるいは調査区外の他の地点で居住域が展開していたと考えられよう。

2) 古墳時代後期～奈良時代(6～8世紀) - この段階でも遺構はあまり多くはなく、溝と土坑などが存在する程度である。【牛養】墨書

須恵器が土坑から出土するなどの事例があるものの、確実な建物遺構などを確認することはできなかった。ただし、7世紀以降にはS D 89とS D 129などの道路状遺構と思われる溝が掘削されはじめられたと思われ、この地割(方位)が後世の遺構配置に大きな影響を与えている。遺物は全調査区で認められるものの絶対量は少なくなっている。しかし、中でも北東部の



第41図 遺構変遷図(2)

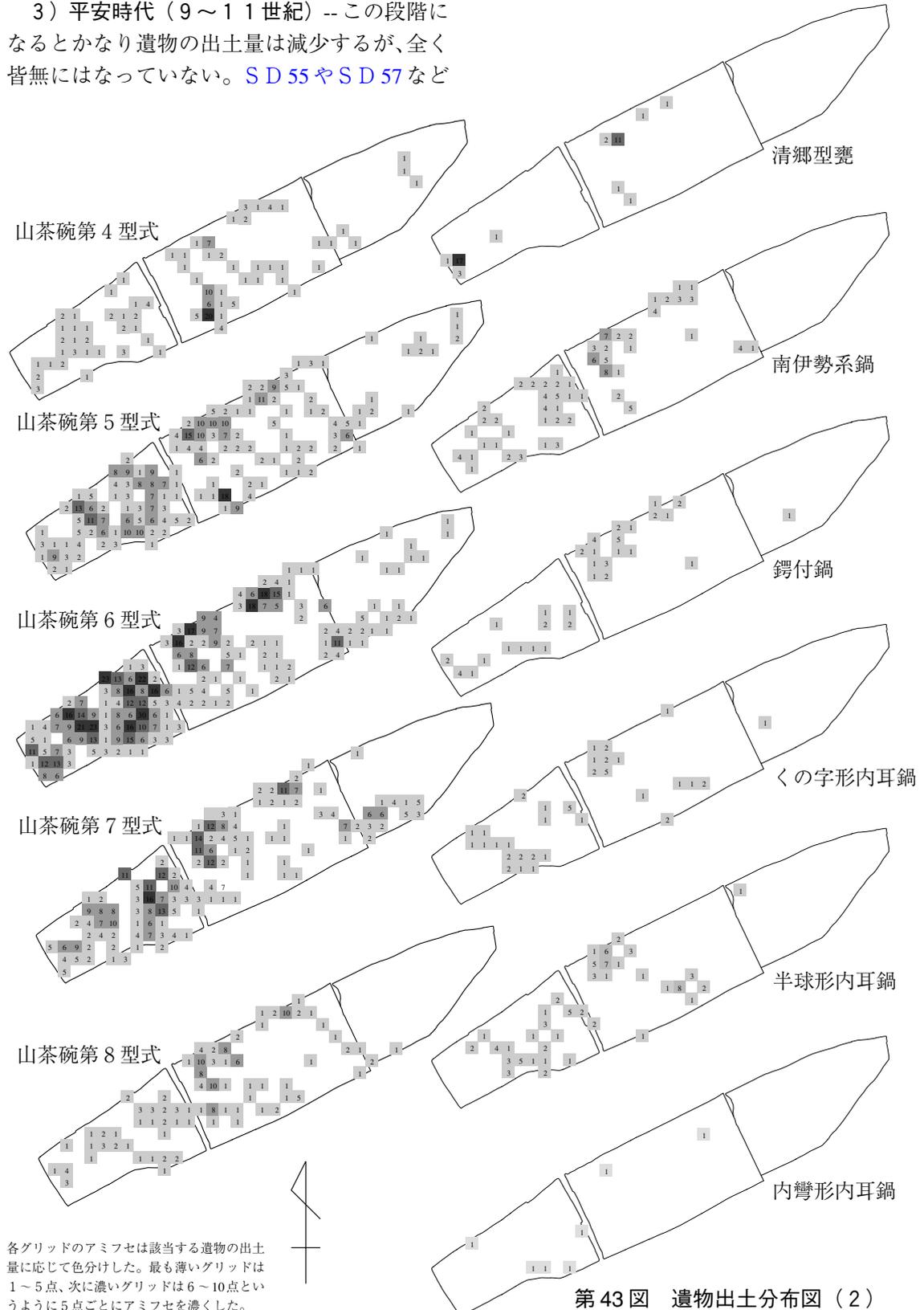


第42図 遺物出土分布図(1)

98 C区で遺物が集中する地点が存在しており、98 C区に居住域が存在したかあるいは近接する水入遺跡に関連して遺物が伴ったものと思われる。

3) 平安時代(9~11世紀) -- この段階になるとかなり遺物の出土量は減少するが、全く皆無にはなっていない。SD 55やSD 57など

の道路状遺構やSD 35などの空間を区画するような溝が検出されていることから、土地が区画され近隣に人々がいて活動していたことは確かであろう。遺物量が少ないことをどのように



第43図 遺物出土分布図(2)

天神前遺跡

評価するかによって性格付けが変わってくると思われるが、居住域であったとは考えにくい状況である。

4) 鎌倉時代から室町時代(12世紀～15世紀前半) --この時代では、S D 57の南東を中心としたに掘立柱建物跡が展開するエリアと、畝状に溝が集中する島推定地のエリアなどが展開している。該当する遺構が多く複雑に切り合うために、この時期をさらに細分することは非常に難しい。この時期の遺物は広範囲かつ濃密に分布するようになる。ただし、他の近隣の遺跡に比べると、遺物は小破片が多く出土量もそれほど多くないと推察される。遺物は98A区全体から98B区中央部までに多く認められ、98C区に行くに従い遺物量は減少する。特に落ち込みとなっているS D 55の北西側に遺物が集中している傾向があり、掘立柱建物跡が展開するエリアではかえって出土遺物は少ない。

また、こうした遺物が多く出土する時期は尾張型山茶碗類の生産が活発な第7型式段階(13世紀後半)までのことであり、これ以降遺物は激減する。この状況を読み取れば14世紀以降は遺跡の機能は低下したと理解されよう。しかし翻って土師器鍋類で検討すると、12～13世紀代におおよそ位置付けられる鍋(多くは南伊勢系鍋)は数量が少ないが分布は点在している。一方、14～15世紀前半におおよそ位置付けられる鍋(多くは鍔付鍋)も出土量は少ないが、

南伊勢系鍋と同様に点在して分布することがわかる。つまり、土師器鍋で遺跡の動態を検討すると鎌倉時代から室町時代を通じて均質な土師器鍋類の消費が認められることとなる。土師器鍋類の消費量からみれば、天神前遺跡の人々の活動は中世を通じて同様に行われていたと推測され、従って居住域は長く継続していたことが予想される。

5) 戦国時代(15世紀後半～16世紀) --この段階になると、S D 57の南に建物跡群が展開するエリアに区画溝S D 67やS D 84が設定されるようになる。しかし、この部分の該当する時期の遺物は14～15世紀前半の段階とあまり変わらない状況である。従って、少なくとも鎌倉時代には始まったS D 57の南に建物跡群が展開する居住域は戦国時代まで連続し、15世紀後半に屋敷を囲む溝を設定するようになったと理解される。ただし、この段階では98B区の北部から98C区にかけては遺物の分布が非常に減少する。

6) 江戸時代(17世紀～19世紀) --この段階になると、方形土坑群から出土する遺物以外は、ほとんど遺物が存在しない状態となる。おそらくこの段階では天神前遺跡では居住域としての役割を終えたのではないかと推察される。現在までの水田であった状態はこの段階まで遡ると想定される。

第3節 まとめ

天神前遺跡を理解するためには、周辺の遺跡の成果と合わせて考えなければならない。南に隣接する郷上遺跡も、天神前遺跡と同様の時間幅を持つ遺跡であり、特にその動向を把握しなければ正確な理解にはたどり着けないと考える。郷上遺跡の調査成果が公刊されるのを待つて改めて考えていきたいと思う。

しかしながら、古墳時代中期の生産跡やそれ以降の居住域を確認し得たことは重要な成果である。遺構の時期を特定し得なかったものが多い点は、大きな問題点として残されるが、一方遺跡としての理解と言う意味においてはある程度の成果が得たのではないかと考える。大方のご叱正とご指導を賜りたく思う次第である。

付表・図版

付表

1 遺構一覧表	56 ~ 69
2 遺物一覧表	70 ~ 80

図版

遺構図版 1	上面遺構全体図 (縮尺 1:800)
遺構図版 2 ~ 7	上面遺構図 (縮尺 1:200)
遺構図版 8 ~ 9	上面遺構拡大図 (縮尺 1:100)
遺構図版 10	下面遺構全体図 (縮尺 1:800)
遺構図版 11 ~ 16	下面遺構図 (縮尺 1:200)
写真図版 1 ~ 8	遺構写真
写真図版 9 ~ 16	遺物写真

遺構一覧表の凡例

- 1、新遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。遺構記号は以下の通りである。
NR—自然流路、SA—柵列、SB—建物、SD—溝、SE—井戸、SK—土坑、
ST—水田状遺構、SX—その他
- 2、区と旧遺構番号は、発掘調査当時（年報記載）の番号である。写真・記録類や遺物ラベルなどは全てこの番号で記録されている。なお、欠番は出土遺物がない等の理由から調査時点で遺構番号を付けなかったものである。
- 3、長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をcm単位で計測したものである。したがって、この数値は本来の遺構の規模ではない。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。
- 4、遺物の項目には、図化した遺物の図版番号と、それ以外の遺構から出土した遺物の種別と破片数を示した。

本文掲載遺物一覧表の凡例

- 1、遺物番号は、本文掲載の実測図などの番号である。
- 2、遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。
- 3、法量についてはcm単位で計測した。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。また、数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。
- 4、調整痕や使用痕については「内面」と「外面」に分けて表記した。
- 5、遺物の登録は、本書掲載の遺物番号で整理されている。

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
NR1001	B	NR501	残2890	残258	28			不明		
NR1001	C	NR02	残7555	残1474				不明		
NR1002	C	NR01	残6168	残846				不明		
SA0001	B		400							
SA0002	B		1230							
SA0003	B		780							
SA0004	B	SA01	820							
SB0001	A	?	420	残300						
SB0002	A	?	430	300						
SB0003	B	?	410	240						
SB0004	B	?	400	240						
SB0005	B	?	660	残480						
SB0006	B	?	残430	残200						
SB0007	B	?	500	残260						
SB0008	B	?	300	280						
SB0009	B	?	360	510						
SB0010	B	?	270	200						
SB0011	B	?	280	280						
SB0012	B	?	推720	推480						
SB0013	B	?	470	390						
SB0014	B	?	260	120						
SB0015	B	?	720	420						
SB0016	B	?	320	100						
SB0017	B	?	410	280						
SB1001	B	SB501	残98	残84		長方形		不明	1~4土師24	
SD0001	A	SD40a	残662	43	7		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SD0002	A	SD41a	残674	53	12		U字形	暗灰黄色砂質シルト+灰色シルト斑土に炭混	160	
SD0003	A	SD42	残748	63	40		U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色シルト質砂斑土	161~162土師2灰軸2中世3	
SD0004	A	SD44	485	59	17		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SD0005	A	SD19	残1335	44	16		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	土師3須恵2	
SD0006	A	SD39a	697	69	12		U字形	不明		
SD0007	A	SD43	残490	残68	5			不明		
SD0008	A	SD16	残972	46	13		皿形	黒褐色シルト質砂+灰色シルト質砂	163土師4中世2	
SD0009	A	SD18	残428	34	17		U字形	灰色シルト+暗オリーブ褐色シルト質砂		SD18を切る
SD0010	A	SD17	309	24	4		U字形	黒褐色砂質シルト	中世1不明6	
SD0011	A	SD22	残429	73	17		U字形	黒褐色シルト	土師2	
SD0012	A	SD23	残267	18	5		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	灰軸1	
SD0013	A	SD27b	残492	62	7		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SD0014	A	SD25	281	39	5		U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SD0015	A	SD20	残319	29	6		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SD0016	A	SK09	486	77	19	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	中世1	
SD0017	A	SD36b	残658	56	13			不明		
SD0018	A	SD12	残827	61	14		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	中世1	
SD0019	A	SD56	残2164	63	3			不明		
SD0020	A	SD15	残997	69	12		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂	164~165	
SD0021	A	SD58	494	52	9			不明		
SD0022	A	SD29	残1487	58	11		U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SD0023	A	SD27a	残1172	72	25			不明	166	
SD0024	A	SD37	残378	33	5		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土	灰軸1	
SD0025	A	SD11					U字形	暗黄灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SD0026	A	SD10					U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂		
SD0027	A	SD52	残267	37	10			不明		
SD0028	A	SD31	残2309	68	12		U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	167	SD22、SD29、SD39、42に切られる
SD0029	A	SD30	1627	89	13		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	土師4灰軸1	
SD0030	A	SD55	残232	54	14			不明		
SD0031										
SD0032	A	SD04	残1810	117	27			不明		
SD0033	A	SD14	残1694	残88	15		不定形	本文参照		
SD0034										
SD0035	A	SD32	残908	84	4		U字形	黒褐色シルト	168~170	
SD0036	A	SD33	残734	73	13		皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SD0037	A	SD06	残1345	84	15		U字形	不明	土師1須恵1中世1	
SD0038	A	SD05	残11036	154	30		U字形	不明	171土師11中世24	
SD0039	A	SD02	残1671	89	14			本文参照	土師3中世4	
SD0040	A	SD34	残394	49	9		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SD0041	A	SK148	残416	84	11	不定形	皿形	不明		
SD0042	A	SD35	残839	74	13		U字形	本文参照	172須恵1灰軸1中世1	
SD0043	A	SD40b	656	71	6		U字形	本文参照		
SD0044	A	SD41b	残604	91	9		U字形	本文参照	173中世4	
SD0045	A	SD08	残1057	163	13		U字形	不明	174土師1中世1	
SD0046	A	SD03	1158	48	3		皿形	不明	土師1	
SD0047	A	SD51	残739	32	6		U字形	本文参照		

遺構一覧表(2)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SD0048	A	SD36a	968	67	16		U字形	黒褐色シルト		
SD0049	A	SK149	残318	49	8	長円形		灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		SK177、SK178、SK181に切られる
SD0050	B	SD53	残1116	71	9			黒褐色シルト+オリーブ黒色中粒砂斑土		
SD0051	A	SD07	残1286	143	12		皿形	不明	175~176土師3灰釉1中世2	
SD0052	A	SD09	残951	残53	15		U字形	不明	177中世5	
SD0053	B	SD92	残587	93	9			黒褐色砂質シルト+灰色シルト質砂斑土	土師9中世2	
SD0053	B	SD96	残434	118	16			黒褐色シルト	中世8	
SD0054	B	SD58	801	25	6			灰オリーブ色砂		
SD0055	B	SD05	残11269	154	30		U字形	黄灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	178~183土師5中世2近世1	
SD0055	B	SD83							土師3須恵8中世7	
SD0055	C	SD09							土師44須恵4灰釉4	
SD0056	B	SD90	残398	84	8			灰オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土		
SD0057	B	SD03	残8490	94	14		U字形	黒褐色砂質シルト+黒色シルト斑土	184~188土師5須恵1中世31近世1	
SD0057	B	SD91	残8490	94	14			黒褐色砂質シルト+黒色シルト斑土		
SD0057	C	SD14	残8490	94	14			不明		
SD0058	B	SD94	残493	54	17			黒色シルト+灰オリーブ色シルト質砂斑土		
SD0059	B	SD49	残1090	62	7			黒褐色砂質シルト	中世3	
SD0059	B	SD50	残1280	31	11			黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土	中世4不明2	
SD0060	B	SD47	残512	66	16			灰色細粒砂+黒褐色シルト斑土		
SD0061	B	SD48a	残308	71	10	U字形		黄灰色シルト質砂+灰オリーブ色細粒砂斑土	中世1不明1	
SD0062	B	SD52a	残1957	67	11			黒褐色シルト	土師1中世1不明2	
SD0063	B	SD97	残466	169	34			黒褐色砂質シルト	土師1須恵1中世1	
SD0064	B	SD105	残1600	69	24			不明	土師8	
SD0065	B	SD93	残181	76	11			黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土	須恵2	
SD0066	B	SD51	残1048	89	15			黒褐色シルト+灰色中粒砂斑土	灰釉1中世1不明1	
SD0066	B	SD59	405	79	16			暗灰黄色砂質シルト	中世1	
SD0067	B	SD76	残2994	93	12		U字形	黒褐色シルトに中?細粒砂混	189中世37その他25	
SD0068	B	SD86	残657	60	7			黒褐色砂質シルト		
SD0069	B	SD88	残374	残46	9			黒褐色砂質シルト	190	
SD0070	B	SD95	残398	67	6			黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土		
SD0071	B	SD102	残1244	76	13		皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	191~193土師5中世5	
SD0072	B	SD108	残1006	54	7			オリーブ黒色シルト質砂		SD77.78の下部
SD0073	B	SD101	残281	42	12			黒色シルト+オリーブ黒色砂質シルト斑土	土師1須恵3	
SD0074	B	SD81	781	108	10		皿形	灰オリーブ色中?細粒砂+黒褐色シルト斑土	194中世1不明5	
SD0075	B	SD98	残264	46	11			黒褐色砂質シルト	土師1	
SD0076	B	SD102						不明		
SD0077	B	SD107	残891	残81	8		皿形	黒色シルト+灰色シルト斑土	中世3不明2	
SD0078	B	SD104	残634	68	19			黒色シルト+灰色細粒砂斑土	中世1不明1	
SD0079	B	SD103	残1278	56	8			黒褐色砂質シルト+シルト斑土に細粒砂混	中世2	
SD0080	B	SD38	398	56	20			黒褐色?黄灰色シルト+暗灰黄色砂質土斑土		
SD0081	B	SD37	3042	129	30			不明	195~199土師20灰釉1中世23	別セクション図SD82と同じ
SD0081	B	SD82	3042	129	30			黒褐色砂質シルト	中世19その他12	
SD0082	B	SD106	424	47	11			暗灰黄色シルト+暗褐色細?中粒砂斑土		
SD0083	B	SD22	残2905	125	34			灰色シルト+黒色シルト斑土	土師6中世1不明2	
SD0084	B	SD72	残999	94	21		V字形	黒褐色砂質シルトに黄灰色細粒砂混	200~204中世67その他3	別セクション図
SD0084	B	SD74	残1894	119	29			黒褐色砂質シルト+粗粒砂斑土	中世104戦国1その他22	
SD0084	B	SD77	残794	89	12			黒褐色シルト	中世22その他21	
SD0085	B	SD13	残1588	82	24		皿形	黄灰色シルト+黒色シルト斑土	土師2中世3不明8	
SD0086	B	SD39	236	51	2		皿形	灰オリーブ色砂質シルト	中世3不明2	
SD0087	B	SD26	残1519	107	14		皿形	灰オリーブ色?黒色砂質シルト斑土	205土師1中世7	
SD0088	B	SD25	残1468	108	8		皿形	黒色?灰オリーブ色砂質シルト斑土	206~207土師1灰釉4中世2	
SD0089	B	SD42	残7666	152	18		皿形	黒褐色シルト+黒色シルト斑土	208~224中世40近世1その他91	別セクション図C区SD28と同一
SD0089	C	SD16	残2272	136	14			不明	土師5須恵11灰釉1	SD134を切り、SK626.633.SD135に切られる
SD0090	B	SD100	残362	57	17			黒褐色砂質シルト		
SD0091	B	SD27	残480	残144	30			黒褐色シルトと灰オリーブ色砂質シルト斑土	225土師91中世2	
SD0092	B	SD117	残1089	94	13			不明		
SD0093	B	SD21	残1093	62	13			黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土		
SD0094	B	SD113	残462	41	9			黒褐色砂質シルト		
SD0095	B	SD112	残271	44	5		U字形	黒褐色砂質シルト		
SD0096	B	SD45	残2837	53	31		U字形	暗灰黄色砂質シルト斑土	226~228土師8須恵1中世1	別セクション図
SD0097	B	SK95	残908	126	22	楕円形		橙色粗粒砂?礫	中世4	
SD0098	B	SD20	1964	68	15		皿形	黒褐色シルトに砂混	229中世2不明10	
SD0098	B	SD68	1964	68	15		U字形	黄灰色砂質シルトに粗粒砂混	中世3不明2	
SD0099	B	SD67	残566	104	21		U字形	オリーブ黒色砂質シルトに砂混	灰釉2中世6不明7	
SD0100	B	SD35	827	33	7			黒褐色砂質シルト		
SD0101	B	SD17b	残560	175	2			不明	中世6不明1	
SD0102	B	SD17a	692	47	13			黒褐色シルトに砂混	230~231中世27近世1不明21	
SD0103	B	SD71	残712	72	13		V字形	黒褐色?黄灰色砂質シルト斑土		別セクション図
SD0104	B	SD70	残673	79	22		V字形	黄灰色砂質シルト	232土師1中世7不明3	別セクション図

天神前遺跡

遺構一覧表(3)

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SD0105	B	SD28	残1268	33	7			黒褐色シルト		
SD0106	B	SD69	残189	68			U字形	黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色シルト斑土		
SD0107	B	SD46	残690	74	25		皿形	黄灰色砂質シルト		
SD0108	B	SD30	残803	76	15		皿形	黄灰色砂質シルト	233須恵2中世5	
SD0109	B	SD33	残756	38	6			不明		
SD0110	B	SD14	残945	97	11			黒褐色砂質土に粗粒砂混	234中世1不明1	
SD0110	B	SD32	残841	42	5		皿形	黒褐色砂質シルト		
SD0110	B	SD43	残578	102	11			黒褐色砂質シルト	中世3	
SD0111	B	SD12	665	64	13		皿形	黒褐色?黄灰色砂質シルト+灰色シルト斑土	中世4	
SD0111	B	SD65	残330	47	8		U字形	黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色シルト斑土	須恵1不明2	
SD0112	B	SD31	残401	41	9		皿形	黒褐色砂質シルト		
SD0113	B	SD11	813	61	10		U字形	黒褐色?黄灰色砂質シルト+灰色シルト斑土	土師1	
SD0114	B	SD10	残1103	64	10		U字形	黒褐色?黄灰色砂質シルト+灰色シルト斑土	土師1	
SD0115	B	SX12						黄褐色中粒砂?小礫+褐色?橙色中粒砂斑土		
SD0116	B	SD61	448	50	6			灰色シルト質砂+黄褐色?黒褐色シルト斑土		
SD0117	B	SD66	残335	34	16		U字形	黒褐色砂質シルト		
SD0118	B	SD08					皿形	黒褐色?オリーブ褐色砂質土斑土		
SD0119	B	SD07	残820	101	7			暗灰黄色砂質シルトに細粒砂混		
SD0119	C	SD25	残820	101	7			不明		
SD0120	C	SD22	残2916	129	17			不明	235~237土師7須恵2中世43	SD89を切る
SD0121	C	SD07	残1873	217	18			不明	土師11須恵5中世	SK609.SD57.128を切る
SD0122	C	SD08	残122	38	14			不明		
SD0123	C	SD24	残685	75	9			不明		SD89に切られる
SD0124	C	SD23	残536	77	7			不明		SD89に切られる
SD0125	B	SD63	残556	178	26		皿形	黄灰色シルト+黄褐色中?粗粒砂斑土	土師4須恵1	別セクション図
SD0126	B	SD64	残706	101	19		V字形	黄灰色シルト+オリーブ褐色中?粗粒砂斑土		
SD0127	C	SD26	613	92	11			不明	不明2	SD89を切る
SD0128	C	SD15	残651	63	33			不明	土師2	SD55.121に切られる
SD0129	C	SD04	残4518	99	15			不明	238~240土師?灰釉72中世4	SK623.624.SD132.135に切られる
SD0130	C	SD27	残1332	163	9			不明	土師1中世3	
SD0131	C	SD11	残292	186	24			不明		SD55に切られる
SD0132	C	SD13	884	174	17			不明	241~242土師?灰釉15中世7	SD129を切る
SD0133	C	SD17	647	59	13			不明		
SD0134	C	SD19	残1307	残76	16			不明	245~251土師26須恵14灰釉9	SK626.633.SD135.136に切られる
SD0135	C	SD05	残678	147	36			不明		SD89.129.134を切る
SD0136	C	SD18	残1129	残58	8			不明	243~244土師1須恵3	SD134を切り、SK628.633.SD55に切られる
SD0137	C	SD02	残1058	276	11			不明	須恵2	SK632を切る
SD1006	B	SD501	残8728	119	15			不明	11~12土師6	
SD1006	B	SD503	残8728	119	15			不明	土師1	
SD1006	C	SD513	残8728	119	15			不明		
SD1007	B	SD504	残8896	696	34			不明	10土師11	
SD1007	C	SD514	残8896	696	34			不明		
SD1008	B	SD502	残4701	132	17			不明	13~21土師1	
SD1008	C	SD508	残4701	132	17			不明	土師7	
SD1012	C	SD509	残532	111	13			不明	39	
SD1013	C	SD503	2654	216	8			不明	32~33土師155須恵7	SD1008を切る
SD1014	C	SD504	366	104	31			不明	34~35土師130須恵1	SK1027を切り、SK1025に切られる
SD1015	C	SD505	残402	77	21			不明		
SD1016	C	SD506	残778	62	8			不明		SD1017に切られる
SD1017	C	SD507	残2223	128	21			不明	36~38土師2	SD1016を切る
SD1018	C	SX501d	1369	97				不明		
SD1019	C	SD512	残332	53	3			不明	土師47	SK1067に切られる
SD1020	C	SX501f	587	38				不明		
SD1021	C	SX501c	残1116	76				不明		
SD1022	C	SX501a	335	228	10			不明	土師3須恵4	
SD1023	C	SD501	残840	382	39			不明	土師2須恵6灰釉1	SD1022を切る
SD1024	C	SD510b	248	44				不明		
SD1025	C	SD510a	残849	63	5			不明	土師1	SD1022に切られる
SE0001	B	SK171	354	286	93	楕円形		黒褐色砂質シルト	125~157	
SE0002	C	SK16	122	105	30	楕円形		不明	158~159須恵2中世2不明2	
SK0001	A	SK88	残433	残125	5	楕円形	皿形	黒褐色シルト斑土	土師1須恵1	
SK0002	A	SK170	102	87	11	楕円形	皿形	不明		
SK0003	A	SK89	18	17	5	円形	V字形	不明		
SK0004	A	SK82	24	18	8	楕円形	V字形	不明		
SK0005	A	SK81	22	19		円形	皿形	不明		
SK0006	A	SK80	19	18	4	円形	皿形	不明	土師1	

遺構一覧表(4)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0007	A	SK73	38	33	7	楕円形	皿形	不明		
SK0008	A	SK72	28	19	5	楕円形	V字形	不明		
SK0009	A	SK120	247	129	16	楕円形	皿形	黒褐色シルト+暗灰オリブ色細粒砂斑土	土師1中世1	SK010を切る
SK0010	A	SK121	残245	66	9	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK038、SK011、SK009に切られる
SK0011	A	SK118	303	46	7	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK011とSK010を切り、SK012に切られる
SK0012	A	SK119	97	43	12	楕円形	皿形	灰色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK011を切る
SK0013	A	SK117	202	73	4	楕円形	皿形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		SK011に切られる
SK0014	A	SK87	43	39	15	楕円形	U字形	不明		
SK0015	A	SK86	残91	残17	3	楕円形	皿形	不明		
SK0016	A	SK85	29	18	2	楕円形	皿形	不明	252	SK016に切られる
SK0017	A	SK83	16	15	2	円形	皿形	不明		
SK0018	A	SK84	14	13	2	円形	皿形	不明		
SK0019	A	SK157				楕円形	U字形	黒褐色シルト	土師1	
SK0020	A	SK76	54	29	5	円形	皿形	不明		
SK0021	A	SK75	28	26	6	円形	皿形	不明		
SK0022	A	SK79	24	23		円形	皿形	不明		
SK0023	A	SK74	29	25	7	楕円形	V字形	不明		
SK0024	A	SK68	106	104	3	台形	皿形	黒褐色シルト		
SK0025	A	SK70	54	32	8	楕円形	皿形	不明		
SK0026	A	SK114	残137	残68	8	長方形	皿形	灰色シルト+灰色砂質シルト斑土に炭混	土師1須恵1中世1	SK029に切られる
SK0027	A	SK112	残106	残33	20	楕円形	皿形	灰色砂質シルト		SD47に切られる
SK0028	A	SK113	残57	残42	13	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0029	A	SK109	97	83	9	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK032、SD11を切る
SK0030	A	SK108	41	36	13	円形	U字形	黒褐色シルト斑土		SK026、SD12を切る
SK0031	A	SK111	残79	残35	11	長方形	皿形	黒褐色シルト質砂		SD11に切られる
SK0032	A	SK110	残247	残33	7	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		SD12に切られる
SK0033	A	SK99	残67	残45	3	楕円形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		SK034に切られ、SK064を切る
SK0034	A	SK97	残302	残85	6	楕円形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		SK033とSK035に切られる
SK0035	A	SK96	146	81	11	楕円形	皿形	灰色砂質シルト		SK034を切る
SK0036	A	SK106	37	36	21	円形	U字形	灰色シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0037	A	SK100				正方形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	須恵5	SD11、12、13、SK038、042を切り、SK039、040に切られる
SK0038	A	SK105	残226	111	11	楕円形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		SK010を切り、SK037に切られる
SK0039	A	SK102	残55	46	8	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		SK037を切り、SK040に切られる
SK0040	A	SK101	318	75	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト		SK037、SK039を切る
SK0041	A	SK116	288	152	12	長方形	皿形	灰色シルトに黒褐色シルト混		
SK0042	A	SK103	161	149	8	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		SK037に切られる
SK0043	A	SK188	58	43	15	楕円形	皿形	不明		
SK0044	A	SK104	103	84	8	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト		
SK0045	A	SK115				楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	254~256中世4	SD46を切る
SK0046	A	SD26	残67	42	8		皿形	黒褐色シルト		
SK0047	A	SK166b	残372	残82	20	楕円形		不明		
SK0048	A	SK92	56	26	7	楕円形	U字形	不明		
SK0049	A	SK91	174	123	13	楕円形	皿形	黒褐色シルト		
SK0050	A	SK167b	残171	残29	16	楕円形		不明		
SK0051	A	SK152	残689	残98	17	長方形	U字形	黒褐色シルト	土師1中世6近世1	
SK0052	A	SK221	214	189		楕円形		不明		
SK0053	A	SK66	48	36	6	楕円形	皿形	不明		
SK0054	A	SK67	37	25	8	楕円形	皿形	不明		
SK0055	A	SK65	54	46	19	楕円形	U字形	不明		
SK0056	A	SK07	295	120	26	長方形	皿形	不明	257~258近世1	
SK0057	A	SK62	24	23	9	円形	皿形	不明		
SK0058	A	SK63	30	19	5	楕円形	皿形	不明	不明1	
SK0059	A	SK171	33	31	6	円形	皿形	不明		
SK0060	A	SK64	37	23	4	楕円形	皿形	不明		
SK0061	A	SK60	53	25	4	楕円形	皿形	不明		SK062に切られる
SK0062	A	SK61	27	23	7	円形	皿形	不明		
SK0063	A	SK59	56	48	7	楕円形	皿形	不明		
SK0064	A	SK162	133	82	37	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	259	SK034を切り、SK033に切られる
SK0065	A	SK95	254	107	12	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0066	A	SK94	109	101	4	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0067	A	SK187	残159	残146	15	不定形	皿形	黒褐色シルト+オリブ褐色砂質シルト斑土		SK037下部

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0068	A	SK93	236	90	7	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト+砂斑土		
SK0069	A	SK90	142	73	8	長方形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0070	A	SK191	66	42	4	楕円形	皿形	不明		
SK0071	A	SK204	167	133	30	楕円形	U字形	本文参照		
SK0072	A	SK190	123	88	10	楕円形	皿形	灰オリーブ色シルト質砂+黒褐色シルト		
SK0073	A	SK195	81	58	21	楕円形	V字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0074	A	SK189	59	52	6	長方形	皿形	不明		
SK0075	A	SK194	116	47	10	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK076下部
SK0076	A	SK198				円形	V字形	オリーブ黒色シルト+灰色シルト質砂斑土		SK075
SK0077	A	SK197	残98	72	6	楕円形		不明		
SK0078	A	SK196	残117	72	11	長方形		不明		
SK0079	A	SK169	残465	残49	10	楕円形		不明		
SK0080	A	SK193	161	79	4	楕円形	皿形	不明		
SK0081	A	SK192	134	58	13	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0082	A	SK06	残179	162	27	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト		
SK0083	A	SK158	残143	残105	8	長方形		本文参照	253	SK056に切られる
SK0084	A	SK40	35	27	7	楕円形	皿形	不明		
SK0085	A	SK39	62	40	9	楕円形	皿形	不明		
SK0086	A	SK41a	24	23	4	円形	皿形	不明		
SK0087	A	SK36	389	79	12	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0088	A	SK42	31	30	5	円形	皿形	不明		
SK0089	A	SK43	65	33	10	楕円形	U字形	不明		
SK0090	A	SK44	30	27	7	円形	V字形	不明		SK091を切る
SK0091	A	SK45	100	39	11	楕円形	皿形	黒褐色シルト		
SK0092	A	SK08	195	160	38	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0093	A	SK46	43	35	17	楕円形	V字形	不明		
SK0094	A	SK47	残92	53	6	楕円形	皿形	黒褐色シルト+黒褐色砂質シルト斑土		
SK0095	A	SK48	残64	残61	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0096	A	SK49	186	101	7	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0097	A	SK50	242	59	11	楕円形	皿形	黒褐色シルト		
SK0098	A	SK163	残228	38	6	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	260	SD20を切る
SK0099	A	SK205	39	36	15	楕円形	箱形	不明		
SK0100	A	SK207	147	74		楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色細粒砂斑土		
SK0101	A	SK203	166	56	17	不定形	U字形	黒褐色シルト		
SK0102	A	SK201	28	23	16	楕円形	箱形	不明		
SK0103	A	SK202	95	64	20	楕円形	U字形	本文参照		
SK0104	A	SK200	23	18	15	楕円形		不明		
SK0105	A	SK146a	残183	63	15	不定形	U字形	不明		
SK0106	A	SK41b	残338	残159	6	長方形	皿形	不明		
SK0107	A	SK05	残223	66	9	長方形	U字形	黒褐色シルト、一部細粒砂混		
SK0108	A	SK13	残324	229	16	不定形	皿形	黒褐色シルトに炭化物若干	土師5中世8	SK111に切られ、 下位にSK138がある
SK0109	A	SK37	残108	39	8	楕円形	U字形	灰色砂質シルト		
SK0110	A	SK156	389	残191	11	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土に砂混		SK113、SK108 に切られる
SK0111	A	SK20	残124	残103	86	円形	箱形	本文参照		
SK0112	A	SK35	36	34	6	円形	皿形	不明		
SK0113	A	SK19				楕円形	皿形	灰色シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0114	A	SK32	152	124	7	楕円形	皿形	灰色砂質シルトに炭化物混		
SK0115	A	SK34				楕円形	V字形	黒褐色シルト		
SK0116	A	SK181	残155	68	7	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SK0117	A	SK33				楕円形	U字形	黒褐色シルト	261土師1中世5	
SK0118	A	SK22				長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK111に切られる
SK0119	A	SK21	271	167	6	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	土師1灰釉1	
SK0120	A	SK23	131	33	4	楕円形	皿形	灰色シルト+黒褐色シルト斑土	土師2	
SK0121	A	SK31				楕円形	U字形	不明		
SK0122	A	SK26	208	111	3	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SK144に切られ、 SK145を切る
SK0123	A	SK209	残243	残64	15	不定形	皿形	黒褐色砂質シルト+灰色砂質シルト斑土		SK125に切られる
SK0124	A	SK30	201	66	11	楕円形	皿形	黒褐色シルト		SD20を切る
SK0125	A	SK208	302	45	8	長方形	U字形	黒褐色シルト質砂+灰オリーブ色砂質斑土		SK123を切る
SK0126	A	SK186	33	32	23	円形	箱形	不明		SK124下部
SK0127	A	SK126	残224	125	14	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト		SD13、SD28に 切られる
SK0128	A	SK125	162	105	13	長方形	皿形	本文参照	262~263須恵1	
SK0129	A	SK124	残334	113	8	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0130	A	SK123	323	128	10	不定形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0131	A	SK122				楕円形	皿形	不明		
SK0132	A	SK206				楕円形	皿形	黒褐色シルト		
SK0133	A	SK132	残127	残105	11	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0134	A	SK153	残374	残238	2	不定形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土に炭混		
SK0135	A	SK16	166	172	15	楕円形	U字形	灰色砂質シルト	中世4	SK136を切る
SK0136	A	SK17	残327	残135	15	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土	中世2	SK135に切られる

遺構一覧表(6)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0137	A	SK151	313	38	12	楕円形	U字形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	264土師10中世5	
SK0138	A	SK155				円形	V字形	黒褐色シルト	265土師6中世13	
SK0139	A	SK10	163	143	34	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土	266土師2中世2	
SK0140	A	SK11	残217	115	8	長方形	皿形	黒褐色シルト		SD33に切られる
SK0141	A	SK12	251	197	10	半円形	皿形	黒褐色シルト	土師1須恵1中世3	下にSK142がある
SK0142	A	SK172						不明	267	
SK0143	A	SK24	残136	105	6	長方形	皿形	黒褐色シルト+砂質シルト斑土		SK144とSD26に切られる
SK0144	A	SK25	189	84	7	長方形	皿形	黒褐色シルト+砂質シルト斑土		
SK0145	A	SK28	残192	108	7	長方形	皿形	黒褐色シルト+オリブ褐色シルト質砂斑土	土師1中世7	SK122に切られ、SK146を切る
SK0146	A	SK29	343	173	10	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0147	A	SK161a	残571	119	13	長方形	皿形	黒褐色砂質シルト+灰色細粒砂	土師1中世2	SD33に切られる
SK0148	A	SK147	437	132	12	不定形	皿形	黒褐色シルト	中世2	
SK0149	A	SK166a	392	59	13	楕円形	U字形	不明		
SK0150	A	SK128	残212	42	12	不定形	U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SD28を切り、SK149に切られる
SK0151	A	SK129	104	92	16	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0152	A	SK130	26	17	9	円形	V字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0153	A	SK131	残254	残136	15	楕円形	皿形	黒褐色シルト質砂に炭化物混	268	
SK0154	A	SK133				楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色細粒砂斑土	中世1不明2	
SK0155	A	SK154	59	41	9	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0156	A	SK15	124	82	11	台形	皿形	黒褐色シルト	土師1	
SK0157	A	SK14	246	87	7	楕円形	皿形	灰色砂質シルト+暗オリブ褐色シルト斑土		
SK0158	A	SK55	25	24	6	円形	V字形	不明		
SK0159	A	SK51	残255	92	21	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SD33に切られる
SK0160	A	SK142	52	33	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		SD40に切られる
SK0161	A	SK141	43	37	12	楕円形	皿形	不明		
SK0162	A	SK167a	残147	残109	41	楕円形	U字形	黒褐色シルト+黄灰色砂質シルト斑土	269土師1	
SK0163	A	SK213	残136	残27	8	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		SD29に切られる
SK0164	A	SK136	35	31	11	楕円形	円柱形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土		
SK0165	A	SK212	137	52	28	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色細粒砂		
SK0166	A	SK161b	105	79	41	楕円形		不明		
SK0167	A	SK211	残87	48	5	楕円形	皿形	不明		
SK0168	A	SK160	残113	残100	9	長方形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土に砂混	土師10中世3	SK169に切られる
SK0169	A	SK159	165	94	24	台形	皿形	不明		
SK0170	A	SK54	24	17	3	楕円形	皿形	不明		
SK0171	A	SK52	22	19	4	円形	V字形	不明		
SK0172	A	SK53	31	24	7	楕円形	皿形	不明		
SK0173	A	SK199				台形	皿形	本文参照		SD48に切られる
SK0174	A	SK143	86	31	9	楕円形	U字形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0175	A	SK140	69	61	14	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0176	A	SK139	180	47	7	長円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂斑土	270	
SK0177	A	SK138	92	67	6	長方形	皿形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		SD49を切る
SK0178	A	SK137				楕円形	V字形	不明		SD49を切る
SK0179	A	SK144	残289	165	21	長方形	不定形	不明	271土師2中世4	
SK0180	A	SK135	23	22	3	円形	皿形	不明		
SK0181	A	SK134	69	34	10	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト斑土		
SK0182	A	SK56	59	43	8	楕円形	皿形	不明		
SK0183	B	SK347	残280	残180	12			黄灰色シルト+黄褐色小礫	272土師1中世3	
SK0184	B	SK85	40	33	13	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0185	B	SK415	52	28	7	楕円形	皿形	灰色砂+黒褐色シルト斑土		
SK0186	B	SD57	245	59	10			オリブ黒色シルト+暗オリブ灰色斑土		
SK0187	B	SK86	41	39	15	円形	箱形	黒褐色シルト質砂+灰色細粒砂斑土		
SK0188	B	SD56	163	67	7			灰色シルト質砂		
SK0189	B	SK79	22	18	12	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰色シルト斑土		
SK0190	B	SK78	159	78	13	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+灰色中粒砂斑土		
SK0191	B	SK410	45	43	9	楕円形	U字形	黒褐色シルト		
SK0192	B	SK74	20	14	17	楕円形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土		
SK0193	B	SD55	残110	52	8		U字形	黒褐色砂質シルト+黒褐色?黒色シルト斑土		
SK0194	B	SK73	135	67	12	楕円形	U字形	灰オリブ色中粒砂+黒褐色シルト斑土		
SK0195	B	SD54	149	47	12			灰色中粒砂+黒褐色シルト斑土		
SK0196	B	SD85	176	49	19			黒褐色砂質シルト	土師1灰釉1	
SK0197	B	SK226	35	30	7	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0198	B	SK342	残84	残52		長方形		黒褐色砂質シルト		
SK0199	B	SK341	78	40	10	楕円形	U字形	黒褐色シルト		
SK0200	B	SK411	51	34	8	楕円形	皿形	黒褐色シルト+黄灰色砂質シルト斑土		
SK0201	B	SK413	145	50	9	不定形	皿形	灰色シルト質砂に黒褐色砂質シルト斑土		
SK0202	B	SK414	125	26	5	楕円形	皿形	灰色シルト質砂に黒褐色砂質シルト斑土		
SK0203	B	SK84	29	24	17	楕円形	箱形	黒褐色シルト質砂+緑灰色中粒砂斑土		
SK0204	B	SK83	31	31	5	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黄灰色細粒砂斑土		
SK0205	B	SK412	126	26	7	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土に砂混		
SK0206	B	SK346	34	25	14	楕円形	箱形	オリブ黒色シルト+黒褐色シルト斑土		

天神前遺跡

遺構一覧表(7)

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0207	B	SK81	545	400	10	不定形	皿形	黒褐色砂質シルトに灰色シルト斑土		
SK0208	B	SK345	37	26	25	楕円形	箱形	黒色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0209	B	SK82	36	32	9	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0210	B	SK408	190	残150	13	不明	皿形	黒褐色シルト		
SK0211	B	SK427	47	38	12	楕円形		黄褐色中粒砂+黒褐色砂質シルト斑土		
SK0212	B	SK301	80	66	34	楕円形	U字形	灰色砂質シルト+黒褐色砂質シルト斑土		
SK0213	B	SK70	35	20	4	楕円形	U字形	灰オリブ色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0214	B	SK71	60	46	4	楕円形	U字形	灰色シルト+黒褐色シルト質砂斑土	土師1中世1	
SK0215	B	SK69	34	21	4	楕円形	U字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0216	B	SK72	51	44	2	楕円形	U字形	灰色シルト質砂		
SK0217	B	SK68	31	29	3	円形	U字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土	中世1	
SK0218	B	SK66	33	18	3	長方形	U字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0219	B	SK67	41	36	3	楕円形	皿形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0220	B	SK65	31	27	4	?	U字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0221	B	SK64	170	143	18	長方形	U字形	黒褐色シルト+灰色細?中粒砂斑土		
SK0222	B	SK227	32	30	8	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0223	B	SK225	50	32	14	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0224	B	SK224	75	51	15	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0225	B	SK337	248	232	15	楕円形	皿形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土	土師1須恵1中世1	
SK0226	B	SK158	236	残104	9	不定形	皿形	にぶい黄褐色中粒砂	中世4	
SK0227	B	SK336	116	112	8	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒色シルト斑土		
SK0228	B	SK87	残340	195	13	長方形	皿形	黒色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土	土師28中世1	
SK0229	B	SD52b	残221	104				不明		
SK0230	B	SK35	80	62	8	楕円形	皿形	黒褐色シルト		
SK0231	B	SK34	74	70	6	円形	皿形	黒色シルト+暗オリブ灰色細粒砂斑土		
SK0231	B	SK223	31	26	6	楕円形	箱形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0232	B	SK219	30	25	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリブ色シルト質砂斑土		
SK0233	B	SK222	24	24	14	円形	箱形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	須恵1不明2	
SK0234	B	SK221	28	23	8	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0235	B	SK220	42	23	13	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0236	B	SK214	35	30	9	楕円形	U字形	不明		
SK0237										
SK0238	B	SK213	38	38	13	円形	箱形	不明		
SK0239	B	SK212	49	41	10	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリブ色シルト質砂斑土		
SK0240	B	SK311	60	24	12	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリブ色細粒砂斑土		
SK0241	B	SK492	161	66	9	楕円形		不明		
SK0242	B	SK348	26	25	4	円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0243	B	SK349	28	27	6	円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0244	B	SK350	42	42	8	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0245	B	SK129	残550	155	12	長方形	皿形	黄褐色粗粒砂?小礫		
SK0246	B	SK447	165	96	13	楕円形	U字形	暗灰黄色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	不明1	
SK0247	B	SK446	138	91	9	楕円形	U字形	黒色シルト+灰色シルト斑土		
SK0248	B	SK444	91	56	4	楕円形	皿形	灰色シルト+黒色シルト斑土		
SK0249	B	SK443	89	59	5	楕円形	皿形	黒色シルト		
SK0250	B	SK449	88	46	7	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0251	B	SK442	29	28	4	円形	皿形	黒色シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0252	B	SK417	179	100	15	半円形	皿形	オリブ黒色?黒褐色砂質シルト斑土		
SK0253	B	SK416	165	103	50	半円形	箱形	オリブ黒色砂質シルト+黒褐色シルト		
SK0254	B	SK440	21	21	7	円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0255	B	SK439	23	21	5	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0256	B	SK438	26	23	7	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰色シルト斑土		
SK0257	B	SK437	31	23	9	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト斑土		
SK0258	B	SK436	43	26	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト		
SK0259	B	SK435	30	25	11	楕円形	U字形	黒褐色?オリブ黒色砂質シルト斑土		
SK0260	B	SK432	残45	45	24	楕円形	U字形	黄灰色シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0261	B	SK434	25	22	19	楕円形	V字形	オリブ黒色シルト斑土に炭化物混		
SK0262	B	SK433	28	27	5	円形	箱形	暗灰黄色砂質シルト		
SK0263	B	SK431	28	残25	20	楕円形	箱形	黒色シルト+黒褐色シルト斑土		SK260を切る
SK0264	B	SK448	38	22	6	楕円形	皿形	黒褐色シルト+暗オリブ灰色シルト斑土		SK260を切る
SK0265	B	SK218	28	残13	7	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		SK266を切る
SK0266	B	SK217	23	22	8	円形	箱形	黒褐色シルト+暗オリブ色細粒砂斑土		SK265に切られる
SK0267	B	SK216	59	32	17	楕円形	箱形	黒褐色シルト+暗オリブ色細粒砂斑土	不明1	
SK0268	B	SK215	52	33	22	楕円形	V字形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0269	B	SK208	30	20	13	楕円形	V字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土	不明1	
SK0270	B	SK403	63	41	7	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0271	B	SK209	36	26	9	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0272	B	SK207	36	26	15	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0273	B	SK402	35	30	19	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+オリブ黒色シルト斑土		SK274に切られる
SK0274	B	SK332	40	36	23	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0275	B	SK405	60	残27	16	円形	半球形	灰色砂質シルト+黒褐色砂質シルト斑土		
SK0276	B	SK330	41	29	21	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0277	B	SK206	35	25	8	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0278	B	SK404	37	24	7	楕円形	箱形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0279	B	SK406	68	残34	7	半円形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色砂質シルト斑土		

遺構一覧表(8)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長	軸	短	軸	深さ	平面形	断面形	埋	土	遺	物	備	考
SK0280	B	SK331	51	20	9	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0281	B	SK200	31	30	9	円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0282	B	SK201	31	28	18	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0283	B	SK407	21	18	5	楕円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							SK281に切られる
SK0284	B	SK333	21	17	18	楕円形	箱形	灰オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0285	B	SK211	46	残36	10	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							SK280に切られる
SK0286	B	SK205	36	35	10	円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0287	B	SK204	50	残35	12	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							SK289に切られる
SK0288	B	SK202	41	40	15	円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0289	B	SK203	46	39	19	長方形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							SK287を切る
SK0290	B	SK199	67	59	10	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土							
SK0291	B	SK401	28	26	22	円形	V字形	灰色シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0292	B	SK185	33	31	13	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0293	B	SK399	90	53	10	三角形	U字形	黒褐色砂質シルト+オリーブ黒色シルト斑土							
SK0294	B	SK186	22	21	26	円形	箱形	暗灰黄色砂質シルトに炭化物混							中世2
SK0295	B	SK396	40	25	10	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+オリーブ黒色シルト斑土							SK292を切る
SK0296	B	SK400	29	19	8	楕円形	箱形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0297	B	SK189	44	34	11	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0298	B	SK335	残53	残53	13	三角形	U字形	黒褐色砂質シルト							SK294.295.298に切られる
SK0299	B	SK197	27	21	5	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0300	B	SK188	74	46	23	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土							
SK0301	B	SK187	20	20	40	円形	箱形	黒褐色砂質シルト							中世1
SK0302	B	SK198	25	残17	4	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土							SK303に切られる
SK0303	B	SK196	143	62	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土							
SK0304	B	SK397	残60	35	15	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+オリーブ黒色シルト斑土							
SK0305	B	SK395	46	39	9	楕円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0306	B	SK192	38	29	7	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							
SK0307	B	SK398	87	82	16	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+オリーブ黒色シルト斑土							SK317.304に切られる
SK0308	B	SK334	34	26	22	楕円形	V字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0309	B	SK172	242	77	15	楕円形	U字形	灰オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0310	B	SK191	34	27	7	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							SK311に切られる
SK0311	B	SK190	36	31	23	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							中世3 SK310を切る
SK0312	B	SK193	41	41	5	円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0313	B	SK195	42	残33	7	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土							SK307に切られる
SK0314	B	SK194	50	33	5	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0315	B	SK176	76	43	18	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							
SK0316	B	SK300	55	32	14	楕円形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0317	B	SK394	49	29	10	楕円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0318	B	SK174	41	28	8	楕円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト							
SK0319	B	SK242	56	42	11	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土に砂混							土師1
SK0320	B	SK228	46	30	15	楕円形	箱形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0321	B	SK386	残38	38	8	楕円形	U字形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							SK355に切られる
SK0322	B	SK229	残81	45	1	楕円形	皿形	オリーブ黒色シルト							
SK0323	B	SK424	102	78	40	楕円形	箱形	黒褐色シルト+暗灰黄色中?細粒砂斑土							
SK0324	B	SK237	298	106	4	長方形	皿形	黄灰色砂質シルト							土師1
SK0325	B	SK236	173	82	10	楕円形	皿形	褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土							
SK0326	B	SK429	232	188	51	楕円形	箱形	オリーブ黒色シルト							
SK0327	B	SK428	170	残124	15	楕円形	皿形	黄灰色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土							
SK0328	B	SK33	440	190	41		箱形	褐色中?粗粒砂に礫混							中世3 噴砂
SK0329	B	SK425	274	85	63	不定形		暗オリーブ灰色シルト							
SK0330	B	SK426						黒褐色?暗オリーブ灰色シルト斑土に炭混							
SK0331	B	SK450	306	138	6	長方形	皿形	黒色シルト+灰色細粒砂斑土							273中世12
SK0332	B	SK465	20	21	15	円形	箱形	黒色シルト+黒褐色シルト質砂斑土							中世2 山茶碗
SK0333	B	SK451	37	29	5	楕円形	皿形	黒色シルト							SK334を切る
SK0334	B	SK452	残104	60	5	長方形	皿形	黒色シルト+灰色細粒砂斑土							
SK0335	B	SK393	19	19	12	円形	箱形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0336	B	SK184	26	25	9	円形	箱形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0337	B	SK183	40	25	11	楕円形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0338	B	SK314	28	25	12	楕円形	皿形	灰オリーブ色シルトににぶい黄褐色中粒砂混							
SK0339	B	SK181	52	37	13	楕円形	U字形	黒褐色?オリーブ黒色砂質シルト斑土							SK340.343に切られる
SK0340	B	SK182	36	27	9	楕円形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							SK339を切る
SK0341	B	SK392	37	24	13	楕円形	箱形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0342	B	SK313	62	41	9	楕円形	皿形	灰オリーブ色シルトににぶい黄褐色中粒砂混							
SK0343	B	SK180	34	34	14	円形	U字形	黒褐色?オリーブ黒色砂質シルト斑土							SK339を切る
SK0344	B	SK179	32	30	6	楕円形	U字形	黒褐色?オリーブ黒色砂質シルト斑土							
SK0345	B	SK391	30	30	4	円形	箱形	灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0346	B	SK390	87	82	16	楕円形	U字形	黒褐色?オリーブ黒色砂質シルト斑土							
SK0347	B	SK177	33	30	11	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							
SK0348	B	SK178	55	45	13	楕円形	U字形	黒褐色?オリーブ黒色砂質シルト斑土							
SK0349	B	SK240	70	47	22	楕円形	箱形	暗灰黄色シルト+にぶい黄褐色細粒砂斑土							
SK0350	B	SK173	169	残80	12	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							SK355に切られる

新遺構番号	区	旧遺構番号	長	軸	短	軸	深さ	平面形	断面形	埋	土	遺	物	備	考
SK0351	B	SK231	94	78	26	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土						SK355を切る	
SK0352	B	SK374	30	残25	16	楕円形	箱形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0353	B	SK310	36	30	12	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0354	B	SK373	35	35	13	円形	箱形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土	不明2						
SK0355	B	SK230	188	90	22	楕円形	U字形	オリブ黒色砂質シルトに中粒砂混		274				SK351に切られる	
SK0356	B	SK371	36	33	6	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色シルト質砂斑土							
SK0357	B	SK375	50	19	9	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0358	B	SK233	35	33	11	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色シルト質砂斑土							
SK0359	B	SK376	47	37	10	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0360	B	SK232	残113	71	6	楕円形	皿形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0361	B	SK234	24	24	8	円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0362	B	SK377	28	28	10	円形	U字形	黒褐色砂質シルト+オリブ黒色シルト斑土							
SK0363	B	SK378	75	56	21	楕円形	箱形	灰色砂質シルト+黒褐色砂質シルト斑土						SK360を切り、SK365に切られる	
SK0364	B	SK241	275	残24	11	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルトに細粒砂?中粒砂混			土師4				
SK0365	B	SK379	93	81	11	楕円形	箱形	灰色砂質シルト+黒褐色砂質シルト斑土							
SK0366	B	SK235	45	29	3	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0367	B	SK389	16	12	10	楕円形	箱形	黒褐色?オリブ黒色砂質シルト斑土							
SK0368	B	SK388	16	16	13	円形	箱形	暗赤灰色?灰オリブ色シルト斑土							
SK0369	B	SK387	16	16	17	円形	箱形	暗赤灰色?灰オリブ色シルト斑土							
SK0370	B	SK423	53	52	31	楕円形	箱形	暗灰黄色シルト+黒褐色シルト斑土				中世3			
SK0371	B	SK419	65	57	7	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							
SK0372	B	SK422	44	38	13	楕円形	U字形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土に砂混						SD67に切られる	
SK0373	B	SK418	65	55	6	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土				275			
SK0374	B	SK11	345	173	30	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0375	B	SK421	37	28	6	楕円形	U字形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0376	B	SK12	180	123	40	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0377	B	SK430	50	残38	2	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト				不明1			
SK0378	B	SK420	34	18	4	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0379	B	SK372	166	109	10	楕円形	皿形	褐灰色シルト+オリブ黒色細粒砂斑土				中世1			
SK0380	B	SK09	229	157	40	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0381	B	SK13	203	112	49	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					須恵1		
SK0382	B	SK10	235	113	48	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					310~311中世1		
SK0383	B	SK07	244	111	38	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					土師1須恵1		
SK0384	B	SK04	380	187	32	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					312中世4近世1		
SK0385	B	SK38	282	182	18	長方形	箱形	暗灰黄色粘質土に粗粒砂混				中世2			
SK0386	B	SK37	169	残83	13	楕円形	皿形	オリブ褐色砂礫						SD57に切られる	
SK0387	B	SK460	43	42	4	円形	皿形	オリブ褐色中粒砂+黒色シルト斑土							
SK0388	B	SK456	48	26	10	三角形	U字形	黒褐色シルト質砂+暗灰黄色細粒砂斑土							
SK0389	B	SK455	35	30	9	楕円形	U字形	黒色シルト+灰オリブ色細粒砂斑土							
SK0390	B	SK454	38	38	22	円形	箱形	黒褐色シルト質砂+オリブ黒色シルト斑土							
SK0391	B	SK453	25	20	10	楕円形	U字形	オリブ黒色シルト							
SK0392	B	SK491	43	26	4	楕円形	皿形	不明							
SK0393	B	SK315	206	187	9	楕円形	皿形	灰オリブ色砂質シルト							
SK0394	B	SK322	30	30	8	円形	U字形	灰オリブ色シルトにぶい黄褐色中粒砂混							
SK0395	B	SD99	残196	57	4			黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0396	B	SK329	58	37	23	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0397	B	SK169a	388	167	38	長方形	箱形	オリブ褐色中?粗粒砂+暗灰黄色シルト					316須恵2中世5近世1		
SK0398	B	SK08	200	196	44	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0399	B	SK169b	388	167	38	長方形	箱形	オリブ褐色中?粗粒砂+暗灰黄色シルト							
SK0400	B	SK05	229	190	44	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					313土師1中世2		
SK0401	B	SK06	167	162	75	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					314土師1中世1		
SK0402	B	SK01	216	194	51	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫					315土師1須恵1		
SK0403	B	SK14	186	115	40	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0404	B	SK02	168	110	50	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫							
SK0405	B	SK03	134	64	22	長方形	箱形	オリブ褐色極粗粒砂?小礫				中世2			
SK0406	B	SK36	364	219	38			オリブ褐色砂礫				276			
SK0407	B	SK464	60	34	27	楕円形	箱形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0408	B	SK467	40	40	10	円形	箱形	黒褐色?灰色シルト質砂斑土							
SK0409	B	SK463	285	残156	7	半円形	皿形	黒色?暗灰黄色シルト斑土に砂混							
SK0410	B	SK461	33	31	17	円形	V字形	オリブ黒色シルト質砂+黒色シルト斑土							
SK0411	B	SK462	36	30	12	楕円形	U字形	黒色シルト+オリブ黒色細粒砂斑土							
SK0412	B	SK457	90	25	10	不定形	U字形	黒色シルト+灰オリブ色?灰色細粒砂斑土							
SK0413	B	SK459	34	19	7	楕円形	V字形	オリブ黒色シルト+黒色シルト斑土							
SK0414	B	SK458	141	残39	7	半円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0415	B	SK53	33	32	3	円形	皿形	灰オリブ?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0416	B	SD41	131	22	5			暗灰黄色砂質シルト							
SK0417	B	SD40		24	5			黒褐色砂質シルト斑土							
SK0418	B	SK48	31	20	6	楕円形	皿形	黒褐色シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0419	B	SK54	59	38	24	楕円形		オリブ黒色シルト質砂+シルト斑土				277土師30			
SK0420	B	SK51	53	38	12	楕円形		不明							
SK0421	B	SK47	26	18	7	楕円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0422	B	SK52	52	36	6	楕円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト+黒色シルト斑土							
SK0423	B	SK45	31	20	18	楕円形	V字形	黄灰色砂質シルト							

遺構一覧表(10)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長	軸	短	軸	深さ	平面形	断面形	埋	土	遺	物	備	考
SK0424	B	SK50	29	24	4	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色シルト							
SK0425	B	SK44	58	30	5	楕円形	皿形	オリブ黒色シルト質砂+灰黄色シルト斑土							
SK0426	B	SK49	残54	41	5	楕円形	皿形	灰色シルト+オリブ黒色シルト斑土							
SK0427	B	SK46	40	29	7	楕円形	U字形	黒褐色シルト質砂+暗灰黄色シルト斑土							
SK0428	B	SK42	50	48	7	楕円形	皿形	暗灰黄色シルト+オリブ黒シルト質砂斑土							
SK0429	B	SK41	41	33	11	長方形	箱形	灰色シルト+オリブ黒色シルト質砂							
SK0430	B	SK40	37	34	4	楕円形	皿形	灰色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							
SK0431	B	SK326	28	26	23	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色シルト質砂斑土							
SK0432															
SK0433	B	SK323	23	15	3	楕円形	V字形	オリブ褐色シルト							
SK0434	B	SK324	34	30	32	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色シルト質砂斑土							
SK0435	B	SK325	残117	23	8	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリブ色細粒砂斑土							
SK0436	B	SK116	371	112	14	台形	皿形	不明							土師?中世8戦国1
SK0437	B	SK290	41	31	12	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							
SK0438	B	SK291	50	39	8	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト斑土							
SK0439	B	SK289	22	22	10	円形	箱形	黒褐色砂質シルト							杭
SK0440	B	SK286	24	23	2	円形	皿形	黒褐色砂質シルト+灰オリブ色細粒砂斑土							
SK0441	B	SK292	45	30	29	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色細粒砂斑土							土師1
SK0442	B	SK293	26	23	20	楕円形	箱形	黒褐色シルトに炭化物混							中世1不明1
SK0443	B	SK328	32	32	26	円形	箱形	暗灰黄色砂質シルト							
SK0444	B	SK380	20	19	13	円形	箱形	黒褐色砂質シルト+オリブ褐色細粒砂斑土							中世3
SK0445	B	SK381	60	31	5	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+オリブ褐色細粒砂斑土							
SK0446	B	SK294	42	残29	2	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							SK447に切られる
SK0447	B	SK287	69	49	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							SK446を切る
SK0448	B	SK288	52	48	13	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色細粒砂斑土							
SK0449	B	SK295	41	36	14	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0450	B	SK125	859	370	49	不定形	箱形	黄褐色粗粒砂?小礫							278~282土師?中世16戦国1
SK0451	B	SK127	310	230	28	長方形	箱形	黄褐色粗粒砂?小礫							中世4
SK0452	B	SK468	21	21	3	円形	箱形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0453	B	SK365	76	残30	19	楕円形	U字形	(茶色)							
SK0454	B	SK115	213	残58	9	楕円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト+砂質シルト斑土							
SK0455	B	SK297	30	25	12	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							
SK0456	B	SK156	64	33	8	楕円形	U字形	暗灰黄色砂質シルトに炭化物混							283
SK0457	B	SK155	98	90	10	円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト							
SK0458	B	SK296	38	36	4	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土に炭混							
SK0459	B	SK298	23	22	23	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0460	B	SK299	52	52	15	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0461	B	SK152	92	残35	6	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0462	B	SK243	34	30	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0463	B	SK244	32	27	13	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							
SK0464	B	SK284	21	20	13	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							
SK0465	B	SK283	40	29	25	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルトに炭化物混							中世2
SK0466	B	SK245	67	20	23	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土に炭混							土師2
SK0467	B	SK126	168	122	31	長方形	箱形	黄褐色粗粒砂?小礫							土師2須恵1中世2
SK0468	B	SK358	62	40	11	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト							
SK0469	B	SK271	残142	34	15	長丸形	U字形	黒褐色砂質シルト+灰オリブ色細粒砂斑土							
SK0470	B	SK357	30	残21	4	楕円形	皿形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土							
SK0471	B	SK382	59	34	12	楕円形	箱形	黒褐色シルト							
SK0472	B	SK270	30	28	13	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色シルト質砂斑土							
SK0473	B	SK272	23	残14	8	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土							土師1
SK0474	B	SK269	45	44	11	楕円形	箱形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土に炭混							
SK0475	B	SK266	残77	73	8	楕円形	V字形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土に炭混							
SK0476	B	SK267	17	13	15	楕円形	U字形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土							
SK0477	B	SK304	34	29	18	楕円形	U字形	オリブ褐色小礫?拳大の石							
SK0478	B	SK384	57	57	8	三角形	U字形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色砂質シルト斑土							
SK0479	B	SK265	70	残30	5	楕円形	皿形	灰オリブ色?黒褐色砂質シルト斑土に炭混							
SK0480	B	SK279	27	25	4	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0481	B	SK278	35	33	5	円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0482	B	SK303	85	24	8	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト							
SK0483	B	SK277	32	30	9	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0484	B	SK276	24	20	7	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0485	B	SK280	20	19	8	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト							
SK0486	B	SK160	260	残190	30	楕円形	U字形	オリブ褐色粗粒砂?小礫+褐色粗粒砂斑土							284~285中世9
SK0487	B	SK161	残196	残95	30	長方形	皿形	オリブ褐色粗粒砂?小礫							
SK0488	B	SK159	240	110	20	長方形	皿形	オリブ褐色粗粒砂?小礫							須恵1
SK0489	B	SK122	240	210	68	台形	箱形	暗オリブ色粗粒砂?小礫							中世2近世1
SK0490	B	SK486	126	47	9	不定形	皿形	黒褐色シルトに礫混							286
SK0491	B	SK28	312	292	50	長方形	箱形	本文参照							287~289須恵2中世9近世2
SK0492	B	SK488	残189	残47	12	長方形	皿形	不明							
SK0493	B	SK29	残312	残196	6	長方形	皿形	本文参照							SK491、SD55、SD81に切られる
SK0494	B	SK471	37	24	10	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリブ色シルト斑土							
SK0495	B	SK472	34	27	9	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色シルト斑土							
SK0496	B	SK473	38	残19	4	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリブ色砂質シルト斑土							

天神前遺跡

遺構一覧表(11)

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0497	B	SK470	41	残30	3	円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリーブ色シルト斑土		SD87に切られる
SK0498	B	SK469	23	18	5	楕円形	箱形	黒褐色シルト		
SK0499	B	SD109	155	30	2			黒褐色シルト+黄褐色砂質シルト斑土		
SK0500	B	SK474	20	12	2	楕円形	U字形	暗オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土		
SK0501	B	SK476	18	16	7	楕円形	箱形	黒褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土		
SK0502	B	SD19	残145	37	8		皿形	黒褐色砂質シルト	不明2	
SK0503	B	SK466	28	27	16	円形	U字形	黒褐色?灰色シルト質砂斑土に砂混		
SK0504	B	SK26	80	55	8	楕円形		黒褐色砂質シルト	290土師1	
SK0505	B	SK25	残90	90	33	四角形	箱形	黒褐色砂質シルト+オリーブ黒色シルト斑土	中世6	
SK0506	B	SK154	44	28	26	楕円形	U字形	黒褐色シルト	中世6不明8	
SK0507	B	SK149	31	29	14	楕円形	V字形	黒褐色シルトに炭化物混		
SK0508	B	SK150	90	残50	10	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	中世3	
SK0509	B	SK151	71	53	19	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗灰黄色細粒砂斑土	中世2	
SK0510	B	SK103	48	残29	28	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混	中世1不明4	
SK0511	B	SK102	55	40	17	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土	291灰軸1	SK510.512を切る 山茶碗、小皿1
SK0512	B	SK101	43	残30	14	楕円形	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土	土師2	
SK0513	B	SK165	23	20	20	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	中世2	
SK0514	B	SK166	23	22	24	円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0515	B	SK110	218	180	9	楕円形	皿形	黒褐色シルト+灰オリーブ色シルト斑土	292土師2	
SK0516	B	SK308	68	残33	9	楕円形	U字形	暗灰黄色シルト質砂+黒褐色シルト斑土		
SK0517	B	SK167	15	10	9	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0518	B	SK168	22	21	38	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0519	B	SK118	34	29	38	楕円形	箱形	黒褐色粘質シルト+中粒砂斑土に炭化物混	灰軸1中世1	SK515の下位
SK0520	B	SK148	46	残30	16	楕円形	U字形	黒褐色シルト質砂に炭化物混		
SK0521	B	SK106	58	26	10	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物多量混	中世1	
SK0522	B	SK146	40	30	11	楕円形	U字形	黒褐色?オリーブ褐色砂質シルト斑土に炭混	中世1	
SK0523	B	SK120	33	24	6	楕円形	U字形	黒褐色粘質シルト		SK515の下位
SK0524	B	SK246	25	20	7	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土		
SK0525	B	SK247	26	18	7	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土		
SK0526	B	SK164	36	36	10	円形	U字形	黒褐色シルト	中世1	
SK0527	B	SK383	19	16	8	楕円形	箱形	黒褐色シルト		
SK0528	B	SK253	111	残73	20	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	土師2	
SK0529	B	SK248	23	23	8	円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土		
SK0530	B	SK144	31	29	16	楕円形	U字形	オリーブ褐色シルト質砂に炭化物混		SK532に切られる
SK0531	B	SK249	残32	26	12	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	土師3	
SK0532	B	SK142	残65	46	29	楕円形	V字形	黒褐色砂質シルト	293中世3	
SK0533	B	SK356	45	34	57	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0534	B	SK355	30	残21	25	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0535	B	SK250	51	22	7	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混		
SK0536	B	SK255	38	残35	9	楕円形	U字形	不明	土師2	
SK0537	B	SK256	残46	26	23	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト		
SK0538	B	SK251	65	37	32	楕円形	箱形	灰オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土に炭混		
SK0539	B	SK252	52	43	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	土師4	
SK0540	B	SK254	残40	33	20	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0541	B	SK257	79	40	12	楕円形	U字形	灰オリーブ色?黒褐色砂質シルト斑土に炭混		
SK0542	B	SK385	66	37	6	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト		
SK0543	B	SK258	66	28	24	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混	中世2	
SK0544	B	SK259	46	35	4	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0545	B	SK262	45	38	10	楕円形	U字形	暗灰黄色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0546	B	SK307	64	38	11	楕円形	皿形	黒褐色?灰オリーブ色シルト質砂斑土	不明2	
SK0547	B	SK319	15	11	7	楕円形	箱形	不明		
SK0548	B	SK318	15	9	8	楕円形	U状	不明		
SK0549	B	SK317	10	9	12	楕円形	U状	不明		
SK0550	B	SK316	11	10	18	楕円形	箱形	不明		
SK0551	B	SK260	47	28	9	楕円形	V字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土	中世1	
SK0552	B	SK306	75	52	24	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリーブ色シルト質砂斑土	中世2不明1	
SK0553	B	SK261	113	残100	14	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリーブ色砂質シルト斑土		
SK0554	B	SK275	23	21	20	楕円形	箱形	黄灰色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土	中世3	
SK0555	B	SK302	残137	60	24	不明	U字形	黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト斑土	中世1	
SK0556	B	SK273	30	27	11	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0557	B	SK274	48	37	10	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト		
SK0558	B	SK128	240	220	80	円形	箱形	本文参照	須恵1中世9	
SK0559	B	SK113	460	290	4	長方形	皿形	黄褐色砂礫	294~298灰軸1不明1	山茶碗
SK0560	B	SD75	残262	67	6		U字形	黒褐色シルト質砂		
SK0561	B	SK98b	194	76	26	不定形		不明		
SK0562	B	SD36	残116	残62				黒褐色シルトに細粒砂混	土師3中世9	
SK0563	B	SK20	220	残142	16	四角形	箱形	黒褐色砂質シルト+暗オリーブ色粗粒砂斑土		SD55に切られる
SK0564	B	SK478	43	27	8	楕円形	V字形	暗灰黄色シルト+灰オリーブ色砂斑土		
SK0565	B	SK479	33	32	11	円形	箱形	オリーブ黒色砂質シルト	中世1	
SK0566	B	SK22	33	27	9	楕円形	箱形	オリーブ黒色シルトに灰オリーブ色細粒砂混		
SK0567	B	SK21	33	27	5	楕円形	箱形	暗灰黄色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0568	B	SK487	43	25	4	楕円形	箱形	暗灰黄色シルト+灰オリーブ色細粒砂斑土		
SK0569	B	SK17a	156	109	16	楕円形	皿形	不明		

遺構一覧表(12)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	埋土	遺物	備考
SK0570	B	SK143	残40	35	11	楕円形	U字形	オリブ褐色砂質シルトに炭化物混		
SK0571	B	SK140	33	26	7	楕円形	箱形	黒褐色?暗灰黄色砂質シルト斑土		
SK0572	B	SK141	残30	23	10	楕円形	U字形	黒褐色シルト質砂		
SK0573	B	SK162	19	18	19	楕円形	箱形	黒褐色シルト		SK574下部
SK0574	B	SK133	80	30	28	楕円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土に炭混	中世5	
SK0575	B	SK134	58	27	18	楕円形	V字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土		
SK0576	B	SK163	25	25	33	円形	V字形	黒褐色シルトに炭化物混		SK577下部
SK0577	B	SK135	71	32	11	楕円形	U字形	暗灰黄色砂質シルト+灰オリブ色シルト	299中世2	
SK0578	B	SK132	40	30	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	300中世1	
SK0579	B	SK130	31	25	9	楕円形	皿形	黒褐色シルト質砂		
SK0580	B	SK137	25	25	5	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	土師1	
SK0581	B	SK131	27	25	16	楕円形	V字形	暗灰黄色砂質シルト		
SK0582	B	SK136	58	31	37	楕円形	U字形	暗灰黄色砂質シルトに炭化物混		
SK0583	B	SK138	35	26	10	楕円形	U字形	灰オリブ色砂質シルト		
SK0584	B	SK79						黒褐色砂質シルト	中世2	
SK0585	B	SK139	33	33	8	円形	U字形	黒褐色?暗灰黄色砂質シルト斑土		
SK0586	B	SK483	34	33	10	円形	U字形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土に礫混		
SK0587	B	SK482	48	31	16	楕円形	箱形	黒褐色?灰オリブ色砂質シルト斑土に礫混		
SK0588	B	SK481	残121	82	9	楕円形	皿形	黒褐色シルトに1?2 ^{mm} 大の小礫混		
SK0589	B	SK114	583	313	24	不定形	皿形	にぶい黄褐色粗粒砂	301土師2中世2	
SK0590	B	SK121	94	73	51	楕円形		不明	302~304中世3不明1	常滑羽釜、須恵器
SK0591	B	SK485	304	198	50	楕円形	箱形	粗粒砂		
SK0592	B	SK19	52	42	6	楕円形	箱形	不明粘土		
SK0593	B	SK18	残160	162	3	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+暗オリブ色粗粒砂斑土	305中世5	SD57に切られる
SK0594	B	SK98a	63	49	10	楕円形	箱形	橙色粗粒砂?礫		
SK0595	B	SK97	118	残67	25	楕円形	U字形	橙色粗粒砂?礫		
SK0596	B	SK489	102	68	10	不定形	皿形	暗灰黄色シルト+にぶい黄褐色中粒砂斑土		
SK0597	B	SK63	330	196	17	長方形	皿形	黒色シルト+暗オリブ色中粒砂斑土		
SK0598	B	SK100	110	残60	37	楕円形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰オリブ色シルト斑土		
SK0599	B	SK99	残120	106	20	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+灰オリブ色シルト斑土	土師1	
SK0600	B	SK92	57	47	5	楕円形	皿形	灰オリブ色砂質シルト+黒褐色シルト斑土		
SK0601								不明		
SK0602								不明		
SK0603	B	SK96	86	29	6	長方形	U字形	黒褐色粘質シルト		
SK0604								不明		
SK0605	B	SK111	89	87	19	不定形		不明		
SK0606	B	SK90	78	70	8	楕円形	皿形	灰オリブ色シルト+黒褐色砂質シルト斑土		
SK0607	B	SK91	68	58	8	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト+黒色シルト斑土に炭混		
SK0608	C	SK01						不明	須恵1	
SK0609	C	SK17a	残52	45	9	楕円形		不明	土師1中世2不明2	SD121に切られる
SK0610	B	SK93	残346	残161	12	不定形	皿形	黒褐色砂質シルトに炭化物混		
SK0611	C	SK22	267	183	45	楕円形		不明	戦国2近世1	
SK0612	C	SK25	229	199	37	不定形		不明		
SK0613	C	SK24	283	78	46	長方形		不明	306土師1	
SK0614	C	SK23	249	137	63	不定形		不明		
SK0615	C	SK26	108	62	14	楕円形		不明		SK616に切れ、SD120を切る
SK0616	C	SK27	114	98	23	楕円形		不明		SK615、SD120を切る
SK0617	C	SK20	252	142	42	不定形		不明	中世1	
SK0618	C	SK21	268	126	57	不定形		不明		
SK0619	C	SK14	31	22	7	楕円形		不明		
SK0620	C	SK13	31	19	3	楕円形		不明		
SK0621	C	SK15	20	15	11	楕円形		不明		
SK0622	C	SK06	168	53	9	楕円形		不明		
SK0623	C	SK05	174	77	13	楕円形		不明		SD129を切る
SK0624	C	SK02	135	113	35	長方形		不明	307~309中世1	SD129を切る
SK0625	C	SK07	215	139	6	長方形		不明		
SK0626	C	SK17b	147	45	7	楕円形		不明		SD89.134を切る
SK0627	C	SK11	25	24	7	円形		不明		
SK0628	C	SK10	31	24	7			不明		SD136を切る
SK0629	C	SK08	69	51	11	長方形		不明	土師2須恵2中世2	
SK0630	C	SK18	137	39	6	楕円形		不明		
SK0631	C	SK19	78	残41	32	楕円形		不明		SD136に切られる
SK0632	C	SD03	残86	42	8			不明	灰釉1	SD137に切られる
SK0633	C	SK01	289	残109	27	楕円形		不明	須恵1	SD89.134.136を切る
SK1023	C	SK509	112	101	13	不定形		不明	土師1	
SK1024	C	SK507	153	74		不定形		不明	土師10	
SK1025	C	SK552	66	36	10	楕円形		不明		SD1013,1014を切る
SK1026	C	SK510	39	31	10	楕円形		不明	土師3	
SK1027	C	SK511	113	残94	13	不定形		不明	土師2	SD1014に切られる
SK1028	C	SK508	130	70	21	楕円形		不明	土師8	

天神前遺跡

遺構一覧表(13)

新遺構番号	区	旧遺構番号	長 軸	短 軸	深さ	平面形	断面形	埋 土	遺 物	備 考
SK1029	C	SK506	127	54	22	楕円形		不明	土師2須恵1	
SK1030	C	SK551	62	51	20	楕円形		不明		
SK1031	C	SK550	48	27	15	楕円形		不明		
Sk1032	C	SK512	112	58	13	不定形		不明	土師26	
SK1033	C	SK525	53	39	9	不定形		不明		
SK1034	C	SK547	22	19		長方形		不明		
SK1035	C	SK548	28	24	3	長方形		不明		
SK1036	C	SK546	32	22	4	楕円形		不明		
SK1037	C	SK549	23	15	9	楕円形		不明		
SK1038	C	SK543	30	24	5	楕円形		不明		
SK1039	C	SK539	23	21	9	楕円形		不明		
SK1040	C	SK544	34	32	7	円形		不明		
SK1041	C	SK545	18	17	8	円形		不明		
SK1042	C	SK541	87	55	19	楕円形		不明		
SK1043	C	SK540	32	22	15	楕円形		不明		
SK1044	C	SK542	22	21	6	円形		不明		
SK1045	C	SK532	56	33	18	楕円形		不明		
SK1046	C	SK504	29	24	10	楕円形		不明	土師1	
SK1047	C	SK538	32	19	12	楕円形		不明		
SK1048	C	SK537	21	19	2	円形		不明		
SK1049	C	SK503	35	23	8	楕円形		不明	土師1	
SK1050	C	SK533	146	64	6	楕円形		不明		SK1054を切る
SK1051	C	SK531	22	17	3	楕円形		不明		
SK1052	C	SK530	21	16	6	楕円形		不明		
SK1053	C	SK536	25	19	4	楕円形		不明		
SK1054	C	SK534	残106	67	7	楕円形		不明		SK1050に切られる
SK1055	C	SK502	111	46	15	楕円形		不明		
SK1056	C	SK535	31	22	10	楕円形		不明		
SK1057	C	SK529	18	17	7	円形		不明		
SK1058	C	SK528	38	19	4	楕円形		不明		
SK1059	C	SK527	残39	残24	6	楕円形		不明		
SK1060	C	SK526	26	23	2	楕円形		不明		
SK1061	C	SK505	172	49	9	不定形		不明	土師1	
SK1062	C	SK522	97	69		楕円形		不明		
SK1063	C	SK521	84	53		不定形		不明		
SK1064	C	SK520	42	40	8	円形		不明		
SK1065	C	SK519	36	21		楕円形		不明		SK1066に切られる
SK1066	C	SK518	79	56		楕円形		不明		SK1065を切る
SK1067	C	SK517	140	66	6	楕円形		不明		SD1019を切る
SK1068	C	SK501	68	49	4	長方形		不明	土師3須恵1	SD1022を切る
SK1069	C	SK523	245	222	76	楕円形		不明		
SK1070	C	SK515	118	91	17	不定形		不明	30~31	
SK1071	C	SK516	81	48		楕円形		不明	土師2	
SK1072	C	SK514	319	249	31	不定形		不明	28~29	
SK1074	C	SK524	76	63		楕円形		不明		
SK1075	C	SK513	301	144	20	不定形		不明	土師2須恵2灰釉4	
SK1076	C	SD511	残338	172	21			不明	40土師1須恵9	
ST1001	B	ST514	残541	残538	3			不明		
ST1002	B	ST511	766	残273	6			不明		
ST1003	B	ST515	1051	583	16			不明		
ST1004	B	ST517	346	292	9			不明		
ST1005	B	ST512	364	251	1			不明		
ST1006	B	ST510	426	292	9			不明		
ST1007	B	ST516	残354	残262	2			不明		
ST1008	B	ST513	899	892	10			不明		
ST1009	B	ST505	残358	残264				不明		
ST1010	B	ST502	526	残323	10			不明		
ST1012	B	ST507	467	365				不明		
ST1013	B	ST506	447	338	5			不明		
ST1014	B	ST503	残468	413	8			不明		
ST1015	B	ST501	残191	残107	7			不明		
ST1016	B	ST509	残356	残247	4			不明		
ST1017	B	ST508	残401	残294	5			不明		
ST1018	B	ST504	残151	残61				不明		
SX0001										
SX0002	B	SX11						黒色シルト	土師1中世11不明1	
SX0003	B	SX13						黒褐色砂質シルト	中世2049その他1039	
SX0004	B	SX06						黒褐色シルト		
SX0005	B	SX08						黒色シルト	土師5中世6不明39	SX06の下部に
SX0006	B	SX06						黒褐色シルト	317~335中世1917その他918	
SX0007	B	SX07					皿形	黒色シルト+灰色砂質シルト斑土に細粒砂混	355	
SX0008	B	SX02						黒色シルトに細粒砂混		
SX0009										
SX0010	B	SX04						灰色細粒砂+オリーブ黒色シルト斑土		

遺構一覧表(14)

付表

新遺構番号	区	旧遺構番号	長 軸	短 軸	深さ	平面形	断面形	埋 土	遺 物	備 考
SX0011	B	SX09						黒褐色シルト	336~354中世205その他40	別セクション図
SX0012	B	SD06	残1727	448	11			黒褐色砂質シルト	356~364土師10須恵3中世72	
SX0013	B	SD01	残862	残228	30		U字形	黒色シルト+黒褐色?褐色砂質シルト斑土	365~372土師7須恵2中世41	
SX0013	B	SX01						黒褐色砂質シルトに細粒砂混		
SX0014										
SX1004	B	大畦畔	残819	227	8	不定形		不明		

天神前遺跡

遺物一覧表(1)

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
1	SB1001	98B	SB501	土師器	甗		残20.6	4.8	ヘラケズリ、指オサエ、焦げ付着	ヨコナデ、タテハケ、ヘラケズリ、スス付着	にぶい橙色		43
2	SB1001	98B	SU501	土師器	直口壺	11.0	14.0		ヨコナデ、ハケ、指オサエ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、ケズリ、焼成後穿孔、スス付着	にぶい橙色	甗に転用	2
3	SB1001	98B	SU501	土師器	平底甗		残1.2	6.3	スス付着、ケズリと指オサエ	ハケ状ケズリ、ヘラケズリ	にぶい黄橙色		1
4	SB1001	98B	SU501	土師器	直口壺		残		焦げ付着、ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、底部ケズリ、スス付着、	にぶい褐色		22
5	SU1001	98B	SU501	土師器	高杯		残7.1	14.0	シボリ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	浅黄褐色		1
6	SU1001	98B	SB501	土師器	小型壺	推9.2	残9.1		ヨコナデ、指オサエ、ハ	ナデ、ケズリ、黒斑	にぶい橙色		5
7	SU1001	98B	SU501	土師器	壺		残9.6	4.0	ハケまたはケズリ	ナデまたはハケ状のケズリ、ヘラケズリ、黒斑	にぶい橙色		15
8	SU1001	98B	SU501	土師器	小型壺	推6.6	6.8	3.8	ナデ、指オサエ	ナデ、無調整、黒斑	褐灰色		8
9	SU1001	98B	SB501	土師器	甗	12.3	14.8		ナデ、指オサエ、こげ付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着			36
10	SD1007	98B	SD504	土師器	台付甗	推15.7	残30.2		ヨコナデ、ハケまたはヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ミガキ?、黒斑、沈線による施文、スス付着	灰白色		65
11	SD1006	98B	SD501	土師器	高杯	推17.0	残4.1		ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	橙色		6
12	SD1006	98B	SD501	土師器	台付甗		残4.4	推12.4	ヘラケズリ、ハケ+ヘラケズリ	指オサエ、ヨコナデ	灰白色		3
13	SD1008	98B	SD502	土師器	甗	推16.8	残2.6		ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	にぶい黄橙色		1
14	SD1008	98B	SD502	土師器	甗	推13.0	残5.1		ヨコナデ、指オサエ、ケ	スス付着、ヨコナデ	灰白色		1
15	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯	推15.2	残6.1		ヨコナデ、タテハケ	ヨコナデ、指オサエとナデ、焦げ付着	浅黄褐色		2
16	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯	推15.0	残3.2		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
17	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯か杯	推14.6	残3.7		ヨコナデ	ヨコナデ、被熱痕あり	灰白色? にぶい橙色		6
18	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯か杯	推14.0	残5.0		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
19	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残8.1		若干のスス、しぼり、ヨコナデ	調整痕不明	灰白色		8
20	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残8.6		ナデ?	ヨコナデ、タテ方向ケズリか?、若干の被熱痕、ヨコナデ	灰白色		12
21	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残1.8	推10.4	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色? 橙色		1
22	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯	推19.6	残3.8		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい赤褐色		1
23	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯		残9.9	12.6	ヨコナデ、縦指ナデ	スス少付着、板ナデ?、ヨコナデ	にぶい橙色		7
24	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯		残4.6		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい褐色		1
25	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯		残8.7	推11.6	ヘラケズリ	ナデか?	灰白色		6
26	SD1001	98A	SD504	土師器	小型壺	10.0	残13.3		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ、スス付着、黒斑、被熱痕	にぶい橙色		32
27	SD1003	98A	SD501	土師器	有孔杯?	推10.2	5.2	推4.0	指ナデとケズリ	孔、指オサエ、ケズリ	淡黄色		2
28	SK1072	98C	SK514	須恵器	碗A?	推11.8	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色	0-10号窯式	3
29	SK1072	98C	SK514	土師器	甗	推17.6	残2.9		ナデ、ヘラケズリ	ナデ、少スス付着	にぶい褐色		1
30	SK1070	98C	SK515	須恵器	杯身B		残1.2	推10.8	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、回転糸切痕	青黒色	0-10号窯式	1
31	SK1070	98C	SK515	土師器	甗		残2.0		ナデ、スス付着	ナデ、あらいハケ	灰褐色		1
32	SD1013	98C	SD503	土師器	甗		残3.3		ハケ	ナデ	橙色		2
33	SD1013	98C	SD503	土師器	高杯?	推13.6	残3.1		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色		1
34	SD1014	98C	SD504	土師器	高杯	推13.8	残3.8		調整痕不明	ヨコナデ	浅黄褐色		3
35	SD1014	98B	SD504	土師器	高杯		残8.4		脚ヘラケズリ	指オサエ、ナデ、黒斑、被熱痕	浅黄褐色		1
36	SD1017	98C	SD507	須恵器	杯蓋	推14.0	残2.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	H-11号窯式	1
37	SD1017	98C	SD507	須恵器	碗A	推14.0	残3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	橙色	0-10号窯式	3
38	SD1017	98C	SK507	土師器	高杯		残2.5	推20.8	ハケ	ナデ	にぶい黄橙色		1
39	SD1012	98C	SD509	須恵器	杯蓋	推17.8	残1.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	0-10号窯式	1
40	SK1076	98C	SD511	土師器	台付甗		残5.0	8.0	ケズリ、脚ヘラケズリ、タテ方向ナデ	ヘラケズリ(タタキ?)、黒斑、被熱痕	にぶい赤褐色		1
41	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甗	12.6	残24.1		ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、黒斑、スス付着	にぶい黄橙色		111
42	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甗	推17.8	推28.6	7.2	ヘラケズリ(下からはねあげる)、焦げ付着	ヨコナデ、一部ヘラケズリ、スス付着、部分的に被熱し赤色化	灰白色? 黄灰色		23

遺物一覧表(2)

付表

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
43	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	16.1	32.3		ヨコナデ、板ナデ、指オサエ、焦げ付着、板ナ	ヨコナデ、ヘラケズリ、スス付着	淡黄色		79
44	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	14.4	残22.9		ハケ、ケズリ	ナデ、指オサエ、ハケ目、スス付着			65
45	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	15.8	残10.8		ヨコナデ、ミガキのようなヘラケズリ?	ヨコナデ、指オサエのちケズリ?、スス付着	にぶい黄橙色? 灰黄褐色		17
46	包含層	98A	掘り下	土師器	台付甕		残24.7		ヘラケズリ、指オサエ	ヘラケズリ、一部スス付着	にぶい橙色		29
47	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕		残18.2	6.6	ヘラケズリ、ハケ	ヘラケズリ、黒斑	にぶい黄橙色		40
48	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	推16.6	残4.1		ヨコナデ、一部剥離	ヨコナデ、破損後ススける	にぶい黄橙色		5
49	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	推16.4	残4.7		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指オサエとケズリ	にぶい黄橙色		6
50	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	推22.0	残3.0		ヨコハケ	ヨコナデ、スス付着	にぶい黄橙色		1
51	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	推11.4	残7.3		ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ、黒斑あり	灰白色? 褐灰色		4
52	包含層	98A	掘り下げ	土師器	甕	推16.2	残3.7		スス付着	ヨコナデ	にぶい黄橙色		1
53	包含層	98A	掘り下	土師器	甕	推15.4	残4.0		ヨコハケ	ヨコナデ	灰白色		1
54	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	14.8	残4.9		ヨコナデ、ヨコハケ、指オサエ	ヨコナデ、タテハケ、スス付着	灰白色		
55	包含層	98A	掘り下	土師器	台付甕?		残3.9	推6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	浅黄色		7
56	包含層	98A	掘り下げ	土師器	高杯	推12.3	14.3	18.2	ヨコナデ、脚ヘラケズリ、ヨコナデ、黒斑、ミ	ヨコナデ、タテ方向ナデ	灰白色		21
57	包含層	98A	掘り下	土師器	高杯	17.5	残7.4		ハケ、脚ヘラケズリ	板ナデ、指オサエ	灰白色		9
58	包含層	98A	掘り下げ	土師器	高杯		残4.5		ヨコナデ	タテハケのちヨコナデ	にぶい黄橙色		2
59	包含層	98A	掘り下げ	土師器	高杯	推17.6	残7.7		ヨコナデ、工具によるナデまたはケズリ	ヨコナデ、指オサエのちタテ方向ハケ	にぶい黄橙色		2
60	包含層	98A	掘り下	土師器	高杯	推16.4	残6.1		ヨコナデ	ナデ、指オサエ、黒斑	にぶい橙色		18
61	包含層	98A	掘り下げ	土師器	高杯		残4.5		調整不明、脚ヘラケズリ	ヨコナデ、一部ハケ、被熱痕	浅黄橙色? にぶい橙色		2
62	包含層	98A	検?	土師器	高杯	推15.6	残5.1		ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、被熱痕	にぶい橙色		7
63	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯	推13.0	残4.4		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色		1
64	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残3.3		ナデ?	ナデ?	浅黄橙色		1
65	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残4.3		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色		1
66	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯		残4.5		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、黒斑	灰黄褐色		5
67	包含層	98A		土師器	高杯		残8.7	推13.8	しぼり、ケズリ?、ヨコナデ	ケズリ?、ヨコナデ、一部スス付着	灰白色		3
68	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯脚		残5.8	推12.8	ヘラケズリ、ヨコナデ	タテ方向ナデ、ヨコナデ	灰褐色		1
69	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残10.0	13.5	ヘラケズリ、黒斑あり	指オサエのちナデ、ヨコナ	灰黄色		14
70	包含層	98A	掘り下	土師器	高杯		残8.7	推13.4	ヨコヘラケズリ、ヨコナ	ヨコナデ	灰白色		2
71	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残7.3		シボリ、ヘラケズリ	磨滅する、調整不明	灰白色		6
72	包含層	98A	掘り下	土師器	高杯		残8.3		ヘラケズリ	磨滅、調整不明、被熱痕	淡橙色		9
73	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残6.8		ヨコヘラケズリ、ナデ?	ナデ+工具あて痕	灰白色		6
74	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残4.3	13.0	ヘラケズリ、ナデ	タテ方向ケズリ、ヨコナデ	にぶい褐色		6
75	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯脚		残2.0	推17.0	ヘラケズリ、ヨコハケ	ヨコナデ?	灰白色		2
76	包含層	98A		土師器	壺	12.3	15.5	推4.0	ヨコナデ、ヘラケズリ、スス付着	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、スス付着	灰白色		62
77	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型壺	推8.4	9.4	4.8	ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、黒斑	灰白色		4
78	包含層	98A	掘り下げ	土師器	小型壺	8.4	8.8	5.6	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、ケズリ、黒斑あり	にぶい黄褐色		13
79	包含層	98A	掘り下げ	土師器	小型壺	8.8	7.9	3.8	ヨコナデ、ヨコハケ、指ナデ、スス付着	ヨコナデ、ヘラケズリ、黒斑	にぶい褐色		1
80	包含層	98A	掘り下げ	土師器	小型壺	9.4	7.7		ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、ヨコヘラケズリ、スス付着	にぶい黄褐色		1
81	包含層	98A	掘り下	土師器	小型壺	推7.8	残4.6		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ?	にぶい橙色		1
82	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型壺	推7.8	残5.5		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	灰色		1
83	包含層	98A	表土剥き	土師器	小型壺		残7.0	4.4	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	ヘラケズリ、指オサエ、スス付着	暗赤褐色		9
84	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型壺		残4.1	3.0	指ナデ	指オサエのち板状工具のケズリ、黒斑	にぶい黄褐色		2
85	包含層	98A	掘り下	土師器	小型壺	推10.0	残5.0		ヨコナデ、イキ	ヨコナデ、被熱痕	浅黄褐色		2
86	包含層	98A	掘り下げ	土師器	小型壺	推7.0	残5.8		ヨコナデ、指オサエ	ヨコハケ、ヨコナデ、指オサエとヘラケズリ、黒斑	褐灰色		3
87	包含層	98A	掘り下	土師器	小型壺	推10.2	残4.3		ヨコナデ	ヨコナデ、被熱痕	明褐灰色		6
88	包含層	98A	掘り下げ	土師器	小型壺		残5.7		ヨコナデ、指ナデ	指オサエ、ヘラケズリ、黒斑あり	にぶい黄褐色		1
89	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型壺		残3.2	4.6	ナデ	板ナデ、外面黒色化する	にぶい黄褐色		4
90	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	推6.9	残3.5		ヨコハケ、ヘラケズリ	ヨコナデ、スス付着	にぶい褐色		2

天神前遺跡

遺物一覧表(3)

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
91	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型壺	推12.0	残4.2		ヨコナデ	ヨコナデ?	にぶい黄橙色		1
92	包含層	98A	掘り下	土師器	鉢	推16.0	残5.4		ケズリ	不明、一部ケズリ	灰白色		7
93	包含層	98A	検?	土師器	甗		残7.4	5.0	ヘラケズリ、焦げ	ヘラケズリ、黒斑、スス付着	にぶい黄橙色		3
94	包含層	98A	掘り下	土師器	小型壺	推8.5	残6.2		ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ	灰白色		3
95	包含層	98A	トレンチ	土師器	鉢	13.8	9.1		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指オサエ荒く残る、ケズリ、黒斑	にぶい橙色		23
96	包含層	98A	掘り下げ	須恵器	杯蓋	12.4	5.9		ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、焼成前刻書あり	灰色	H-11号窯式	7
97	包含層	98A	表土剥ぎ	須恵器	杯蓋	推14.0	5.0		ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	明青灰色	H-61号窯式	2
98	包含層	98B	トレンチ	土師器	甗	推13.6	残8.4		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ、スス付着	にぶい赤褐色		6
99	包含層	98B	検?	土師器	甗	推17.8	残4.1		ヨコナデ、イキ	ヨコナデ、スス付着	灰白色		1
100	包含層	98B	トレンチ	土師器	甗	14.0	残4.0		ハケ、ヘラケズリ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙色		7
101	包含層	98B	トレンチ	土師器	甗	推17.6	残4.4		口縁部ツマミアゲ、ハケ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ、スス付着	浅黄褐色		3
102	包含層	98B	トレンチ	土師器	小型壺	11.0	残2.7		ハケ	ナデ、一部スス付着	浅黄褐色		4
103	包含層	98B	トレンチ	土師器	高杯	推21.2	残4.9		ヨコナデ、表面が著しく剥離している	ヨコナデ、黒斑	にぶい橙色		2
104	包含層	98B	検?	土師器	高杯	推20.0	残4.6		ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	橙色		1
105	包含層	98B	トレンチ	土師器	高杯	推18.0	残5.6		スス付着、ナデ	スス付着、ヨコナデ、指オサエ	浅黄褐色		4
106	包含層	98B	検?	土師器	高杯	推16.2	残4.0		ヨコナデ	指オサエとナデ	にぶい黄褐色		1
107	包含層	98B	検?	土師器	高杯		残8.9		ナデ、ヨコナデ	タテヘラケズリか?、被熱	にぶい橙色		1
108	包含層	98B	トレンチ	土師器	高杯		残0.9	推11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
109	包含層	98B	検?	土師器	小型壺	推9.0	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色		1
110	包含層	98B	検?	土師器	小型壺	推11.1	残4.1		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	にぶい橙色		1
111	包含層	98B	検?	土師器	壺?	推11.6	残5.7		ヨコナデ、ハケ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、ハケ、黒斑	にぶい黄褐色		1
112	包含層	98B	検?	土師器	壺		残5.8	5.0	ハケ、ケズリ	指オサエ、調整不明、黒斑	灰白色		9
113	包含層	98B	トレンチ	土師器	甗	推14.0	残4.0		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、スス付着	にぶい赤褐色		3
114	包含層	98B	トレンチ	土師器	柳ヶ坪型壺	18.4	残5.3		刺突文	ナデ、刺突文	浅黄褐色		5
115	包含層	98B	トレンチ	須恵器	杯蓋	11.9	残4.4		ヨコナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	褐色? 灰黄褐色	H-11号窯式	3
116	包含層	98B	トレンチ	須恵器	杯蓋	推14.0	残3.3		ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	褐色	H-61号窯式	2
117	NR1001	98C	NR01	土師器	台付甗	推17.5	残33.0		ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、ハケ、こげ付着	ヨコナデ、スス付着、指オサエまたはナデのち一部ヘラケズリ、スス付着	にぶい褐色		104
118	包含層	98C	掘り下	土師器	甗	推18.8	残6.4		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、被熱痕	にぶい橙色		4
119	包含層	98C	掘り下げ	土師器	甗	推15.6	残6.5		ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ヨコヘラケズリ、被熱痕	にぶい橙色		4
120	包含層	98C	検?	土師器	甗	推17.0	残6.0		ヨコナデ、ハケ	スス付着、ヨコナデ	にぶい黄褐色		4
121	包含層	98C	表土	土師器	甗	推15.6	残5.0		ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、スス付着	にぶい黄褐色		1
122	包含層	98C	南壁	土師器	台付甗		残4.3	推11.0	指オサエ、ナデ	ナデ	明黄褐色		1
123	包含層	98C	掘り下	土師器	甗		残3.3	6.7	ハケ、焦げ付着	指オサエ、ナデ、スス付着	橙色		1
124	包含層	98C	南壁	土師器	高杯		残6.9		ヘラケズリ	タテヘラケズリ?	にぶい黄褐色		1
125	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	推17.2	5.6	7.6	ヨコナデ、磨滅	ヨコナデ、磨滅、黒斑、回転系切痕	灰白色	第5型式	1
126	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	推16.2	5.5	7.4	ヨコナデ、自然釉、磨滅	ヨコナデ、一部にスス付着、回転系切痕	灰白色	第3型式	3
127	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	推15.4	5.5	推7.4	自然釉、重ね焼き痕、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	灰白色	第5型式	2
128	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	推16.8	残4.3		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	灰白色	第4?5型式	1
129	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.5	8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	明褐色	第4型式	1
130	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残4.0	7.6? 8.0	自然釉、磨滅、スス付着、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第5型式	1
131	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残4.8	推7.8	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	灰白色	第4型式	1
132	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.2	6.8? 7.6	ヨコナデ、磨滅	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第5型式	2
133	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.9	8.0	ヨコナデ、磨滅	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第5型式	1
134	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残4.0	7.2? 7.5	ヨコナデ、磨滅、自然釉	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	黄灰色	第5型式	1
135	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.4	推7.8	自然釉、重ね焼き痕、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第5型式	1

遺物一覧表(4)

付表

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
136	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.4	7.5	ヨコナデ、自然釉、重ね焼き痕	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	にぶい黄橙色	東濃か？第3型式	1
137	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.1	推8.0	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
138	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残4.0	推7.2	ヨコナデ	ヨコナデ、一部スス附着	灰白色	第5型式	1
139	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.1	推8.4	ヨコナデ磨滅	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	灰白色	第4型式	1
140	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.5	推6.4	内面に刻線状の失敗痕あり、重ね焼き痕、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
141	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.2	重ね焼き痕、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
142	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.7	推7.0	ヨコナデ、磨滅	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
143	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.2	推8.0	ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	東濃か？第3か4型式	1
144	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.6	重ね焼き痕、自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
145	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.6		重ね焼き痕、自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	褐色	第4か5型式	1
146	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.8	重ね焼き痕、スス附着、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	灰白色？褐色	第4か5型式	1
147	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残3.0	6.8	重ね焼き痕、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
148	SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗		残2.6	推9.2	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
149	SE01	98B	SK171	尾張型	小皿		残2.5	5.6	ヨコナデ、重ね焼き痕、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第3型式	1
150	SE01	98B	SK171	尾張型	小皿	推9.8	3.3	推5.6	ヨコナデ、自然釉	自然釉、ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第3型式	1
151	SE01	98B	SK171	尾張型	鉢	27.3	10.9	13.5	灰釉、ヨコナデ	灰釉（自然釉？）、ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙色	第4型式	6
152	SE01	98B	SK171	常滑	羽釜	推24.4	残8.3		ヘラケズリ、指オサエ、黒色化	ヨコナデまたは指オサエ	褐色		1
153	SE01	98B	SK171	常滑	鍋	推30.6	残9.6		ヨコナデ	ケズリまたは指オサエ、スス附着	にぶい褐色		1
154	SE01	98B	SK171	土師器	伊勢型鍋	推24.8	残8.9		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指オサエ、わずかにスス附着	淡黄色		4
155	SE01	98B	SK171	土師器	皿		残2.8	7.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、表面は黒色となる	褐色	ロクロ調整	1
156	SE01	98B	SK171	土師器	皿			4.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	ロクロ調	1
157	SE01	98B	SK171	常滑	鍋		残7.4		ヨコナデ、ヘラケズリ	指オサエを全体、スス附着	灰褐色		1
158	SE02	98C	SK16	尾張型	山茶碗		残2.5	7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
159	SE02	98C	SK16	須恵器？	小型壺	推10.0	残4.3		ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	褐色		1
160	SD02	98A	SD41	尾張型	山茶碗		残2.5	推7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
161	SD03	98A	SD42	土師器	小型壺		残5.6	推5.8	ヘラケズリ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、一部スス附着、ヘラケズリ	にぶい橙色		1
162	SD03	98A	SD42	尾張型	山茶碗		残4.2	4.3	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
163	SD08	98A	SD16	須恵器	杯身		残1.5		ナデ	ナデ	灰白色	H-50号窯式	1
164	SD20	98A	SD15	尾張型	小皿	推10.0	残1.7		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	知多第4か5型式	1
165	SD20	98A	SD15	尾張型	山茶碗		残1.9	推7.8	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕	灰色	第5型式	1
166	SD23	98A	SD27	尾張型	山茶碗		残2.0	推8.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第3型式	1
167	SD28	98A	SD31	尾張型	片口鉢		残3.3		ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	褐色	第5型式	1
168	SD35	98A	SD32	灰釉	碗		残1.8	推7.2	ナデ	ナデ、糸切？	灰白色	K-90号窯式	1
169	SD35	98A	SD32	灰釉	碗		残5.3	推7.0	灰釉	灰釉、回転糸切痕	灰白色	大原2号窯式	1
170	SD35	98A	SD32	尾張型	山茶碗	推14.0	残3.2		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第4型式	1
171	SD38	98A	SD05	尾張型	小皿	7.4	1.8	4.5	ヨコナデ、一方向ナデ（ロシ）あり	ナデ、ヨコナデ、回転糸切のち板状圧痕	灰白色	瀬戸第6型式	3
172	SD42	98A	SD35	尾張型	山茶碗		残2.3	8.6	輪トチン痕、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第4型式	1
173	SD44	98A	SD41	尾張型	山茶碗		残2.7		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	98A-101と同一個体か、第4型式	1
174	SD45	98A	SD08	尾張型	小皿	7.9	2.0	4.4	ヨコナデ、全面自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	知多第6型式	1
175	SD51	98A	SD07	尾張型	山茶碗	推16.0	4.4	7.8	ヨコナデ、自然釉若干	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	知多第5型式	1
176	SD51	98A	SD07	尾張型	山茶碗	15.8	5.5	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切、板状圧痕	灰白色	知多第5型式	1
177	SD52	98A	SD09	尾張型	山茶碗		残2.1	推8.8	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	にぶい黄橙色	知多第5型式	1
178	SD55	98B	SD83	尾張型	山茶碗		残2.2	推6.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1

天神前遺跡

遺物一覧表(5)

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
179	SD55	98B	SD05	尾張型	山茶碗		残1.8	7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色		1
180	SD55	98B	SD05	尾張型	小皿	推6.7	1.5	推4.4	全面自然釉	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	第7か8型式	1
181	SD55	98C	SD09	須恵器	杯身		残3.0		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	緑灰色	I-41号窯	1
182	SD55	98C	SD09	須恵器	杯身A	推13.4	10.4	推4.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰色	0-10号窯式	3
183	SD55	98C	SD09	須恵器	フラスコ形壺		残9.7		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	7世紀後	1
184	SD57	98B	SD03	中世瓦	平瓦		巾12.4	厚1.8	布目→ヘラケズリ	コビキA→砂目	灰白色		1
185	SD57	98B	SD03	中世瓦	丸瓦	残長7.2	残巾7.4	厚2.3	丁寧なヘラミガキ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、部分的に布目	灰白色		1
186	SD57	98B	SD03	土師器	台付甕		残6.6		イキ、脚ヘラケズリ	ハケ、スス附着、ヘラケズ	にぶい褐色		1
187	SD57	98B	SD03	瀬戸美濃	鉢		残6.6		鉄釉	鉄釉	黄灰色	江戸	1
188	SD57	98B	SD03	瀬戸美濃	内耳鍋	推20.4	残9.8		サビ釉	サビ釉、ススわずかに附着	灰白色	古瀬戸後II期	1
189	SD67	98B	SD76	瀬戸美濃	内耳鍋	推19.0	残4.5		うすいサビ釉	うすいサビ釉	灰白色	古瀬戸後IIかIII期	1
190	SD69	98B	SD88	灰釉陶器	瓶類	推13.8	残1.5		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色		1
191	SD71	98B	SD102	尾張型	山茶碗		残1.6	推8.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	灰白色	知多第6型式	1
192	SD71	98B	SD102	尾張型	山茶碗	推12.2	残3.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色		2
193	SD71	98B	SD102	土師器	南伊勢系鍋	推17.0	残2.2		ヨコナデ	スス附着	にぶい黄褐色		1
194	SD74	98B	SD81	尾張型	小皿	推8.6	1.8	推5.8	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	第6か7型式	1
195	SD81	98B	SD37	古瀬戸	灰釉平碗	推15.8	残4.6		灰釉	灰釉、露胎	灰白色	古瀬戸後III期	1
196	SD81	98B	SD37	瀬戸美濃	灰釉卸皿		残1.3	推7.6	灰釉、卸目	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	古瀬戸中期	1
197	SD81	98B	SD82	須恵器	杯身		残3.3	推12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色		1
198	SD81	98B	SD37	土師器	甕	推14.6	残5.0		ヨコハケ、ヘラケズリ	スス、ヨコナデ	にぶい橙色		3
199	SD81	98B	SD82	土師器	内耳鍋	推20.4	残1.6		ハケ	スス附着	淡黄色	くの字形	1
200	SD84	98B	SD74	土師器	内耳鍋	推28.4	残6.4		ヘラケズリ	スス附着	にぶい褐色	内彎形?	1
201	SD84	98B	SD72	土師器	内耳鍋		残7.5		内耳	調整不明、スス附着	にぶい橙色	半球形	1
202	SD84	98B	SD74	土師器	内耳鍋	推34.0	残8.5		ハケ	上半は赤色化する、ススわずかに附着、調整痕不明な所多い	にぶい橙色	半球形	7
203	SD84	98B	SD74	土師器	内耳鍋	推33.6	残4.2		ハケ	スス附着	にぶい橙色	半球形	1
204	SD84	98B	SD74	中世瓦	平瓦	残長8.9	残巾	厚2.0	コビキAのち布目	タタキ+ハナレ砂	灰白色		1
205	SD87	98B	SD26	尾張型	山茶碗	推13.9	残3.8		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色	第6型式	1
206	SD88	98B	SD25	尾張型	山茶碗	推13.8	残4.0		スス附着、ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色	第4か5型式	1
207	SD88	98B	SD25	尾張型	山茶碗		残4.1		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	知多第4型式	1
208	SD89	98C	SD28	須恵器	杯身	推10.0	残2.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	H-50号窯式	2
209	SD89	98C	SD16	須恵器	杯身		残2.5	推6.8	ヨコナデ	ナデ、ヘラケズリ	灰色	0-10号窯式	1
210	SD89	98C	SD16	須恵器	盤		残1.7	推14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	青灰色	0-10号窯式	1
211	SD89	98C	SD16	須恵器	碗A	推12.2	3.8	推5.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	青灰色	0-10号窯式	3
212	SD89	98B	SD42	須恵器	碗A	12.2	4.3	5.8	ナデ	ナデ、回転系切痕	褐灰色	IG-78号窯式	4
213	SD89	98C	SD16	須恵器	甕類		残7.4		ナデ	縄せき文	青灰色	韓式系5-6世紀	1
214	SD89	98C	SD28	土師器	甕		残1.9	推4.8	不明、一部剥離する	ケズリ、木葉痕、被熱痕	褐灰色		1
215	SD89	98C	SD28	土師器	高杯		残4.9	推4.9	ヘラケズリ?、ヨコナデ	タテ方向ケズリ?、黒斑	灰白色		1
216	SD89	98B	SD42	土師器	焙烙		残1.9		ハケ	スス附着	にぶい黄褐色		1
217	SD89	98C	SD28	須恵器	脚付壺?		残5.2		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	灰色	7世紀代	1
218	SD89	98C	SD28	土師器	甕	推17.6	残3.9		不明、ヘラケズリ	あらいハケ	灰白色		1
219	SD89	98C	SD28	土師器	甕		残2.4	推9.0	ナデ	ハケ、木葉痕、被熱痕	橙色		1
220	SD89	98B	SD42	尾張型	小皿	7.7	2.3	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕、被熱痕	灰白色	第5型式	1
221	SD89	98B	SD42	尾張型	小皿	7.9	1.8? 2.0	4.7	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	知多第6型式	1
222	SD89	98B	SD42	瀬戸美濃	腰折皿	推10.7	残2.6		灰釉	灰釉、露胎	灰白色	古瀬戸後IV期新	1
223	SD89	98B	SD42	瀬戸美濃	播鉢		残4.6		うすいサビ釉	うすいサビ釉	灰色	古瀬戸後IV期古	1
224	SD89	98B	SD42	土師器	内耳鍋	推22.3	残7.0		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ、スス附着	淡黄色	くの字形	1
225	SD91	98B	SD27	土師器	甕	推15.3	残2.5		ハケ	ヨコナデ、スス附着	にぶい黄褐色		4

遺物一覧表(6)

付表

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
226	SD96	98B	SD45	中国	白磁皿		残1.9		白磁釉	白磁釉	灰白色		1
227	SD96	98B	SD45	土師器	焙烙		残3.3		ハケ	ナデ、スス附着	浅黄褐色		1
228	SD96	98B	SD45	須恵器	ハソウ		残8.1		ヨコナデ	ヨコナデ、波状文、沈線	褐灰色	5世紀後半	1
229	SD98	98B	SD20	土師器	土鉢	長さ4.4	巾1.0	厚1.0			にぶい黄褐色		1
230	SD102	98B	SD17	尾張型	小皿	推7.7	1.9	推5.5	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
231	SD102	98B	SD17	土師器	皿	推6.6	1.7	推3.6	ヨコナデ、タール附着	ヨコナデ、回転糸切痕、表面が黒色	黄灰色	ロクロ調整	1
232	SD104	98B	SD70	土師器	内耳鍋	推24.4	残9.2		調整不明	調整不明、スス附着、沈線	にぶい橙色	半球形	3
233	SD108	98B	SD30	尾張型	山茶碗		残3.3	推5.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
234	SD110	98B	SD43	尾張型	山茶碗	推14.7	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第6か7型式	1
235	SD120	98C	SD22	尾張型	小皿	推7.4	1.6	推4.4	自然釉、ヨコナデ、一方 向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
236	SD120	98C	SD22	土師器	皿		残2.0	推8.0	ナデ、タール附着	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	ロクロ調	1
237	SD120	98C	SD22	土師器	内耳鍋	推19.2	残3.8		ヨコナデ、指オサエ	スス附着、ヨコナデ	灰白色	くの字形	1
238	SD129	98C	SD04	土師器	高杯		残5.4		ヘラケズリ	ナデ	橙色		1
239	SD129	98C	SD04	灰釉陶器	碗	15.0	4.1	7.0	灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、ヘラケズリ	灰白色	K-90号窯式	2
240	SD129	98C	SD04	尾張型	山茶碗		残2.9	推6.4	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第5型式	1
241	SD132	98C	SD13	須恵器?	瓶	推13.8	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色		1
242	SD132	98C	SD13	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.0	ススけている、自然釉 わずか	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	褐灰色	第5型式	1
243	SD136	98C	SD18	須恵器	碗A		残3.6		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色	0-10号窯式	1
244	SD136	98C	SD02	尾張型	山茶碗		残3.7	6.2	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
245	SD134	98C	SD19	須恵器	杯身	推13.6	3.9	推10.0	ヨコナデ	ヨコナデ	青灰色	0-10号窯式	1
246	SD134	98C	SD19	須恵器	長頸瓶	推8.2	残6.1		ヨコナデ	ヨコナデ、沈線	灰色	NN-32号窯式	1
247	SD134	98C	SD19	須恵器	高盤		残8.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	0-10号窯式?	1
248	SD134	98C	SD19	須恵器	盤		残1.4		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	0-10号窯式	1
249	SD134	98C	SD19	須恵器	杯身	推12.4	3.4	推7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ痕	橙色	0-10号窯式	3
250	SD134	98C	SD19	土師器	甕	推17.4	残24.3		ヨコハケ、タテヘラケズ	ヨコナデ、タテハケ、スス ヨコナデ、タテハケ、スス 附着	灰褐色		17
251	SD134	98C	SD19	土師器	甕	推18.0	残5.0		ヨコハケ、ヨコケズリ		にぶい黄褐色		1
252	SK016	98A	SK09	瀬戸美濃	挿鉢		残5.4	推12.0	サビ釉、罎目1単位20cm8 本	うすいサビ釉、回転糸切痕	灰白色	古瀬戸後 IV期	1
253	SK045	98A	SK115	土師器	皿	推7.6	残2.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	ロクロ調	1
254	SK045	98A	SK115	尾張型	山茶碗		残2.4	推7.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰色	知多?第5 型式	1
255	SK045	98A	SK115	須恵器	杯?		残5.6		ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	淡黄色	古代末	4
256	SK056	98A	SK07	瀬戸美濃	挿鉢		残2.7		うすいサビ釉	うすいサビ釉	浅黄褐色	古瀬戸後 IV期	1
257	SK056	98A	SK07	瀬戸美濃	灰釉卸皿		残1.4	7.0	露胎、卸目	ナデ、回転糸切痕、露胎	灰白色	古瀬戸後 期	1
258	SK064	98A	SK162	尾張型	小皿	8.3	2.2	4.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	知多第5型 式	1
259	SK083	98A	SK158	須恵器	杯身	12.0			ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、墨 書	にぶい赤褐色? 赤黒色	NN-32号窯 式	1
260	SK098	98A	SK163	尾張型	山茶碗		残3.8	推7.6	ヨコナデ、自然釉、輪 チン痕	自然釉、ヨコナデ、ナデ、 回転糸切痕	灰白色	瀬戸?第4 型式	1
261	SK117	98A	SK33	土師器	甕	推12.0	残10.8		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、荒いハケ、スス 附着	にぶい黄褐色		2
262	SK128	98A	SK125	尾張型	山茶碗		残2.5	推9.6	ヨコナデ、よくすれてい てススけている	ヨコナデ、モミ痕、回転糸 切痕	灰白色	知多第5型 式	1
263	SK128	98A	SK125	中国龍泉	青磁碗		残4.8		青磁釉	青磁釉、線状進弁文	灰白色	B2類	1
264	SK137	98A	SK151	土師器	内耳鍋		残1.8		ヨコナデ	ヨコナデ、スス附着	灰白色	くの字形	1
265	SK138	98A	SK155	尾張型	山茶碗		残3.1	6.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸 切のち板状圧痕	黄灰色	猿投第5型 式	1
266	SK139	98A	SK10	尾張型	山茶碗	推15.2	残3.6		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	灰白色	知多第4型 式	1
267	SK142	98A	SK172	尾張型(知 多)	山茶碗		残1.5	推6.9	ナデ	ナデ、モミ痕、回転糸切痕	黄灰色	知多第5型 式	1
268	SK153	98A	SK131	尾張型	山茶碗	推14.2	残3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	瀬戸?第6 型式	1
269	SK162	98A	SK167	尾張型	碗	推14.0	残2.8		ヨコナデ、自然釉	自然釉、ヨコナデ	灰白色	知多第5か 6型式	1

天神前遺跡

遺物一覧表(7)

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数	
270	SK176	98A	SK139	尾張型	山茶碗	13.2	4.6	5.6	ヨコナデ、高台軸着痕あり、一方向ナデ(コロシ)あり	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕、ふきだし多く残る、ゴツゴツした肌ざわり(未)	灰白色	瀬戸?第7型式	1	
271	SK179	98A	SK144	尾張型	山茶碗		残2.5	推7.2	自然釉、重ね焼き痕	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	灰白色	瀬戸第5型式	1	
272	SK183	98B	SK347	尾張型	山茶碗	推11.8	残3.3		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	第6型式	1	
273	SK331	98B	SK450	尾張型	山茶碗	推14.8	残5.0		ヨコナデ、よく磨滅する	ヨコナデ	灰白色	第5型式	2	
274	SK155	98B	SK230	土師器	土錘	長4.3	巾1.0	厚1.0		孔先端が少し欠ける、先端よく焼けている	灰白色		1	
275	SK373	98B	SK418	灰釉陶器	碗		残2.6	推7.6		灰釉、ヨコナデ、付高台、回転系切痕	灰白色		1	
276	SK406	98B	SK36	尾張型	山茶碗		残3.3	推6.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	知多第5型式	1	
277	SK419	98B	SK54	土師器	甕	推27.0	残4.0		ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ、黒斑	浅黄褐色		1	
278	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	小皿	推5.5		1.2	3.4	灰釉	灰釉、露胎、回転系切痕	灰白色	古瀬戸中IV期	1
279	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	天目茶碗	推10.8	残3.0			鉄釉	鉄釉	灰白色	古瀬戸後IV期古	1
280	SK450	98B	SK125	土師器	内耳鍋		残2.0			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	くの字形	1
281	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	折縁深皿	推20.0	残4.5	推12.0	灰釉	灰釉、ヘラケズリ、露胎	灰白色	古瀬戸中IV期	1	
282	SK450	98B	SK125	土師器	内耳鍋	推22.0	残4.3			ハケ?	スス付着	にぶい橙色	半球形	1
283	SK456	98B	SK156	尾張型	山茶碗		残1.1	推5.0		ヨコナデ、内方向ナデ	高台無、回転系切痕	灰白色	第8型式	1
284	SK486	98B	SK160	瀬戸美濃	瓶子Ⅲ類		残4.2	推10.8	露胎、ヨコナデ	鉄釉、露胎、ヨコナデ	灰白色	古瀬戸後ⅢかⅣ期	1	
285	SK486	98B	SK160	瀬戸美濃	広東茶碗	推11.2		6.4	6.4	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵	灰白色	登窯10小期	4
286	SK490	98B	SK486	尾張型	山茶碗	推16.2		4.6	推9.0	ヨコナデ、自然釉、一方向ナデあり	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第6型式	1
287	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	端反碗		残2.2		4.4	鉄釉	鉄釉、削出高台、露胎	にぶい黄褐色	古瀬戸後IV期	1
288	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	播鉢		残3.1			サビ釉	サビ釉	にぶい黄褐色	大窯第1段階	1
289	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	四(三)耳壺		残6.9			灰釉	灰釉	灰色	古瀬戸後期	1
290	SK504	98B	SK26	尾張型	山茶碗		残1.6	7.8? 8.0	よく磨滅する	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕	灰白色	第5型式	1	
291	SK511	98B	SK102	尾張型	小皿	7.8	2.2	5.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰黄色	知多?第6型式	3	
292	SK515	98B	SK110	土師器	甕	推17.8	残3.0			ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
293	SK532	98B	SK142	瀬戸美濃	花瓶		残3.0	推6.0	露胎	鉄釉、露胎、回転系切痕	淡黄色	古瀬戸後IV期	1	
294	SK559	98B	SK113	須恵器	碗A	推15.4	4.5	7.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	明褐色		2	
295	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.2	4.8	6.2	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	瀬戸?第6型式	1	
296	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.8	残4.4			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第6型式	1
297	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.0	残3.5			自然釉、ヨコナデ	灰白色	第5型式	3	
298	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗		残3.1	7.6	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転系	灰白色	第5型式	1	
299	SK572	98B	SK135	瀬戸美濃	内耳鍋	推16.0	残3.9			うすいサビ釉	うすいサビ釉、スス付着	にぶい黄褐色	古瀬戸後IV期古	1
300	SK573	98B	SK132	土師器	内耳鍋		残5.1			ヨコナデ	ヨコナデ、浅い沈線	灰白色	半球形	1
301	SK584	98B	SK114	瀬戸美濃	播鉢	推30.6	残6.6			サビ釉、播目	サビ釉	橙色	古瀬戸後IV期古	2
302	SK585	98B	SK121	須恵器	碗A	推12.0	3.8	5.0	わずかに自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰色	IG-78号窯式	1	
303	SK585	98B	SK121	瀬戸美濃	縁釉小皿	10.6	2.8	5.0	灰釉	灰釉、ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	古瀬戸後IV期新	1	
304	SK585	98B	SK121	常滑	鍋	推30.0	残13.4			ヨコナデ、ケズリ	自然釉、調整痕不明、一部にスス付着	灰白色		1
305	SK588	98B	SK18	近世瀬戸	こね鉢		残4.1	推15.8	ハケぬりの鉄釉	鉄釉、露胎、回転ヨコナデ、糸切痕	灰白色	登窯8か9小期	1	
306	SK608	98C	SK24	土師器	皿		残1.9	推5.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	浅黄褐色	ロクロ調	1	
307	SK619	98C	SK02	常滑?	壺	推10.0	残2.5			自然釉、ヨコナデ	灰白色		2	
308	SK619	98C	SK02	渥美?型	山茶碗		残2.2	5.6	自然釉、よく磨滅する	刻線、砥石として転用か、磨滅、ヨコナデ	灰白色	第5型式	1	
309	SK619	98C	SK02	常滑	羽釜		残8.4			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
310	SK382	98B	SK10	土師器	皿	推7.8	残1.2			ヨコナデ	ヨコナデ、被熱痕	にぶい橙色	ロクロ調	1
311	SK382	98B	SK10	常滑	羽釜		残5.9			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	灰白色		1
312	SK384	98B	SK04	肥前磁器	丸碗	推12.0	残3.8			透明釉	染付	灰白色		1
313	SK400	98B	SK05	尾張型	山茶碗		残1.9			ヨコナデ	ヨコナデ、高台欠け落ちる	灰白色	第7型式	1
314	SK402	98B	SK01	瀬戸美濃	四(三)耳壺	推6.1	残4.5			灰釉	灰釉	灰白色	古瀬戸前II期	1
315	SK403	98B	SK14	瀬戸美濃	香炉	推11.2	残4.6			露胎、鉄釉、ヨコナデ	重ね焼き痕、鉄釉、ヨコナデ	淡黄色	登窯5か6小期	1

遺物一覧表(8)

付表

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
316	SK397	98B	SK169	瀬戸(赤津)	こね鉢	推22.2	9.4	推12.8	鉄釉	口縁端部一部欠ける、鉄釉、露胎	淡黄色	登窯8か9小期	1
317	SX06	98B	SX06	瀬戸美濃	天目茶碗		残2.8		鉄釉	鉄釉	灰白色	古瀬戸後III期	1
318	SX06	98B	SX06	中国龍泉窯	碗		残3.7		青磁釉	青磁釉片切彫蓮弁文	灰白色		1
319	SX06	98B	SX01	中国龍泉窯	碗		残3.4		青磁釉	青磁釉	灰白色		1
320	SX06	98B	SX06	常滑	甕		残4.7		ヨコナデ	自然釉	灰白色		1
321	SX06	98B	SX06	瀬戸美濃	折縁深皿		残6.0		灰釉	灰釉	浅黄橙色	古瀬戸後I期	1
322	SX06	98B	SX06	土師器	南伊勢系鍋		残1.9		ナデ	ナデ、スス付着	浅黄褐色		1
323	SX06	98B	SX06	土師器	南伊勢系鍋		残2.0		ナデ	ナデ	灰白色		1
324	SX06	98B	SX06	土師器	皿	推10.2	1.5	推6.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰黄褐色	ロクロ調	1
325	SX06	98B	SX06	瀬戸美濃	天目茶碗		残1.0	推4.0	鉄釉	サビ釉	灰白色	大窯第1段階	1
326	SX06	98B	SX06	土師器	不明脚	残長3.3	巾3.5	厚3.5			淡黄色		1
327	SX06	98B	SX06	尾張型	陶丸	長2.2	巾2.0	厚2.0			灰白色		1
328	SX06	98B	SX06	尾張型	陶丸	長2.4	巾2.4	厚2.3			灰白色		1
329	SX06	98B	SX06	尾張型	陶丸	長2.0	巾1.9	厚1.9			灰白色		1
330	SX06	98B	SX06	尾張型	陶丸	長2.4	巾2.2	厚2.2			灰白色		1
331	SX06	98B	SX06	土師器	鈔付鍋	推20.0	残1.8		焦げ付着	スス付着、ナデ	にぶい黄褐色		1
332	SX06	98B	SX06	中世瓦	丸瓦	残長4.3	残巾4.0	厚1.3	コビキAのち布目	ヘラケズリ	灰白色		1
333	SX06	98B	SX06	中世瓦	平瓦	残長4.4	残巾5.7	厚1.9	コビキAのち布目	ハナレ砂	灰白色		1
334	SX06	98B	SX06	中世瓦	平瓦	残長6.3	残巾9.2	厚1.9	コビキAのち布目	タタキ+ハナレ砂	灰白色		1
335	SX06	98B	SX06	中世瓦	平瓦	残長8.9	残巾5.9	厚1.6	コビキAのち布目	タタキ+ハナレ砂	灰白色		1
336	SX11	98B	SX09	尾張型(知多)	山茶碗	13.6	5.1	6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	知多第6型式	10
337	SX11	98B	SX09	尾張型(瀬戸)	山茶碗	推12.6	5.5	推5.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	5
338	SX11	98B	SX10	尾張型(瀬戸)	山茶碗	推12.4	5.1	推5.0	ヨコナデ、一方ナデあり	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
339	SX11	98B	SX09	尾張型(瀬戸)	山茶碗		残3.8		一方ナデあり、ヨコナデ	ヨコナデ、やや焦げ、高台は剥離、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	2
340	SX11	98B	SX09	尾張型	山茶碗	推14.6	5.3	推5.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第8型式	1
341	SX11	98B	SX10	尾張型	山茶碗		残2.1	推8.6	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	褐色	第3型式	1
342	SX11	98B	SX10	尾張型	小碗	推10.4	3.2	5.8	全面自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第3型式	1
343	SX11	98B	SX09	尾張型	小皿	7.4	1.9	4.2	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5か6型式	1
344	SX11	98B	SX09	中国龍泉	青磁碗		残2.1	6.4	青磁釉、劃花紋	青磁釉、露胎	灰白色		1
345	SX11	98B	SX09	瀬戸美濃	壺	推12.0	残3.5		灰釉	灰釉	灰白色	古瀬戸前IIかIII期	2
346	SX11	98B	SX10	須恵器	瓶?		残2.7	8.6	ヨコナデ、一部自然釉	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰白色		1
347	SX11	98B	SX09	土師器	皿	推8.6	残1.5		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	手づくね調整	1
348	SX11	98B	SX10	須恵器	ハソウ		残7.9			ナデ、刺突文、沈線、ヘラケズリ	灰白色	H50	1
349	SX11	98B	SX10	灰釉陶器	瓶		残2.9		ヨコナデ、灰釉	灰釉	灰白色		1
350	SX11	98B	SX09	土師器	甕		残3.1		ナデ、ヘラケズリ	ナデ、スス付着、指オサエ	灰黄色		1
351	SX11	98B	SX09	土師器	南伊勢系鍋		残3.0		ヨコナデ	ヨコナデ、スス若干付着、ハケ	灰白色? 褐色		3
352	SX11	98B	SX10	土師器	土鏝	長さ4.7	巾1.5	厚1.4		スス付着	褐色		1
353	SX11	98B	SX10	土師器	甕	推15.8	残6.0		ハケ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色		4
354	SX11	98B	SX09	中世瓦	丸瓦	残長7.8	残巾6.9	厚1.4	コビキAのち布目	ヘラケズリ	灰白色		1
355	SX07	98B	SX07	須恵器	杯身	推12.2	4.2	6.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	褐色	0-10号窯式	4
356	SX12	98B	SD06	尾張型	山茶碗	推12.8	残4.5		ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	灰白色	瀬戸第7か8型式	2
357	SX12	98B	SD06	尾張型	山茶碗		残2.1	推6.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第7型式	1
358	SX12	98B	SD06	尾張型	山茶碗		残1.4	推7.4	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、スス付着、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
359	SX12	98B	SD06	尾張型	小皿		残1.0	4.3	自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第5型式	1
360	SX12	98B	SD06	尾張型	山茶碗		残4.6		ヨコナデ、自然釉、スス付着	ヨコナデ	灰白色	知多第5か6型式	1
361	SX12	98B	SD06	尾張型	小皿	推8.3	1.6	推5.8	ヨコナデ、一方ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
362	SX12	98B	SD06	尾張型	小皿	推8.6	1.2? 1.8	推5.0	ヨコナデ、一方ナデ	ナデ、回転糸切痕	灰白色	第6か7型式	1
363	SX12	98B	SD06	尾張型	小皿	8.4	2.1	5.2	一方ナデあり、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	浅黄色	第6型式	1
364	SX12	98B	SD06	土師器	内耳鍋		残3.7		ヨコナデ	スス付着	灰黄褐色	内嚢形	1
365	SX13	98B	SD01	尾張型	山茶碗		残3.8	推9.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	黄灰色	第5型式	1
366	SX13	98B	SX01	土師器	皿	推10.6	2.2	推6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	にぶい黄褐色	ロクロ調整	1
367	SX13	98B	SX01	白磁	玉縁碗		残3.2		白磁釉	白磁釉	灰白色		1

天神前遺跡

遺物一覧表(9)

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
368	SX13	98B	SX02	尾張型	小皿	7.0	1.8	3.8	一方向ナデあり、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰黄色	第7? 9型式	1
369	SX13	98B	SX01	土師器	鍔付鍋	推26.5	残2.7		ナデ、ハケ、焦げ付着	ナデ、ハケ、スス付着	褐灰色		1
370	SX13	98B	SX01	中世瓦	丸瓦	残長3.9	残巾6.4	厚1.4	コビキAのち布目	コビキA、ヘラケズリ	灰色		1
371	SX13	98B	SX01	中世瓦	平瓦	残長4.8	残巾6.5	厚2.1	コビキAのち布目	タタキ+ハナレ砂	灰白色		1
372	SX13	98B	SX01	中世瓦	丸瓦	残長3.2	残巾4.4	厚1.1	コビキAのち布目	ヘラケズリ	灰白色		1
373	包含層	98A	検?	須恵器	杯身	推10.8	残2.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐色	?	1
374	包含層	98A	検?	須恵器	杯蓋		残3.8		ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ、ヘラケズリの範囲不明	黄灰色	H-11号窯式	1
375	包含層	98A	検?	須恵器	盤		残1.6	9.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰色? 青灰色	NN-32号窯式	1
376	包含層	98A	検?	須恵器	高盤?		残3.3		ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色	?	1
377	包含層	98A	検?	尾張型	山茶碗		残2.9	7.0	ヨコナデ、一方向ナデ(コロン)あり	ヨコナデ、モミ痕あり、回転系切痕のち板状圧痕、底部墨書「上」	灰白色	第5型式	1
378	包含層	98A	SD01	尾張型(知多)	山茶碗		残2.2	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕	灰白色	知多第6型式	5
379	包含層	98A	検?	尾張型	山茶碗		残2.7	6.0	ヨコナデのみ	ヨコナデ、モミ痕、回転系切痕+板状圧痕	灰白色	第6型式	1
380	包含層	98A	トレンチ	尾張型	山茶碗		残2.7	推7.8	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、回転系切痕、焼成不良	灰白色	第4型式	1
381	包含層	98A	検?	東濃型	山茶碗		残1.9	推6.0			灰白色	第5型式後半	1
382	包含層	98A	検?	尾張型	山茶碗	推13.8	2.7	推8.2	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	第11型式	1
383	包含層	98A	検?	尾張型	小皿	7.8	2.3? 2.5	4.4	ヨコナデ、黒色塗布物	ヨコナデ、回転系切痕、底部墨書「T」、黒色塗布物	灰白色	第5型式	1
384	包含層	98A	検?	常滑	壺		残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色		1
385	包含層	98A	トレンチ	白磁	碗		残2.3		白磁釉	白磁釉	灰白色		1
386	包含層	98A	検?	白磁	四耳壺		残2.2		白磁釉	白磁釉	灰白色		1
387	包含層	98A	検?	龍泉窯	青磁碗		残2.4		青磁釉	青磁釉	明オリブ灰色	片切彫蓮弁文	1
388	包含層	98A	検?	青白磁	碗		残2.5		青白磁釉	青白磁釉	灰白色		1
389	包含層	98A	検?	白磁	玉縁碗		残2.3		白磁釉	白磁釉	灰白色		1
390	包含層	98A	検?	龍泉窯	青磁碗		残2.2		青磁釉	青磁釉、露胎	灰色		1
391	包含層	98A	検?	青磁	碗		残2.4		青磁釉	青磁釉	明褐灰色		1
392	包含層	98A	検?	白磁	碗		残3.0		白磁釉	白磁釉、露胎	灰白色		1
393	包含層	98A	検?	瀬戸美濃	灰釉平碗		残3.0		灰釉	灰釉	灰白色	古瀬戸後IV期古	1
394	包含層	98A	検?	瀬戸美濃	瓶か壺		残5.6		露胎	鉄釉、釉は少し剥離する	灰白色	古瀬戸中IかII期	1
395	包含層	98A	検?	瀬戸美濃	陶丸	最大径2.0					灰白色		1
396	包含層	98A	検?	瀬戸美濃	陶丸	最大径2.2					灰白色		1
397	包含層	98A	検?	土師器	土玉	最大長2.6	最大巾2.5	最大厚2.3					1
398	包含層	98A	検?	土師器	土鈴	残長1.9					にぶい黄褐色		1
399	包含層	98A	検?	土師器	土鈴	残巾2.4	2.3	残厚1.2			灰白色		1
400	包含層	98A	SD01	土師器	皿	14.9	3.9	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	ロクロ調	37
401	包含層	98A	検?	土師器	皿	7.8	1.8	5.8	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	褐色	ロクロ調整	3
402	包含層	98A	検?	土師器	皿	7.6	1.3	5.8	焦げ付着、ヨコナデ、一方向ナデ	焦げ付着、ヨコナデ、回転系切痕	灰白色	ロクロ調整	1
403	包含層	98A	トレンチ	土師器	皿		残1.3	6.8	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕、スス付着	灰白色	ロクロ調整	1
404	包含層	98A	トレンチ	土師器	皿	推8.6	残1.6		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙色	手づくね	1
405	包含層	98A	検?	土師器	甕		残3.9		ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	浅黄色		1
406	包含層	98A	検?	常滑	鍋		残5.2		ヨコナデ、自然釉、ヘラケズリ	ヨコナデ	暗灰黄色? 黄灰色		1
407	包含層	98A	検?	土師器	清郷型鍋		残2.6		ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐色? 黒褐色		1
408	包含層	98A	検?	土師器	清郷型鍋		残2.5		ナデ	ナデ	赤灰色? にぶい赤褐色		1
409	包含層	98A	検?	瓦器	火鉢		残6.0		ヨコナデ、スス付着	ナデ、タテハケ?	灰白色		1
410	包含層	98A	検?	土師器	甕		残5.9		オサエ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい赤褐色? 褐灰色	清郷型?	16
411	包含層	98A	検?	土師器	南伊勢系鍋		残1.7		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色		1
412	包含層	98A	検?	土師器	鍔付鍋	推24.0	残2.8		ヨコナデ	ヨコナデ、荒いハケ、スス付着	褐灰色		1
413	包含層	98A	検?	土師器	土鍾	長4.5	最大径1.2				にぶい黄褐色		1

遺物一覧表(10)

付表

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
414	包含層	98A	検?	土師器	土鉢	残長5.7	最大径1.3				灰白色		1
415	包含層	98A	検?	土師器	土鉢	長8.9	最大径2.3				灰白色		1
416	包含層	98A	検?	常滑	こね鉢	推40.0	残13.0		よく磨滅する	指オサエ痕	明赤褐色	第9型式	1
417	包含層	98A	検?	瓦	鬼瓦?				ヘラケズリと砂目	ヘラケズリ	灰白色		1
418	包含層	98A	検?	瓦	丸瓦				布目	ヨコヘラケズリ	灰白色		1
419	包含層	98A	検?	瓦	丸瓦				布目、ヘラケズリ		灰白色		1
420	包含層	98A	検?	瓦	平瓦				布目	ヘラケズリ、タタキ	灰白色		1
421	包含層	98A	検?	瓦	平瓦				砂目	コビキA+板状圧痕、ヘラケズリ	灰白色		1
422	包含層	98A	トレン	瓦	平瓦				布目、ヘラケズリ	タタキ+砂目	灰白色		1
423	包含層	98B	SK264	須恵器	杯身		残2.0		ヨコナデ	ヨコナデ	灰赤色	H-44号窯式?	1
424	包含層	98B	SK89	須恵器	埴	9.2	4.7		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	褐灰色	?	1
425	包含層	98B	噴砂	須恵器	碗A	推12.0	残4.9		ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色	8世紀前	1
426	包含層	98B	SX14	尾張型	山茶碗	推15.6	5.3	推6.0	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕	灰白色	第5型式	3
427	包含層	98B	SK39	尾張型	山茶碗		残2.7	推8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、モミ痕あり	灰白色	第5型式	1
428	包含層	98B	SK56	尾張型	山茶碗	推16.6	5.2	推8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、高台一部剥離、回転糸切痕	灰白色	第6型式	2
429	包含層	98B	SX14	尾張型	山茶碗		残2.1	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕、スス付着	灰白色	第5型式	1
430	包含層	98B	SX14	尾張型	山茶碗		残1.8	7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸	灰白色	第4型式	1
431	包含層	98B	SD15	尾張型(瀬戸)	山茶碗	推12.6	残3.5		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	瀬戸第7型式	2
432	包含層	98B	SK105	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.8	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、モミ痕、回転糸	灰白色	第6型式	1
433	包含層	98B	SD44	尾張型	山茶碗	推12.8	5.7	推5.1	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	2
434	包含層	98B	SD44	尾張型	山茶碗	推13.0	4.9	推4.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸	灰白色	第7型式	1
435	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗		残2.7		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
436	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗		()	推6.6	一方向ナデ(コロシ)あり、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
437	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗		残1.6	推4.9	一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
438	包含層	98B	トレン	尾張型	山茶碗?		残1.0			回転糸切痕+墨書	灰白色		1
439	包含層	98B	噴砂	尾張型	小皿	8.0	2.4	3.9	ヨコナデ	ナデ、回転糸切痕、ヨコナ	灰白色	第5型式	1
440	包含層	98B	SD29	尾張型	小皿	推8.1	1.5	推5.6	ヨコナデ	ヨコナデ(ヨコハケ状)	灰白色	第7型式	1
441	包含層	98B	SK55	尾張型	小皿	推7.8	1.7	推4.8	自然釉+融着あり	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瀬戸第7型式	1
442	包含層	98B	SD15	尾張型	小皿	推7.9	1.5	推4.5	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	焼成不良、第7型	2
443	包含層	98B	SD87	瀬戸美濃	直縁大皿		残2.2	推11.0	灰釉(ハケ塗り)	ヘラケズリ	灰白色	古瀬戸後III期	1
444	包含層	98B	SX14	常滑	鍋		残8.8		ナデ、ヘラケズリ	ナデ、指オサエ、スス付着	にぶい褐色		1
445	包含層	98B	トレンチ	土師器	南伊勢系鍋	推21.6	残2.9		ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	灰白色? 褐灰色		1
446	包含層	98B	トレンチ	常滑か渥美	甕	推38.0	残4.2		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	にぶい黄褐色		1
447	包含層	98B	検?	土師器	土鉢	残長3.3	巾1.3	厚1.2			にぶい褐色		1
448	包含層	98B	表土剥ぎ	瀬戸美濃	瓶子III類		残7.7		露胎	灰釉	灰白色	古瀬戸後期	1
449	包含層	98B	検?	土師器	甕	推25.2	残3.7		ヨコナデ	指オサエ	灰白色? にぶい橙色		1
450	包含層	98B	SX14	土師器	甕	推25.6	残9.3		ヨコナデ、ヘラケズリ	スス付着、表面の調整不明(未調整か?)	にぶい黄褐色		3
451	包含層	98B	SX14	中世瓦	平瓦	残長4.9	残巾2.9	厚2.7	ハナレ砂、タタキ	布目	灰白色		1
452	包含層	98C	トレンチ	須恵器	杯蓋	10.0	3.1		ヨコナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	灰白色	湖西H-50号窯式併行	2
453	包含層	98C	表土	須恵器	杯蓋		残1.6		ヨコナデ	回転ヘラケズリ	黄灰色	?	1
454	包含層	98C	トレン	須恵器	杯身		残2.7	推10.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰白色	C-2号窯式	1
455	包含層	98C	表土	須恵器	杯身A		残1.9	推6.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰色	0-10号窯式	1
456	包含層	98C	トレンチ	須恵器	碗A		残1.6	4.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰色	0-10号窯式	1
457	包含層	98C	検?	須恵器	碗A		残1.4	5.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	にぶい黄褐色	0-10号窯式	1
458	包含層	98C	トレンチ	須恵器	杯身	推12.6	3.7	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、墨書「方」あり	黄灰色	0-10号窯式	3
459	包含層	98C	トレンチ	土師器	碗	推14.0	残5.0		ヨコナデ	沈線、ヨコナデ	浅黄褐色	畿内産8世紀代	3
460	包含層	98C	検?	須恵器	杯		残3.4	5.0	ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色	7世紀代	1

番号	遺構番号	区	旧遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
461	包含層	98C	表土	灰釉陶器	碗		残2.9	推7.5	灰釉	ヨコナデ、露胎	灰白色	K-14号窯式	1
462	包含層	98C	トレンチ	灰釉陶器	碗		残3.3	推7.4	灰釉	ヨコナデ、回転糸切後ナデ、露胎	灰白色	K-14号窯式	1
463	包含層	98C	検?	須恵器	壺		残2.6	6.4	内面の半分スス付着、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、スス付着	褐灰色	0-10号窯式	2
464	包含層	98C	掘り下	灰釉陶器?	壺		残3.5	推8.2	ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	明褐灰色		1
465	包含層	98C	検?	須恵器	フラスコ瓶		残3.1		ヨコナデ	回転ヘラケズリ、自然釉	褐灰色		1
466	包含層	98C	検?	灰釉陶器	長頸瓶	推12.2	残1.2		灰釉	灰釉	灰白色	K-90号窯式	1
467	包含層	98C	表土	須恵器	フラスコ壺		残4.5		ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色	7世紀後	1
468	包含層	98C	北壁	須恵器	高杯?		残5.8		ナデ	ヨコナデ	灰白色	NN-32号窯式	1
469	包含層	98C	検?	瀬戸美濃	仏餉具		残2.3	4.8	露胎	サビ釉、露胎、回転糸切痕	灰白色	古瀬戸後IV期	1
470	包含層	98C	掘り下げ	尾張型	小型壺	推11.0	残3.8		ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	灰白色	第4か5型式	2
471	包含層	98C	トレンチ	土師器	甕		残1.9			ナデ、被熱痕	灰白色		1
472	包含層	98C	土器?	須恵器	横瓶	推8.0	残5.0		ヨコナデ、タタキ	自然釉、ヨコナデ、タタキ	灰白色		8
473	包含層	98C	南壁	須恵器	鉢	推10.0	残3.3		ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色	NN-32号窯式	1
474	包含層	98C	検?	須恵器	ハソウカ壺		残4.0		ヨコナデ	ヘラケズリ、波状文	灰色	猿投ではない5世紀	1
475	包含層	98A	検1	石製品	砥石	長6.4	幅4.0	厚1.8	凝灰岩				1
476	SD110	98B	SD43	石製品	砥石	長4.0	幅4.0	厚1.6	泥質凝灰岩				1
477	SD104	98B	SD70	石製品	砥石	長10.3	幅4.2	厚2.4	凝灰岩				1
478	SD57	98B	SD03	石製品	砥石	長5.8	幅3.7	厚2.6	凝灰岩				1
479	SX13	98B	SX01	石製品	砥石	長5.6	幅5.8	厚3.7	凝灰岩				1
480	SD89	98C	SD28	石製品	砥石	長7.3	幅6.7	厚4.5	結晶片岩				1
481	包含層	98C	検1	石製品	砥石	長4.1	幅3.5	厚1.7	凝灰岩				1
482	SX13	98B	SX01	石製品	砥石	長5.0	幅3.0	厚1.4	凝灰岩				1
483	SD121	98C	SD07	石製品	砥石	長5.0	幅4.1	厚1.1	凝灰岩				1
484	SX13	98B	SX01	石製品	石硯	長3.3	幅3.0	厚1.0	泥岩				1
485	SK559	98B	SK113	石製品	石硯	長10.4	幅4.5	厚1.0	泥岩				1
486	包含層	98A	検1	銅製品	銭貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	開元通寶				1
487	包含層	98A	検1	銅製品	銭貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	寛永通寶				1
488	包含層	98A	検1	銅製品	銭貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	寛永通寶				1
489	SX06	98B	SX06	銅製品	銭貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	永楽通寶				1
490	SX06	98B	SX06	銅製品	銭貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	元豊通寶				1
491	SD84	98B	SD74	銅製品	銭貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	宋元通寶				1
492	包含層	98B	検1	銅製品	銭貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	皇宋通寶				1
493	包含層	98B	検1	銅製品	銭貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	永楽通寶				1
494	包含層	98B	検1	銅製品	小柄	長7.4	幅1.3	厚0.2					1
495	SX06	98B	SX06	銅製品	不明	長7.7	幅0.5	厚0.1					1
496	包含層	98B	表土	銅製品	煙管吸口	長15.8	幅1.2	厚1.2					1
497	SX13	98B	SX01	鉄製品	刀子?	長10.3	幅1.3	厚0.3					1
498	包含層	98C	掘り下	鉄製品	刀子?	長5.0	幅2.1	厚1.1					1
499	包含層	98A	検?	木製品	横櫛	長5.2	幅2.9	厚1.2					1
500	SE02	98C	SK16	木製品	曲物筒	推41.8	23.2	推41.8					1
501	SE01	98C	SK171	木製品	曲物筒	推43.8	16.0	推43.0					1
502	SE01	98C	SK171	木製品	曲物筒		残10.6	推46.4					1
503	SE01	98C	SK171	木製品	曲物筒	推46.8	19.0	推46.8					1
504	SE01	98C	SK171	木製品	曲物筒	推44.0	25.5	推44.0					1

付表

- 1 遺構一覽表
- 2 遺物一覽表

図版

遺構図版 1	上面遺構全体図	(縮尺 1:800)
遺構図版 2 ~ 7	上面遺構図	(縮尺 1:200)
遺構図版 8 ~ 9	上面遺構拡大図	(縮尺 1:100)
遺構図版 10	下面遺構全体図	(縮尺 1:800)
遺構図版 11 ~ 16	下面遺構図	(縮尺 1:200)
写真図版 1 ~ 8	遺構写真	
写真図版 9 ~ 16	遺物写真	

遺構一覧表の凡例

1、新遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。遺構記号は以下の通りである。

NR—自然流路、SA—柵列、SB—建物、SD—溝、SE—井戸、SK—土坑、ST—水田状遺構、SX—その他

2、区と旧遺構番号は、発掘調査当時（年報記載）の番号である。写真・記録類や遺物ラベルなどは全てこの番号で記録されている。なお、欠番は出土遺物がない等の理由から調査時点で遺構番号を付けなかったものである。

3、長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をcm単位で計測したものである。したがって、この数値は本来の遺構の規模ではない。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。

4、遺物の項目には、図化した遺物の図版番号と、それ以外の遺構から出土した遺物の種別と破片数を示した。

本文掲載遺物一覧表の凡例

1、遺物番号は、本文掲載の実測図などの番号である。

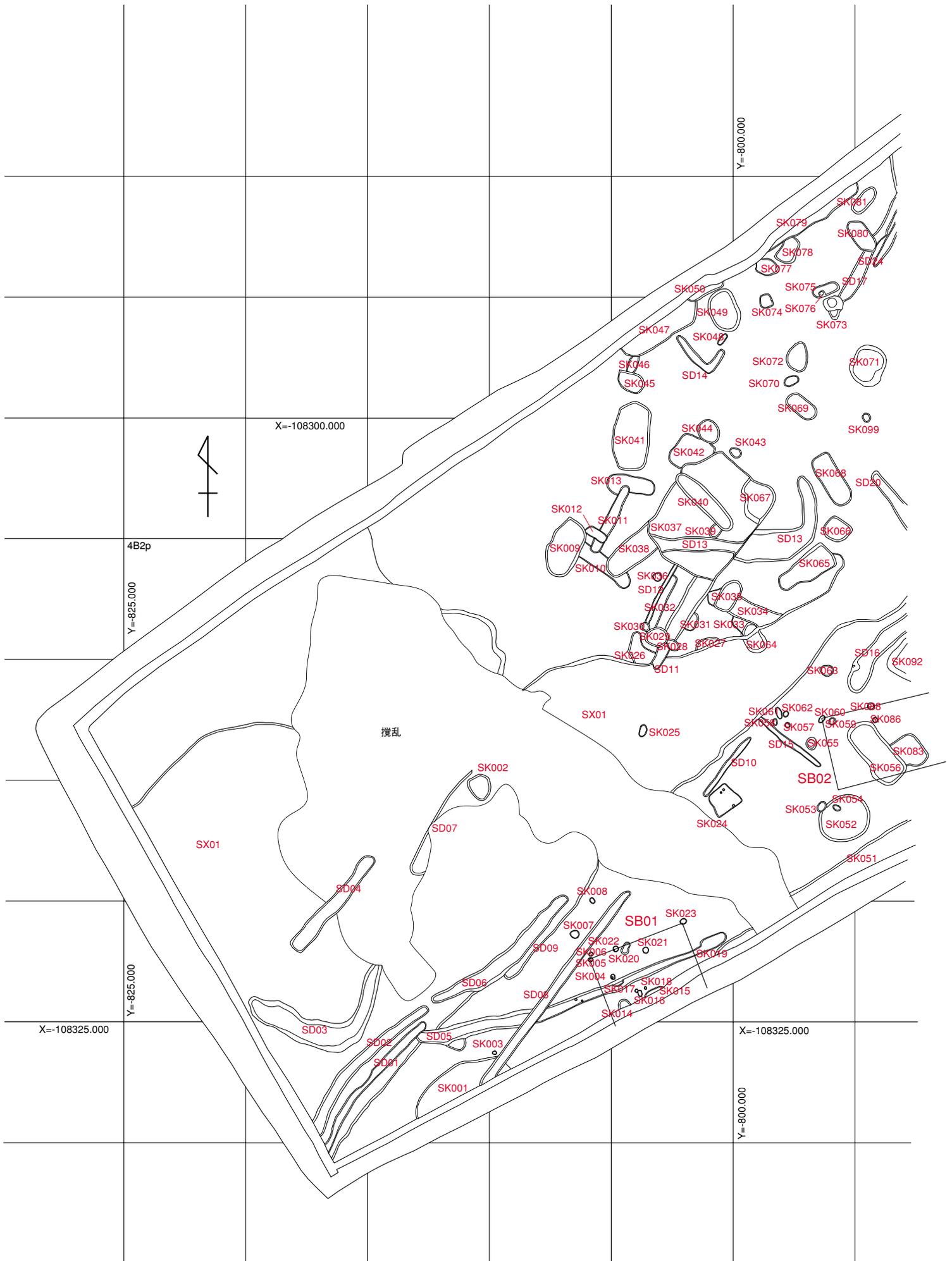
2、遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。

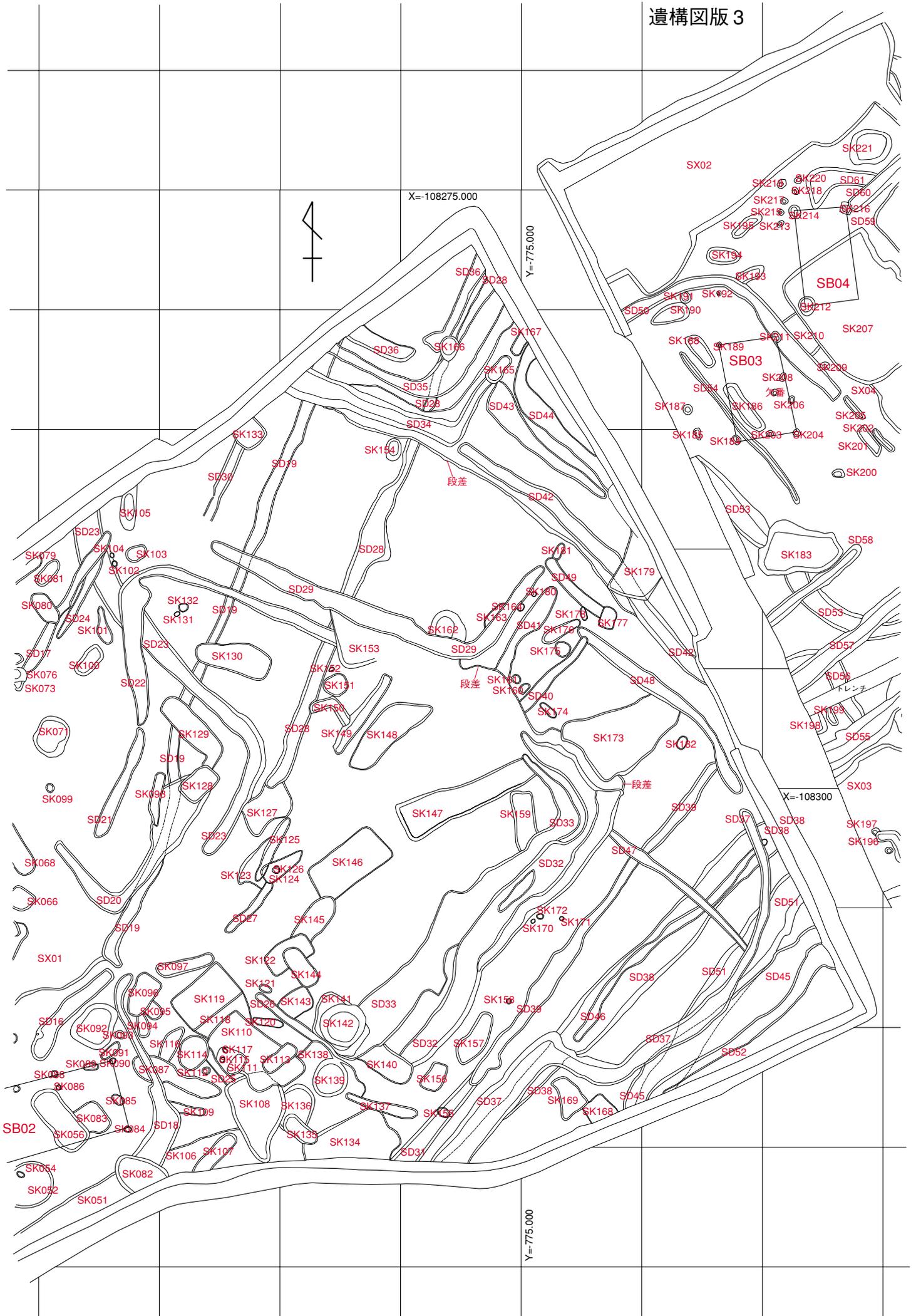
3、法量についてはcm単位で計測した。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。また、数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。

4、調整痕や使用痕については「内面」と「外面」に分けて表記した。

5、遺物の登録は、本書掲載の遺物番号で整理されている。

遺構図版 2





遺構図版 4

Y=-750.000



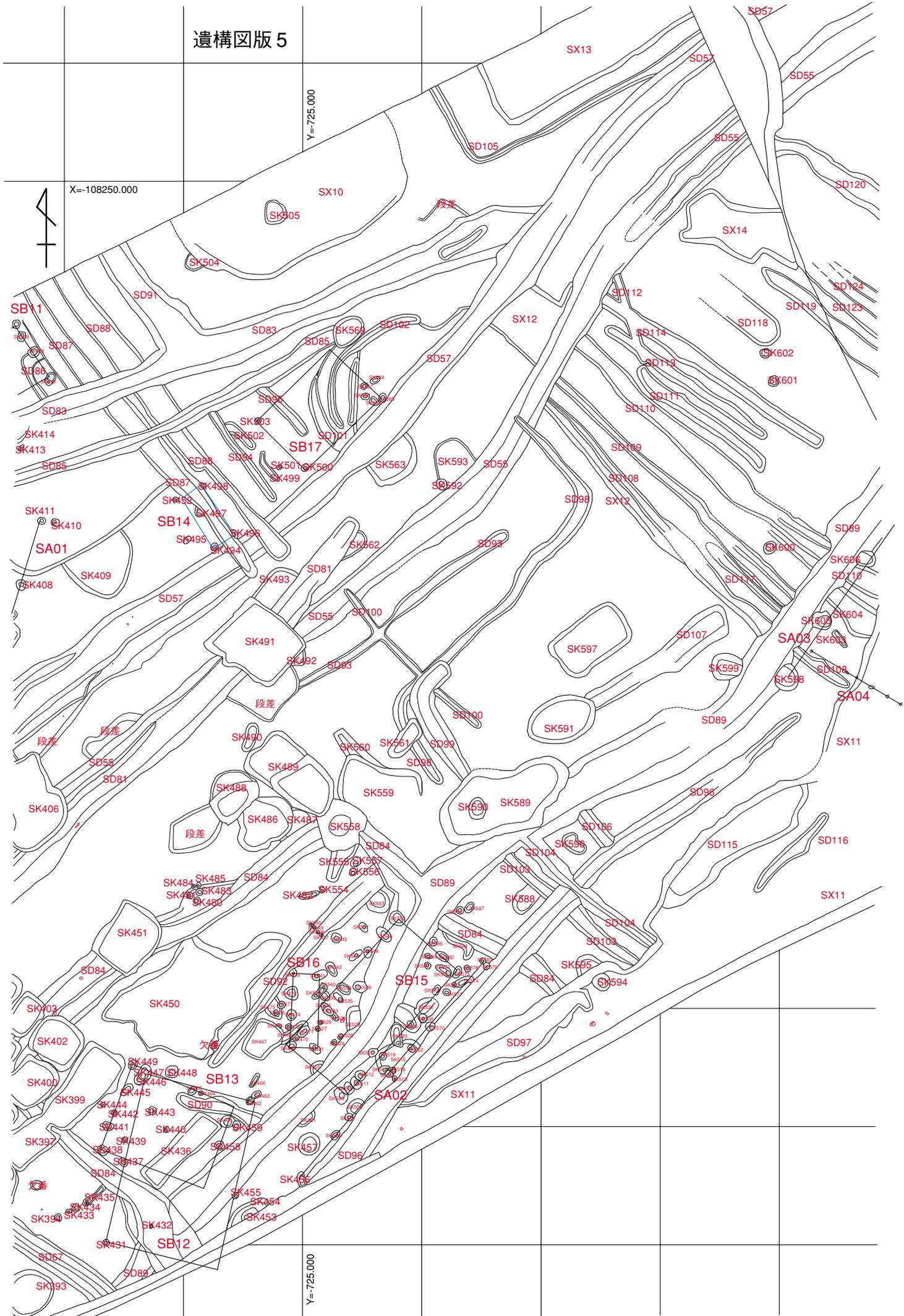
Y=-750.000

X=-108300

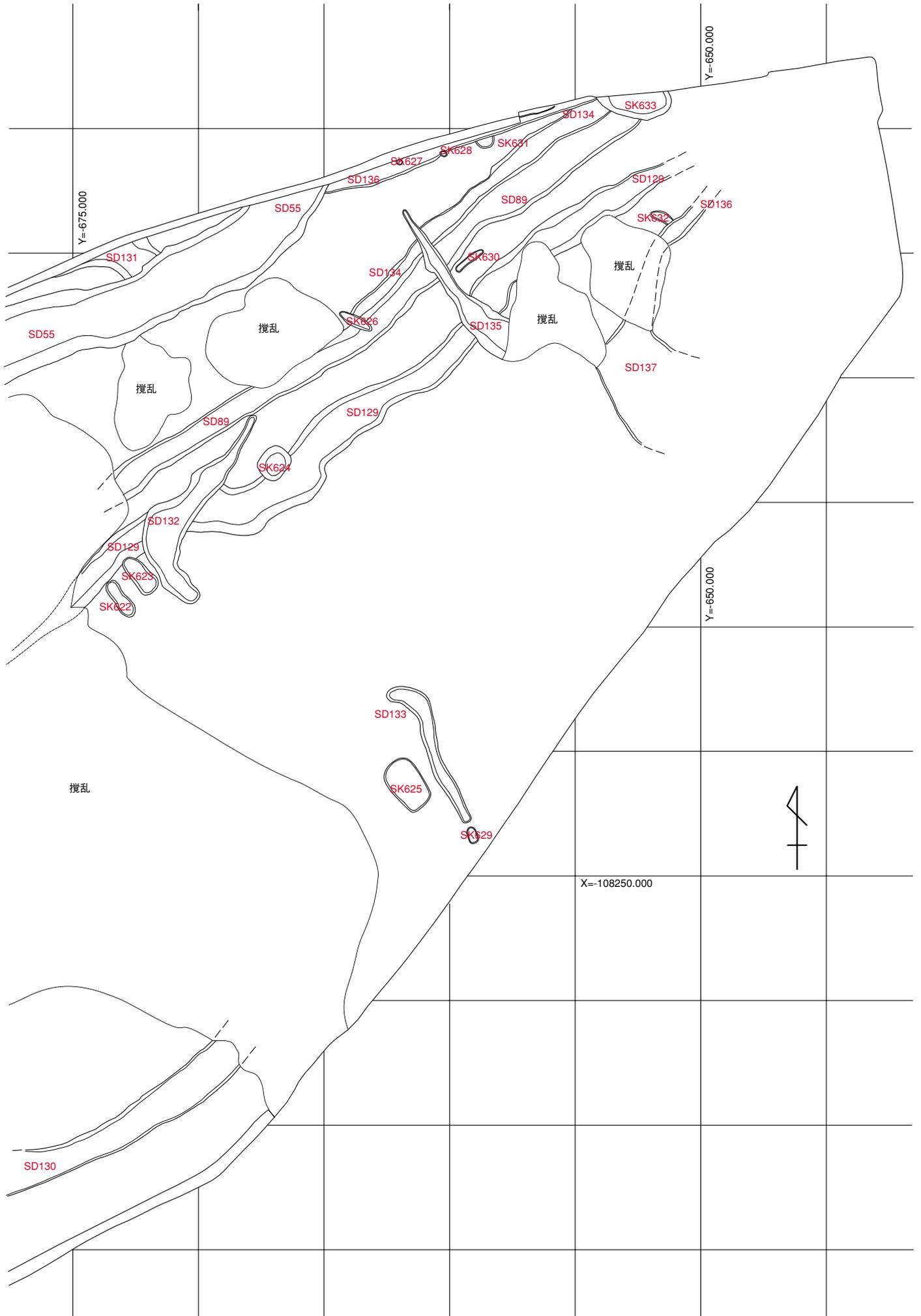
X=-108300.000



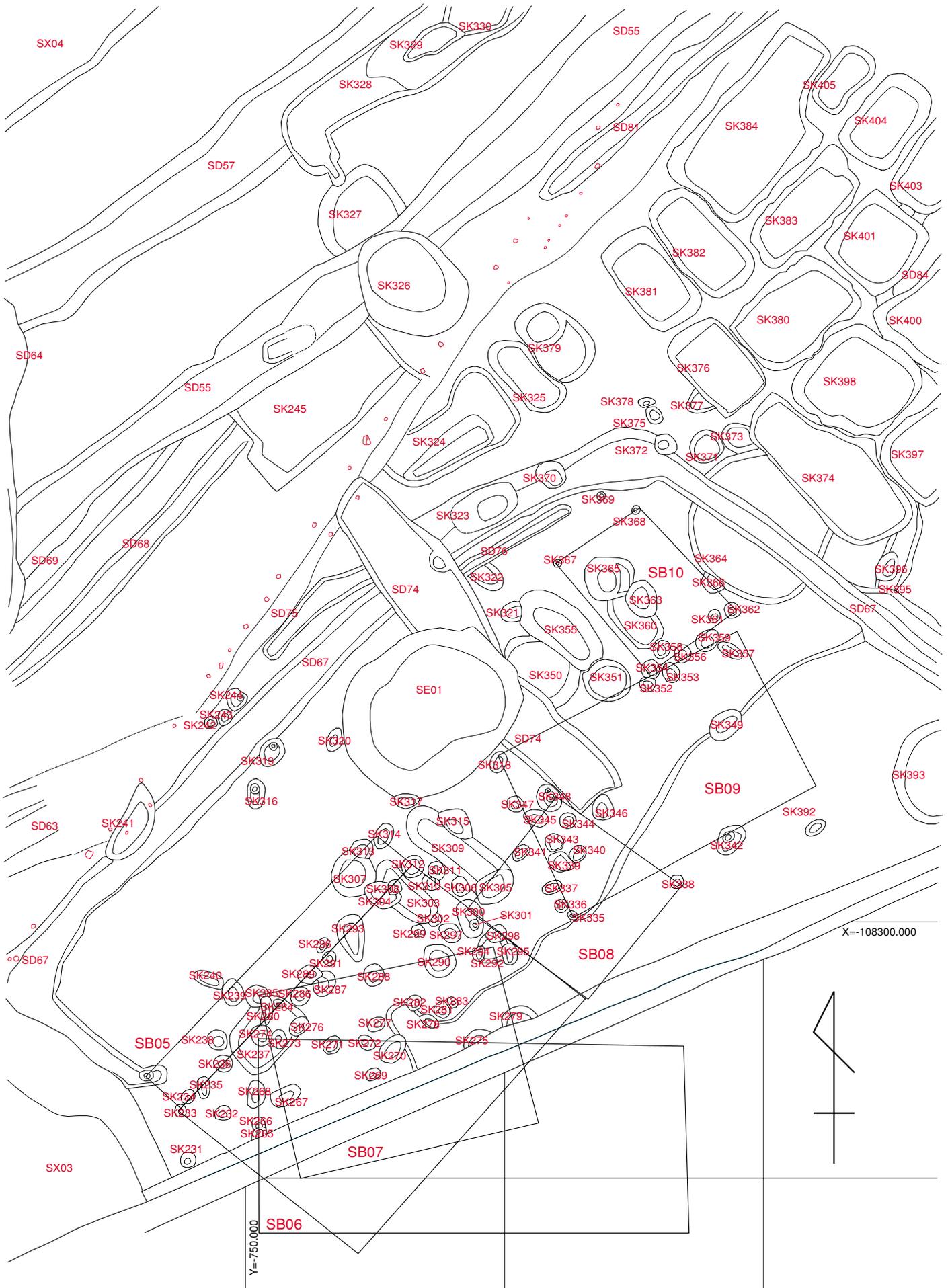
遺構図版 5

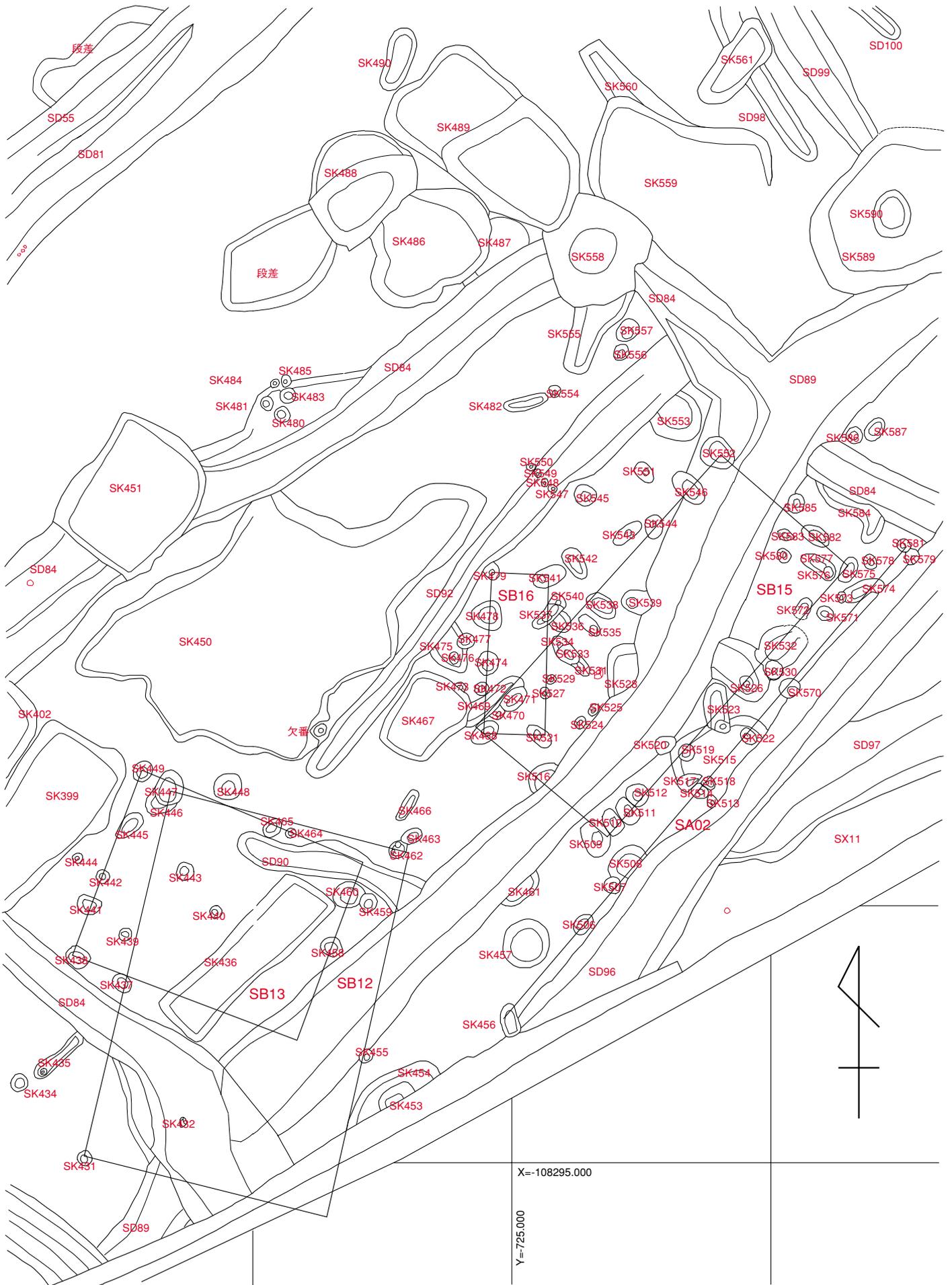


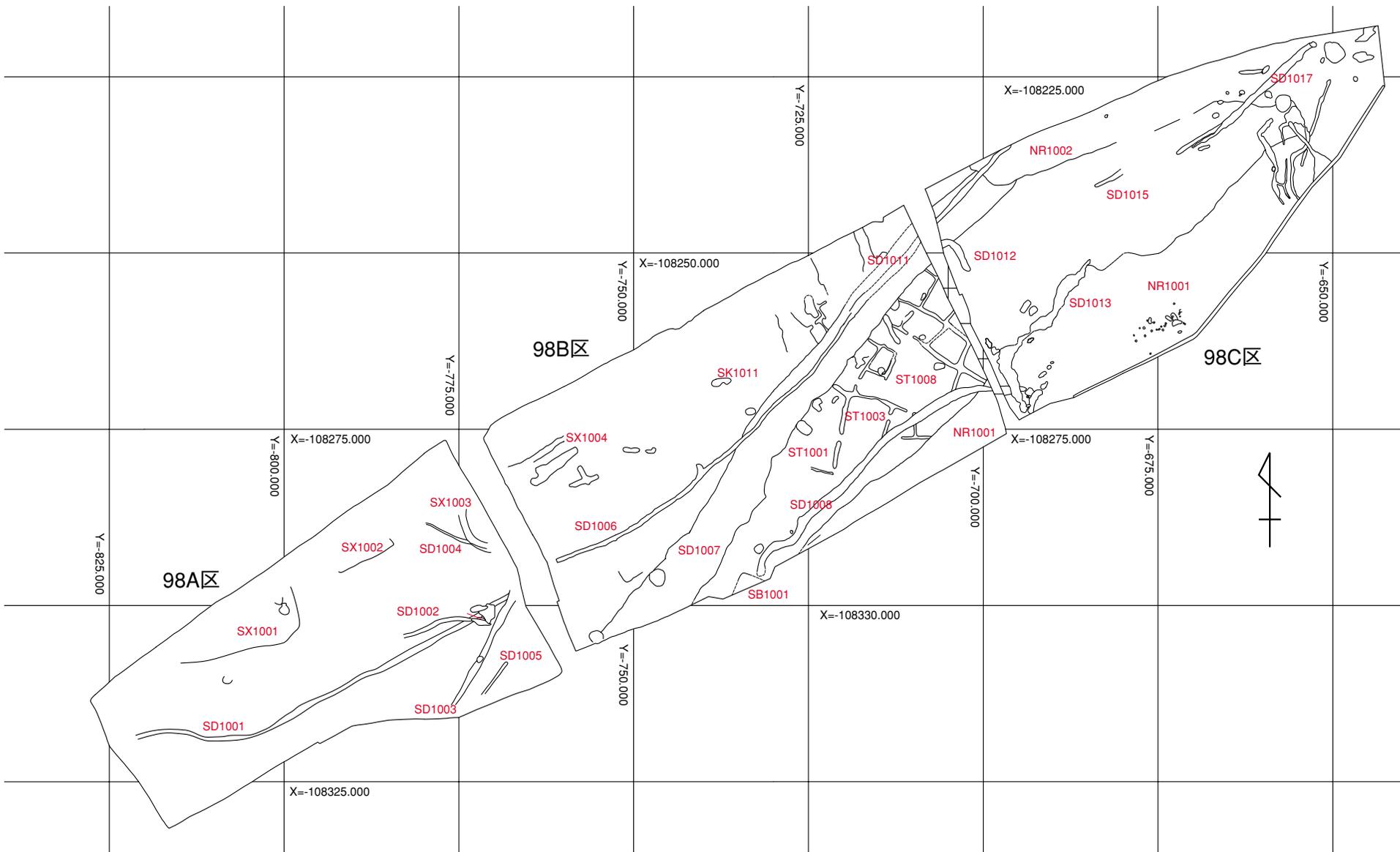
遺構図版 7



遺構図版 8

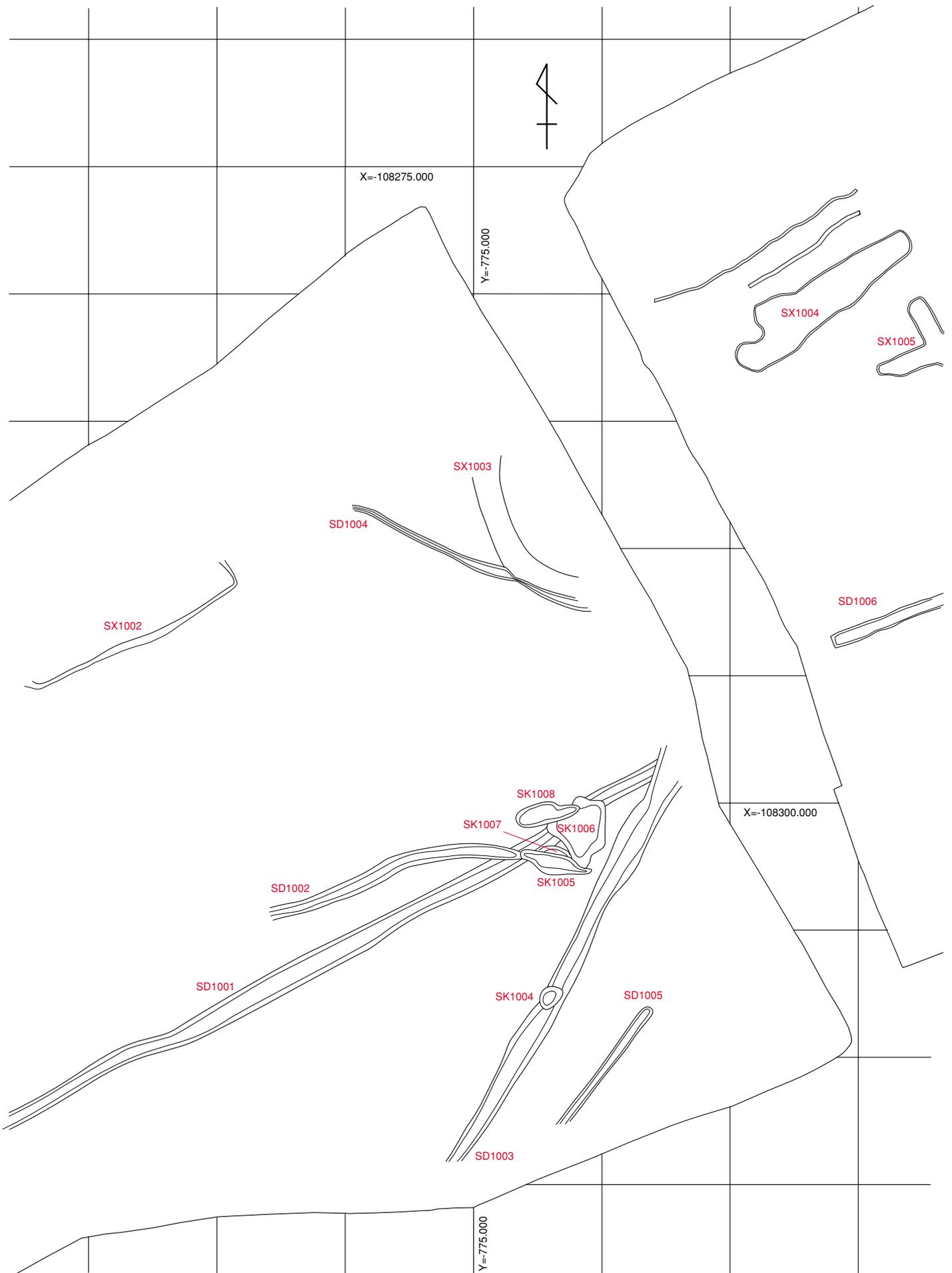


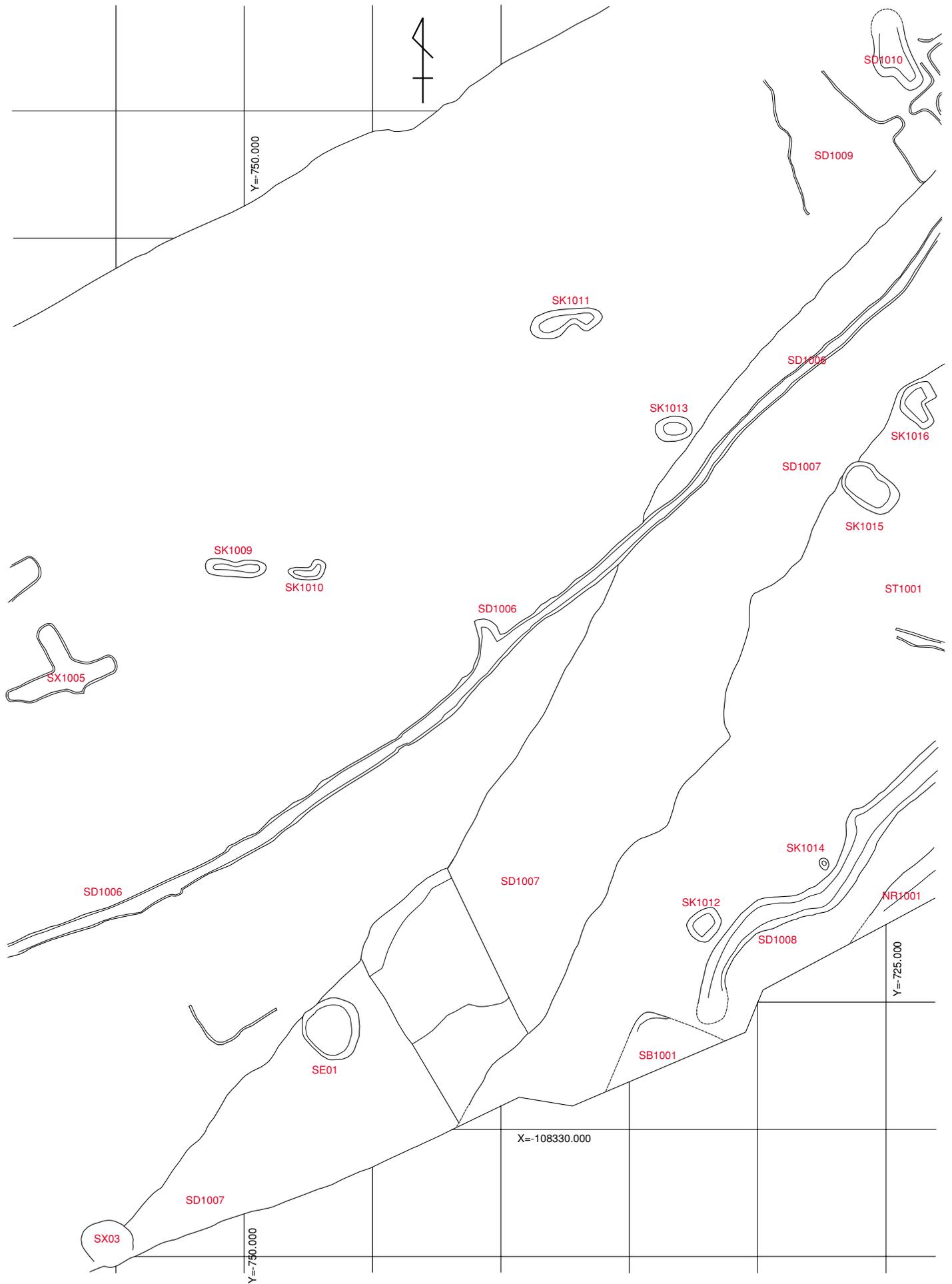


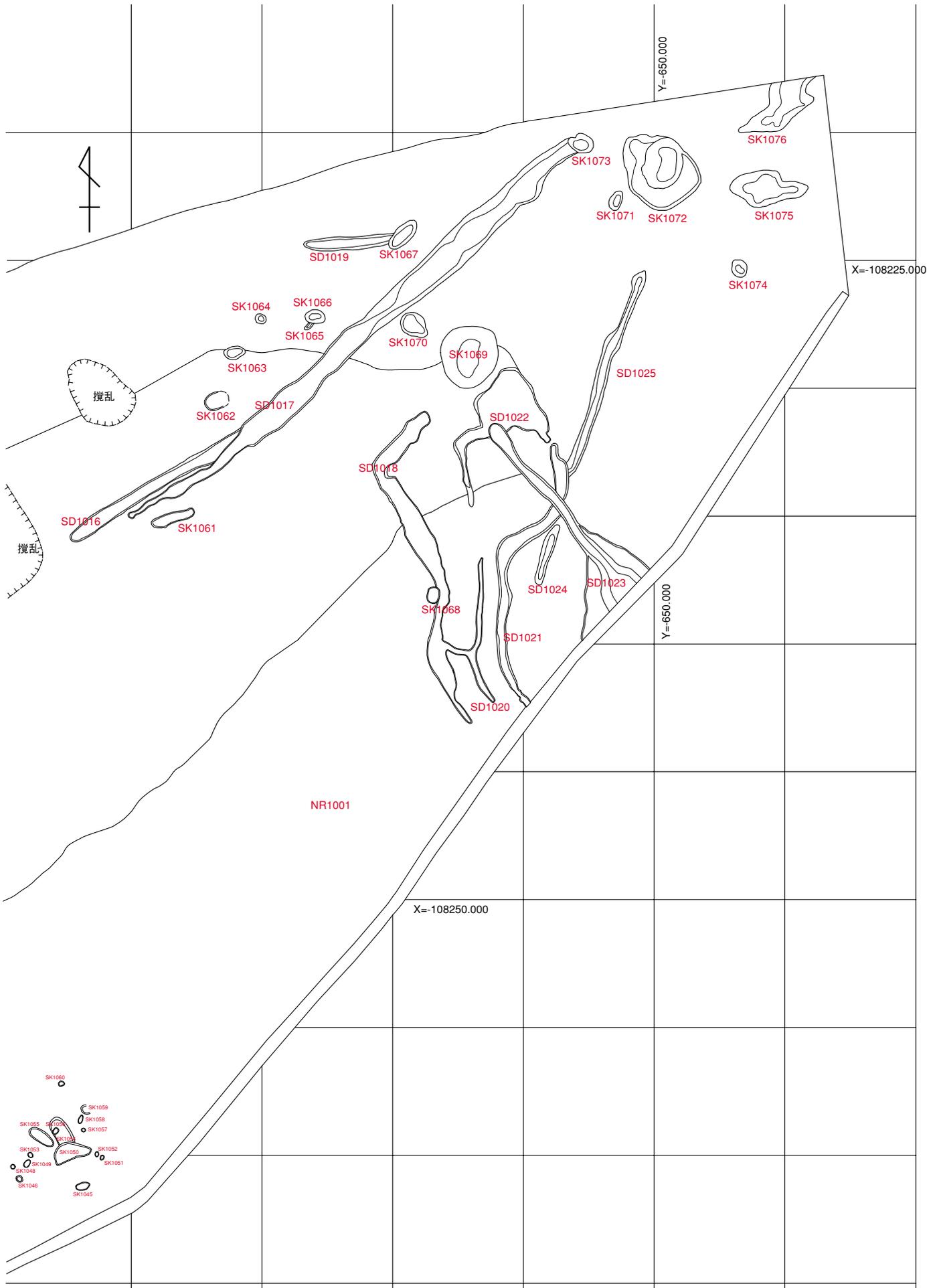




遺構図版 12









98 A区上面全体
(古墳時代後期～江戸時代)
南西方向からみる



98 B区上面全体
(古墳時代後期～江戸時代)
北東方向からみる



98 C区上面全体
(古墳時代後期～江戸時代)
北東方向からみる

写真図版 2

左：98 A区上面北部
南西から見る



右：98 A区上面東部
南西から見る



左：98 A区上面中部
南西から見る



右：98 B区上面南部
西から見る



左：98 B区方形土坑
西から見る



右：98 B区上面西部
北東から見る



左：98 C区 S D 120
北から見る



右：98 C区 方形土坑
南から見る



左：98 A区北壁断面
南から見る



右：98 C区 N R 1001
北から見る



左：畝状遺構群
(98 B区上面)
北東から見る



右：S D 114 等
(98 B区上面)
東から見る

左：S D 81 等
(98 B区上面)
南西から見る



右：S D 81 等
(98 B区上面)
南西から見る

左：S D 57 等
(98 B区上面)
南西から見る



右：S D 57
(98 B区上面)
南西から見る

左：S D 103・104
(98 B区上面)
南東から見る



右：S D 89
(98 B区上面)
南西から見る

左：S D 42 等
(98 A区上面)
南東から見る



右：S D 96
(98 B区上面)
南西から見る

写真図版 4

左：S D 57
(98 B区上面)
南西から見る



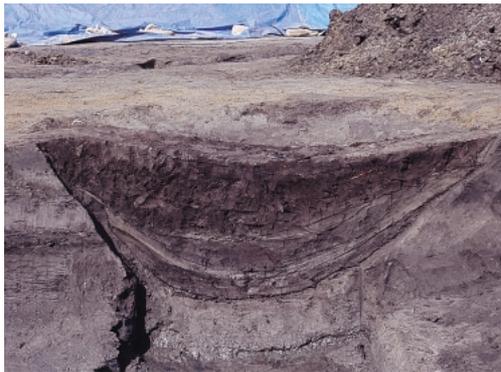
右：S K 386
(98 B区上面)
北東から見る

左：S D 89等
(98 B区上面)
北東から見る



右：S D 23等
(98 A区上面)
南東から見る

左：S K 1069
(98 C区下面)
南から見る



右：S D 55
(98 C区上面)
東から見る

左：S D 135
(98 C区上面)
南から見る



右：S D 89・129
(98 C区上面)
東から見る

左：S E 01
(98 B区上面)
南西から見る



右：S K 1072
(98 C区上面)
南から見る

左：S K 176
(98 A区上面:270)
西から見る



右：S D 45 等
(98 A区上面)
西から見る

左：S X 07
(98 B区上面:355)
北から見る



右：S D 89
(98 B区上面:212)
南西から見る

左：425 出土状況
(98 B区上面)
北から見る



右：S D 70
(98 B区上面)
北西から見る

左：S K 1070
(98 C区上面)
東から見る



右：S K 624
(98 C区上面)
西から見る

左：S D 134
(98 C区上面)
南から見る



右：S D 129
(98 C区上面)
北から見る

写真図版 6

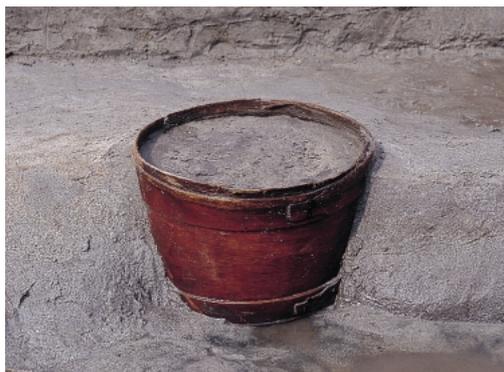
左：S A 04
(98 B区上面)
北西から見る



右：S K 583
根石出土状況
(98 B区上面)
南東から見る



左：S E 02
(98 C区上面)
南から見る



右：S K 439
(98 B区上面)
北から見る



左：S E 01
(98 B区上面)
南西から見る



右：S E 01
(98 B区上面)
南西から見る



左：S E 01
(98 B区上面)
北西から見る



右：S X 1006
(98 C区下面)
南から見る



左：S D 1001
(98 A区下面)
西から見る



右：大畦畔
(98 A区下面)
西から見る



左：遺物出土状況
(98 A区下面)
西から見る



右：遺物出土状況
(98 A区下面)
西から見る

左：NR 1001
(98 C区下面)
東から見る



右：SD 1007
(98 B区下面:10)
北西から見る

98 B区下面全体
(古墳時代中期)
北東方向からみる



98 C区下面全体
(古墳時代中期)
北東方向からみる



写真図版 8

左：S X 1004
(98 B区下面)
南から見る



右：水田状遺構
(98 B区下面)
南西から見る



左：S D 1007
(98 B区下面)
南西から見る



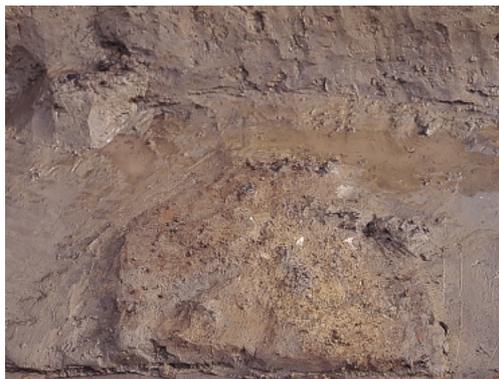
右：S T 1008・1012
(98 B区下面)
南東から見る



左：S T 1008・1012
(98 B区下面)
南東から見る



右：S B 1001 地床炉
(98 B区下面)
北から見る



左：S B 1001
(98 B区下面)
北西から見る



右：S B 1001
遺物出土状況
(98 B区下面)
北から見る



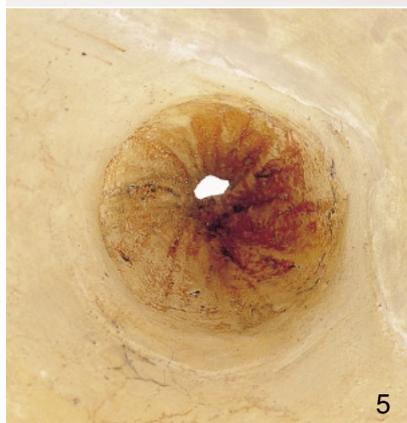
左：S B 1001
(98 B区上面)
西から見る



右：S B 1001
(98 B区上面)
南東から見る



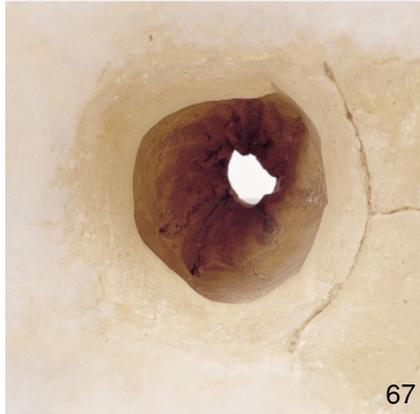
SU1001



SB1001



写真图版 10



写真图版 12





写真図版 14







報告書抄録

ふりがな	てんじんまえいせき							
書名	天神前遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第96集							
編著者名	鈴木正貴、鬼頭剛、小野映介、尾崎和美							
編集機関	財団法人 愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2001年 8月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 ’ ”	東経 。 ’ ”	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てんじんまえいせき 天神前遺跡	とよたしおしかもちょう 豊田市鴛鴦町 てんじんまえ 天神前	23211	63474	35度 1分 25秒	137度 24分 30秒	19980402 ～ 19990330	8000m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
天神前遺跡	集落	古墳時代中期 古墳時代後期 ～ 江戸時代	竪穴状遺構 1 基、 水田状遺構 18 区画、 溝 25 条、自然流路、 土坑など 掘立柱建物 17 棟、 柵列 1 基、 井戸 2 基、溝 136 条、 方形土坑群、 土坑など		土師器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 中国産磁器、 石製品、 金属製品、 木製品		屋敷、 道路状遺構？	

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第96集

天神前遺跡

2001年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印刷



サンメッセ株式会社